

函館短期大学

保育学科

シラバス 2025

(授業計画等)



保育学科			
教育目標	アドミッション・ポリシー(AP)	カリキュラム・ポリシー(CP)	ディプロマ・ポリシー(DP)
保育学科の教育目標	保育学科の入学受け入れの方針	保育学科の教育課程編成・実施の方針	保育学科の学位授与の方針
以下の人材を養成することが保育学科の教育目標である。 1. 子供の利益を尊重し、人として尊敬される豊かな人間性を身に付けた人材 2. 子供の発達や心の動きに合わせた保育と保護者に対する相談支援ができる確かな専門性を身に付けた人材 3. 子育ての環境と食育を関連付けて考え、地域社会に貢献できる人材	保育学科の教育目標を理解し、以下の資質を有することを期待したい。 【知識・技能】 1. 高等学校卒業相当の知識を有し、幼児教育や保育分野の専門的な学習に必要な基礎学力を身に付けている人 【思考力・判断力・表現力】 2. 幅広い教養と専門知識、高いコミュニケーション力を身に付けようとする人 3. 本学の学園訓をよく理解し、自らがなすべきことを見出してボランティアなどの学外活動に積極的に参加しようとする人 4. 自分の将来に向けて具体的な目標を持ち、他者に自分の考えを的確に表現できる人 【主体的に協働する態度】 5. 人の長所を大切に、明るくコミュニケーションできる人 6. 子供が好きで、子供と子供を取り巻く環境の課題に関心をもち、それらの解決に向けて主体的に他者と協働して学ぶ態度を有している人	保育学科の教育目標及びディプロマ・ポリシーを達成するために、以下のようにカリキュラム(教育課程)を編成する。 1. 短期大学士の学位に相応しい幅広い教養を身に付ける「基礎教育科目」並びに保育者に必要な専門的知識・技術を身に付ける「専門教育科目」を基盤とし、主体的、能動的に課題に取り組もうとする態度や意欲を形成する。 2. 「基礎教育科目」の「社会人基礎論」及び「教養ゼミナール(S・L)」を基軸として、「専門教育科目」の実習・演習を通して、コミュニケーション力と総合的な「社会人力」を形成する。特にS・LⅡでは、地域課題解決型学習(PBL)にも取り組み、地域社会に貢献しようとする資質を養う。 3. 「専門教育科目」では、講義・演習の学びと併せて各種実習のほか、フィールド学習などを通して1つの課題を多面的に把握して考察できる能力を培う。 4. 食育と音楽表現に重点を置き、より高い目標を持つ多様な学生が自ら学修計画を立て主体的な学びを實踐できるように、保育士資格に加えて以下の資格取得も可能とする。 ○幼稚園教諭二種免許 ○レクリエーション・インストラクター ○食育指導士® ○保健児童ソーシャルワーカー ○准学校心理士 ○マイクロソフト オフィス スペシャリスト(Word, Excel, PowerPoint) ○社会福祉主事任用資格 ○介護職員初任者研修	保育学科の教育目標を達成し、卒業認定に必要な所定の単位を修得して、以下の資質と能力を持つ者に短期大学士(保育学)を授与する。 【知識・技能】 1. 保育と子育て支援に必要な専門的知識と技術、とりわけ食育知識と音楽表現技術を有し、子供の成長を促すことができる。 2. 地域の特性を的確に把握し、保育に反映させることができる。 3. 保育者の社会的使命を理解することができる。 【思考力・判断力・表現力】 4. 子育て環境を深く分析して、課題や問題を見つけ出し、その解決に向けて計画的に考え、答えを導き出す能力を身に付けている。 5. 身に付けた知識と技能を生かし、物事を的確に認識して評価できる能力を身に付けている。 6. 生涯にわたって学び続け、身に付けた知識や技能並びに経験を分かりやすく他者に伝えることができる。 【コミュニケーション力・社会人力】 7. 専門職業人としての高い倫理観を保持し、社会に貢献しようとする事ができる。 8. コミュニケーション力を身に付け、他者と協働して課題を解決しようとする事ができる。 9. 他者への思いやりと柔軟な対応力を持つことができる。

令和7年度(2025年度)入学生 保育学科 カリキュラムマップ

保育学科

定義	学修到達度に関わらず、短期大学士に相応しい教養を身につける科目		当該領域および系列を学修するための基礎・総論的位置付けの科目		当該領域および系列の各論、1の科目の応用的内容を含む科目		当該領域および系列の発展的内容の科目		既習科目を複合させて、学修の集大成として取り組むべき科目		学習成果	教育目標
水準	0		1		2		3		4			
領域	科目名	DP	科目名	DP	科目名	DP	科目名	DP	科目名	DP		
1. 保育の本質・目的に関する科目			保育原理	DP1,2,3,4,5,7							保育現場の幼児教育	DP4,7,8
			教職概論	DP3,7								
			教育原理	DP1,3,6,7								
			社会福祉	DP1,2,3,4,7,9	子ども家庭福祉	DP1,2,3,4,7						
					社会的養護Ⅰ	DP2,3,4,7						
2. 保育の対象の理解に関する科目					子ども家庭支援論	DP1,2,3,4,6,7						
			教育心理学	DP1,5,9	子ども家庭支援の心理学	DP1,5,7,9						
					幼児理解	DP1,4,5			子どもの医療	DP1,4,5,6		
			子どもの保健	DP1,4,5								
			食育の基礎知識	DP1,4	子どもの食と栄養	DP1,6						
3. 保育の内容・方法に関する科目			健康	DP1,4	保育内容(健康)指導法	DP1,4					子どもの生活や遊びA 子どもの生活や遊びB 子どもの生活や遊びC	DP1～9
			人間関係	DP1,4,8	保育内容(人間関係)指導法	DP1,4,8						
			環境	DP1,4	保育内容(環境)指導法	DP1,4						
			言葉	DP1,4,8	保育内容(言葉)指導法	DP1,4,8						
			表現	DP1,4,8	保育内容(表現)指導法	DP1,4,5,8,9	総合表現指導法	DP1,4,5,6,8,9				
			保育内容総論	DP1,2,3,5,6,8	コミュニケーション・スキルⅠ	DP2,3,5,6,8,9	コミュニケーション・スキルⅡ	DP2,3,5,6,8,9	保育の記録と伝え合い	DP1～9		
					教育課程総論	DP4						
					子どもの健康と安全	DP1,2,3						
			乳児保育Ⅰ	DP1,4,5	乳児保育Ⅱ	DP1,2,4,5,6						
									社会的養護Ⅱ	DP2,3,4,7		
					特別支援教育	DP1,2,4,6						
									教育相談	DP3,4,9		
	4. 保育実習			保育実習指導Ⅰ	DP1,2,3,4,5,7,9	保育実習Ⅰ	DP1,2,3,4,5,7,8					
					保育実習指導Ⅱ	DP1,2,3,4,5,7,9	保育実習Ⅱ	DP1,2,3,4,5,7,8				
					保育実習指導Ⅲ	DP1,2,3,4,5,7,9	保育実習Ⅲ	DP1,2,3,4,5,7,8				
5. 総合演習											保育・教職実践演習	DP1～9
6. 保育士資格取得科目ではないが、学校独自の科目として開設されている教科目			教育経営論	DP1,4								
					教育の方法と技術	DP4,5,6						
					幼稚園教育実習事前指導	DP1,2,3,4,5,7,8	幼稚園教育実習	DP1,2,3,4,5,7,8				
							幼稚園教育実習事後指導	DP1,2,3,4,5,7,8				
7. 教養科目			レクリエーション指導法	DP5,8					レクリエーション視察実習	DP5,8		
	教養ゼミナール(S・L)Ⅰ	DP4,5,6,7,8,9	教養ゼミナール(S・L)Ⅱ	DP4,5,6,7,8,9								
	社会人基礎論Ⅰ	DP4,5,6,7,8,9	社会人基礎論Ⅱ	DP4,5,6,7,8,9								
					地域GX概論	DP3,9						
	情報機器の操作Ⅰ	DP1	情報機器の操作Ⅱ	DP1	データサイエンス入門	DP1,5,8						
							コンピュータリテラシー-W	DP1				
							コンピュータリテラシー-E	DP1				
							コンピュータリテラシー-P	DP1,6				
					ボランティア実習Ⅰ	DP4,5,6,7,8,9	ボランティア実習Ⅱ	DP4,5,6,7,8,9				
	音楽基礎	DP1,6,8	保育者のための音楽Ⅰ	DP1,3,4,6,8	保育者のための音楽Ⅱ	DP1,2,3,4,5,6,8						
			保育者のための図画工作	DP1,5,6								
	日本国憲法	DP1,3,7										
	外国語(英語・仏語・中国語)	DP8										
	体育実技(球技・フィットネス)	DP1,8,9										
	保健体育	DP1										
	国際交流	DP8	国際グローバル・コミュニケーション	DP6,7,8,9								
	コンソーシアム基礎教養Ⅰ	DP8	コンソーシアム基礎教養Ⅱ	DP8								
	コンソーシアム基礎教養Ⅲ	DP8	コンソーシアム基礎教養Ⅳ	DP8								
	コンソーシアム基礎教養Ⅴ	DP8	コンソーシアム基礎教養Ⅵ	DP8								
	コンソーシアム基礎教養Ⅶ	DP8	コンソーシアム基礎教養Ⅷ	DP8								
コンソーシアム基礎教養Ⅸ	DP8	コンソーシアム基礎教養Ⅹ	DP8									

保育学科

函館短期大学(令和7年度入学生)授業科目一覧

1年次開講科目

【令和7年度(2025年度)実施】

2年次開講科目

【令和8年度(2026年度)実施】

系列	授業科目	期間	形態	単位数	必修区分	F G P A	掲載 ページ
基礎 教育 科目	教養ゼミナール(S・L)Ⅰ	通年	演習	1	卒		2
	情報機器の操作Ⅰ	前期	演習	1	卒 幼	D G	4
	情報機器の操作Ⅱ	後期	演習	1	卒 幼	D G	6
	社会人基礎論Ⅰ	後期	講義	1	卒	G	8
	外国語(英語・仏語・中国語)	前期	演習	2	保 幼	G	10-15
	日本国憲法	後期	講義	2	幼	G	16
	保健体育	後期	講義	1	保 幼	G	18
	体育実技(球技・フィットネス)	前期	実技	1	保 幼 レ*	G	20-23
	音楽基礎 (注1)	前期	演習	1			24
	保育者のための音楽Ⅰ	通年	演習	2	卒 レ	G	26
	保育者のための図画工作	通年	演習	2	卒 レ	G	28
	コンピュータリテラシーW	後期	演習	1		MW [D選]	30
	ボランティア実習Ⅰ	その他	実習・実習	1			32
	コンソーシアム基礎教養Ⅰ	その他	その他	2			34
	コンソーシアム基礎教養Ⅱ	その他	その他	1			36
	コンソーシアム函館教養Ⅰ	その他	その他	2			38
	コンソーシアム函館教養Ⅱ	その他	その他	2			40
	コンソーシアム函館教養Ⅲ	その他	その他	1			42

系列	授業科目	期間	形態	単位数	必修区分	F G P A	掲載 ページ
基礎 教育 科目	教養ゼミナール(S・L)Ⅱ	通年	演習	1	卒		44
	社会人基礎論Ⅱ	前期	講義	1	卒	G	46
	地域GX概論	後期	演習	1	卒	G	48
	保育者のための音楽Ⅱ	前期	演習	2			50
	データサイエンス入門	後期	演習	1		D	52
	コンピュータリテラシーE	後期	演習	1		ME [D選]	54
	コンピュータリテラシーP	後期	演習	1		MP [D選]	56
	函館グローバル・コミュニケーション	後期	演習	1			58
	国際交流	後期	演習	1			60
	ボランティア実習Ⅱ	その他	実習・実習	1			62
	コンソーシアム基礎教養Ⅲ	その他	その他	2			64
	コンソーシアム基礎教養Ⅳ	その他	その他	1			66
	コンソーシアム函館教養Ⅳ	その他	その他	2			68
	コンソーシアム函館教養Ⅴ	その他	その他	2			70
	コンソーシアム函館教養Ⅵ	後期	その他	1			72

系列	授業科目	期間	形態	単位数	必修区分	F G P A	掲載 ページ
専門 教育 科目	保育原理	前期	講義	2	保 主	G	76
	教育原理	後期	講義	2	卒 保 幼	主 G	78
	子ども家庭福祉	後期	講義	2	保 ソ	G	80
	社会福祉	前期	講義	2	保 ソ 主	G	82
	子ども家庭支援論	後期	講義	2	保 ソ	G	84
	社会的養護Ⅰ	後期	講義	2	保 ソ	G	86
	教職概論	前期	講義	2	保 幼	G	88
	教育心理学	後期	講義	2	保 幼 心	G	90
	子どもの保健	前期	講義	2	保	G	92
	食育の基礎知識	前期	講義	2	[保選] 食	G	94
	保育内容総論	前期	演習	1	保 幼	G	96
	健康	前期	演習	1	保 幼	G	98
	人間関係	前期	演習	1	保 幼	G	100
	環境	前期	演習	1	保 幼	G	102
	言葉	前期	演習	1	保 幼	G	104
	表現	前期	演習	1	保 幼	G	106
	保育内容(健康)指導法	後期	演習	1	保 幼	G	108
	保育内容(人間関係)指導法	後期	演習	1	保 幼	G	110
	保育内容(環境)指導法	後期	演習	1	保 幼	G	112
	保育内容(言葉)指導法	後期	演習	1	保 幼	G	114
	保育内容(表現)指導法	後期	演習	1	保 幼	G	116
	乳児保育Ⅰ	前期	講義	2	保	G	118
	乳児保育Ⅱ	後期	演習	1	保	G	120
	子どもの健康と安全	後期	演習	1	保	G	122
	コミュニケーション・スキルⅠ	後期	演習	2	[保選]	G	124
	保育実習指導Ⅰ	通年	演習	2	保	G	126
	レクリエーション現場実習	その他	実習・実習	1	レ		128

系列	授業科目	期間	形態	単位数	必修区分	F G P A	掲載 ページ
専門 教育 科目	保育現場の幼児教育	後期	演習	2	[保選]	G	130
	子ども家庭支援の心理学	前期	講義	2	保 心	G	132
	幼児理解	前期	演習	1	保 幼	G	134
	子どもの食と栄養	前期	演習	2	卒 保	G	136
	子どもの医療	前期	演習	1	[保選] ソ	G	138
	教育課程総論	前期	講義	2	保 幼	G	140
	総合表現指導法	後期	演習	1	保 幼	G	142
	特別支援教育	前期	演習	2	保 幼 心	G	144
	社会的養護Ⅱ	前期	演習	1	保	G	146
	教育相談	後期	演習	1	保 幼 心	G	148
	コミュニケーション・スキルⅡ	前期	演習	1	[保選]	G	150
	子どもの生活や遊びA	後期	演習	2	[保選]	G	152
	子どもの生活や遊びB	後期	演習	2	[保選]	G	154
	子どもの生活や遊びC	後期	演習	2	[保選]	G	156
	保育の記録と伝え合い	後期	演習	2	[保選]	G	158
	保育実習Ⅰ	その他	実習・実習	4	保	G	160
	保育実習Ⅱ	その他	実習・実習	2	[保実習選]	G	162
	保育実習Ⅲ	その他	実習・実習	2	[保実習選]	G	164
	保育実習指導Ⅱ	その他	演習	1	[保実習選]	G	166
	保育実習指導Ⅲ	その他	演習	1	[保実習選]	G	168
	教育経営論	後期	講義	1	幼	G	170
	教育の方法と技術	前期	講義	2	幼	G	172
	幼稚園教育実習事前指導	その他	演習	1	幼	G	174
	幼稚園教育実習事後指導	その他	演習	1	幼	G	176
	幼稚園教育実習	その他	実習・実習	4	幼	G	178
	保育・教職実践演習	後期	演習	2	保 幼 D	G	180
	レクリエーション指導法	後期	講義	2	レ		182

【履修上の確認項目】

(1) 履修登録を申告する授業科目に関しては自身で印を記入し、単位数の合計を確認すること。

(2) 必修区分欄の「卒」「保」「保選」「保実習選」「幼」「レ」「レ*」「食」「ソ」「心」「MW」「ME」「MP」「主」「D」「D選」は次のとおりである。

卒	… 本学における卒業必修科目
保	… 保育士資格必修科目 但し、資格取得には「保育内容 指導法」5科目のうち3科目以上を修得
○但し、[保実習選]	… 「保育実習Ⅱ」と「保育実習指導Ⅱ」又は「保育実習Ⅲ」と「保育実習指導Ⅲ」を修得
[保選]	… 「食育の基礎知識/2単位」「コミュニケーション・スキルⅠ/1単位」「保育現場の幼児教育/2単位」「子どもの医療/1単位」「コミュニケーション・スキルⅡ/1単位」「子どもの生活や遊びA/2単位」「子どもの生活や遊びB/2単位」「子どもの生活や遊びC/2単位」「保育の記録と伝え合い/2単位」の中から6単位を修得
	但し、「子どもの生活や遊びA/2単位」「子どもの生活や遊びB/2単位」「子どもの生活や遊びC/2単位」はいずれか1科目を選択し修得
幼	… 幼稚園教諭二種免許必修科目
レ	… レクリエーション・インストラクター資格必修科目
レ*	… 体育実技(球技・フィットネス)のうち体育実技(球技)のみレクリエーション・インストラクター資格必修科目
食	… 食育指導士®資格必修科目
ソ	… 保健児童ソーシャルワーカー資格必修科目
心	… 准学校心理士資格必修科目
MW	… マイクロソフト オフィス スペシャリスト(Word) 資格必修科目
ME	… マイクロソフト オフィス スペシャリスト(Excel) 資格必修科目
MP	… マイクロソフト オフィス スペシャリスト(PowerPoint) 資格必修科目
主	… 社会福祉主事任用資格取得にかかわる科目——これらの科目のうち3科目以上を修得することが資格取得の条件となる
D	… 保育士のためのICT・数理・データサイエンス・AI教育プログラム必修科目
[D選]	… 「コンピュータリテラシーW/1単位」「コンピュータリテラシーE/1単位」「コンピュータリテラシーP/1単位」の中から1科目以上(1単位以上)を修得

(3) G・・・GPA算出対象科目

(4) (注1)・・・履修参考テストで本学が設定する到達度に満たない場合は履修すること。

【 基礎教育科目 】

1 年次配当科目

教養ゼミナール（S・L）Ⅰ	2
情報機器の操作Ⅰ	4
情報機器の操作Ⅱ	6
社会人基礎論Ⅰ	8
外国語（英語）	10
外国語（仏語）	12
外国語（中国語）	14
日本国憲法	16
保健体育	18
体育実技（球技）	20
体育実技（フィットネス）	22
音楽基礎	24
保育者のための音楽Ⅰ	26
保育者のための図画工作	28
コンピュータリテラシー W	30
ボランティア実習Ⅰ	32
コンソーシアム基礎教養Ⅰ	34
コンソーシアム基礎教養Ⅱ	36
コンソーシアム函館教養Ⅰ	38
コンソーシアム函館教養Ⅱ	40
コンソーシアム函館教養Ⅲ	42

2 年次配当科目

教養ゼミナール（S・L）Ⅱ	44
社会人基礎論Ⅱ	46
地域 GX 概論	48
保育者のための音楽Ⅱ	50
データサイエンス入門	52
コンピュータリテラシー E	54
コンピュータリテラシー P	56
函館グローバル・コミュニケーション	58
国際交流	60
ボランティア実習Ⅱ	62
コンソーシアム基礎教養Ⅲ	64
コンソーシアム基礎教養Ⅳ	66
コンソーシアム函館教養Ⅳ	68
コンソーシアム函館教養Ⅴ	70
コンソーシアム函館教養Ⅵ	72

年度	2025	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	30010	ICT活用	—
授業科目名	教養ゼミナール（S・L）Ⅰ					実務教員	—
科目	基礎教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等							
配当年次	1年	期間	通年	必修区分	卒		
授業形態	演習	単位数	1	担当形態	—		
教員	保育学科教員						
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP4, 5, 6, 7, 8, 9					
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会力 (DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
☐ 1. 日常生活において、感謝の念を抱き、自己の行動に責任を持ちつつ他者をいたわる人間性を備えることができる。 ☐ 2. 社会生活全般において、協調する姿勢を示し、健康な判断と正義を尊重し、円滑な人間関係を築くことができる。 ☐ 3. 専門職業人として、自律した生活を実践することができる。							
授業の概要							
本学の建学の精神である学園三訓に則り、学生生活及び将来の進路に関して、学生と教員が相互に交流し学ぶことによって、社会が望む質の高い保育者の養成を目指す。							
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）							
各担当教員と良くコミュニケーションを図り、指示された必要な準備をして参加すること。							
標準学修時間の目安							
1回の講義あたり予習・復習を含め1時間の学修が必要である。年間を通じ、予習・復習を含めて15時間の学修が必要である。学友会主催事業(スポーツ大会、球技大会、短大祭等)への出席がこれに相当する。							
課題（試験やレポート等）のフィードバック							
・読解力やマナー向上については「保育のマナーと言葉」のテキストで実施する。 ・合同S・Lでは感想文の提出があり、S・L担当教員が点検し返却する。							
使用教科書							
	教科書名		著者名		出版社名		ISBN
1	改訂2版 保育のマナーと言葉		長島和代 編		わかば社		978-4-907270-34-6
2							
3							
使用教科書備考							
なし							
参考書・参考資料等							
なし							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
実務経験のある教員に該当しない。							
その他							
必要な事項は、担当教員の指示に従うこと。							

授業計画						
第1回	合同S・L	前期全体ガイダンス：建学の精神、研究倫理教育、前期の学びについて				
第2回	個別S・L	個別ガイダンス：S・L顔合わせ S・L長決定				
第3回	合同S・L	ネット使用講話 インターネット被害にあわないために。				
第4回	合同S・L	学内施設見学 つどいの広場、図書館				
第5回	合同S・L	春の交通安全講習				
第6回	合同S・L	スポーツ大会に向けての準備				
第7回	合同S・L	スタディスキルアップ：「保育のマナーと言葉」(1) 基本的なマナー				
第8回	合同S・L	献血理解講話				
第9回	個別S・L	個別スキルアップ①：気候変動問題とGXを踏まえた保育における自然体験(春)の実際				
第10回	合同S・L	スタディスキルアップ：「大学生の学びの理解」				
第11回	合同S・L	レクリエーション 学生・教員間の親睦				
第12回	合同S・L	スタディスキルアップ：「保育のマナーと言葉」(2) 保育現場における気を付けたいマナー				
第13回	個別S・L	個別スキルアップ②：前期の振り返り・夏休みの過ごし方				
第14回	合同S・L	大学祭に向けての準備				
第15回	合同S・L	感染症に関する講話				
前期(1～15回)の授業では、本学の建学の精神である学園三訓に則り、ガイダンスや学内施設見学、スポーツ大会等を通して、短大生活に慣れ親しみながら社会が望む質の高い保育者の養成を目指す。						
第16回	合同S・L	後期全体ガイダンス 後期の学びについて				
第17回	個別S・L	個別スキルアップ③：気候変動問題とGXを踏まえた保育における自然体験(秋)の実際				
第18回	合同S・L	スタディスキルアップ：「保育のマナーと言葉」(3) 話し言葉				
第19回	合同S・L	スタディスキルアップ：「レジュメ(要約)をつくろう」				
第20回	合同S・L	レクリエーション 学生・教員間の親睦				
第21回	合同S・L	スタディスキルアップ：「情報収集・文献検索」				
第22回	個別S・L	個別スキルアップ④：学習習慣の指導				
第23回	合同S・L	スタディスキルアップ：「課題発見(保育の課題を探す)」				
第24回	個別S・L	個別スキルアップ⑤：生活習慣等の指導				
第25回	個別S・L	個別スキルアップ⑥：個別学生指導				
第26回	合同S・L	スタディスキルアップ：「保育のマナーと言葉」(4) 書き言葉				
第27回	合同S・L	スタディスキルアップ：「課題発見(保育の課題<資料>を探す)」				
第28回	個別S・L	個別スキルアップ⑦：保育者としての学び支援				
第29回	合同S・L	全体ガイダンス 後期及び1年の振り返り				
第30回	個別S・L	個別ガイダンス 2年準備 保育実習・2年へ向けて				
後期(1～15回)の授業では、本学の建学の精神である学園三訓に則り、スタディスキルアップや個別ガイダンス等を通して、2年生の学びを意識しながら社会が望む質の高い保育者の養成を目指す。						
【授業実施方法】 原則として、対面(面接)授業を実施する。対面(面接)授業の実施が困難と判断される場合には、遠隔授業(オンライン・オンデマンド・課題)を併用する。						
【アクティブラーニングの導入】 「グループワーク」						
成績評価の方法 (試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合(%)	0	0	50	0	50	100
成績評価の基準(ルーブリック)						
到達度	秀逸	優秀	良好	最低限		
授業の到達目標に対する到達度の目安	合同S・L、スタディスキルアップ、個別S・Lという形で進んでいきますが、専門的職業人に向かっの自覚と行動をもって、様々な角度から物事を考え適切な対処法を検討できる。	合同S・L、スタディスキルアップ、個別S・Lという形で進んでいきますが、専門的職業人に向かっの自覚と行動をもって、さまざまな角度から物事を理解し、他者に適切に伝えることができる。	合同S・L、スタディスキルアップ、個別S・Lという形で進んでいきますが、専門的職業人に向かっの自覚と行動をもって、さまざまな角度から物事を理解できる。	合同S・L、スタディスキルアップ、個別S・Lという形で進んでいきますが、専門的職業人に向かっの自覚と行動をもって、さまざまな角度から物事を断片的に理解している。		
該当DPに対する到達度の目安	合同S・L、スタディスキルアップ、個別S・Lという形で進んでいきますが、専門的職業人に向かっの自覚と行動を通して、社会人力・コミュニケーション力を身に付けている。	合同S・L、スタディスキルアップ、個別S・Lという形で進んでいきますが、専門的職業人に向かっの自覚と行動を通して、課題解決に向けて努力することができる。	合同S・L、スタディスキルアップという形で進んでいきますが、専門的職業人に向かっの自覚と行動を通して、課題解決に向けての他者への発信ができる。	合同S・L、スタディスキルアップという形で進んでいきますが、専門的職業人に向かっの自覚と行動を通して、課題解決にむけての発信を行うことがほとんどできない。		

年度	2025	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	30030	ICT活用	○
授業科目名	情報機器の操作 I					実務教員	○
科目	基礎教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等			66条の6に定める科目				
配当年次	1 年	期間	前期	必修区分	卒幼D		
授業形態	演習	単位数	1	担当形態	単独		
教員	渡辺 真保						
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP1					
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会人力 (DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
Microsoft Wordの基本～中級レベルの操作方法を習得し、情報モラルを学ぶとともに、社会で幅広く活用できる技術を身につけることを目標とする。 ☐ 1. Windowsの基本的な操作を行うことができる。 ☐ 2. データを正確に、ある一定以上のスピードで入力できる。 ☐ 3. 表、図、イラスト、写真を含めた文書を体裁よく作成できる。 ☐ 4. ビジネス文書の体裁を覚え、適切な社内文書・社外文書を作成できる。 ☐ 5. インターネットを利用して情報の検索・収集ができ、安全に利用することができる。							
授業の概要							
多くの職場、学校、家庭で利用されているMicrosoft Wordの操作方法を習得すると同時に、ビジネス文書の体裁を覚え、パソコンを使用して、社会人として適切な文書・資料を作成する技術を身につける。							
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）							
・授業で学習した操作を復習し、質問がある場合は、次回の授業までにまとめておくこと。 ・毎回課題を出すので、完成させておくこと。 ・効率よく文書を作成するには、ある程度の文字入力のスピードが必要なので、各自タイピング練習をすること。 ・次回の授業でカバーする箇所に目を通しておくこと。							
標準学修時間の目安							
1回の講義にあたり予習・復習を含めて4時間の学修が望ましい。							
課題（試験やレポート等）のフィードバック							
課題提出後の授業でコメントを付した課題を返却する。							
使用教科書							
	教科書名	著者名	出版社名	ISBN			
1	30時間Word2021	-	実教出版	978-4-407-35938-1			
2							
3							
使用教科書備考							
30時間でマスター Word2021							
参考書・参考資料等							
【リファレンス動画付き】文書作成・プレゼンに役立つ！ 実践ドリルで学ぶ Office活用術 演習問題 全173題							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
大文堂外語・パソコンスクール マネージング・ディレクター、インストラクター 個人対象や、文化センター、企業、官公庁での初級から上級のパソコン講習を担当							
その他							
学習内容を定着させるために、ほぼ毎回課題を出す。 わからないところがある場合は、授業の時だけではなく、電子メールでの質問も受け付けるので、積極的に質問し解決すること。							

授業計画						
第1回 Windowsについて Windows基本操作、タッチタイピングの基本を学ぶ 第2回 Windows機能の利用について インターネット検索、情報モラル、文字変換、辞書機能、保存を学ぶ 第3回 Wordの文章について 文章の入力を学ぶ 第4回 Word文書の編集について 印刷、文字・文の複写・削除・移動を学ぶ 第5回 Wordの表編集について 表の作成と編集を学ぶ 第6回 Wordの挿入編集について 画像・テキストボックスの挿入と編集を学ぶ 第7回 Wordの図形編集について 図形描画編集、演習問題を学ぶ 第8回 Wordのオンライン利用等について オンライン画像・ワードアートの挿入と編集を学ぶ 第9回 Wordの画像挿入について 図形描画、スクリーンショットの挿入と編集を学ぶ 第10回 Wordのスマートアートについて 演習問題、スマートアートの挿入と編集を学ぶ 第11回 Wordの段組み等について 段組み、ドロップキャップ、ページ罫線を学ぶ 第12回 Wordの差し込み印刷等について はがき印刷・差し込み印刷を学ぶ 第13回 Wordのグラフ等について グラフの挿入、ページ区切り、PDF変換を学ぶ 第14回 Word編集機能全般について(1) 総復習・演習問題によって学ぶ 第15回 Word編集機能全般について(2) 総復習・演習問題によって学ぶ 【授業実施方法】 原則として、対面（面接）授業を実施する。対面（面接）授業の実施が困難と判断される場合には、遠隔授業（オンライン・オンデマンド・課題）を併用する。 ICTを活用した双方向授業を実施する授業回がある。 【アクティブラーニングの導入】 なし						
成績評価の方法 (試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合(%)	80	0	15	0	5	100
成績評価の基準（ルーブリック）						
到達度	秀逸	優秀	良好	最低限		
授業の到達目標に対する到達度の目安	ワードの各機能を良く理解し、目的に合わせて適切なレイアウトで、文章、図、表等を組み入れて見栄えの良い文書を作成することができる。また、素早く正確に文字入力ができる。	ワードの各機能を理解し、目的に合わせて、文章、図、表等を組み入れた文書を作成することができる。また一定のスピード以上で正確に文字入力ができる。	ワードの主要な機能を理解し、文章、図、表等を組み入れた文書を作成することができる。また、一定のスピード以上で文字入力ができる。	ワードのごく基本的な機能を理解し、資料等を作成することができるが、図や表を入れた場合、レイアウト調整に時間がかかる。		
該当DPに対する到達度の目安	保育と子育て支援を行う上で、ワードを活用して効果的な情報の発信や記録をする力を身につけており、事務作業も効率化させることができる。	保育と子育て支援を行う上でワードを活用して情報の発信や記録をする力を身につけており、事務作業も効率化させることができる。	保育と子育て支援を行う上で、ワードを活用して情報の発信や記録をする基礎力を身につけており、事務作業もある程度効率化させることができる。	保育と子育て支援を行う上で、ワードを活用して情報の発信や記録をする最低限の力を身につけている。		

年度	2025	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	30130	ICT活用	○
授業科目名	情報機器の操作Ⅱ					実務教員	○
科目	基礎教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等			66条の6に定める科目				
配当年次	1年	期間	後期	必修区分	卒幼D		
授業形態	演習	単位数	1	担当形態	単独		
教員	山崎 幸路						
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP1					
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会人力 (DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
Microsoft Excelの基本～中上級程度の操作を習得し、社会で幅広く活用できる技術を身につけることを目標とする。 ☐ 1. 正確かつ効率的にデータ入力ができる ☐ 2. 計算式・関数を理解し、適切に使用できる ☐ 3. 目的に合わせて適切なグラフを選択し効果的に利用できる ☐ 4. データベース機能を理解し、抽出・並べ替え・集計ができる ☐ 5. 実務を効率的に行うために、エクセルの適切な機能を選択し活用できる ☐ 6. 人工知能 (AI) について説明できる							
授業の概要							
情報利活用能力を養う科目です。Microsoft Excelの操作を学習し、データの正確な入力、集計、分析、及びその結果の効果的な表現方法を身につけます。また、実際の業務の中でどのように生かすことができるかを理解します。							
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）							
・授業で学習した操作を復習し、質問がある場合は、次回の授業までにまとめておくこと。 ・毎回課題を出すので、完成させておくこと。 ・次回の授業範囲を予習しておくこと。							
標準学修時間の目安							
1回の講義にあたり予習・復習を含めて4時間の学修が望ましい。							
課題（試験やレポート等）のフィードバック							
課題提出後の授業でコメントを付した課題を返却する。							
使用教科書							
	教科書名		著者名		出版社名		ISBN
1	30時間 Excel2021		-		実教出版		978-4-407-35940-4
2							
3							
使用教科書備考							
30時間でマスター Excel2021							
参考書・参考資料等							
リファレンス動画付き!実践ドリルで学ぶ Office活用術 演習問題全173題、NOA出版							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
指導教員はマイクロソフト公式トレーナーを取得し、現在パソコンスクールでマイクロソフトオフィススペシャリスト (MOS) 等の資格試験のレッスンを担当している。実務経験にもとづき、最新の情報リテラシー教育をおこなう。							
その他							
学習内容を定着させるために、ほぼ毎回課題を出します。わからないところがある場合は、授業の時だけではなく、電子メールでの質問も受け付けますので、積極的に質問し解決するようにしてください。また、ICTを利用し、授業内でのアンケートのデータを、集計、グラフ化したり、授業の感想を共有することで相互理解に役立てます。							

授業計画						
第 1回 エクセルについて エクセルの概要、タッチタイプ、数式の入力を学ぶ 第 2回 関数利用について SUM関数、グラフ作成と設定の変更、印刷を学ぶ 第 3回 データ編集等について 行・列・データの編集、関数(平均)、相対参照を学ぶ 第 4回 データ入力について 表示形式、文字位置、効率的なデータ入力を学ぶ 第 5回 罫線について 罫線、オートカルクを学ぶ 第 6回 数式参照方法等について 絶対参照、表示形式、文字の属性を学ぶ 第 7回 COUNT関数等について MAX・MIN・COUNT・COUNTA関数を学ぶ 第 8回 ROUND関数等について ROUND・ROUNDUP・ROUNDDOWN関数を学ぶ 第 9回 IF関数等について IF関数とネストを学ぶ 第10回 書式入力について 条件付き書式、スパークラインを学ぶ 第11回 グラフ作成について(1) グラフ作成(棒・折れ線)を学ぶ 第12回 グラフ作成について(2) グラフ作成(円・複合)、日付の表示、ふりがなを学ぶ 第13回 データ集計等について データの抽出と集計、RANK.EQ関数を学ぶ 第14回 データ取得関数等について LARGE・SMALL・VLOOKUP関数、演習問題を学ぶ 第15回 エクセル機能全般について 演習問題、人工知能(AI)を学ぶ 【授業実施方法】 原則として、対面(面接)授業を実施する。対面(面接)授業の実施が困難と判断される場合には、遠隔授業(オンライン・オンデマンド・課題)を併用する。 ICTを活用した双方向型授業を実施する授業回がある。 【アクティブラーニングの導入】 なし						
成績評価の方法 (試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合(%)	80	0	15	0	5	100
成績評価の基準(ルーブリック)						
到達度	秀逸	優秀	良好	最低限		
授業の到達目標に対する 到達度の目安	エクセルの各機能をよく理解し、目的に合わせて適切な数式、グラフ等を選択して資料等を一定の時間内に正確に作成することができる。また、他者が理解しやすいレイアウトで作成することができる。	エクセルの各機能を理解し、目的に合わせて適切な数式、グラフ等を選択して資料等を正確に作成することができる。また、他者が理解しやすいレイアウトで作成することができる。	エクセルの主要な機能を理解し、数式やグラフ等を使用した資料等を作成することができる。基本的なレイアウト構成ができる。	エクセルのごく基本的な機能を理解し、資料等を作成することができる。		
該当DPに対する 到達度の目安	人の健康増進を促す上で、エクセルを活用し、食と栄養及び健康等に関して、効果的な情報の記録、発信、分析をする力を身につけており、事務作業も効率化させることができる。	人の健康増進を促す上で、エクセルを活用し、食と栄養及び健康等に関して、情報の記録、発信、分析をする力を身につけており、事務作業も効率化させることができる。	人の健康増進を促す上で、エクセルを活用し、食と栄養及び健康等に関して、情報の記録、発信をする基礎力を身につけており、事務作業もある程度効率化させることができる。	人の健康増進を促す上で、エクセルを活用し、食と栄養及び健康等に関して、情報の記録、発信をする最低限の力を身につけている。		

年度	2025	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	30020	ICT活用	○
授業科目名	社会人基礎論Ⅰ					実務教員	○
科目	基礎教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等							
配当年次	1年	期間	後期	必修区分	卒		
授業形態	講義	単位数	1	担当形態	オムニバス		
教員	長谷川 秀雄／林原 和哉／橋口 奈央						
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP4, 5, 6, 7, 8, 9					
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会力 (DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
授業のテーマ ①高校から大学への円滑な接続。 ②期待される社会人・職業人を目指す。 ③働く意義を考える。 ④コミュニケーション能力などを身につける。 到達目標 ☐ 1. レポート・論文の書き方、学生生活における時間管理、プレゼンテーション等の技法を習得する。 ☐ 2. コミュニケーションの基本となるあいさつ、「ホウレンソウ」、ビジネスマナー等を身につける。 ☐ 3. 新聞、テレビのニュースや報道番組等に関心を持ち、情報を自分で集め考えることができる。 ☐ 4. 就職活動に必要なエントリーシート等が書け、就職試験等で自分の意見を言える。							
授業の概要							
この授業は、短大生として必要な総合教育プログラムで、学問修得に向けた動機付けなどを目標とする。 ①短大で学ぶ上で必要なレポート等の書き方、学生生活における時間管理などの学修方法を習得する。 ②「知識・技能」のみならず「思考力・判断力・表現力」、「協働して働く態度」の重要性を理解する。 ③地域社会が求める思いやり、優しさ、協調性、マナー、コミュニケーション能力などを身につける。 ④現代社会を自分で捉える能力と職業人としての教養、社会的常識、就職の基礎知識を身につける。							
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）							
普段から新聞を読み、テレビの報道番組等をみて現代社会が抱える課題について考え、配布資料の下調べをしておく。日記などを書くことで、書くことに対する苦手意識を克服しよう。地域社会が自分に何を望んでいるのか、日々の生活を通して考えてみよう。授業前にはテキストの該当箇所を読み、分からない箇所を自分でノートにまとめておく。授業後は、配布プリントなどを読んで復習し、授業テーマについて学生同士でディスカッションしてみよう。							
標準学修時間の目安							
1回の講義あたり0.5時間の予習と1.5時間の復習を行うこと。							
課題（試験やレポート等）のフィードバック							
小テストに関しては、採点后、返却します。レポート、作文などに関しては、模範例を授業中に紹介します。							
使用教科書							
	教科書名		著者名		出版社名		ISBN
1	なし		-		-		-
2							
3							
使用教科書備考							
なし							
参考書・参考資料等							
2019年版 B 検ビジネス能力検定ジョブパス3級公式テキスト 職業教育・キャリア教育財団 監修 日本能率協会マネジメントセンター 出版							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
林原：大手電機メーカー勤務・IT系専門学校教員、短大就職支援部長の経歴を活かし、就職活動支援等を行う。 長谷川：公立中学校を中心に教諭・管理職として28年の教員経験から思考力、判断力を養うための指導を行う。 橋口：函館市役所での勤務（9年間）、コンサルティング会社での各種講座実施の経験を生かし、仕事におけるマナー等の指導を行う。							
その他							
実務経験者などの外部講師による特別講話を行う場合がある。ディスカッションやプレゼンテーションなど必要に応じてアクティブ・ラーニングを行う。							

授業計画						
第1回	短大生としての学修とキャリア形成（長谷川）					
第2回	短大生としての学修方法と今後のキャリア形成の考え方について学ぶ 地域社会が求める能力は何か。やさしさや思いやり等「人間的な力」の重要性について。（林原、長谷川）					
第3回	過去のアンケート結果などから地域社会が求める能力が何かを学ぶ。 情報モラルについて。（林原、長谷川）					
第4回	SNS等で実際に起こったトラブルなどを解説。 「時間意識・目標意識・協調意識」など仕事の基本となる8つの意識。（橋口、長谷川） 就職活動にも役立つ新社会人のビジネスマナー&心構え・身だしなみ・所作・言葉遣い・書類作成・指示の受け方のマナー等を学ぶ。					
第5回	チームワークのためのコミュニケーションを支えるビジネスマナーの基本について。（橋口、長谷川） 会ってみたいくなるエントリーシートって何だろう？、自己PRと志望動機の違い、短所しか浮かばないあなたにぴったりの長所探しメソッドを学ぶ。					
第6回	指示の受け方と報告・連絡・相談、わかりやすい話し方と聞き方のポイント。（橋口、長谷川） 絶対に守ってほしい！3つの面接のポイント 一緒に働きたい新入社員ってどんなひと？、当たり前だけでできていない3つの面接のポイントを学ぶ。					
第7回	わかりやすいプレゼンテーション技法とは何か。（林原、長谷川） パワーポイントを使ったプレゼンテーションについて、発表時間やプレゼン環境等の観点から技法や留意事項を学ぶ。また、課題としてパワーポイントを使用した発表時間3分程度のプレゼンコンテンツを作成し、Campusmate-Jで提出する。					
第8回	短大で学ぶ上で必要な読む能力と書く能力（長谷川）					
第9回	資料や論文等を速く、正しく読むための方法と分かりやすい文章の条件について学ぶ。 レポートの書き方（長谷川）					
第10回	レポートの基本的な構成と相手意識や目的意識等をもって書く方法について学ぶ。 新聞の読み方と現在の政治課題や国際問題等（長谷川）					
第11回	新聞の紙面構成と読み方、現代社会の政治や国際問題を理解するための新聞やメディアの活用方法について学ぶ。 自分の意見のまとめ方と書き方（長谷川）					
第12回	根拠を明確にして、自分の主張を分かりやすく書く方法について学ぶ。 法人・企業へのアプローチ方法。（林原、長谷川）					
第13回	ネットの活用、電話のかけ方、企業説明会への参加の仕方などについて学ぶ。 個人面接における基本的マナーと会話力について。（林原、長谷川）					
第14回	ビデオコンテンツを視聴し基本的な面接試験におけるマナーと面接試験を「会話」と捉えた場合の伝わりやすさを理解する。 集団面接とグループディスカッションの留意点。（林原、長谷川）					
第15回	選考試験としての集団面接とグループディスカッションを学び、模擬集団面接のビデオコンテンツの視聴により、採用する側の視点について体感する。 グループディスカッションの実践（林原、長谷川） 複数チームに分かれてグループディスカッションを実践し、各役割を学ぶ。					
【授業実施方法】						
原則として、対面（面接）授業を実施する。対面（面接）授業の実施が困難と判断される場合には、遠隔授業（オンライン・オンデマンド・課題）を併用する。						
ICTを活用した双方向授業を実施する授業回（課題）がある。						
【アクティブラーニングの導入】						
「プレゼンテーション」「グループワーク」「ディスカッション」						
成績評価の方法 （試験項目）	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合（％）	40	20	40	0	0	100
成績評価の基準（ルーブリック）						
到達度	秀逸	優秀	良好	最低限		
授業の到達目標 に対する 到達度の目安	レポート等が書ける。時間管理、ビジネスマナー等を身につけ、周囲から信用・信頼されている。プレゼンテーション等の技法を習得し、優れたプレゼンができる。新聞等で現代社会が抱える課題を見出し、自分で考え解決策を打ち出すことができる。職業人として必要な目標・教養を身につけ就職試験に対応できる。	レポート等が書け、時間管理、ビジネスマナー等を身につけている。プレゼンテーション等の技法を習得し、現代社会が抱える課題を見出し、自分で考えることができる。エントリーシート等が書け、就職試験等で自分の意見を言える。職業人として必要な教養を身につける努力を続けている。	レポート等の書き方を理解している。時間管理、ビジネスマナー等の重要性を理解している。プレゼンテーション等の技法を習得している。新聞等で現代社会が抱える課題を見出すことができる。就職活動に必要なエントリーシート等が書ける。職業人として必要な教養を身につける努力を続けている。	レポート・論文の書き方、学生生活における時間管理、プレゼンテーション等の技法を習得しようという意欲がある。コミュニケーションの基本となるあいさつ「ハウレンソウ」、ビジネスマナー等を身につけようと努力している。新聞、テレビのニュースに関心を持っている。就職活動に取り組む意欲がある。		
該当DPに対する 到達度の目安	専門職業人としての高い倫理観を持ち生涯にわたって学び続け、身に付けた知識や技能及び経験を創造力を持って分かりやすく他者に伝えることができる。生活環境や食文化を深く分析して、課題や問題を見つけ出し、その解決に向けて計画的に考え、答えを導き出す能力を身に付けている。	専門職業人としての高い倫理観を保持し社会に貢献しようとする。生活環境や食文化について日ごろから考えており、身に付けた知識と技能を生かし、物事を的確に認識して評価できる能力がある。	他者への思いやりや柔軟な対応力、コミュニケーション力があり、他者と協働して課題を解決しようとする。生活環境や食文化について日ごろから考え、専門職業人として社会に貢献しようという意欲がある。	他者への思いやりや柔軟な対応力がある。生活環境や食文化を理解しようという意欲がある。専門職業人となる意欲がある。		

年度	2025	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	30071	ICT活用	-
授業科目名	外国語(英語)					実務教員	○
科目	基礎教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等			66条の6に定める科目				
配当年次	1年	期間	前期	必修区分	保幼		
授業形態	演習	単位数	2	担当形態	単独		
教員	阿部 ジョスリン						
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP8					
		知識・技能(DP1~3)、思考力・判断力・表現力(DP4~6)、コミュニケーション力・社会力(DP7~9)					
授業のテーマ及び到達目標							
□This class is designed for active communication for nursery school teachers and kindergarten teachers. We will practice speaking, listening, reading and writing. Each class will focus on a new aspect of learning English which will be helpful for talking with children or their parents. The goal of the course is that students will be able to understand spoken and written English as well as communicate using basic structures in English. 本授業の内容は保育士、幼稚園教諭をめざす学生を対象としたアクティブコミュニケーションである。英語の四技能ー話す、聞く、読む、書くーを学び、特に、子どもとその保護者との会話に役に立つ英語に焦点を当てる。英語によるコミュニケーションの基本と会話及び文章としての英語が理解できるようになることを到達目標とする。							
授業の概要							
Each class requires students to participate in speaking and listening activities with other students. There will be dialogue practice activities in class, and also some writing activities. Students should ensure proper understanding by completing textbook exercises. 毎回の授業において、他の学生と一緒にスピーキングとリスニングに参加することを学生に求める。また、会話やライティングの練習も行う。学生はテキストの内容を十分に理解してることが必要である。							
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）							
Reviewing each lesson is important to be well prepared for the next class. It is important to read the textbook exercises again after class and review grammar and vocabulary. 各授業の復習が次の授業の予習にもつながる大切なものである。授業後に教科書の練習問題を読み返し単語と文法を確認すること。							
標準学修時間の目安							
At least 1 hour of preparation time is required for each class. どの授業も1時間の予習が望ましい。							
課題（試験やレポート等）のフィードバック							
There will be 2 tests, based on the textbook. Class participation accounts for 50% of students' mark テキストに基づいて2回のテストを行い、それぞれが25%の評価に相当する。授業への参加意欲等は、評価の50%に相当する。							
使用教科書							
	教科書名	著者名	出版社名	ISBN			
1	使用教科書備考に記載	使用教科書備考に記載	備考に記載	978-4-523-17883-5			
2							
3							
使用教科書備考							
教科書：Speaking of Childcare 著者：Peter Vincent, Naoko Nakazato 出版社：Nan'un-Do ISBN 978-4-523-17883-5							
参考書・参考資料等							
Englsih/Japanese , Japanese/Englsih dictionary in book or electronic form							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
Lecturer at Hakodate University since 2013 ; Hokkaido University of Education Fuzoku Kindergarten English teacher since 2017 2013年より函館大学。							
その他							
なし							

授業計画						
第 1回 Orientation of class, Introduction of students and teacher in English 授業のオリエンテーション、英語による生徒と教師の紹介 第 2回 Talk about countries and nationalities using questions 質問を使って国や国籍について 第 3回 Talk about nursery school teacher activities using 'How often...' questions 保育士の活動について、「どのくらいの頻度で...」という質問を使って 第 4回 Talk about childhood sicknesses and medical products 子どもの病気と医療品について語る 第 5回 Talk about children activities at nursery school using the continuous tense 保育園での子どもたちの活動について、継続時制を使って 第 6回 Talk about children's feelings using various adjectives さまざまな形容詞を使って子どもの気持ちを語る 第 7回 Use the imperative to talk about Do's and Don'ts in a nursery school 命令形を使って、保育園での「やるべきこと」と「やってはいけないこと」について 第 8回 Review Test of Lessons 1 - 7 (25%) レッスン1～7の復習テスト (25%) 第 9回 Use Let's and Let's not to talk about nursery school activities 保育園の活動について話すときは、Let'sとLet's notを使おう 第10回 Use playground words to talk about what children want to do 遊びの言葉を使って、子どもたちがやりたいことを 第11回 Use modal verbs to talk about nursery school activities 様相動詞を使って保育園の活動について 第12回 Continue the use of modal verbs 様相動詞の使用を続ける 第13回 Use the past tense to talk about how children acted at nursery school 過去形を使って、保育園での子どもたちの様子について 第14回 Talk about injuries and emergencies at nursery school 保育園での怪我と緊急事態について 第15回 Use the future tenses to talk about events which are going to happen 未来時制を使って、これから起こる出来事について Final Test of Lessons 8-15 (25%) レッスン8～15の最終テスト (25%) 【授業実施方法】 原則として、対面（面接）授業を実施する。対面（面接）授業の実施が困難と判断される場合には、遠隔授業（オンライン・オンデマンド・課題）を併用する。 【アクティブラーニングの導入】 「プレゼンテーション」 Pair work, group work is required. ペアワーク、グループワークが必要。						
成績評価の方法 (試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合 (%)	50	0	0	0	50	100
成績評価の基準（ルーブリック）						
到達度	秀逸	優秀	良好	最低限		
授業の到達目標 に対する 到達度の目安	Student can listen and speak English very well with good intonation and is eager to join activities.	Student can listen and speak English well with some small errors but student is active in class activities.	Student is able to listen and speak some basic English patterns and phrases however some errors occur.	Student can listen and speak some very basic English, however some errors may hinder understanding.		
該当DPに対する 到達度の目安	Enable student to conduct basic conversations well, related to children's activities and needs in clear and correct English.	Enable student to conduct basic conversations related to children's activities and needs in clear English.	Enable student to conduct basic conversations related to children's activities in clear English, correcting through repeating and writing.	Enable student to conduct basic conversations related to children's activities in clear English, correcting errors as necessary.		

年度	2025	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	30071	ICT活用	—
授業科目名	外国語(仏語)					実務教員	○
科目	基礎教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等			66条の6に定める科目				
配当年次	1 年	期間	前期	必修区分	保幼		
授業形態	演習	単位数	2	担当形態	単独		
教員	竹花 和晴						
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP8					
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会力 (DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
☐ 1. フランス語独特の発音を習い、実際に発音できる。 ☐ 2. フランス語独特の表記を習い、書く事ができる。 ☐ 3. フランス語で簡単な会話ができる。 ☐ 4. フランス料理のレシピを読むことができる。							
授業の概要							
フランス語はヨーロッパ諸語の中で最も重要な言語の一つであります。また、全世界的な学術と外交用語でもあります。文化や経済等の国際交流が発展するなかで、フランス語は益々その重要性を増しつつあります。本授業は保育学科の学生を対象としており、フランス、カナダ、スイス、ベルギー、アフリカ等のフランス語圏諸国で現在話されている生きた会話を学習すると共に、調理レシピ(recipe)や文献の読解への道筋を開くことの契機にしたいと考えております。							
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）							
授業で学習した内容について、繰り返し声をだして練習するとともにその内容を覚える。次の授業に出席する前に次の単元の分からない単語を調べてくること。							
標準学修時間の目安							
1回の講義あたり2時間の予習と2時間の復習が必要となる。							
課題（試験やレポート等）のフィードバック							
定期試験後に、模範解答を掲示する。							
使用教科書							
	教科書名		著者名		出版社名		ISBN
1	なし		—		—		—
2							
3							
使用教科書備考							
「LE FRANCAIS POUR LE VOYAGE」（やさしく学ぶ旅のフランス語）3訂版							
参考書・参考資料等							
「仏和辞書」中または小辞典（出版社は随意）							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
1985年、フランス国立自然史博物館博士課程前期（DEA：修士課程相当）資格取得。1991年同上博士課程学位取得（仏国大学省認定統一博士号）。1995年から現在、函館短期大学仏語非常勤講師。2014年から現在、フランス自然史博物館人類古生物学研究所通信会員（日本担当）。仏語論文、国際学会発表複数あり。							
その他							
外国語習得の要諦は、第一にたゆまざる学習の継続であると思われる。そして、学習したことを、理解し、応用できることであると考えられる。必要に応じて、フランス語での簡単なプレゼンテーションを実施する。							

授業計画						
第 1 回 フランス語の歴史、現在のフランス語、日本におけるフランス語等について パワーポイントを活用して、フランスの文化と社会、フランス語の国際的な有効性について、説明する。 第 2 回 フランス語独特の発音や表記等について フランス語のアルファベット表記と一般名詞や固有名詞の発音法を学ぶ。 第 3 回 フランス語独特の発音や表記、数字の発音 フランス語の年月日の呼称や数詞 1 ～ 1 0 0 までの数え方を正しい発音で学ぶ。 第 4 回 教科書第 1 課の規則動詞と助動詞を伴う会話 「旅のフランス語」、パリ観光で役立つ会話を学ぶ。 第 5 回 教科書第 2 課の「旅先のホテルでの会話」（疑問文の文例等） ホテルのフロントで交わされる会話を学ぶ。 第 6 回 教科書第 2 課の「旅先のホテルでの会話」（フロントでの会話例等） ホテルのフロントで設備や予約の確認等に関する会話の実例を学ぶ。 第 7 回 教科書第 3 課の「フランスの生活」と不規則動詞等について フランスの郵便局内の窓口で交わされる会話を学ぶ。 第 8 回 教科書第 3 課の「フランスの生活」と数を伴う会話 両替所での会話の実例を学ぶ。 第 9 回 教科書第 4 課の「観光と乗り物」に伴う会話 公共交通機関、特にパリ地下鉄の利用実例に際した会話を学ぶ。 第 10 回 教科書第 4 課の「観光と乗り物」と否定文等について ルーヴル美術館へ行く実例を会話で学習する。 第 11 回 教科書第 6 課「あなたはどのように支払いますか」の会話 パリ市内の百貨店でのブレンダーの購入時の実際の会話を学ぶ。 第 12 回 教科書第 6 課「あなたはどのように支払いますか」の会話 購入商品の問い合わせ、試着、支払い等の実例に関する会話を勉強する。 第 13 回 教科書第 7 課「お急ぎください」長距離列車駅での会話 パリ市内の大きな始発駅での必要な会話を学ぶ。 第 14 回 教科書第 7 課「お急ぎください」長距離列車の駅での会話 列車の行き先、乗り換え、出発時刻等に関する会話を練習する。 第 15 回 教科書と副教材を活用した全ての学習の点検（まとめ） 各課で勉強した重要な文章表現を、復習し覚える。 【授業実施方法】 原則として、対面（面接）授業を実施する。対面（面接）授業の実施が困難と判断される場合には、遠隔授業（オンライン・オンデマンド・課題）を併用する。 【アクティブラーニングの導入】 「プレゼンテーション」						
成績評価の方法 (試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合 (%)	40	0	0	0	60	100
成績評価の基準（ルーブリック）						
到達度	秀逸	優秀	良好	最低限		
授業の到達目標 に対する 到達度の目安	仏語学習において、初級コミュニケーション力の習得で秀逸な到達度に達している。	仏語学習において、初級コミュニケーション力の習得で優秀な到達度に達している。	仏語学習において、初級コミュニケーション力の習得で良好な到達度に達している。	仏語学習において、初級コミュニケーション力の習得で最低限の到達度に達している。		
該当DPに対する 到達度の目安	初級仏語コミュニケーション力を身に付け、当該言語話者と協力して、課題を解決しようとする事ができる可能性を学習したことに秀逸な到達度に達している。	初級仏語コミュニケーション力を身に付け、当該言語話者と協力して、課題を解決しようとする事ができる可能性を学習したことに秀逸な到達度に達している。	初級仏語コミュニケーション力を身に付け、当該言語話者と協力して、課題を解決しようとする事ができる可能性を学習したことに秀逸な到達度に達している。	初級仏語コミュニケーション力を身に付け、当該言語話者と協力して、課題を解決しようとする事ができる可能性を学習したことに秀逸な到達度に達している。		

年度	2025	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	30071	ICT活用	－
授業科目名	外国語(中国語)					実務教員	－
科目	基礎教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等			66条の6に定める科目				
配当年次	1 年	期間	前期	必修区分	保幼		
授業形態	演習	単位数	2	担当形態	単独		
教員	東出 隆司						
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP8					
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会力 (DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
既に皆さんは英語を学んでおりますが、英語以外の外国語として、はじめて、アジアの言語であるあり、かつ、隣国の言葉である、中国語をこの授業を通して学びます。授業を通しての到達目標は以下の3点です。 □1.この授業を通して、同じ漢字という表意の文字を使い、日本文化の源である中国文化に触れながら言葉を学び、中国語を使って自己紹介ができる。 □2.中国を使つての自己紹介に必要な語彙と、自分の伝えたいことを表現する為必要な表現力を身につけます。 □3.会話は双方向のものです。簡単な互いの相手の言っていることが理解できるようになり、相手に質問できる双方向の意思疎通ができるようになる。							
授業の概要							
中国語はその表記が漢字を使っている点で近づきやすい外国語と言えます。 ですが、その漢字は簡体字といって日本語の漢字とは違っていますので注意が必要です。また、発音は全く異なっています。日本語にない音の出し方のもあります。その音をとらえ、発音し、またそれを聞き取ることが課題となります。次に文法も日本語とは違う点を理解します。これらを通して「聞く、話す、読む、書く、訳す」の外国語学習の基本的総合的習得を目指します。							
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）							
中国語は書くときと大体の意味が通じます。ですから、皆さんの学習の難しさはその「音」の学習にあります。「音」は学ぶというより、慣れることが大切です。それにはできるだけ「音」の多く接することです。自ら積極的にそうした機会・時間をお持ちになることです。「音」は、例えばNHK中国語講座の視聴や、テキスト音声のダウンロードを活用し、何度も何度も聴くことをお勧めします。また、ネット上にも多数のそうした中国語学習の無料サイト画像がありますので、自分の興味のあるものを選んで多く視聴して下さい。							
標準学修時間の目安							
この授業の最初のうちははじめての言語ですので、予習は難しいと思います。その分、復習に時間を割いてください。授業を復習する形で30分程度の時間を習ったものを確実に身に付けながらステップアップしていくこと目標としましょう。							
課題（試験やレポート等）のフィードバック							
授業中、個別に発音を確認されます。これは教師の発音ばかりでなく、他の同級生の発音を聞くことも大切な学習となります。教科書以外に必要な語彙を増やすためのプリントが配布されます。自分に必要な語は確実に覚えましょう。							
使用教科書							
	教科書名		著者名		出版社名		ISBN
1	はじめての中国語		郭 明輝		朝日出版社		978-4-255-45356-9
2							
3							
使用教科書備考							
授業の始まりから3回程度は発音の学習にとられます。（教科書の第1課）そのあと、教科書の課文の学習をおおよそ1回の授業で1課を学習しながら進み、語彙を増やし、毎回「音」を学習しながら様々な表現法を学んでいきます。							
参考書・参考資料等							
「日中辞典」「中日辞典」は図書館にあります。教科書以外の単語などを使う知りたい場合は利用してください。中国語映像教材やその他の文法などの専門書は短大向いの函館大学図書館にあり貸し出しも受けれます。手機（スマホ）を使っても可能です。「音」「映像」学習はネット上に多数ありますので、レベルにあった動画を視聴学習することが可能です。							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
現在、函館大学中国語講師。函館市立高等学校中国語講師。函館市・裁判所・検察庁・海上保安庁・等中国語（北京語）通訳人登録。函館市、「中国残留邦人等に対する支援・相談員、委嘱員。							
その他							
中国語の学習は、漢字表記の助けがある為、その点で日本人の中国語学習はある点で優位性があります。問題は、話せて聴けるかです。授業最終日に口試（話すテスト）を設け、皆さんがこの授業で習ったまた、自分で学習して得た表現法をもって、自分のことを中国語で紹介する機会を設けました。自由に中国語を使って表現してみてください。							

授業計画						
第1回 中国語概論（プリント使用） プリント資料を使用しての、中国語全体の特徴などを学びます。 第2回 声調と有気音、学習。 中国語の特徴である声調（四声）と発音の基本を学ぶ。 第3回 母音とそり舌音の学習。 中国語の特徴的な発音や日本語にない特徴を学ぶ。 第4回 発音のまとめ。DVDを使つてのネイティブ中国人の発音を視聴。 3回の授業を通して学んだ点を、視聴覚資料などを使い学習。 第5回 ピンイン学習。 中国語発音記号ピンインが読める、聞き取れるよう学習。 第6回 平常文と疑問文の学習。 短文で簡単な表現が出来るようになり、相手の発音を聞き取る学習。 第7回 家族の紹介の仕方を学習。 自分家族の紹介。相手の家族の紹介を聞き取る。 第8回 数字を使つての表現の学習。 暮らしの中での数字を使つての、年月日、時間、等の表現を学習。 第9回 幾つかの違った疑問文の学習と使い方。 単純な疑問文や疑問詞疑問文、反復疑問文、語気疑問文を学ぶ。 第10回 過去の経験を伝える表現の学習。 「～したことがある」の文を使つての表現、相手への質問の仕方を練習。 第11回 中国語料理の主な調理法などの学習。 中国語発音での中華料理名、調理法の名前などを学ぶ。 第12回 1日の区別の言い方、時間の表現の学習。 時間の表現とともに、1日の区分、時間を使つて表現を学ぶ。 第13回 連動文の学習の学習。 単分をつなげ、連動文としての表現、二つの動作、行為の表現を学ぶ。 第14回 介詞の学習。 距離、時間、動作の起点や動作の向かう方向などの表現を学ぶ。 第15回 まとめ総合復習。 これまで学んだ語彙、表現法を使つて、中国での自己の紹介にチャレンジ。 【授業実施方法】 原則として、対面（面接）授業を実施する。対面（面接）授業の実施が困難と判断される場合は、遠隔授業（オンライン）を併用する。 【アクティブラーニングの導入】 プレゼンテーション						
成績評価の方法 (試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合 (%)	45	40	5	5	5	100
成績評価の基準（ルーブリック）						
到達度	秀逸	優秀	良好	最低限		
授業の到達目標に対する 到達度の目安	表記（書く）、意味を理解する（語彙）、話せる（発音）、聞き取れるが均衡よく出来ている。語彙を組み合わせ、自分の日常や家族、好み、希望などを適切に表現し、独自の工夫がみられる、相手に十分に伝えることができる。また、中国語による簡単な問いに、中国語を使って適切に応じることができる。	表現（書く）意味を理解する、意味をくみ取れる（語彙）、話せる（発音）、話せる（発音）の三点の理解度が一定程度に達している。自分のことを生活、嗜好などについて表現でき、相手と簡単なやりとりができる。学んだ表現法を使った質問に答えられることができる。	表現（書く）、書かれたものの意味を理解する（語彙）、話せる（発音）の三点を一定程度でき、自分のことを最低限紹介できる。	表現（書く）、書かれたものの意味を理解する（語彙）、話せる（発音）の点で、短文で数行の分を構成し、相手に分かるよう発音できる。		
該当DPに対する 到達度の目安	多言語社会を迎え、亜細亜の言語の一つである中国語を学ぶことを通し、自己の表現を身につけ、学習した単語や調べた単語を使って表現し、それが相手に伝わり、相手からの簡単な質問に応えることができる。簡単な双方向のコミュニケーションがなりたつ。自分の方から積極的に知りたいことを尋ねることができるレベル。	この授業を通して学んだ表現法でまず、自分のこと、日本のことなどを、自分が思ったことが表現できる。また、相手からの質問に自分の意思を伝えることができる。	音を正しくとらえ、自分の発音がただしく相手に伝わり、知らせたいことが確実に表現できている。相手の言っていることを極力理解するように努力し、尋ねることができる。	自分のことを相手に伝えることができる。相手の書いた簡体字を読み取れること。		

年度	2025	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	30070	ICT活用	—
授業科目名	日本国憲法					実務教員	—
科目	基礎教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等			66条の6に定める科目				
配当年次	1 年	期間	後期	必修区分	幼		
授業形態	講義	単位数	2	担当形態	単独		
教員	小林 美紗						
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP1, 3, 7					
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会力 (DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
☐ 1. それぞれの人権規定が何を保障しているのか、なぜ保障しなければならないのかを理解する。 ☐ 2. 憲法は個人の人権を保障するために公権力を制限する法であることを理解する。 ☐ 3. 権力分立の仕組みや必要性を理解する。							
授業の概要							
日本国憲法の原理・原則を理解する。 様々な人権問題についての学習を通じ、人権意識・感覚を身につける。 現代的な人権感覚を身につけることは、多様な子どもや保護者と関わる教育者・保育者にとって必須である。							
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）							
予習は、授業日までに教科書の指定箇所を読み、関連する資料の下調べを行うこと。 復習は、授業時間内に配布するレジュメに示された問題を授業内容を振り返りながら解くこと。							
標準学修時間の目安							
1 回の講義あたり、2 時間の予習と 2 時間の復習が必要である。							
課題（試験やレポート等）のフィードバック							
定期試験後に再試験対象者にのみ答案用紙を返却する。							
使用教科書							
	教科書名		著者名		出版社名		ISBN
1	「伊藤真の憲法入門」第7版		伊藤真		日本評論社		978-4-535-52698-3
2							
3							
使用教科書備考							
「伊藤真の憲法入門」第7版（講義再現版）を使用する。							
参考書・参考資料等							
なし							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
実務経験のある教員に該当しない。							
その他							
日本国憲法の全条文をプリントアウトしたものを初回の講義で配布する。 講義毎にレジュメを配布する。							

授業計画						
第1回 立憲主義 本講義のガイダンスを説明する。また、憲法とは何か、立憲主義とは何かについて学ぶ。 第2回 国民主権と民主主義 憲法前文の規定から、国民主権及び民主主義の内容を理解し、民主主義と立憲主義との関係についても学ぶ。 第3回 平和主義 憲法前文及び憲法9条の内容を検討し、現代社会においてそれらがどのように解釈されているかを理解する。 第4回 権力分立と立法権（国会） 権力分立の内容とその現代的変容について学ぶ。また、三権のうち立法権について理解する。 第5回 行政権（内閣）と司法権（裁判所） 三権のうち残りの行政権及び司法権について、それぞれの役割と三権相互の関係について学ぶ。 第6回 人権総論と人権享有主体性 人権の歴史と人権の概念、人権の根拠を理解する。また、人権享有主体性が問題となる場面を学ぶ。 第7回 平等原則 基本的人権の限界が問題となる場面を理解する。また、法の下での平等について、その内容と平等原則に関する判例を学ぶ。 第8回 精神的自由権①（思想・良心の自由、信教の自由、学問自由） 精神的自由権のうち、表現の自由以外の自由権について学び、それらがどのような内容であってどのように保障されるかについて理解する。 第9回 精神的自由権②（表現の自由） 憲法の中でも重要性の高い表現の自由について、なぜそれが重要なのか、またそれがどのように保障されているかについて理解を深める。 第10回 参政権 参政権の中心となる選挙権・被選挙権について、その法的性格などを学ぶ。憲法保障とは何かというテーマもここで説明する。 第11回 経済的自由権 職業選択の自由などの経済的自由権について、違憲審査基準を中心にその限界を学ぶ。 第12回 人身の自由 刑事手続における人身の自由について、憲法でどのように定められているかを理解する。 第13回 社会権 生存権や教育を受ける権利、勤労の権利、労働基本権といった社会権について、それぞれの内容や憲法条文の解釈を理解する。 第14回 受益権と新しい人権 受益権について説明する。また、憲法に明記されていない新しい人権について、現代における考え方を学ぶ。 第15回 地方自治、憲法改正、憲法の私人間効力 憲法改正など、第14回までに説明しきれなかった話題を紹介する。全体の内容を復習する。 【授業実施方法】 原則として、対面（面接）授業を実施する。対面（面接）授業の実施が困難と判断される場合には、遠隔授業（オンライン・オンデマンド・課題）を併用する。 【アクティブラーニングの導入】 なし						
成績評価の方法 （試験項目）	筆記（定期試験・小テスト）	口述・実技等	論文（レポート・課題等）	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合（％）	70	0	0	0	30	100
成績評価の基準（ルーブリック）						
到達度	秀逸	優秀	良好	最低限		
授業の到達目標に対する到達度の目安	憲法が個人の人権を保障し公権力を制限する法であること、憲法が保障する個別の人権や権力分立の概要について理解しており、それらを他者に説明することができる。とともに憲法に関する問題について自らの考えを表現することができる。	憲法が個人の人権を保障し公権力を制限する法であること、憲法が保障する個別の人権や権力分立の概要について理解しており、それらを他者に説明することができる。	憲法が個人の人権を保障し公権力を制限する法であること、憲法が保障する個別の人権や権力分立の概要について理解している。	憲法が個人の人権を保障し公権力を制限する法であること、憲法が保障する個別の人権や権力分立の概要について断片的であるが理解している。		
該当DPに対する到達度の目安	現実社会における人権問題と身に付けた知識を関連付けることができ、関連する情報を収集・分析し、他者へ相当説得的な意見表明をすることができる。	現実社会における人権問題と身に付けた憲法の知識を関連付けることができ、ある程度の情報の収集と他者への発信ができる。	現実社会における人権問題と身に付けた憲法の知識を関連付けることができる。	現実社会における人権問題と身に付けた憲法の知識を関連付けることがほとんどできない。		

年度	2025	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	30073	ICT活用	—
授業科目名	保健体育					実務教員	○
科目	基礎教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等			66条の6に定める科目				
配当年次	1 年	期間	後期	必修区分	保幼		
授業形態	講義	単位数	1	担当形態	単独		
教員	土橋 史人						
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP 1					
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会人力 (DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
☐ 1. 現代社会がかかえる健康課題について説明できる。 ☐ 2. 健康増進の取り組みについて説明できる。 ☐ 3. 健康づくりのための運動や栄養について説明できる。 ☐ 4. 健康管理の具体的方法について説明できる。							
授業の概要							
健康を維持するためには、日々の生活習慣が重要である。本講義では健康の概念をはじめ、健康に影響を与える様々な生活習慣や環境要因について学び、自らの健康の維持に役立てる能力を養うことを目標とする。また、現代の日本がかかえている健康の問題点や国民の健康増進の推進に関する基本的な方向、目標等を理解するため、健康管理に関連のある最新情報を紹介し、生涯にわたり心と体を健康に保つための知識を広く解説する。							
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）							
教科書、ノート及び授業内で配布するプリントを見返して、授業内容についての理解を深めること。さらに、授業で取り上げる関連内容について普段から関心を持ち、インターネットや新聞・テレビ等、様々なものに目を通したり、関連する資料を調べておくこと。							
標準学修時間の目安							
次の講義までに予習・復習を含めて2時間の学修が必要である。							
課題（試験やレポート等）のフィードバック							
定期試験後に再試験対象者にのみ、課題（試験やレポート等）を返却する。							
使用教科書							
	教科書名	著者名	出版社名	ISBN			
1	健康増進科学概論	今村 裕行ほか	東京教学社	978-4-8082-6080-4			
2							
3							
使用教科書備考							
イラスト健康増進科学概論 第2版 —運動・栄養・休養—							
参考書・参考資料等							
なし							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
公立中学校で教諭として41年間の教職経験を有する。							
その他							
必要に応じてプリント資料を配布する。 必要に応じて、授業に関連した内容について調べたことをプレゼンテーションしてもらう。							

授業計画						
第1回 健康のとらえ方 世界保健機関（WHO）憲章と健康に過ごすために日常で気をつける活動について学習する。 第2回 平均寿命と死亡率 年代ごとの平均寿命と現代社会がかかえる死亡原因について学習する。 第3回 健康づくりのこれまで 健康づくりの3本柱を理解し、運動を実施することの大切さについて学習する。 第4回 ライフステージと健康 発育と発達から、これからの健康に必要な運動能力について学習する。 第5回 現代社会がかかえる健康課題 現代の健康問題にはどのような課題と影響があるのかを知り、解決方法を考える。 第6回 健康と体力の関係 体力にはどのような要素があるのかを知り、各要素の働きを学習する。 第7回 運動を正しく安全に行うために 健康の保持増進のために運動（トレーニングの原則）を実施する際、自身の体調を管理することを学習する。 第8回 有酸素運動 有酸素運動とは何かを知り、どのような運動（スポーツ）があるのかを学習する。 第9回 栄養と食生活 健康のための栄養にはそれぞれの栄養素を理解し、日常の正しい食生活を学習する。 第10回 体重管理のための食事と栄養 健康のための体重管理はなぜ必要なのかを知り、体重の増減は身体にどのような影響があるのかを学習する。 第11回 嗜好品と健康 嗜好品とは何か、どのようなものがあるのかを知り、過度な摂取は健康にどのような悪影響があるのかを学習する。 第12回 薬物使用及び性暴力の禁止について 薬物が身体に与える危険性と有害性を知る。性暴力とは何かを学習する。 第13回 メタボリックシンドローム メタボリックシンドロームとは何かを理解し、日常生活で大切なことを学習する。 第14回 精神的ストレスと運動 ストレスとは何かを知り、ストレスをためない健康に過ごす基本的な生活習慣を理解する。 第15回 これまで学習の振り返り、まとめ 今までの学習から「運動」「栄養」「休養」には人間の身体にどのような影響と健康な生活にはどのようなバランスが大切なのかを振り返る。 【授業実施方法】 原則として、対面（面接）授業を実施する。対面（面接）授業の実施が困難と判断される場合には、遠隔授業（オンライン・オンデマンド・課題）を併用する。 【アクティブラーニングの導入】 「プレゼンテーション」						
成績評価の方法 (試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合 (%)	80	0	10	0	10	100
成績評価の基準（ルーブリック）						
到達度	秀逸	優秀	良好	最低限		
授業の到達目標に対する到達度の目安	健康を維持するために必要な知識について理解し、他者に詳細な情報を伝えることができるとともに、新たに発生した健康問題に対して適切な対処法を検討できる。	健康を維持するために必要な知識について理解し、それらを他者に適切な情報として伝えることができる。	健康を維持するために必要な知識について理解している。	健康を維持するために必要な知識について断片的にしか理解していない。		
該当DPに対する到達度の目安	現代が抱えている健康問題や課題を自ら発見し、身に付けた知識で的確に認識して解決に結び付けるとともに、関連する情報の継続的な収集と他者への発信力を身に付けている。	現代が抱えている健康問題や課題と身に付けた知識を関連付けることができ、より詳細な情報の収集と他者への発信、課題解決に向けて努力することができる。	現代が抱えている健康問題や課題と身に付けた知識を関連付けることができ、ある程度の情報の収集と他者への発信ができる。	現代が抱えている健康問題や課題と身に付けた知識を結び付けることはできるが、関連する情報の収集や他者への発信を行うことができない。		

年度	2025	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	30072	ICT活用	—
授業科目名	体育実技(球技)					実務教員	○
科目	基礎教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等			66条の6に定める科目				
配当年次	1年	期間	前期	必修区分	保幼レ		
授業形態	実技	単位数	1	担当形態	単独		
教員	土橋 史人						
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP1, 8, 9					
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会力 (DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
3種類の球技(バドミントン、バスケットボール、バレーボール)を通して、技術と体力向上を目指す。 ☐1. 多項目特有の動きを身に付けることができる。 ☐2. 各種目のルールを説明することができる。 ☐3. 積極的に参加することにより運動量を増やすことができる。 ☐4. コミュニケーション能力を高めることができる。							
授業の概要							
本講義では、球技3種類を実践し、それぞれの球技の技術と体力の向上を図り、さらには他者とのコミュニケーション能力を養う。							
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）							
バドミントン・バスケットボール・バレーボールについて普段から関心を持ち、インターネットや新聞・テレビ等、様々なものに目を通すこと。							
標準学修時間の目安							
1回の講義にあたり1～2時間の自主学修が望ましい。							
課題（試験やレポート等）のフィードバック							
個々人の習熟度により、目標に達していない場合は、課題を課し、積極的にクリアするように技術向上に努めさせる。							
使用教科書							
	教科書名		著者名		出版社名		ISBN
1	なし		—		—		—
2							
3							
使用教科書備考							
必要な資料等、プリントを配布する。							
参考書・参考資料等							
なし							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
公立中学校での教諭経験にもとづき、球技の知識と技術を適切かつ効果的に指導する。							
その他							
運動靴、ジャージを着用すること。							

授業計画						
第1回	オリエンテーション 体育実技（球技の特性）における留意点と各種目の進め方の説明。からだ慣らし運動。					
第2回	バドミントン① バドミントンの成り立ち、高まる体力、技能の学習。ラケット操作（ハンドルの握り方）とシャトルの打ち方、ルールの学習。					
第3回	バドミントン② ストローク、クリアー、ドライブなどのフラインクの学習。定位置（ホームポジション）と戻る足運びのフットワークの重要性と簡易ゲーム攻防。					
第4回	バドミントン③ ストローク、サービスの安定した打ち方、相手コートの空いた場所へのコントロールしたフラインクでの攻防。					
第5回	バドミントン④ シングルスとダブルスのゲーム。正規のルールに沿った内容で実施。バドミントンの授業での振り返りと反省。					
第6回	バスケットボール① バスケットの成り立ち、高まる体力、技能の学習。ボール慣れ、パス・キャッチ、ドリブル、シュートの学習。					
第7回	バスケットボール② ランニングパスとランニングシュート（レイアップ）、ハーフコートでの3対2、空いているスペースへのドライブとパス。					
お互いのコミュニケーションをはかりながらのゲーム。						
第8回	バスケットボール③ 各種パスの練習。局面に応じたシュート（ジャンプシュート・ランニングシュート） ハーフコートでの3体3でのコンビネーション（カットイン・スクリーン）でのゲーム。					
第9回	バスケットボール④ 今までの個人技能とコンビネーションプレーの確認。チームで立てた戦術でのゲーム。					
第10回	バレーボール① バレーボールの成り立ち、高まる体力、技能の学習。ボール慣れ、パス（オーバーハンドパス、アンダーハンドパス）の局面での使い分け。サービスの学習。					
第11回	バレーボール② 各種パスとサービスの学習。スパイクの習得。相手コートからくるボールへのレーシーブポジションの学習。					
第12回	バレーボール③ 相手コートからくるボールに対してのレーシーブ、チーム内での三段攻撃への連携。お互いにラリーを楽しむゲーム。					
第13回	バレーボール④ 今までの学習から守備（レーシーブポジション）と攻撃（三段攻撃）の戦意識したゲーム。					
第14回	バレーボール⑤ 各チームでのリーグ戦形式でのゲームと相互審判による運営。					
第15回	各実技の振り返り 今までの体育実技（球技）の確認。ネット型のスポーツとゴール型のスポーツのそれぞれの狙いと特性の振り返り、反省。					
【授業実施方法】						
原則として、対面（面接）授業を実施する。対面（面接）授業の実施が困難と判断される場合には、遠隔授業（オンライン・オンデマンド・課題）を併用する。						
【アクティブラーニングの導入】						
なし						
成績評価の方法 （試験項目）	筆記（定期試験・小テスト）	口述・実技等	論文（レポート・課題等）	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合（％）	0	80	0	0	20	100
成績評価の基準（ルーブリック）						
到達度	秀逸	優秀	良好	最低限		
授業の到達目標 に対する 到達度の目安	3種目の球技に必要な知識と技術を向上させる方法を理解し、他者に詳細な方法を伝えることができるとともに、新たな技術向上を目指したトレーニング方法を考えることができる。	3種目の球技に必要な知識と技術を向上させる方法について理解し、それらを他者に適切な方法として伝えることができる。	3種目の球技に必要な知識と技術を向上させる方法について理解している。	3種目の球技に必要な知識と技術を向上させる方法について断片的にしか理解していない。		
該当DPに対する 到達度の目安	体育実技における技術向上の課題や問題を自ら発見し身に付けた知識で的確に認識して解決に結びつけるとともに、関連する情報の継続的な収集と他者へ発信するコミュニケーション能力を身に付けている。	体育実技における技術向上の課題や問題と身に付けた知識を関連付けることができ、より詳細な情報の収集と他者へ発信、課題解決に向けて努力することができる。	体育実技における技術向上の課題や問題と身に付けた知識を関連付けることができ、ある程度の情報の収集と他者へ発信ができる。	体育実技における技術向上の課題や問題と身に付けた知識を結び付けることができるが、関連する情報の収集や他者へ発信を行うことができない。		

年度	2025	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	30072	ICT活用	—
授業科目名	体育実技(フィットネス)					実務教員	○
科目	基礎教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等			66条の6に定める科目				
配当年次	1 年	期間	前期	必修区分	保幼		
授業形態	実技	単位数	1	担当形態	単独		
教員	原崎 千鶴子						
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP1. 8. 9					
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会力 (DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
運動不足の解消方法と体力の維持増進方法を学び継続していく力を身につける。 □1. 立位、座位の良い姿勢を身に付け、日常動作と運動時に活用する。 □2. 安全で効果的な有酸素運動（エアロビックスダンスなど）の基本動作を学び、リズムに乗って楽しく心肺機能の向上を図る。 □3. レジスタンス運動を安全で効果的に実践し、姿勢改善と障害予防に役立てる。 □4. 柔軟性向上のための基本動作を学び柔軟運動を実践する。 □5. 平衡感覚の維持向上をめざしバランス運動の基本を学ぶ。							
授業の概要							
有酸素運動で心臓や肺の働きを改善し運動不足を解消させる。正しいフォームでレジスタンス運動やストレッチング、バランス運動を行い、骨や筋、関節の働きを改善し、安全で効果が得られるような動きを学習する。							
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）							
復習： 配布する復習プリントに、課題に合った動きを選択し授業で学んだ動きの中から各自が選択し、実践した感想をまとめて提出する。 原崎千鶴子配信のYouTubeを活用することも可能。 予習： 配布する予習プリントに、各自又はグループで話し合い課題を見つけ次回の授業までにその内容をまとめて提出する。							
標準学修時間の目安							
1回の講義にあたり1時間程度の自主学修が望ましい。							
課題（試験やレポート等）のフィードバック							
各自の習得度に合わせ、課題を課し積極的にサポートしクリアできるよう努めさせる。							
使用教科書							
	教科書名		著者名		出版社名		ISBN
1	なし		—		—		—
2							
3							
使用教科書備考							
なし							
参考書・参考資料等							
フィットネス基礎理論							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
安全で効果的で楽しいプログラム作成し、老若男女問わず多岐にわたり提供している。多くの上級資格を取得し、健康運動指導士・健康運動実践指導者、ADI、REI、SEIなどの資格認定テスト、教習ワークショップにおいて、理論・実技ワークショップの講師及び実技テストの試験官を担当している。資格更新に努め、最新の理論にもとづいた運動に積極的に楽しく参加できるような指導に努めている。							
その他							
ジャージを着用。 シューズを履く。 各自で水分を用意する。							

授業計画						
第 1回	健康・体力づくりについて 有酸素運動・レジスタンス運動・柔軟運動・バランス運動の基本的動きを覚えて体力測定を実施する。					
第 2回	姿勢について 悪い姿勢が及ぼす影響を理解し、良い姿勢について学ぶ。					
第 3回	レジスタンス運動と柔軟運動について レジスタンス運動とストレッチングの正しいフォームを学ぶ。					
第 4回	歩行とウォーキングの違いについて ウォーキングの正しいフォームを学ぶ。					
第 5回	エアロビックダンスエクササイズについて マーチ系の基本ステップの演習。					
第 6回	エアロビックダンスエクササイズについて ステップタッチ系の基本ステップの演習。					
第 7回	エアロビックダンスエクササイズについて フリースタイルで持続的にステップを繋げる方法を学ぶ。					
第 8回	エアロビックダンスエクササイズについて グループに分かれてフリースタイルを考えて発表する。					
第 9回	レジスタンス運動について レジスタンス運動の強度調節を学ぶ。					
第10回	柔軟運動について ストレッチング運動の可動域の向上を目指す方法を学ぶ。					
第11回	バランス運動について 平衡感覚を向上させるためのスキルを学ぶ。					
第12回	エアロビックダンスエクササイズについて コンビネーションスタイルで持続的にステップを繋げる方法を学ぶ。					
第13回	エアロビックダンスエクササイズについて グループに分かれてコンビネーションスタイルを考えて発表する。					
第14回	健康・体力づくりについて 有酸素運動・レジスタンス運動・柔軟運動・バランス運動の体力測定。					
第15回	課題の動きの発表について 各グループで考えたエアロビックダンスエクササイズを発表。 まとめの復習筆記テスト（20問）					
【授業実施方法】 原則として、対面（面接）授業を実施する。対面（面接）授業の実施が困難と判断される場合には、遠隔授業（オンライン・オンデマンド・課題）を併用する。						
【アクティブラーニングの導入】 「ディスカッション」						

年度	2025	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	30050	ICT活用	○
授業科目名	音楽基礎					実務教員	○
科目	基礎教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等							
配当年次	1 年	期間	前期	必修区分			
授業形態	演習	単位数	1	担当形態	複数		
教員	山下 真由美／高橋 セリカ						
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP1, 6, 8					
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会力 (DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
保育所保育指針・幼稚園教育要領に基づき、保育・幼児教育における指導者に必要とされる基礎的音楽理論の理解、ソルフェージュ楽譜を読み記されている内容を理解して歌う力、音楽を表現する力などの音楽の基礎力を培う。 □1. 単旋律の楽譜を見て階名唱ができる。（♯♭各2つまでの長・短調） □2. 大譜表と鍵盤との位置関係を学び、楽譜の書写、音名や基礎的なリズムを理解できる。 □3. 楽譜上の音符や休符の種類、調やテンポ、音程、速度標語や音楽記号を理解する。 □4. 主要三和音やコード、根音や和音を基にする簡易伴奏について理解し伴奏付けを行うことができる。 □5. 声や発声のしくみを理解し、童謡や子どもの歌を歌唱できる。 □6. 音楽基礎力の技能を活用して、保育・幼児教育の音楽表現活動を構想し、実践できる。							
授業の概要							
・単旋律の楽譜を見て階名唱をおこなう。（♯♭各2つまでの長・短調） ・大譜表と鍵盤との位置関係を学び、楽譜の書写、音名や基礎的なリズムを理解する。 ・楽譜上の音符や休符の種類、調やテンポ、音程、速度標語や音楽記号を学ぶ。 ・主要三和音やコード、根音や和音を基にする簡易伴奏について理解し伴奏付けを行う。 ・声や発声のしくみを理解し、童謡や子どもの歌を歌唱する。 ・当該科目は、補修教育としてのリメディアル科目である。							
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）							
予習・復習の課題については、授業において明示する。予習では、次回授業内容のテキスト該当箇所を読んでくること。復習では、楽典（音楽基礎理論）とソルフェージュ（音楽基礎技能）を相互に関連付け理解が深まるよう、楽譜を書いたり、楽譜を見て歌唱（階名唱）したり、リズム打ちを行ったり、楽譜に示された音を弾いてみる等、理論と実践の融合により学びの定着を図るよう努めること。							
標準学修時間の目安							
次の授業までに、予習・復習を含めて2時間の学修が望ましい。							
課題（試験やレポート等）のフィードバック							
定期試験後（追・再試験対象者発表日）に模範解答を研究室前に掲示する。再試験対象者に答案用紙を返却する。各自理解不十分である箇所については、テキスト・資料を再度確認し、理解を深めること。							
使用教科書							
	教科書名		著者名		出版社名	ISBN	
1	使用教科書備考欄参照		深見友紀子・小林田鶴子		音楽之友社	978-4-2761-0052-7	
2							
3							
使用教科書備考							
「この1冊でわかる 楽典と音楽実技」 深見友紀子・小林田鶴子 音楽之友社							
参考書・参考資料等							
幼稚園指導要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、その他に授業中に適宜資料を配布する。							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
・山下真由美：実務経験のある教員に該当しない。 ・高橋セリカ：ピアノ教室における個人指導（指導歴19年以上）及び、私立高等学校「音楽」授業の非常勤講師を担当（9年以上）する。函館を中心としたピアノ演奏活動の経験を生かし、保育・幼児教育における「音楽基礎」理論及び実技の指導を行う。							
その他							
「履修参考テスト」で本学が設定する到達度に満たない場合は履修すること。 保育・幼児教育に必要とされる「音楽基礎力」の獲得と伸長を目指す。 楽典（音楽基礎理論）とソルフェージュ（音楽の基礎技能）を相互に関連付け、段階的に学習を進めていく。							

授業計画						
第 1回 オリエンテーション(履修確認) 保育・幼児教育における音楽基礎力とは リメディアル科目であることから、履修確認を行う。保育・幼児教育における音楽基礎力について概要を知る。 第 2回 楽典基礎(音符と休符、リズムと拍子) ①ソルフェージュ基礎(リズム打ち) 音符と休符、リズムや拍子について学ぶ。ソルフェージュでは、リズム打ちの演習に取り組む。 第 3回 楽典基礎(音符と休符、リズムと拍子) ②ソルフェージュ基礎(リズム打ち)、学園歌 音符と休符、リズムや拍子について理解を深める。ソルフェージュでは、楽譜に記された内容を表現・実践出来るに取り組む。 第 4回 楽典基礎(音名、変化記号) ①ソルフェージュ基礎(階名唱)、声のしくみ 音名、変化記号について学ぶ。ソルフェージュでは楽譜に記された内容を実践出来るように取り組む。声のしくみを学ぶ。 第 5回 楽典基礎(音名、変化記号) ②ソルフェージュ基礎(階名唱)、発声の理解 音名、変化記号、発声について理解を深める。ソルフェージュでは階名唱や楽譜に記された内容を実践出来るように取り組む。 第 6回 楽典基礎(音階構成音) 長音階・短音階、全音・半音 長音階・短音階、全音・半音について学ぶ。ソルフェージュでは音楽の構成音について実際に演奏出来るように取り組む。 第 7回 楽典基礎(主要三和音) 発声練習 主要三和音について学ぶ。ソルフェージュでは主要三和音を演奏出来るように取り組む。発声練習をして弾き歌いに取り組む。 第 8回 楽典(調と調号) 移動ド唱法の理解 調と調号の関連、移動ド唱法について学ぶ。ソルフェージュでは鍵盤上で調号2つまでの音階を理解出来るように取り組む。 第 9回 楽典基礎(タイ・シンコペーション) リズム打ち タイ・シンコペーションの違いを学ぶ。ソルフェージュでは実際にシンコペーションを理解した表現が出来るように取り組む。 第10回 楽典基礎(移調・転調) 移動ドの理解 移調・転調の意味と違いについて学ぶ。ソルフェージュでは実際の楽譜の表記に気づくことが出来るように理解する。 第11回 楽典(略記法等) 調のシステム 調のシステムについて理解をする。ソルフェージュでは調号2つまでの長調を理解して演奏出来るように取り組む。 第12回 音楽保育実践発表グループワーク① 音楽基礎の学びを踏まえて、保育・幼児教育における音楽表現の実践について事例を学び、グループで取り組む。導入を行う。 第13回 音楽保育実践発表グループワーク② 音楽基礎の学びを踏まえて、保育・幼児教育における音楽表現の実践にグループで取り組む。発表に向けて実践練習を行う。 第14回 音楽保育実践発表 音楽基礎の学びを踏まえて、保育・幼児教育における音楽表現活動の実践発表会を行う。 第15回 試験とまとめ ソルフェージュで学んだ内容について「試験」を実施する。授業のまとめを行う。 【授業実施方法】 原則として、対面(面接)授業を実施する。対面(面接)授業の実施が困難と判断される場合には、遠隔授業(オンライン・オンデマ ンド・課題)を併用する。 ICTを活用した双方向型授業を実施する授業回がある。 【アクティブラーニングの導入】 「プレゼンテーション」「グループワーク」「ディスカッション」						
成績評価の方法 (試験項目)	筆記(定期試験・ 小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・ 課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合(%)	40	40	10	0	10	100
成績評価の基準(ルーブリック)						
到達度	秀逸	優秀	良好	最低限		
授業の到達目標 に対する 到達度の目安	保育所保育指針・幼稚園教育要領に基づき、保育・幼児教育の指導者に必要とされる基礎的音楽理論(音階調性、リズム、和音)及びソルフェージュを総合的に理解している。正確な読譜を基に階名唱やリズムを表現して他者に分かりやすく伝えることができる。他者と協働して、音楽表現の基礎力をもとに保育を構想・提示できる。	保育所保育指針・幼稚園教育要領に基づき、保育・幼児教育の指導者に必要とされる基礎的音楽理論(音階調性、リズム、和音)及びソルフェージュを理解している。正確な読譜を基に階名唱やリズムを表現して他者に伝えることができる。他者と協働して、音楽表現の基礎力をもとに保育を構想できる。	保育所保育指針・幼稚園教育要領に基づき、保育・幼児教育の指導者に必要とされる基礎的音楽理論(音階調性、リズム、和音)及びソルフェージュを概ね理解している。読譜を基に階名唱やリズムを表現して他者に伝える試みに取り組むことができる。他者と協働して、音楽表現の基礎力をもとに保育を構想するよう努めている。	保育所保育指針・幼稚園教育要領に基づき、保育・幼児教育の指導者に必要とされる基礎的音楽理論(音階調性、リズム、和音)及びソルフェージュについて断片的に理解している。読譜を基に階名唱やリズムを表現して他者に伝えることは概ねできる。他者と協働して音楽表現の基礎力をもとに保育を構想することは、今後の課題である。		
該当DPに対する 到達度の目安	保育・幼児教育の指導者に必要とされる基礎的音楽理論を充分理解しソルフェージュの力を統合して音楽を表現することができる。身につけた基礎知識や技能及び音楽的経験を活用して、音楽や音楽表現を他者に分かりやすく伝えることができる。他者と協働してコミュニケーション力を生かし保育実践の課題解決に取り組むことができる。	保育・幼児教育の指導者に必要とされる基礎的音楽理論を理解しソルフェージュの力を活用して音楽を表現することができる。身につけた音楽基礎知識や技能及び音楽的経験を活用して音楽や音楽表現を他者に伝えることができる。他者と協働してコミュニケーションを育み保育実践の課題解決に取り組むことができる。	保育・幼児教育の指導者に必要とされる基礎的音楽理論を理解し、ソルフェージュの基礎力をもとに音楽の概要を表現することができる。身につけた音楽基礎知識や技能及び音楽的経験を基に、音楽や音楽表現を他者に伝える試みに取り組むことができる。他者と協働してコミュニケーションを育み、保育実践の課題解決に努めることができる。	保育・幼児教育の指導者に必要とされる基礎的音楽理論を概ね理解し、ソルフェージュの基礎力を断片的に用いて音楽を表現することができる。音楽基礎知識や技能及び音楽的経験をふまえて音楽や音楽表現を他者に伝えることは概ねできる。他者と協働して保育実践の課題解決に取り組むことは今後の課題である。		

年度	2025	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	30150	ICT活用	○
授業科目名	保育者のための音楽Ⅰ					実務教員	○
科目	基礎教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等							
配当年次	1年	期間	通年	必修区分	卒レ		
授業形態	演習	単位数	2	担当形態	クラス別		
教員	伊藤 亜希子／高 実希子／高橋 セリカ						
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP1, 3, 4, 6, 8					
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会力 (DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
保育所保育士指針、幼稚園教育要領の領域「表現」のねらいに則し、幼児教育に必要とされる音楽基礎実技の習得を目指す。具体的には、音楽基礎（音楽理論・ソルフェージュ）の知識を基に、基礎的なピアノ技術や歌唱技術の向上を目指すとともに、保育の内容を理解し、子どもの発達に応じた豊かな音楽表現活動を構想・指導できる力を培う。 □1. 保育及び幼児教育に必要とされる音楽基礎技術（ピアノ実技・歌唱方法）を習得する。 □2. 保育・幼児教育で必要とされる子ども歌の「弾き歌い」ができる。 □3. 身に付けた音楽表現力を活用し、様々な保育の場を想定したお遊戯会、リズム運動等の表現活動の企画・構想および指導力を身に付ける。							
授業の概要							
・保育及び幼児教育に必要とされる音楽基礎技術（ピアノ実技・歌唱方法）を習得する。 ・保育・幼児教育で必要とされる子ども歌の「弾き歌い」ができる音楽的基礎力・表現力を培う。 ・身に付けた音楽表現力を活用し、様々な保育の場を想定したお遊戯会、リズム運動等の表現活動の企画・構想および指導力を培う。 ・当該科目は、学生の円滑な学修を支援するため教育助手を配置する。							
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）							
予習・復習は、授業毎各自の基礎技術の習得段階に合わせて内容を示す。次の授業までに、保育・幼児教育に必要とされる技能習得に向け、「ピアノ実技練習、歌唱練習、弾き歌い練習」に計画的・継続的に取り組む。その際、必ず自己目標を設定し、次の授業で確認・自己評価を行う。ピアノおよび歌唱技術は毎日の練習によって上達が期待されることから、毎日30分以上は、自主的に練習する時間を自ら設けること。							
標準学修時間の目安							
ピアノおよび歌唱技術は毎日の練習によって上達することから、「毎日30分」は継続的・計画的に練習に取り組む。また、次の授業までに予習・復習を含め2時間の学修が望ましい。							
課題（試験やレポート等）のフィードバック							
再試験対象者のみ、試験内容（演奏及び弾き歌い）のアドバイスを行う。							
使用教科書							
	教科書名	著者名	出版社名	ISBN			
1	幼児の音楽教育	音楽教育研究協会	朝日出版社	978-4-255-15627-9			
2							
3							
使用教科書備考							
・幼稚園指導要領、保育所保育指針、幼稚園連携型認定こども園教育・保育要領、その他に授業中に適宜資料を配布する。 ・「最新・幼児の音楽教育－幼児教育・保育士養成のための音楽的表現の指導－」 音楽教育研究協会 著							
参考書・参考資料等							
適宜オリジナル楽譜・資料を配布する							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
伊藤：ピアノ教室個人指導（指導歴25年以上）。国内外での演奏活動。 高：ピアノ教室個人指導（指導歴10年以上）。国内外での演奏活動。 高橋：ピアノ教室個人指導（指導歴18年以上）、私学高等学校「音楽」授業非常勤（8年以上）。函館を中心とした演奏活動。各々の指導歴、演奏活動を生かし、実技指導を行う。							
その他							
・実技（ピアノ、歌唱、弾き歌い）は、個人のレベルに応じた指導を行う。また、必要に応じて一斉指導を行う。 ・実技で取り組む楽曲については、授業内で適宜説明を行う。 ・授業は、ML教室（第2音楽室）及び第1音楽室にてICTを活用した双方向型授業を実施する。その他、ピアノ個人指導室を使用する。							

授業計画						
第1回 目標設定	オリエンテーション（指導内容、年間計画）保育・幼児教育における音楽表現活動のねらい、各自の音楽体験の省察、自己目標					
第2回	合唱①（パート練習）、実技（歌唱・ピアノ）基礎①（経験者：主要3曲1曲目 譜読み ※）					
第3回	合唱②（パート練習 仕上げ）、実技（歌唱・ピアノ）基礎②（経験者：主要3曲1曲目 片手・両手復習、歌唱 ※）					
第4回	合唱③（全体練習）実技（歌唱・ピアノ）基礎③（経験者：主要3曲2曲目 譜読み ※）					
第5回	合唱④（全体練習 仕上げ）、実技（歌唱・ピアノ）基礎④（経験者：主要3曲2曲目 片手・両手復習、歌唱 ※）					
第6回	合唱⑤（発表）、実技（歌唱・ピアノ）基礎⑤（経験者：主要3曲3曲目 譜読み ※）					
第7回	実技（歌唱・ピアノ）基礎⑥（経験者：主要3曲3曲目 片手・両手復習、歌唱 ※）					
第8回	実技（歌唱・ピアノ）実践①（主要3曲1曲目 弾き歌い）					
第9回	実技（歌唱・ピアノ）実践②（主要3曲2曲目 弾き歌い）					
第10回	実技（歌唱・ピアノ）実践③（主要3曲3曲目 弾き歌い）					
第11回	実技（歌唱・ピアノ）実践④（発表会の選曲）					
第12回	実技（歌唱・ピアノ）実践⑤（発表曲の練習）					
第13回	実技（歌唱・ピアノ）実践⑥（発表曲の仕上げ）					
第14回	前期まとめ、発表会					
第15回	前期の課題確認、後期の計画					
前期 （11回～15回）	の授業では、保育及び幼児教育に必要とされる音楽基礎技術習得のために、音楽基礎（音楽理論・ソルフェージュ）の知識を歌唱・弾き歌いに活かし、音楽的基礎力をつける。具体的には、自らが読譜・歌う・弾くことができる「力」をつける。					
第16回	お遊戯会・発表会等の企画（グループ）					
第17回	お遊戯会・発表会等の準備（グループ）					
第18回	お遊戯・発表会等の準備、発表（グループ）					
第19回	実技（歌唱・ピアノ）応用①（季節・行事等の保育現場で多く歌われる曲 譜読み）					
第20回	実技（歌唱・ピアノ）応用②（季節・行事等の保育現場で多く歌われる曲 片手・両手復習、弾き歌い）					
第21回	実技（歌唱・ピアノ）応用③（季節・行事等の保育現場で多く歌われる曲 譜読み）					
第22回	実技（歌唱・ピアノ）応用④（季節・行事等の保育現場で多く歌われる曲 片手・両手復習、弾き歌い、発表会の選曲）					
第23回	実技（歌唱・ピアノ）応用⑤（発表曲の練習）					
第24回	実技（歌唱・ピアノ）応用⑥（発表会）					
第25回	実技（歌唱・ピアノ）応用⑦主要3曲仕上げ、伴奏法①（主要三和音に基づく簡易伴奏法）					
第26回	実技（歌唱・ピアノ）応用⑧季節の曲仕上げ、伴奏法②（根音に基づく簡易伴奏法）					
第27回	実技（歌唱・ピアノ）応用⑨保育現場で多く歌われる曲仕上げ、伴奏法③（バリエーション）					
第28回	実技（歌唱・ピアノ）応用⑩（実技試験曲の決定）					
第29回	実技（歌唱・ピアノ）まとめ					
第30回	実技試験に向けた準備					
後期 （16回～30回）	の授業では、前期で身につけた保育及び幼児教育に必要とされる音楽基礎技術（歌唱・弾き歌い）を活用し、子どもの成長を促すことを目的に他者へ伝える力をつける。様々な保育の場を想定した子どもの歌の「弾き歌い」「お遊戯会」「リズム運動」等の表現活動の企画・構想及び指導力をつける。					
定期試験※ 初心者については各自のレベルに合わせた指導を適宜行う。						
【授業実施方法】 原則として、対面（面接）授業を実施する。対面（面接）授業の実施が困難と判断される場合には、遠隔授業（オンライン・オンデマンド・課題）を併用する。 ICTを活用した双方向型授業を実施する授業回がある。						
【アクティブラーニングの導入】 「グループワーク」						

成績評価の方法 （試験項目）	筆記（定期試験・小テスト）	口述・実技等	論文（レポート・課題等）	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合（％）	0	70	10	10	10	100

成績評価の基準（ルーブリック）				
到達度	秀逸	優秀	良好	最低限
授業の到達目標 に対する 到達度の目安	保育所保育士指針、幼稚園教育要領の領域「表現」のねらいに則して幼児教育に必要な音楽実技（ピアノ実技・歌唱技術・弾き歌い）を充分習得し応用できる。身につけた技能を他者に分かりやすく示すと共に、子どもの発達に応じた豊かな表現活動の課題や改善策を考えることができる。他者と協働し豊かな表現活動を計画的に構想できる。	保育所保育士指針、幼稚園教育要領の領域「表現」のねらいに則して幼児教育に必要な音楽実技（ピアノ実技・歌唱技術・弾き歌い）を十分に習得している。身につけた技能を他者に示すと共に、子どもの発達に応じた表現活動の課題や改善策を考えることができる。他者と協働した表現活動を構想できる。	保育所保育士指針、幼稚園教育要領の領域「表現」のねらいに則して幼児教育に必要な音楽実技（ピアノ実技・歌唱技術・弾き歌い）を習得している。身につけた技能を他者に示すと共に子どもの発達に応じた表現活動の課題や改善策を考えるよう努力することができる。他者と協働した表現活動のイメージをもつことができる。	保育所保育士指針、幼稚園教育要領の領域「表現」のねらいに則して幼児教育に必要な音楽実技（ピアノ実技・歌唱技術・弾き歌い）を充分ではないが習得している。身につけた技能の一部を他者に示すことはできるが、子どもの発達を考えた表現活動の課題考察や他者との協働による表現活動の構想は、今後の課題である。
該当DPに対する 到達度の目安	保育者の社会的使命を理解し、保育・幼児教育に必要な音楽知識や表現技術を充分習得し、保育に関する課題について、具体的な解決策を考えることができる。発達段階に配慮し、子どもの成長を促すことを目的として身につけた知識・技能を他者に分かりやすく他者に伝えることができる。他者と協働して音楽表現活動を計画的に構想できる。	保育者の社会的使命を理解し、保育・幼児教育に必要な音楽知識や表現技術を習得し、保育に関する課題について解決策を考えることができる。子どもの成長を促すことを目的として身につけた知識・技能を他者に伝えることができると協働して音楽表現活動を構想できる。	保育者の社会的使命を理解し、保育・幼児教育に必要な音楽知識や表現技術を概ね習得し、保育に関する課題について解決策を考えようとする。子どもの成長を促すことを目的として身につけた知識・技能を他者に伝えようと努力できる。他者と協働して音楽表現活動のイメージをもつことができる。	保育者の社会的使命を知り保育・幼児教育に必要な音楽知識や表現技術を充分ではないが習得し、継続学習の必要性を認識できる。保育に関する課題の解決策や子どもの成長を目的として身につけた知識・技能を他者に伝えること、他者と協働して音楽表現活動のイメージをもつこと等は、今後の課題である。

年度	2025	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	30160	ICT活用	—
授業科目名	保育者のための図画工作					実務教員	—
科目	基礎教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等							
配当年次	1 年	期間	通年	必修区分	卒レ		
授業形態	演習	単位数	2	担当形態	単独		
教員	野呂 祐人						
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP1, 5, 6					
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会力 (DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
保育所保育指針、幼稚園教育要領、認定こども園教育・保育要領の領域「表現」のねらいに即し、保育者に必要とされる造形基礎知識・技術の習得を目指す。絵画、彫刻、工芸、デザイン等の各領域を横断的かつ総合的に演習し、平面・立体の表現力を高める。 到達目標は以下の3つである。 ☐ 1. 色彩と形の様々な演習を通して、視覚的イメージ力や表現力を高めることができる。 ☐ 2. 立体イメージを平面上に再現することができる。 ☐ 3. 平面イメージに沿って、具象的・抽象的立体物を木片等様々な素材を駆使しながら表現できる。							
授業の概要							
保育者に必要とされる造形基礎知識・技術の習得をねらいとして授業を進める。様々な造形表現の経験により、形や色彩等視覚的イメージを伸ばす。さらに手間や時間を掛けて造形作品を完成させることにより、自ら達成感を味わい、抽象的かつ具体的思考を培い、図画工作（造形表現活動）に対する興味・関心を高める。							
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）							
講義用資料（プリント類－担当者作成）を随時配付する。授業後には復習し、日頃より人間の造形文化活動や自然の形態や人工的デザインに関心を持ち、美術展等の鑑賞を続ける。 実技演習中心であることから、完成までの時間に個人差も見られるため、授業外制作時間を必ず確保し、作品を完成させること。各自放課後制作及び自宅へ持参し、制作時間の個別調整（遅延の場合等）は各自もうける。							
標準学修時間の目安							
1回の講義・演習あたり、復習（作品の補足・遅延時）に重点を置き、4時間程度の学修時間が望ましい。							
課題（試験やレポート等）のフィードバック							
課題提出期限後の授業で、課題（作品）の講評を行う。							
使用教科書							
	教科書名		著者名		出版社名		ISBN
1	なし		—		—		—
2							
3							
使用教科書備考							
なし							
参考書・参考資料等							
なし							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
実務経験のある教員に該当しない。							
その他							
予定の計画で行うが、ほとんど実技演習であるため、時間配分に延長・短縮が出てくる場合もあるので随時調整して進める。 絵の具セット、その他の道具類は指示に従い、持参・保管する。							

授業計画						
第1回 ガイダンス、教材の配布・確認 第2回 言葉と造形表現①～川柳の作成 第3回 言葉と造形表現②～ちぎり絵の制作（色の選定） 第4回 言葉と造形表現③～ちぎり絵の制作（切り貼り） 第5回 言葉と造形表現④～作品解説の作成 第6回 言葉と造形表現⑤～鑑賞・合評 第7回 構成デザインの基本・造形要素の理解 第8回 色彩論・絵具の使い方 第9回 色面構成制作①～モチーフの観察・素材から形の抽出 第10回 色面構成制作②～形による構成（下図の作成） 第11回 色面構成制作③～色による構成（配色決め） 第12回 色面構成制作④～絵具による色づくり・着彩 第13回 色面構成制作⑤～仕上げ 第14回 色面構成制作⑥～作品解説の作成 第15回 色面構成制作⑦～鑑賞・合評 前期（1回～15回）の授業では、「言葉と造形表現をテーマにしたちぎり絵」「モチーフの観察をテーマにした色面構成」の2つの平面作品の制作を行う。色面構成については、作品制作の中で色彩論や絵の具や筆の使い方などを学ぶ。 第16回 立体作品制作①～導入 第17回 立体作品制作②～造形素材の選択 第18回 立体作品制作③～素材研究（手による加工） 第19回 立体作品制作④～素材研究（道具による加工） 第20回 立体作品制作⑤～素材研究（素材の組み合わせ） 第21回 立体作品制作⑥～素材研究（素材の特性の分析） 第22回 立体作品制作⑦～素材研究の発表 第23回 立体作品制作⑧～接着材の扱い方 第24回 立体作品制作⑨～土台作り・アイディアスケッチや平面図 第25回 立体作品制作⑩～立体の制作（組み立て） 第26回 立体作品制作⑪～立体の制作（接着や着彩） 第27回 立体作品制作⑫～立体の制作（仕上げ） 第28回 立体作品制作⑬～作品解説の作成 第29回 立体作品制作⑭～鑑賞・合評 第30回 授業のまとめ 後期（16回～30回）の授業では、「造形素材の特性を活かした立体作品」の制作を行う。立体作品の制作の前に、「幼児教育で使用する造形素材の研究」を行い、素材や道具を使った加工法や、造形素材に関する子どもの発達段階について学ぶ。 【授業実施方法】 原則として、対面（面接）授業を実施する。対面（面接）授業の実施が困難と判断される場合には、遠隔授業（オンライン・オンデマンド・課題）を併用する。 【アクティブラーニングの導入】 「ディスカッション」「プレゼンテーション」						
成績評価の方法 （試験項目）	筆記（定期試験・小テスト）	口述・実技等	論文（レポート・課題等）	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合（％）	0	80	0	0	20	100
成績評価の基準（ルーブリック）						
到達度	秀逸	優秀	良好	最低限		
授業の到達目標に対する到達度の目安	保育で用いられる様々な教材の特性を理解し、活用することができ、自己の持つイメージの言語的把握ができ、そのイメージを色彩と形態に変換・再現することができる。さらに創造的な具象的・抽象的造形表現力を身につけ保育者として乳幼児に寄り添いながら教材を扱うことができる。	保育で用いられる様々な教材の特性を理解し活用することができ、自己の持つイメージの言語的把握とそのイメージを色彩と形に変換・再現することができる。また創造的な視覚イメージ力や造形表現力を高めることができる。	保育で用いられる様々な教材の特性を理解し、活用することができる。またイメージの言語的把握とそのイメージを色彩と形に変換・再現することができる。	保育で用いられる様々な教材の特性を十分に理解し、活用することができない。またイメージの言語的把握とそのイメージを色彩と形に変換・再現する力や完成度に乏しい。さらに具象的・抽象的表現の概念を明確に理解できない。		
該当DPに対する到達度の目安	自然環境や生活環境においてその多様な美的で造形的な課題に感動でき、機能性を理解し、創造的かつ想像的に豊かな日常を送ることができる。またその自然的・人工的環境より得た心の豊かさ・美に対する感受性や専門的知識を保育者として後継する幼児へ伝達・実践することができる。	自然環境や生活環境においてその造形的な美しさに感動でき、また機能性を理解し、日常を送ることができる。また身の回りの環境より得た心の豊かさ・美に対する感受性や専門的知識を保育者として後継する幼児へ伝達することができる。	自然環境や生活環境においてその造形的な美しさに感動することができ、またその環境より得た心の豊かさ・美に対する感受性や専門的知識を保育者として後継する幼児へ伝達することができる。	自然環境や生活環境においてその造形的な美しさに無関心・無感動の度合いが大きく、ものの見方・態度などが型にはまって固定的で多様な見方に乏しい。またその環境より得た心の豊かさ・美に対する感受性や専門的知識を周囲の人々に伝えることに乏しい。		

年度	2025	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	30331	ICT活用	○
授業科目名	コンピュータリテラシーⅡ					実務教員	○
科目	基礎教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等							
配当年次	1 年	期間	後期	必修区分	MW [D選]		
授業形態	演習	単位数	1	担当形態	単独		
教員	山崎 幸路						
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP1					
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会力 (DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
パソコン操作による実務的な文書作成することが授業テーマです。 到達目標は以下の内容です。 ☐ 1. 文字列や段落の書式設定、段落の並べ替え、グループ化ができる。 ☐ 2. 表の作成と変更、リストの作成と変更ができる。 ☐ 3. グラフィック要素およびSmartArtの挿入と書式設定ができる。 ☐ 4. リーフレットの内容が効果的に伝わる文書編集できる。 ☐ 5. 画像を挿入したり、文字の効果を設定してレイアウト編集できる。							
授業の概要							
総合的な操作の考え方と何が実務で要求されているかを理解し、実社会で役立つ技術を学ぶ。 マイクロソフトオフィススペシャリスト Word 2019の試験内容に沿って学習し合格する力をつける。							
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）							
【予習】 事前配布するプリントとテキストとを併読し、操作内容と用語をおおまかに理解する。 【復習】 テキストとプリントを見ながらパソコンを操作し授業と同じ操作ができるかを確認します。また授業で指定された課題演習を行う。							
標準学修時間の目安							
1回の講義あたり予習・復習を含めて4時間の学修が必要である。							
課題（試験やレポート等）のフィードバック							
課題指定前または提出期限後の授業で模範的な課題を紹介する。							
使用教科書							
	教科書名	著者名	出版社名	ISBN			
1	使用教科書備考参照	佐藤薫	日経BP社	978-4-8222-8629-3			
2							
3							
使用教科書備考							
MOS攻略問題集 Word 365&2019							
参考書・参考資料等							
30時間でマスター Word 2021							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
指導教員はマイクロソフト公式トレーナーを取得しパソコンスクールでマイクロソフトオフィススペシャリスト (MOS) 等の資格試験のレッスンをしている。							
その他							
実務で役立ち、マイクロソフトオフィススペシャリスト 2019の試験に対応する学習をする。ICTを活用し授業および課題取り組みのアンケートを行う。またICTを活用し、入力練習の状況と入力スキルの成果について確認する。これらのICT活用により、クラス全体の学習状況を分析理解し各自の学習の動機づけと目標を設定する。							

授業計画						
第1回 書式設定について 文書の作成、文書書式の設定を学ぶ 第2回 表示について 文書のオプションと表示のカスタマイズを学ぶ 第3回 挿入について 文字列や段落の挿入を学ぶ 第4回 書式設定等について 文字列や段落の書式設定、グループ化を学ぶ 第5回 表について 表の作成と変更を学ぶ 第6回 リストについて リストの作成と変更を学ぶ 第7回 記号について 参照のための情報や記号の作成を学ぶ 第8回 参考資料について 標準の参考資料作成と管理を学ぶ 第9回 グラフィックについて グラフィック要素の挿入と書式設定を学ぶ 第10回 SmartArtについて SmartArtの挿入と書式設定を学ぶ 第11回 文書の体裁について 文書の体裁、複数ページ表示、編集を学ぶ 第12回 効果的文書について リーフレットの内容が効果的に伝わる文書編集を学ぶ 第13回 引用文書について 他の文書から情報を引用した文書編集を学ぶ 第14回 画像挿入について 画像挿入、文字の効果設定によるレイアウト編集を学ぶ 第15回 データ編集全般について 小テストと実務的ワードデータ作成方法を学ぶ 【授業実施方法】 原則として、対面（面接）授業を実施する。対面（面接）授業の実施が困難と判断される場合には、遠隔授業（オンライン・オンデマンド・課題）を併用する。 ICTを活用した双方向型授業を実施する授業回がある。 【アクティブラーニングの導入】 「ディスカッション」						
成績評価の方法 (試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合(%)	70	0	20	0	10	100
成績評価の基準（ルーブリック）						
到達度	秀逸	優秀	良好	最低限		
授業の到達目標に対する 到達度の目安	ワード操作に必要な知識について理解し、編集機能の操作のスキルを身に着けるとともに、獲得したスキルをもとに複数の機能を組み合わせて素早く、実務文書として通用する見栄えのよい文書編集ができる。	ワード操作に必要な知識について理解し、編集機能の操作のスキルを身に着けるとともに、獲得したスキルをもとに複数の機能を組み合わせて一定のスピードで実務文書として通用する文書編集ができる。	ワード操作に必要な知識について理解し、編集機能の操作のスキルを身に着けるとともに、獲得したスキルをテキストを参照しながら複数の機能を組み合わせて一定のスピードで、実務文書として通用する文書編集ができる。	ワード操作に必要な知識について理解し、編集機能の操作のスキルを身に着けるとともに、獲得したスキルをテキストを参照しながら複数の機能を組み合わせて時間をかけて実務文書として通用する文書編集ができる。		
該当DPに対する 到達度の目安	保育と子育て支援に必要な専門的知識と技術、とりわけ食育知識について子供の成長を促す保育を展開するために獲得した情報を自在に編集し説得力ある文書となるよう見栄えのよい編集作業が素早くできる。	保育と子育て支援に必要な専門的知識と技術、とりわけ食育知識について子供の成長を促す保育を展開するために獲得した情報をテキスト等を参照しながらも自在に編集し説得力ある文書となるよう見栄えのよい編集作業が素早くできる。	保育と子育て支援に必要な専門的知識と技術、とりわけ食育知識について子供の成長を促す保育を展開するために獲得した情報をテキスト等を参照しながらも編集し説得力ある文書となるよう見栄えのよい編集作業が一定の速さでできる。	保育と子育て支援に必要な専門的知識と技術、とりわけ食育知識について子供の成長を促す保育を展開するために獲得した情報をテキスト等を参照しながらも編集し効果的となるよう文書をの編集作業ができる。		

年度	2025	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	30240	ICT活用	—
授業科目名	ボランティア実習Ⅰ					実務教員	○
科目	基礎教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等							
配当年次	1年	期間	その他	必修区分			
授業形態	実験・実習	単位数	1	担当形態	複数		
教員	野呂 祐人／川村 幾代						
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP4, 5, 6, 7, 8, 9					
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会力 (DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
保育所・幼稚園・認定こども園・福祉施設などで地域活動を支援することを実際に体験することにより、将来、社会の担い手となることの自覚を深めるとともに、協力協働、地域連携などが重要であることの意識を高める。 ☐1. ボランティア活動の意義について説明できる。 ☐2. 他者とコミュニケーションを図りながら、共に協力し、ボランティア活動を行うことができる。 ☐3. ボランティア活動を通して、積極的に社会に貢献していく意識を高め、普段の行動に反映させることができる。 ☐4. 活動内容を、報告書にまとめることができる。							
授業の概要							
現代社会においては、協働協力の精神を培うことがますます重要となっている。保育所・幼稚園・認定こども園・福祉施設などのボランティア活動を通して、地域の構成員が互いに協力し、助け合うことの大切さを学ぶ。							
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）							
実習先のパンフレットやホームページで予め必要な情報を収集し、予備知識を増やすこと。							
標準学修時間の目安							
1回のボランティアにつき、報告書の作成に1時間程度必要							
課題（試験やレポート等）のフィードバック							
1回のボランティア終了後、報告書をこまめに提出すること。							
使用教科書							
	教科書名		著者名		出版社名		ISBN
1	なし		—		—		—
2							
3							
使用教科書備考							
なし							
参考書・参考資料等							
なし							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
川村は、地元社会福祉法人での勤務経験や自治体の支援員、相談員の経験を活かし、地域住民に寄り添ったボランティア活動のあり方に関する指導や助言を行う。 野呂は、実務経験のある教員に該当しない。							
その他							
・担当教員から承認されたボランティア活動の累計時間数が30時間以上となった場合に単位を認定する。 ・評価は、活動終了後に学生が提出する活動内容などを記した報告書により行う。							

授業計画						
第1回	オリエンテーション					
第2回	例年のボランティア活動の説明					
第3回	報告書のまとめ方					
第4回	「学外授業出席証明書」「学外実習報告書」を配布・説明					
第5回	ボランティア学外実習					
第6回	ボランティア学外実習					
第7回	ボランティア学外実習					
第8回	ボランティア学外実習					
第9回	ボランティア学外実習					
第10回	ボランティア学外実習					
第11回	ボランティア学外実習					
第12回	ボランティア学外実習					
第13回	ボランティア学外実習					
第14回	ボランティア学外実習					
第15回	ボランティア学外実習					
第16回	ボランティア学外実習					
第17回	ボランティア学外実習					
第18回	ボランティア学外実習					
第19回	ボランティア学外実習					
第20回	ボランティア学外実習					
第21回	ボランティア学外実習					
第22回	ボランティア学外実習					
第23回	ボランティア学外実習					
第24回	ボランティア学外実習					
第25回	ボランティア学外実習					
第26回	ボランティア学外実習					
第27回	ボランティア学外実習					
第28回	ボランティア学外実習					
第29回	ボランティア学外実習					
第30回	学外授業出席証明書・学外実習報告書提出					
この授業では、学外のボランティア活動に参加し、地域の人々とのコミュニケーションを図りながら、協力や協働、地域連携などの重要性を学ぶ。また、ボランティア活動後、得られた体験や気づきを報告書にまとめる。						
【授業実施方法】						
原則として、対面（面接）授業を実施する。対面（面接）授業の実施が困難と判断される場合には、遠隔授業（オンライン・オンデマンド・課題）を併用する。						
【アクティブラーニングの導入】						
「ディスカッション」「プレゼンテーション」						
</						

年度	2025	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	30080	ICT活用	—
授業科目名	コンソーシアム基礎教養 I					実務教員	—
科目	基礎教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等							
配当年次	1 年	期間	その他	必修区分			
授業形態	その他	単位数	2	担当形態	—		
教員	保育学科教員						
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP8					
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会力 (DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された到達目標を確認すること。							
授業の概要							
当該科目は、毎年度（前期・後期）、キャンパス・コンソーシアム函館が提供する単位互換科目である。キャンパス・コンソーシアム函館のホームページで単位互換対象科目を確認することができる。受講を希望する場合、各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された授業目標を確認すること。							
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）							
各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された内容を確認すること。							
標準学修時間の目安							
1回の講義あたり予習・復習を含めて4時間の学修が必要である。							
課題（試験やレポート等）のフィードバック							
各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された内容を確認すること。							
使用教科書							
	教科書名		著者名		出版社名		ISBN
1	受講科目シラバスに従う		—		—		—
2							
3							
使用教科書備考							
各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された内容を確認すること。							
参考書・参考資料等							
各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された内容を確認すること。							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う。							
その他							
履修には、本学教務課にて単位互換システムによる履修手続きが必要となる。本学での授業日程が最優先となるため、受講には、単位互換科目を開講している高等教育機関までの往復の時間等を考慮すること。							

授業計画						
第1回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第2回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第3回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第4回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第5回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第6回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第7回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第8回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第9回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第10回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第11回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第12回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第13回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第14回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第15回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
【授業実施方法】 原則として、対面（面接）授業を実施する。対面（面接）授業の実施が困難と判断される場合には、遠隔授業（オンライン・オンデマンド・課題）を併用する。 【アクティブラーニングの導入】 なし						
成績評価の方法 (試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合 (%)	0	0	0	100	0	100
成績評価の基準（ルーブリック）						
到達度	秀逸	優秀	良好	最低限		
授業の到達目標に対する到達度の目安	各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従う科目であるため、そこに記載された到達目標を十分に理解し、その内容を超越するとともに、学びの内容を他者に正確に説明できる。	各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従う科目であるため、そこに記載された到達目標を理解し、その内容に到達するとともに、学びの内容を他者に説明できる。	各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従う科目であるため、そこに記載された到達目標をおおよそ理解し、その内容にある程度(4/5程度)到達するとともに、学びの内容をある程度、他者に説明できる。	各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従う科目であるため、そこに記載された到達目標を最低限理解し、その内容に最低限(3/5程度)到達するとともに、学びの内容を断片的ではあるが、他者に説明できる。		
該当DPに対する到達度の目安	各高等教育機関での授業において、積極的にコミュニケーションを図り、多くの知識と技能を身に付ける。他者と協働して課題を解決し、学んだ知識と技能を生かして適切に情報を発信できる。	各高等教育機関での授業において、コミュニケーションを図り、知識と技能を身に付ける。他者と協働して課題を解決し、学んだ知識と技能を生かして情報を発信できる。	各高等教育機関での授業において、ある程度コミュニケーションを図り、ある程度の知識と技能を身に付ける。他者と協働して課題を解決し、学んだ知識と技能を生かして断片的ではあるが、情報を発信できる。	各高等教育機関での授業において、最低限のコミュニケーションを図り、知識と技能を最低限身に付ける。学んだ知識と技能を生かして他者と協働して課題を解決できる。		

年度	2025	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	30081	ICT活用	—
授業科目名	コンソーシアム基礎教養Ⅱ					実務教員	—
科目	基礎教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等							
配当年次	1年	期間	その他	必修区分			
授業形態	その他	単位数	1	担当形態	—		
教員	保育学科教員						
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP8					
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会力 (DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された到達目標を確認すること。							
授業の概要							
当該科目は、毎年度（前期・後期）、キャンパス・コンソーシアム函館が提供する単位互換科目である。キャンパス・コンソーシアム函館のホームページで単位互換対象科目を確認することができる。受講を希望する場合、各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された授業目標を確認すること。							
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）							
各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された内容を確認すること。							
標準学修時間の目安							
1回の講義あたり予習・復習を含めて2時間の学修が必要である。							
課題（試験やレポート等）のフィードバック							
各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された内容を確認すること。							
使用教科書							
	教科書名		著者名		出版社名		ISBN
1	受講科目シラバスに従う		—		—		—
2							
3							
使用教科書備考							
各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された内容を確認すること。							
参考書・参考資料等							
各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された内容を確認すること。							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う。							
その他							
履修には、本学教務課にて単位互換システムによる履修手続きが必要となる。本学での授業日程が最優先となるため、受講には、単位互換科目を開講している高等教育機関までの往復の時間等を考慮すること。							

授業計画						
第1回 受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う 第2回 受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う 第3回 受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う 第4回 受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う 第5回 受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う 第6回 受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う 第7回 受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う 第8回 受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う 第9回 受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う 第10回 受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う 第11回 受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う 第12回 受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う 第13回 受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う 第14回 受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う 第15回 受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う						
【授業実施方法】 原則として、対面（面接）授業を実施する。対面（面接）授業の実施が困難と判断される場合には、遠隔授業（オンライン・オンデマンド・課題）を併用する。 【アクティブラーニングの導入】 なし						
成績評価の方法 (試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合 (%)	0	0	0	100	0	100
成績評価の基準（ルーブリック）						
到達度	秀逸	優秀	良好	最低限		
授業の到達目標に対する到達度の目安	各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従う科目であるため、そこに記載された到達目標を十分に理解し、その内容を超越するとともに、学びの内容を他者に正確に説明できる。	各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従う科目であるため、そこに記載された到達目標を理解し、その内容に到達するとともに、学びの内容を他者に説明できる。	各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従う科目であるため、そこに記載された到達目標をおおよそ理解し、その内容にある程度(4/5程度)到達するとともに、学びの内容をある程度、他者に説明できる。	各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従う科目であるため、そこに記載された到達目標を最低限理解し、その内容に最低限(3/5程度)到達するとともに、学びの内容を断片的ではあるが、他者に説明できる。		
該当DPに対する到達度の目安	各高等教育機関での授業において、積極的にコミュニケーションを図り、多くの知識と技能を身に付ける。他者と協働して課題を解決し、学んだ知識と技能を生かして適切に情報を発信できる。	各高等教育機関での授業において、コミュニケーションを図り、知識と技能を身に付ける。他者と協働して課題を解決し、学んだ知識と技能を生かして情報を発信できる。	各高等教育機関での授業において、ある程度コミュニケーションを図り、ある程度の知識と技能を身に付ける。他者と協働して課題を解決し、学んだ知識と技能を生かして断片的ではあるが、情報を発信できる。	各高等教育機関での授業において、最低限のコミュニケーションを図り、知識と技能を最低限身に付ける。学んだ知識と技能を生かして他者と協働して課題を解決できる。		

年度	2025	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	30090	ICT活用	—
授業科目名	コンソーシアム函館教養Ⅰ					実務教員	—
科目	基礎教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等							
配当年次	1年	期間	その他	必修区分			
授業形態	その他	単位数	2	担当形態	—		
教員	保育学科教員						
該当ディプロマ・ポリシー DP項目番号		DP8					
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会人力 (DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された到達目標を確認すること。							
授業の概要							
毎年度（前期・後期）、キャンパス・コンソーシアム函館が提供する単位互換科目の中で、函館地域に関連が深い科目を当該科目として設定する。キャンパス・コンソーシアム函館のホームページで単位互換対象科目を確認することができる。受講を希望する場合、各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された授業目標を確認すること。							
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）							
各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された内容を確認すること。							
標準学修時間の目安							
1回の講義あたり予習・復習を含めて4時間の学修が必要である。							
課題（試験やレポート等）のフィードバック							
各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された内容を確認すること。							
使用教科書							
	教科書名		著者名		出版社名		ISBN
1	受講科目シラバスに従う		—		—		—
2							
3							
使用教科書備考							
各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された内容を確認すること。							
参考書・参考資料等							
各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された内容を確認すること。							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う。							
その他							
毎年度（前期・後期）、キャンパス・コンソーシアム函館が提供する単位互換科目の中で、函館地域に関連が深い科目を当該科目として設定する。履修には、本学教務課にて単位互換システムによる履修手続きが必要となる。本学での授業日程が最優先となるため、受講には、単位互換科目を開講している高等教育機関までの往復の時間等を考慮すること。							

授業計画						
第1回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第2回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第3回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第4回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第5回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第6回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第7回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第8回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第9回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第10回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第11回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第12回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第13回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第14回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第15回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
【授業実施方法】 原則として、対面（面接）授業を実施する。対面（面接）授業の実施が困難と判断される場合には、遠隔授業（オンライン・オンデマンド・課題）を併用する。 【アクティブラーニングの導入】 なし						
成績評価の方法 (試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合 (%)	0	0	0	100	0	100
成績評価の基準（ルーブリック）						
到達度	秀逸	優秀	良好	最低限		
授業の到達目標に対する到達度の目安	各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従う科目であるため、そこに記載された到達目標を十分に理解し、その内容を超越するとともに、学びの内容を他者に正確に説明できる。	各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従う科目であるため、そこに記載された到達目標を理解し、その内容に到達するとともに、学びの内容を他者に説明できる。	各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従う科目であるため、そこに記載された到達目標をおおよそ理解し、その内容にある程度(4/5程度)到達するとともに、学びの内容をある程度、他者に説明できる。	各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従う科目であるため、そこに記載された到達目標を最低限理解し、その内容に最低限(3/5程度)到達するとともに、学びの内容を断片的ではあるが、他者に説明できる。		
該当DPに対する到達度の目安	各高等教育機関での授業において、積極的にコミュニケーションを図り、多くの知識と技能を身に付ける。他者と協働して課題を解決し、学んだ知識と技能を生かして適切に情報を発信できる。	各高等教育機関での授業において、コミュニケーションを図り、知識と技能を身に付ける。他者と協働して課題を解決し、学んだ知識と技能を生かして情報を発信できる。	各高等教育機関での授業において、ある程度コミュニケーションを図り、ある程度の知識と技能を身に付ける。他者と協働して課題を解決し、学んだ知識と技能を生かして断片的ではあるが、情報を発信できる。	各高等教育機関での授業において、最低限のコミュニケーションを図り、知識と技能を最低限身に付ける。学んだ知識と技能を生かして他者と協働して課題を解決できる。		

年度	2025	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	30091	ICT活用	—
授業科目名	コンソーシアム函館教養Ⅱ					実務教員	—
科目	基礎教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等							
配当年次	1年	期間	その他	必修区分			
授業形態	その他	単位数	2	担当形態	—		
教員	保育学科教員						
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP8					
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会力 (DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された到達目標を確認すること。							
授業の概要							
毎年度（前期・後期）、キャンパス・コンソーシアム函館が提供する単位互換科目の中で、函館地域に関連が深い科目を当該科目として設定する。キャンパス・コンソーシアム函館のホームページで単位互換対象科目を確認することができる。受講を希望する場合、各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された授業目標を確認すること。							
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）							
各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された内容を確認すること。							
標準学修時間の目安							
1回の講義あたり予習・復習を含めて4時間の学修が必要である。							
課題（試験やレポート等）のフィードバック							
各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された内容を確認すること。							
使用教科書							
	教科書名		著者名		出版社名		ISBN
1	受講科目シラバスに従う		—		—		—
2							
3							
使用教科書備考							
各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された内容を確認すること。							
参考書・参考資料等							
各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された内容を確認すること。							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う。							
その他							
毎年度（前期・後期）、キャンパス・コンソーシアム函館が提供する単位互換科目の中で、函館地域に関連が深い科目を当該科目として設定する。履修には、本学教務課にて単位互換システムによる履修手続きが必要となる。本学での授業日程が最優先となるため、受講には、単位互換科目を開講している高等教育機関までの往復の時間等を考慮すること。							

授業計画						
第1回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第2回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第3回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第4回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第5回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第6回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第7回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第8回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第9回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第10回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第11回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第12回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第13回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第14回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第15回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
【授業実施方法】 原則として、対面（面接）授業を実施する。対面（面接）授業の実施が困難と判断される場合には、遠隔授業（オンライン・オンデマンド・課題）を併用する。 【アクティブラーニングの導入】 なし						
成績評価の方法 (試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合 (%)	0	0	0	100	0	100
成績評価の基準（ルーブリック）						
到達度	秀逸	優秀	良好	最低限		
授業の到達目標に対する到達度の目安	各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従う科目であるため、そこに記載された到達目標を十分に理解し、その内容を超越するとともに、学びの内容を他者に正確に説明できる。	各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従う科目であるため、そこに記載された到達目標を理解し、その内容に到達するとともに、学びの内容を他者に説明できる。	各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従う科目であるため、そこに記載された到達目標をおおよそ理解し、その内容にある程度(4/5程度)到達するとともに、学びの内容をある程度、他者に説明できる。	各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従う科目であるため、そこに記載された到達目標を最低限理解し、その内容を最低限(3/5程度)到達するとともに、学びの内容を断片的ではあるが、他者に説明できる。		
該当DPに対する到達度の目安	各高等教育機関での授業において、積極的にコミュニケーションを図り、多くの知識と技能を身に付ける。他者と協働して課題を解決し、学んだ知識と技能を生かして適切に情報を発信できる。	各高等教育機関での授業において、コミュニケーションを図り、知識と技能を身に付ける。他者と協働して課題を解決し、学んだ知識と技能を生かして情報を発信できる。	各高等教育機関での授業において、ある程度コミュニケーションを図り、ある程度の知識と技能を身に付ける。他者と協働して課題を解決し、学んだ知識と技能を生かして断片的ではあるが、情報を発信できる。	各高等教育機関での授業において、最低限のコミュニケーションを図り、知識と技能を最低限身に付ける。学んだ知識と技能を生かして他者と協働して課題を解決できる。		

年度	2025	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	30092	ICT活用	—
授業科目名	コンソーシアム函館教養Ⅲ					実務教員	—
科目	基礎教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等							
配当年次	1年	期間	その他	必修区分			
授業形態	その他	単位数	1	担当形態	—		
教員	保育学科教員						
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP8					
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会力 (DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された到達目標を確認すること。							
授業の概要							
毎年度（前期・後期）、キャンパス・コンソーシアム函館が提供する単位互換科目の中で、函館地域に関連が深い科目を当該科目として設定する。キャンパス・コンソーシアム函館のホームページで単位互換対象科目を確認することができる。受講を希望する場合、各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された授業目標を確認すること。							
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）							
各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された内容を確認すること。							
標準学修時間の目安							
1回の講義あたり予習・復習を含めて2時間の学修が必要である。							
課題（試験やレポート等）のフィードバック							
各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された内容を確認すること。							
使用教科書							
	教科書名		著者名		出版社名		ISBN
1	受講科目シラバスに従う		—		—		—
2							
3							
使用教科書備考							
各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された内容を確認すること。							
参考書・参考資料等							
各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された内容を確認すること。							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う。							
その他							
毎年度（前期・後期）、キャンパス・コンソーシアム函館が提供する単位互換科目の中で、函館地域に関連が深い科目を当該科目として設定する。履修には、本学教務課にて単位互換システムによる履修手続きが必要となる。本学での授業日程が最優先となるため、受講には、単位互換科目を開講している高等教育機関までの往復の時間等を考慮すること。							

授業計画						
第1回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第2回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第3回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第4回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第5回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第6回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第7回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第8回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第9回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第10回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第11回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第12回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第13回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第14回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第15回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
【授業実施方法】 原則として、対面（面接）授業を実施する。対面（面接）授業の実施が困難と判断される場合には、遠隔授業（オンライン・オンデマンド・課題）を併用する。 【アクティブラーニングの導入】 なし						
成績評価の方法 (試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合 (%)	0	0	0	100	0	100
成績評価の基準（ルーブリック）						
到達度	秀逸	優秀	良好	最低限		
授業の到達目標に対する到達度の目安	各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従う科目であるため、そこに記載された到達目標を十分に理解し、その内容を超越するとともに、学びの内容を他者に正確に説明できる。	各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従う科目であるため、そこに記載された到達目標を理解し、その内容に到達するとともに、学びの内容を他者に説明できる。	各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従う科目であるため、そこに記載された到達目標をおおよそ理解し、その内容にある程度(4/5程度)到達するとともに、学びの内容をある程度、他者に説明できる。	各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従う科目であるため、そこに記載された到達目標を最低限理解し、その内容に最低限(3/5程度)到達するとともに、学びの内容を断片的ではあるが、他者に説明できる。		
該当DPに対する到達度の目安	各高等教育機関での授業において、積極的にコミュニケーションを図り、多くの知識と技能を身に付ける。他者と協働して課題を解決し、学んだ知識と技能を生かして適切に情報を発信できる。	各高等教育機関での授業において、コミュニケーションを図り、知識と技能を身に付ける。他者と協働して課題を解決し、学んだ知識と技能を生かして情報を発信できる。	各高等教育機関での授業において、ある程度コミュニケーションを図り、ある程度の知識と技能を身に付ける。他者と協働して課題を解決し、学んだ知識と技能を生かして断片的ではあるが、情報を発信できる。	各高等教育機関での授業において、最低限のコミュニケーションを図り、知識と技能を最低限身に付ける。学んだ知識と技能を生かして他者と協働して課題を解決できる。		

年度	2025	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	30110	ICT活用	—
授業科目名	教養ゼミナール (S・L) II					実務教員	—
科目	基礎教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等							
配当年次	2年	期間	通年	必修区分	卒		
授業形態	演習	単位数	1	担当形態	—		
教員	保育学科教員						
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP4, 5, 6, 7, 8, 9					
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会力 (DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
☐ 1. 日常生活において感謝の念を常に抱き、自己の行動に責任を持ちつつ他者を労わる人間性を備えることができる。 ☐ 2. 社会生活全般において、協調する姿勢を示し、健康な判断と正義を尊重し、円満な人間関係を築くことができる。 ☐ 3. 専門的職業人としての自律した生活を実践できる。							
授業の概要							
本学の建学の精神である学園三訓の理念に則り、学生生活及び将来の進路に関して、学生と教員が相互に交流し学ぶことによって、社会が望む質の高い保育者の養成を目指す。							
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）							
各担当教員と良くコミュニケーションを図り、指示された必要な準備をして参加すること。							
標準学修時間の目安							
1回の講義に予習・復習を含めて1時間の学修が望ましい。年間を通じ、予習・復習を含めて15時間の学修が必要である。学友会主催事業(スポーツ大会、球技大会、短大祭等)への出席がこれに相当する。							
課題（試験やレポート等）のフィードバック							
・合同S・Lでは、感想文を記載してもらいS・L担当教員が点検後返却する。 ・課題解決型授業では、担当教員とコミュニケーションをとり解決に導くこと。							
使用教科書							
	教科書名		著者名		出版社名		ISBN
1	なし		—		—		—
2							
3							
使用教科書備考							
なし							
参考書・参考資料等							
1年次に使用した「保育の基本用語」を参考書として使う場合がある。							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
実務経験のある教員に該当しない。							
その他							
その他必要な事項・課題提出日等は、担当教員の指示に従うこと。							

授業計画	
第1回	個別S・L
第2回	合同S・L
第3回	合同S・L
第4回	合同S・L
第5回	合同S・L
第6回	合同S・L
第7回	テーマ別S・L
第8回	テーマ別S・L
第9回	合同S・L
第10回	テーマ別S・L
第11回	個別S・L
第12回	合同S・L
第13回	テーマ別S・L
第14回	個別S・L
第15回	合同S・L
前期(1～15回)の授業では、本学の建学の精神である学園三訓に則り、地域課題解決型学習や様々な講話、スポーツ大会等を通して、他者との協働を意識して社会が望む質の高い保育者の養成を目指す。	
第16回	個別S・L
第17回	合同S・L
第18回	合同S・L
第19回	テーマ別S・L
第20回	合同S・L
第21回	個別S・L
第22回	テーマ別S・L
第23回	個別S・L
第24回	合同S・L
第25回	合同S・L
第26回	合同S・L
第27回	個別S・L
第28回	合同S・L
第29回	合同S・L
第30回	個別S・L
後期(1～15回)の授業では、本学の建学の精神である学園三訓に則り、地域課題解決型学習発表会や免許申請手続き等を通して、就職を意識しながら社会が望む質の高い保育者の養成を目指す。	
【授業実施方法】 原則として、対面（面接）授業を実施する。対面（面接）授業の実施が困難と判断される場合には、遠隔授業（オンライン・オンデマンド・課題）を併用する。	
【アクティブラーニングの導入】 「グループワーク」「ディスカッション」「プレゼンテーション」	

成績評価の方法 (試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合（％）	0	0	80	0	20	100
成績評価の基準（ルーブリック）						
到達度	秀逸	優秀	良好	最低限		
授業の到達目標 に対する 到達度の目安	2年時のS・Lでは、コミュニケーション力と社会人力向上に力を入れながら、専門的職業人に向かつての課題解決型授業に真摯に取り組む、問題解決に対しての適切な対処法について他者に詳細かつ適切に伝えることができる。	2年時のS・Lでは、コミュニケーション力と社会人力向上に力を入れながら、専門的職業人に向かつての課題解決型授業に真摯に取り組む、問題解決に対して他者に適切に伝えることができる。	2年時のS・Lでは、コミュニケーション力と社会人力向上に力を入れながら、専門的職業人に向かつての課題解決型授業に真摯に取り組む、その内容を理解している。	2年時のS・Lでは、コミュニケーション力と社会人力向上に力を入れながら、専門的職業人に向かつての課題解決型授業に真摯に取り組んだが、それらを断片的であるが理解している。		
該当DPに対する 到達度の目安	2年時のS・Lでは、コミュニケーション力と社会人力向上に力を入れながら、専門的職業人に向かつての課題解決型授業に真摯に取り組む、関連する情報の継続的な収集と他者への発信力が身についている。	2年時のS・Lでは、コミュニケーション力と社会人力向上に力を入れながら、専門的職業人に向かつての課題解決型授業に真摯に取り組む、関連する情報の継続的な収集と他者への発信力することができる。	2年時のS・Lでは、コミュニケーション力と社会人力向上に力を入れながら、専門的職業人に向かつての課題解決型授業に真摯に取り組む、情報の収集他者への発信ができる。	2年時のS・Lでは、コミュニケーション力と社会人力向上に力を入れながら、専門的職業人に向かつての課題解決型授業に真摯に取り組んだが、他者への発信を行うことがほとんどできない。		

年度	2025	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	30120	ICT活用	—
授業科目名	社会人基礎論Ⅱ					実務教員	○
科目	基礎教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等							
配当年次	2年	期間	前期	必修区分	卒		
授業形態	講義	単位数	1	担当形態	オムニバス		
教員	林原 和哉／小田桐 真／橋口 奈央						
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP4, 5, 6, 7, 8, 9					
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会力 (DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
授業のテーマ ①期待される社会人・職業人を目指す。 ②働く意義を考える。 ③就職先を決めるために考え、行動する。 ④コミュニケーション能力、マナー、情報リテラシーを身につける。 到達目標 ☐①社会人としての基礎・基本である「読んで書く能力」を身につける。 ☐②電話対応、来客対応、クレーム対応など社会人として必要なコミュニケーションができる。 ☐③新聞、テレビの報道番組などを通して情報を収集し、現代社会が抱える課題を考え、表現できる。 ☐④就職活動で必要となる履歴書等の書き方、面接試験等に対応できる力を身につける。 ☐⑤職業人として必要な教養を身につける。							
授業の概要							
学生生活と異なる社会人・職業人としての自覚と教養を育て、社会に出ていくための準備を行う。 ①地域社会が求める「人間的な力」「社会力」を身につけ、人生を自分の力で切り開く。 ②実社会で生きてゆくためのマナー、社会常識、コミュニケーション能力等を身につける。 ③現代社会とは何か、どんな問題があるか自分で考え、表現できるようにする。 ④就職活動で必要となる力を身につける。							
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）							
普段から新聞を読み、テレビの報道番組等をみて現代社会が抱える課題について考えておく。日記などを書くことで、書くことに対する苦手意識を克服しよう。地域社会が自分に何を望んでいるのか、日々の生活を通して考えてみよう。配布プリントを読んで復習をする。配布された資料の下調べをしておく。							
標準学修時間の目安							
1回の講義あたり0.5時間の予習と1.5時間の復習を行うこと。							
課題（試験やレポート等）のフィードバック							
小テストに関しては、採点后、返却します。レポート、作文などに関しては、模範例を授業中に紹介します。							
使用教科書							
	教科書名		著者名		出版社名		ISBN
1	なし		—		—		—
2							
3							
使用教科書備考							
なし							
参考書・参考資料等							
キャリアス就活 就活支援ブック「大学生の就活編」（前半の授業で配布）							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
林原：大手電機メーカー勤務・IT系専門学校教員、短大就職支援部長の経歴を活かし、就職活動支援等を行う。 小田桐：大手建設会社勤務（12年）、福祉専門学校職員（17年）の実務経験を活かし、思考力・判断力を養うための指導を行う。 橋口：函館市役所での勤務（9年間）、コンサルティング会社での各種講座実施の経験を生かし、実務やマナー等の指導を行う。							
その他							
実務経験者など外部講師（ゲストスピーカー）による特別講話を行う場合がある。							

授業計画						
第 1回	前年度の就職活動統計データから、今年度の就職活動を予測する。(林原)					
第 2回	この春卒業した先輩の就職状況をグラフや表にしたデータを示し、自分たちの就職活動をイメージさせる。書類選考の突破。履歴書・エントリーシート等作成の留意点について。(林原)					
第 3回	履歴書やエントリーシート等から採用する側が何を読み取るかを知り、作成する際の留意点を学び、実際に履歴書の作成に着手する。					
第 4回	求人票の見方と情報収集について。実際の求人票を具体的に読み解く。(林原)					
第 5回	求人票に記載されている項目を知り、職種や給与金額だけではなく情報の読み取り方を学ぶ。自己分析。自身の強みと弱みを把握する。プログレスシートの活用。(林原)					
第 6回	履歴書やエントリーシートへの記載や面接試験を想定した準備を進めるための自己分析の手法を学ぶ。自己PRを考えよう。弱みを強みに転換する。(林原)					
第 7回	自己分析をしても自分の長所に気づけないことも少なくない。自分で短所と認識している事柄を視点を変えて長所と認識することを学ぶ。					
第 8回	応募書類の送付と到着のフォロー。確実に届けるための留意点について。(林原)					
第 9回	応募の際に必要な履歴書以外の書類(鑑文、証明書類)を理解し、書き方や申請方法、送付手段(特定記録、速達、レターパックなど)、到着したかの確認方法を学ぶ。					
第10回	面接試験に備える。よく聞かれる質問ランキングなど。(林原)					
第11回	面接試験で聞かれるかもしれない質問事項を把握し、来るべき面接試験に向けて準備する。					
第12回	ビジネス文書の書き方。社内文書、社外文書、報告書等の書き方。(小田桐・橋口)					
第13回	ビジネス文書の種類や目的、作成手法を学ぶ。					
第14回	政治、経済問題など現代日本が抱える課題を考える。新聞を読んで考えてみよう。(小田桐・橋口)					
第15回	ビジネスにおける情報収集の大切さ、情報媒体の種類や特徴について学ぶ。					
第16回	分かりやすい文章とは何か。他者をどう説得するか。自分の意見をどうまとめるか。(小田桐・橋口)					
第17回	相手に伝わりやすい、文書作成テクニックを学ぶ。					
第18回	就職試験の作文でどう対応するのか。「起承転結」で作文を書いてみよう。(小田桐・橋口)					
第19回	実際に作文を作成し、文章構成のポイントを学ぶ。					
第20回	会社の仕組みと仕事。PDCAサイクルで仕事を改善する。(小田桐・橋口)					
第21回	円滑な仕事の進め方、ビジネス社会のルールについて学ぶ。					
第22回	良好な人間関係を築くための、来客対応と訪問時の基本マナーについて。(小田桐・橋口)					
第23回	社会人としての身だしなみや立ち振る舞い、エチケット等について学ぶ。					
第24回	電話の受け方、かけ方のマナーと、電話対応の重要性について。(小田桐・橋口)					
第25回	社会人としての言葉使い、印象のよい話し方を電話対応を通して学ぶ。					
第26回	不満を信頼に変えるトラブル・クレーム対応力を身につけるには。(小田桐・橋口)					
第27回	顧客の心情をどのように理解するか、対応力を身につける。					
【授業実施方法】 原則として、対面(面接)授業を実施する。対面(面接)授業の実施が困難と判断される場合には、遠隔授業(オンライン・オンデマンド・課題)を併用する。						
【アクティブラーニングの導入】 なし						

成績評価の方法 (試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合(%)	50	0	50	0	0	100

成績評価の基準(ルーブリック)				
到達度	秀逸	優秀	良好	最低限
授業の到達目標 に対する 到達度の目安	社会人として必要な、「読んで書く能力」が秀でている。クレーム対応など難しいコミュニケーション力を備えている。新聞等から情報を収集し、現代社会が抱える課題を見つけ出し、自ら解決策を打ち出し、他者を説得して解決へと導くことができる。就職活動に積極的で、職業人として必要な教養を身につけている。	レポート等が書け、時間管理、ビジネスマナー等を身につけている。新聞等で現代社会が抱える課題を見出し、自分で考え解決策を見出すことができる。就職活動で必要なエントリーシート等が書け、就職試験等で自分の意見を言える。職業人として必要な教養を身につける努力を続けている。	社会人としての基礎・基本である「読んで書く能力」を身につけている。社会人として必要なコミュニケーション力がある。新聞、テレビの報道番組などを通して情報を収集し現代社会が抱える課題を考えている。就職活動で必要となる履歴書等の書き方、面接試験等に対応できる力を身につけている。	社会人としての基礎・基本である「読んで書く能力」を身につけている。電話対応、来客対応、クレーム対応の仕方を理解している。新聞、テレビの報道番組などに日頃から関心がある。就職活動で必要となる履歴書等の書き方、面接試験等に対応できる力を身につけている。
該当DPに対する 到達度の目安	専門職業人としての高い倫理観を持ち、生涯にわたって学び続け、身に付けた知識や技能及び経験を創造力を持って分かりやすく他者に伝えることができる。生活環境や食文化を深く分析して、課題や問題を見つけ出し、その解決に向けて計画的に考え、答えを導き出し、他者を説得する能力を身に付けている。	専門職業人としての高い倫理観を保持し社会に貢献しようとする。生活環境や食文化について日ごろから考えており、身に付けた知識と技能を生かし、物事を的確に認識して評価できる能力がある。	他者への思いやりや柔軟な対応力、コミュニケーション力があり、他者と協働して課題を解決しようとする。生活環境や食文化について日ごろから考え、専門職業人として社会に貢献しようという意欲がある。	他者への思いやりや柔軟な対応力がある。生活環境や食文化を理解しようという意欲がある。専門職業人となる意欲がある。

年度	2025	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	30076	ICT活用	○
授業科目名	地域GX概論					実務教員	○
科目	基礎教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等							
配当年次	2年	期間	後期	必修区分	卒		
授業形態	演習	単位数	1	担当形態	オムニバス		
教員	澤辺 桃子						
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP3, 9					
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会力 (DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
本授業は、将来に向けてひとり一人が考えなければならないGXについて、個人から地域、国、世界、地球へとつながる視点を持つことができる道標を示す内容である。特に栄養士をはじめとする食の専門家として社会に貢献するうえで、GX推進の考え方が一つの判断指標となるように思考力を身につける。 ☐1. GXについて説明できる。 ☐2. 脱炭素に向けた日本と世界の動きを説明できる。 ☐3. 専門職として、GXへの貢献を考えることができる。							
授業の概要							
GXの考え方を気候変動問題とともに理解し、脱炭素やカーボンニュートラルに必要な技術や取り組みについて、企業や自治体の事例をもとに学ぶ。これをもとに専門職としてGX推進に貢献できることを考える。							
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）							
準備学習として、関連する時事ニュースに興味をもち、記録しておくこと。予習は、次回の内容について下調べをする。復習は、各回の授業内容をまとめ第11回以降の取り組みに役立てる。							
標準学修時間の目安							
1回の授業あたり予習・復習を含めて2時間の学修が必要である。							
課題（試験やレポート等）のフィードバック							
定期試験後に模範解答や優れた解答を掲示する。							
使用教科書							
	教科書名		著者名		出版社名		ISBN
1	なし		-		-		-
2							
3							
使用教科書備考							
なし							
参考書・参考資料等							
図解ポケット GX（グリーン・トランスフォーメーション）がよくわかる本 出版社 秀和システム ISBN-10 : 479807005X							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
企業・自治体の特別講師							
その他							
なし							

授業計画						
第 1回 Green Transformation（グリーントランスフォーメーション：GX）とは何か 化石燃料とクリーンエネルギーの違いを知り、経済社会システム全体を変革する取り組みを理解する 第 2回 脱炭素・カーボンニュートラルの定義と気候変動問題 脱炭素・カーボンニュートラルの定義を知り、地球温暖化による気候変動問題と温室効果ガス排出量削減の必要性を理解する 第 3回 脱炭素に向けた世界の動き 世界の温室効果ガス排出量と削減目標、主要国の気候変動対策を学ぶ 第 4回 日本政府の動向 2050 年カーボンニュートラル宣言とGX実行会議の議論について学ぶ 第 5回 企業の取り組み（電力会社） 脱炭素経営の推進について国内外の比較に基づき学び、将来の方向性について考える 第 6回 企業の取り組み（電力会社） 電源の脱炭素化と脱炭素化を支える技術の基本を学ぶ 第 7回 企業の取り組み（電力会社以外） 脱炭素経営の推進について国内外の比較に基づき学び、将来の方向性について考える 第 8回 企業の取り組み（電力会社以外） サプライチェーン排出量（Scope1、Scope2、Scope3）の基本算定と事例並びに省エネ推進方法を学ぶ 第 9回 自治体の取り組み（道南地域の市町） 太陽光発電、風力発電などのクリーンエネルギーへの転換に向けての方針と取り組みを学ぶ 第10回 自治体の取り組み（道南地域の市町） 地域住民への省エネ推進啓発活動、GX推進による地域振興方策と課題を知る 第11回 市民生活とGX推進について考える 個人から国、世界、地球規模につながる課題の発掘する 第12回 市民生活とGX推進について考える 課題の解決に向けての困難を把握し、解決策を創造する 第13回 保育士等とGX推進について考える GX推進において保育士等としての課題や困難を発掘する 第14回 保育士等とGX推進について考える GX推進に向けて保育士等として貢献できることを考える 第15回 地域のGX推進に関する発表会 地域のGX推進について貢献できる内容について発表する 【授業実施方法】 原則として、対面（面接）授業を実施する。対面（面接）授業の実施が困難と判断される場合には、遠隔授業（オンライン・オンデマンド・課題）を併用する。 ICT を活用した双方向型授業を実施する授業回がある 【アクティブラーニングの導入】 「ディスカッション」「グループワーク」「プレゼンテーション」						
成績評価の方法 (試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合（％）	50	30	0	0	20	100
成績評価の基準（ルーブリック）						
到達度	秀逸	優秀	良好	最低限		
授業の到達目標 に対する 到達度の目安	次の内容を十分に理解し、高いレベルで実践できる。 1. GXの概要、2. 脱炭素に向けた日本と世界の動き、 3. 専門職としてのGXへの貢献	次の内容を理解し、実践できる。 1. GXの概要、2. 脱炭素に向けた日本と世界の動き、 3. 専門職としてのGXへの貢献	次の内容をある程度（4/5程度）理解し、ある程度実践できる。 1. GXの概要、2. 脱炭素に向けた日本と世界の動き、 3. 専門職としてのGXへの貢献	次の内容を最低限（3/5程度）理解し、最低限実践できる。 1. GXの概要、2. 脱炭素に向けた日本と世界の動き、 3. 専門職としてのGXへの貢献		
該当DPに対する 到達度の目安	GXに関する基礎知識を高度に有し、食を通して地域福祉に貢献することができる。また、地域、国、世界、地球へとつながる広い視点で他者への思いやりと柔軟な対応力を十分に持ち実践できる。	GXに関する基礎知識を有し、食を通して地域福祉に貢献することができる。また、地域、国、世界、地球へとつながる広い視点で他者への思いやりと柔軟な対応力を十分に持つことができる。	GXに関する基礎知識を概ね有し、食を通して地域福祉に貢献することができる。また、地域、国、世界、地球へとつながる広い視点で他者への思いやりと柔軟な対応力を概ね持つことができる。	GXに関する基礎知識を最低限有し、食を通して地域福祉に貢献することができる。また、地域、国、世界、地球へとつながる広い視点で他者への思いやりと柔軟な対応力を持つための努力ができる。		

年度	2025	学科	保育学科		ナンバリング 科目コード	30250	ICT活用	○
授業科目名	保育者のための音楽Ⅱ						実務教員	○
科目	基礎教育科目							
施行規則に定める科目区分または事項等								
配当年次	2年	期間	前期	必修区分				
授業形態	演習	単位数	2	担当形態	クラス別			
教員	伊藤 亜希子／高 実希子／高橋 セリカ							
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP1, 2, 3, 4, 5, 6, 8						
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会力 (DP7～9)						
授業のテーマ及び到達目標								
保育所保育指針・幼稚園教育要領の領域「表現」の内容を踏まえて、幼児教育において必要とされる音楽基礎力・音楽表現力の向上を目指す。 具体的には、保育・幼児教育の現場で必要とされる弾き歌いのピアノ奏法や発声・歌唱法、器楽合奏法等の「保育者のための音楽Ⅰ」（1年次履修）を踏まえた保育者のための音楽実践力を培う。 □1. 保育・幼児教育で必要とされる弾き歌いの力を向上させる。 □2. 保育現場で用いられる楽曲を分析し、簡単な伴奏や楽器を用いたリズム遊び等について提示できる力を身に付ける。 □3. お遊戯会や発表会等における合奏指導法や歌唱指導法を身に付ける。								
授業の概要								
・C-durの主要三和音を理解した上で、自らが伴奏可能な簡易伴奏にアレンジし、弾き歌い出来るようになる。 ・様々な楽器の使い方を学び、合奏法やリズム遊びの提示方法を学ぶ。 ・お遊戯会や発表会等での合奏や合唱指導法など保育者のための音楽実践力について学ぶ。								
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）								
予習・復習については、毎回の授業において、個人レッスンまたはグループレッスン時に課題を示す。 次の授業までに、各自でピアノ実技・歌唱・弾き歌い等の練習に取り組んでくること。 実習先からの課題曲については、各自が主体的に取り組むこと。								
標準学修時間の目安								
次の講義までに、予習・復習を含めて4時間の学修が望ましい。ピアノ実技や歌唱技術等の音楽基礎技術の習得は個人差が大きい実態から自己目標を設定し、主体的に取り組むこと。								
課題（試験やレポート等）のフィードバック								
再試験該当者のみ、実技に関する助言を行う。								
使用教科書								
	教科書名		著者名		出版社名		ISBN	
1	幼児の音楽教育		音楽教育研究協会編		朝日出版社		978-4-255-15627-9	
2								
3								
使用教科書備考								
幼稚園指導要領、保育所保育指針、幼稚園連携型認定こども園教育・保育要領、その他に授業中に適宜資料を配布する。 「最新・幼児の音楽教育－幼児教育・保育士養成のための音楽的表現の指導－」 音楽教育研究協会編								
参考書・参考資料等								
・適宜資料を配布する。								
実務経験のある教員の略歴と教育内容								
伊藤：ピアノ教室個人指導（指導歴25年以上）。国内外での演奏活動。 高：ピアノ教室個人指導（指導歴10年以上）。国内外での演奏活動。 高橋：ピアノ教室個人指導（指導歴18年以上）、私学高等学校「音楽」授業非常勤（8年以上）。函館を中心とした演奏活動。 各々の指導歴、演奏活動を生かし、実技指導を行う。								
その他								
各自が実習に備えて本授業を有効活用し、保育・幼児教育に必要な音楽表現の力を身につけるとともに、保育実践力を養う。 授業は、ML教室（第2音楽室）及び第1音楽室にて、ICTを活用した双方向型授業を実施する。								

授業計画						
第 1回 オリエンテーション 授業のテーマ及び到達目標、授業の概要、授業外に行うべき学習、授業計画、成績評価・基準を確認する。 第 2回 実技（弾き歌い）、合唱①（パート練習） 1年次の弾き歌い曲の復習・確認を行う。合唱は、パート分け、パート練習を行う。 第 3回 実技（弾き歌い）、合唱②（全体練習、発表） 1年次の弾き歌いの復習を行う。合唱は、パート練習後、全体練習を行い、発表する。 第 4回 実技（弾き歌い）、器楽合奏①（楽器体験、グループ練習） 保育・幼児教育で必要とされる子ども歌の譜読みをする。器楽合奏は、楽器体験を行い、楽器編成を考え、グループごとに練習する。 第 5回 実技（弾き歌い）、器楽合奏②（グループ練習） 保育・幼児教育で必要とされる子ども歌の両手・歌唱の仕上げをする。器楽合奏は、楽器ごとのパート練習後、グループごとに練習する。 第 6回 実技（弾き歌い）、器楽合奏③（発表会） 保育・幼児教育で必要とされる子ども歌の弾き歌いの完成。器楽合奏は、グループ練習後、全体発表を行う。 第 7回 実技（弾き歌い）、保育課題曲への取組①（楽曲分析、譜読み） 季節の曲等の譜読みをする。保育課題曲の楽曲分析と説明。譜読みをする。 第 8回 実技（弾き歌い）、保育課題曲への取組②（仕上げ） 季節の曲等の両手・歌唱の仕上げをする。保育課題曲の弾き歌いの仕上げをする。 第 9回 実技（弾き歌い）、保育課題曲への取組③（楽曲分析、譜読み） 季節の曲等の弾き歌いの仕上げをする。保育課題曲の楽曲分析と説明。譜読みをする。 第10回 実技（弾き歌い）、保育課題曲への取組④（仕上げ） 季節の曲等の譜読みをする。保育課題曲の弾き歌いの仕上げをする。 第11回 実技（弾き歌い）、保育課題曲への取組⑤（楽曲分析、譜読み） 季節の曲等の両手・歌唱の仕上げをする。保育課題曲の楽曲分析と説明。譜読みをする。 第12回 実技（弾き歌い）、保育課題曲への取組⑥（仕上げ） 季節の曲等の弾き歌いの仕上げをする。保育課題曲の弾き歌いの仕上げをする。 第13回 実技（弾き歌い）、保育課題曲への取組⑦（楽曲分析応用、弾き歌いまとめ） 第4回から第12回で取り組んだ曲の復習を行う。第7回から第12回で取り組んだ保育課題曲を振り返り、現場を想定した弾き歌いを行う。 第14回 実技（弾き歌い）、保育課題曲への取組⑧（定期試験、実習に向けての確認） 第4回から第12回で取り組んだ曲の復習を行う。定期試験曲の確認。第7回から第12回で取り組んだ保育課題曲を振り返り、現場を想定した弾き歌いを行う。 第15回 試験・実習に向けて（まとめ、考察、改善） 定期試験・実習本番を想定した試演を行い、改善点を考察し、試験・実習に臨む。 定期試験 【授業実施方法】 原則として、対面（面接）授業を実施する。対面（面接）授業の実施が困難と判断される場合には、遠隔授業（オンライン・オンデマンド・課題）を併用する。 ICTを活用した双方向型授業を実施する授業回がある。 【アクティブラーニングの導入】 「グループワーク」						
成績評価の方法 (試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合（％）	0	70	10	0	20	100
成績評価の基準（ルーブリック）						
到達度	秀逸	優秀	良好	最低限		
授業の到達目標 に対する 到達度の目安	保育所保育指針・幼稚園教育要領を踏まえて、保育者として必要な実践的表現技術（歌唱、ピアノ実技、弾き歌い、主要三和音、コード、楽曲分析）を十分に習得し、それらの音楽表現を他者に分かりやすく伝えることができる。自己課題を的確に把握して実習先の課題曲練習に取り組むとともに他者と協働して保育を構想することができる。	保育所保育指針・幼稚園教育要領を踏まえて、保育者として必要な実践的表現技術（歌唱、ピアノ実技、弾き歌い、主要三和音、コード、根音伴奏法）を習得し、それらの音楽表現を他者に伝えることができる。自己課題を把握して実習先の課題曲練習に取り組むとともに他者と協働して保育を構想することができる。	保育所保育指針・幼稚園教育要領を踏まえて、保育者として必要な実践的表現技術（歌唱、ピアノ実技、弾き歌い、主要三和音、コード、根音伴奏法）を概ね習得し、それらの音楽表現の概要を他者に伝えることができる。自己課題を把握して実習先の課題曲練習に取り組むとともに、断片的であるが他者と協働して保育を構想できる。	保育所保育指針・幼稚園教育要領を踏まえて、保育者として必要な実践的表現技術（歌唱、ピアノ実技、弾き歌い、主要三和音、コード）を部分的に習得し、それらの音楽表現の一部を他者に伝えることができる。自己課題に気づき、実習先の課題曲練習に取り組み、断片的であるが他者と協働した保育構想のイメージをもつことができる。		
該当DPに対する 到達度の目安	保育者の社会的使命を理解して保育・幼児教育に必要な実践的な表現技術を習得し、他者に分かりやすく伝えることができる。実習先の実態を鑑み自己課題を把握し、実習に向け計画的取り組みができる。課題を的確に認識し、保育実践の自己評価の改善・工夫ができる。他者への思いやりや柔軟な対応に配慮した協働的保育を構想・実践できる。	保育者の社会的使命を理解して保育・幼児教育に必要な実践的な表現技術を習得し、他者に伝えることができる。実習先の実態を鑑み自己課題を把握し、実習に向け計画的取り組みができる。課題を認識し、保育実践の自己評価の改善・工夫ができる。保育実践に向けて他者への思いやりや柔軟な対応に配慮した協働的保育を構想できる。	保育者の社会的使命を理解して保育・幼児教育に必要な実践的な表現技術を概ね習得し、他者に伝えることができる。実習に向けて自己課題に気づき、保育実践の自己評価と改善について考察できる。保育実践に向けて他者への思いやりと柔軟な対応に配慮した協働的保育を概ね構想できる。	保育者の社会的使命を知り保育・幼児教育に必要な実践的な表現技術を充分ではないが習得し断片的に他者に伝えることができる。実習に取り組む際の自己課題に気づき、保育実践の自己評価と改善について知る。保育実践に向けて他者への思いやりや柔軟な対応に配慮した協働的保育を断片的であるが構想しようと努めることができる。		

年度	2025	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	30230	ICT活用	○
授業科目名	データサイエンス入門					実務教員	—
科目	基礎教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等							
配当年次	2年	期間	後期	必修区分	D		
授業形態	演習	単位数	1	担当形態	オムニバス		
教員	野呂 祐人／辻 義人						
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP5, 8					
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会力 (DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
☐ 1. データサイエンスについて説明することができる ☐ 2. データ解析を行うことができる ☐ 3. データサイエンスのトピックを理解する ☐ 4. 情報通信技術 (ICT) を活用できる ☐ 5. 人工知能 (AI) について説明できる ☐ 6. 機械学習について説明できる ☐ 7. プログラミング言語を用いた統計解析ができる ☐ 8. 実データを用いて組織等の課題解決に資するデータ分析ができる ☐ 9. 情報を使ったコミュニケーションの特徴を理解する							
授業の概要							
グローバル化や産業構造の変化が加速する現代社会において、データから社会における様々な問題に対する課題と解決策を導き出し、そこから新たな価値を創造できる人材の養成が必要不可欠となってきた。本講義では、まず、企業等の実データを教材として用い、データの処理、集計、分析等を行うために必須なデータサイエンスの基礎的事項を学習する。次いで、実データの解析演習を通して、適切なデータ分析のための実践力を養う。さらに、協同的な演習を通して、複雑な課題解決協同的に解決するために必要な対人コミュニケーション力を養う。当該科目は、思考力・判断力のための一般的知識や知的能力を発展させることを目標にする、一般教養科目（リベラルアーツ科目）である。							
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）							
予習：次回行う授業内容について配布資料等を活用し、その中からキーワードを抽出しまとめておくこと。 復習：授業で学んだ範囲について、配信される動画や図書館等で関連する資料を収集し、苦手な分野を克服すること。演習で用いられたコードについては、自力で再現できるようにすること。							
標準学修時間の目安							
1回の講義あたり予習・復習を含めて2時間程度の学習が望ましい。							
課題（試験やレポート等）のフィードバック							
講義時間外においても、講義内容や課題に関する質問は随時受け付ける。							
使用教科書							
	教科書名		著者名		出版社名		ISBN
1	なし		—		—		—
2							
3							
使用教科書備考							
なし							
参考書・参考資料等							
授業中に関連資料を適宜配布する。							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
実務経験のある教員に該当しない。							
その他							
履修には本学教務課にて単位互換システムによる履修手続が必要となる。 本講義は、本学と公立はこだて未来大学（プラットフォーム参画大学）間で、授業科目を共同で開発し、開講するものである。							

授業計画						
第1回 オリエンテーション、Society 5.0とは、持続可能な開発目標とは、データサイエンスとは (辻) データサイエンスとは何か、Society5.0とは何か、持続可能な開発目標 (SDGs) とは何かについて理解する。 第2回 データを「まとめる」考え方 (辻) データを正しく整理すると、そのデータの持つ特徴を把握することができるようになる。このことについて、エクセル演習を通して理解する。 第3回 データを「比べる」考え方 (辻) 複数のデータを比較することで、根拠のあるデータの解釈ができるようになる。このことについて、エクセル演習を通して理解する。 第4回 データから「予測する」考え方 (辻) データがたくさんあつまと、これを用いて予測することができるようになる。このことについて、エクセル演習を通して理解する。 第5回 トピックス：データサイエンスに基づく社会調査 (辻) 社会調査の研究例を示しながら、データサイエンスがどのような場面で活躍するのかを学習する。 第6回 統計解析の初歩①：Rの使い方 (辻) フリーの統計解析用ソフトであるRを独力でインストールし、簡単な四則計算を行うことでRの初歩的な使い方を理解する。 第7回 統計解析の初歩②：Rを用いたプログラミング (辻) Rを用いて繰り返し処理、条件分岐方法などを利用した簡単なプログラム作成を行うことでプログラミングの基礎を理解する。 第8回 統計解析の実践①：Rを用いた企業等の実データの統計解析 (辻) Rを用いて実際の実データの解析を試みる。同時にデータ分析しやすいデータ構造やデータの整理方法についても理解する。 第9回 人工知能 (AI) について (辻) 人工知能がどのようなものであるかを座学により理解する。次いで、フリーでできる複数のAIを利用することで、AIの使用方法についても理解する。 第10回 AIを用いた演習① (野呂) 生成系AIを用いた文章作成、英文作成などの基本的な扱いをマスターするとともに、AIでできることとできないことを肌感覚で認識する。 第11回 AIを用いた演習② (野呂) 生成系AIを用いた文章作成、英文作成などの基本的な扱いをマスターするとともに、AIでできることとできないことを肌感覚で認識する。 第12回 情報を使った造形遊び① (野呂) Googleスプレッドシートなどのインターネットを使った共同編集について学ぶ。 第13回 情報を使った造形遊び② (野呂) インターネットを使った共同制作に関する基礎的な演習を行う。 第14回 情報を使った造形遊び③ (野呂) インターネットを使った共同制作に関する応用的な演習を行う。 第15回 情報のコミュニケーションについて (野呂) インターネットをはじめとした、情報に関するコミュニケーションの特性や活用法について学ぶ。 【授業実施方法】 原則として、対面（面接）授業を実施する。対面（面接）授業の実施が困難と判断された場合には、遠隔授業（オンライン・オンデマンド・課題）を併用する。 ICTを活用した双方向型授業を実施する授業回がある。 【アクティブラーニングの導入】 「グループワーク」「プレゼンテーション」						
成績評価の方法 (試験項目)	筆記 (定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文 (レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合 (%)	0	55	30	0	15	100
成績評価の基準（ルーブリック）						
到達度	秀逸	優秀	良好	最低限		
授業の到達目標 に対する 到達度の目安	データサイエンスの基礎的事項を十分に理解したうえで、データを正しく処理・集計・可視化・分析することができる。社会における様々な問題に対する課題と解決策を導き出して、新たな価値を創造することができる。	データサイエンスの基礎的事項を十分に理解したうえで、データを正しく処理・集計・可視化・分析することができる。社会における様々な問題に対する課題と解決策を導き出すことができる。	データサイエンスの基礎的事項を理解したうえで、データを正しく処理・集計・可視化・分析することができる。社会における様々な問題に対する課題を導き出すことができる。	データサイエンスの基礎的事項を理解したうえで、データを正しく処理・集計・可視化・分析することができる。		
該当DPに対する 到達度の目安	データサイエンスの専門的な知識と技術を十分に有し、データから正確な分析結果を導き出すことができる。また、高いコミュニケーション力にて他者と協働して課題の解決に向け行動することができる。	データサイエンスの専門的な知識と技術を十分に有し、データから正確な分析結果を導き出すことができる。また、コミュニケーション力にて他者と協働して課題の解決に向け行動することができる。	データサイエンスの専門的な知識と技術を有し、データから正確な分析結果を導き出すことができる。また、コミュニケーション力にて他者と協働して課題の解決に向け行動することができる。	データサイエンスの専門的な知識と技術を有し、データから分析結果を導き出すことができる。また、他者と協働して課題の解決に向け行動することができる。		

年度	2025	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	30332	ICT活用	○
授業科目名	コンピュータリテラシーE					実務教員	○
科目	基礎教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等							
配当年次	2年	期間	後期	必修区分	ME [D選]		
授業形態	演習	単位数	1	担当形態	単独		
教員	山崎 幸路						
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP1, 2, 3					
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会力 (DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
授業のテーマはパソコン操作によるエクセルのデータ作成です。 到達目標は以下の内容です。 ☐1. テーブルを管理し、フィルター、並べ替え、スタイルの管理ができる。 ☐2. 関数を使用してデータ集計と条件付きの計算を実行できる。 ☐3. グラフを作成かつオブジェクトを挿入し、書式を変更できる。 ☐4. 売上データを集計するために、データを追加し分析することができる。 ☐5. 請求書データを作成し、テキストボックスや画像を挿入することができる。							
授業の概要							
総合的な操作の考え方と何が実務で要求されているかを理解し、実社会で役立つ技術を学ぶ。 マイクロソフトオフィススペシャリストExcel 2019の試験内容に沿って学習し合格する力をつける。 適宜小テストを実施する。							
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）							
【予習】 事前配布するプリントとテキストとを併読し、操作内容と用語をおおまかに理解する。 【復習】 テキストとプリントを見ながらパソコンを操作し授業と同じ操作ができるかを確認する。また授業で指定された課題演習を行う。							
標準学修時間の目安							
1回の講義あたり予習・復習を含めて4時間の学修が必要である。							
課題（試験やレポート等）のフィードバック							
課題指定前または提出期限後の授業で模範的な課題を紹介する。							
使用教科書							
	教科書名	著者名	出版社名	ISBN			
1	MOS Ex365&2019	土岐順子	日経BP社	978-4-8222-8630-9			
2							
3							
使用教科書備考							
MOS攻略問題集 Excel 365&2019							
参考書・参考資料等							
30時間でマスター Excel2021							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
指導教員はマイクロソフト公式トレーナーを取得しパソコンスクールでマイクロソフトオフィススペシャリスト (MOS) 等の資格試験のレッスンをしている。							
その他							
実務で役立ち、マイクロソフトオフィススペシャリスト2019の試験に対応する学習をする。ICTを活用し授業および課題取り組みのアンケートを行う。またICTを活用し、入力練習の状況と入力スキルの成果について確認する。これらのICT活用により、クラス全体の学習状況を分析理解し各自の学習の動機づけと目標を設定する。							

授業計画						
第 1回 ブックについて ワークシートとブックの作成を学ぶ 第 2回 ブック管理について ワークシートとブックの管理、設定を学ぶ 第 3回 データ挿入について セルやセル範囲に対するデータ挿入、書式設定を学ぶ 第 4回 データ整理について セルやセル範囲に対するデータのまとめ、整理を学ぶ 第 5回 スタイルについて テーブル作成、スタイルと設定オプションの管理を学ぶ 第 6回 テーブル管理について テーブル管理、フィルター、並べ替えを学ぶ 第 7回 データ集計について 関数を使用したデータ集計、条件付き計算の実行を学ぶ 第 8回 文字列整形について 関数を使用した文字列の整形と変更を学ぶ 第 9回 グラフについて グラフの作成、グラフの書式設定を学ぶ 第10回 オブジェクトについて オブジェクト挿入、書式変更を学ぶ 第11回 データ整理について 営業記録の集計、ブックのデータ整理を学ぶ 第12回 データ分析について 売上データを集計するためのデータ追加と分析を学ぶ 第13回 テキストボックスについて 請求書データを作成、テキストボックスや画像を挿入を学ぶ 第14回 表について 表の印刷設定、受講リストの作成を学ぶ 第15回 データ編集全般について 小テストと実務的エクセルデータ作成方法を学ぶ 【授業実施方法】 原則として、対面（面接）授業を実施する。対面（面接）授業の実施が困難と判断される場合には、遠隔授業（オンライン・オンデマンド・課題）を併用する。 ICTを活用した双方向型授業を実施する授業回がある。 【アクティブラーニングの導入】 「ディスカッション」						
成績評価の方法 (試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合 (%)	70	0	20	0	10	100
成績評価の基準（ルーブリック）						
到達度	秀逸	優秀	良好	最低限		
授業の到達目標に対する 到達度の目安	エクセル操作に必要な知識について理解し、編集機能の操作のスキルを身に着けるとともに獲得したスキルをもとに複数の機能を組み合わせて素早く、実務データとして通用する見栄えのよいデータ編集ができる。	エクセル操作に必要な知識について理解し、編集機能の操作のスキルを身に着けるとともに、獲得したスキルをもとに複数の機能を組み合わせて一定のスピードで、実務データとして通用するデータ編集ができる。	エクセル操作に必要な知識について理解し、編集機能の操作のスキルを身に着けるとともに、獲得したスキルをテキストを参照しながら複数の機能を組み合わせ、一定のスピードで、実務データとして通用するデータ編集ができる。	エクセル操作に必要な知識について理解し、編集機能の操作のスキルを身に着けるとともに、獲得したスキルをテキストを参照しながら複数の機能を組み合わせ、一定のスピードで、実務データとして通用するデータ編集ができる。		
該当DPに対する 到達度の目安	保育と子育て支援に必要な専門的知識と技術、とりわけ食育知識について子供の成長を促す保育を展開するために獲得した情報を自在に編集し説得力あるデータとなるよう見栄えのよい編集作業が素早くできる。	保育と子育て支援に必要な専門的知識と技術、とりわけ食育知識について子供の成長を促す保育を展開するために獲得した情報をテキスト等を参照しながら自在に編集し説得力あるデータとなるよう見栄えのよい編集作業が素早くできる。	保育と子育て支援に必要な専門的知識と技術、とりわけ食育知識について子供の成長を促す保育を展開するために獲得した情報をテキスト等を参照しながら編集し説得力あるデータとなるよう見栄えのよい編集作業が一定の速さでできる。	保育と子育て支援に必要な専門的知識と技術、とりわけ食育知識について子供の成長を促す保育を展開するために獲得した情報をテキスト等を参照しながら編集し効果的となるようデータの編集作業ができる。		

年度	2025	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	30333	ICT活用	○
授業科目名	コンピュータリテラシーP					実務教員	○
科目	基礎教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等							
配当年次	2年	期間	後期	必修区分	MP [D選]		
授業形態	演習	単位数	1	担当形態	単独		
教員	山崎 幸路						
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP1, 6					
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会力 (DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
パソコン操作によるプレゼンテーション文書作成が授業のテーマです。 到達目標は、以下の内容です。 ☐1. テキスト、図形、テキストボックスを挿入しスライドを作成することができる。 ☐2. 表、グラフ、SmartArt、メディアを挿入し書式設定することができる。 ☐3. スライドのコンテンツにアニメーションを設定することができる。 ☐4. アンケートの結果などをプレゼンテーション資料を作成することができる。 ☐5. 社内文書として提案書のフォーマットを作成することができる。							
授業の概要							
総合的な操作の考え方と何が実務で要求されているかを理解し、実社会で役立つ技術を学びます。マイクロソフトオフィススペシャリスト PowerPoint 2019の試験内容に沿って学習し合格する力を身に付ける。 適宜小テストを実施する。							
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）							
【予習】 事前配布するプリントとテキストの該当部分を併読し、操作内容と用語をおおまかに理解する。 【復習】 テキストとプリントを見ながらパソコンを操作し授業と同じ操作ができるかを確認する。また授業で指定された課題演習を行う。							
標準学修時間の目安							
1回の講義あたり予習・復習を含めて2時間の学修が必要である。							
課題（試験やレポート等）のフィードバック							
課題指定前または提出期限後の授業で模範的な課題を紹介する。							
使用教科書							
	教科書名		著者名		出版社名		ISBN
1	MOS PP365&2019		市川洋子		日経BP社		978-4-8222-8631-6
2							
3							
使用教科書備考							
MOS攻略問題集 PowerPoint 365&2019							
参考書・参考資料等							
30時間でマスター プレゼンテーション+PowerPoint2021							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
指導教員はマイクロソフト公式トレーナーを取得しパソコンスクールでマイクロソフトオフィススペシャリスト (MOS) 等の資格試験のレッスンをしている。							
その他							
実務で役立ち、マイクロソフトオフィススペシャリスト 2019の試験に対応する学習をする。ICTを活用し授業および課題取り組みのアンケートを行う。またICTを活用し、入力練習の状況と入力スキルの成果について確認します。これらのICT活用により、クラス全体の学習状況を分析理解し各自の学習の動機づけと目標を設定する。							

授業計画						
第 1回 スライド編集について スライド、配布資料、ノートの変更を学ぶ 第 2回 スライドショーについて スライドショーの設定と実行を学ぶ 第 3回 テキスト挿入について テキスト、図形、テキストボックスの挿入を学ぶ 第 4回 図形挿入について 図形挿入、並べ替え、グループ化を学ぶ 第 5回 グラフ等の挿入について 表、グラフの挿入と書式設定を学ぶ 第 6回 SmartArtについて SmartArt、メディアの挿入と書式設定を学ぶ 第 7回 アニメーションについて スライドコンテンツのアニメーション設定を学ぶ 第 8回 画面切り替え等について 画面切り替えとアニメーションのタイミング設定を学ぶ 第 9回 コンテンツ結合について 複数のプレゼンテーションコンテンツ結合を学ぶ 第10回 保護と共有について プレゼンテーションの保護と共有を学ぶ 第11回 フォーマットについて プレゼンテーションのフォーマット作成を学ぶ 第12回 資料作成について アンケート結果のプレゼンテーション資料作成を学ぶ 第13回 フォーマットについて 社内文書としての提案書フォーマット作成を学ぶ 第14回 実務的資料について 新商品キャンペーンの資料作成を学ぶ 第15回 データ編集全般について 小テストと実務的パワーポイントデータ作成方法を学ぶ 【授業実施方法】 原則として、対面（面接）授業を実施する。対面（面接）授業の実施が困難と判断される場合には、遠隔授業（オンライン・オンデマンド・課題）を併用する。 ICTを活用した双方向型授業を実施する授業回がある。 【アクティブラーニングの導入】 「ディスカッション」						
成績評価の方法 (試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合 (%)	70	0	20	0	10	100
成績評価の基準（ルーブリック）						
到達度	秀逸	優秀	良好	最低限		
授業の到達目標に対する 到達度の目安	パワーポイント操作に必要な知識について理解し、編集機能の操作のスキルを身に着けるとともに、獲得したスキルをもとに複数の機能を組み合わせて素早く、実務データとして通用する見栄えのよいデータ編集ができる。	パワーポイント操作に必要な知識について理解し、編集機能の操作のスキルを身に着けるとともに、獲得したスキルをもとに複数の機能を組み合わせて一定のスピードで、実務データとして通用するデータ編集ができる。	パワーポイント操作に必要な知識について理解し、編集機能の操作のスキルを身に着けるとともに、獲得したスキルをテキストを参照しながら複数の機能を組み合わせて一定のスピードで実務データとして通用するデータ編集ができる。	パワーポイント操作に必要な知識について理解し、編集機能の操作のスキルを身に着けるとともに、獲得したスキルをテキストを参照しながら複数の機能を組み合わせて時間をかけて実務データとして通用するデータ編集ができる。		
該当DPに対する 到達度の目安	身につけた知識や技能並びに経験を分かりやすく他者に伝えるためにプレゼンテーションデータを自在に編集し、説得力ある見栄えのよい編集作業が素早くできる。	身につけた知識や技能並びに経験を分かりやすく他者に伝えるためにプレゼンテーションデータをテキスト等を参照しながらも自在に編集し説得力あるデータとなるよう見栄えのよい編集作業が素早くできる。	身につけた知識や技能並びに経験を分かりやすく他者に伝えるためにプレゼンテーションデータをテキスト等を参照しながらも、自在に編集し説得力あるデータとなるよう見栄えのよい編集作業が一定の速さでできる。	身につけた知識や技能並びに経験を分かりやすく他者に伝えるためにプレゼンテーションデータをテキスト等を参照しながらも自在に編集し説得力あるデータとなるよう見栄えのよい編集作業ができる。		

年度	2025	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	30174	ICT活用	○
授業科目名	函館グローバル・コミュニケーション					実務教員	○
科目	基礎教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等							
配当年次	2年	期間	後期	必修区分			
授業形態	演習	単位数	1	担当形態	オムニバス		
教員	澤辺 桃子／咲間 まり子／長谷川 秀雄／土井岡 真理子／渡辺 真保						
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP6, 7, 8, 9					
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会力 (DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
国家資格取得を目指し学んだ知識・技能をグローバル（地球規模で考えながら、自分の地域で活動する）に生かすために必要となる、外国人とのコミュニケーションスキルを学ぶ。 □ 1. 外国人とのコミュニケーションの心構えを理解することができる。 □ 2. 調理作業に必要な英単語を理解し、他者に伝えることができる。 □ 3. 他者に人柄を理解してもらえ英語の自己紹介ができる。 □ 4. 観光案内、食文化及び道案内を平易な英語で説明できる。 □ 5. 子どもと平易な英語でコミュニケーションをとることができる。 □ 6. 英語以外の言語によるコミュニケーションの注意点を理解することができる。							
授業の概要							
保育士の国家資格取得を目指し学んだ知識・技能をグローバル（地球規模で考えながら、自分の地域で活動する）に生かすために必要となるスキルを認識する。言語的・非言語的コミュニケーションを用いて、個人の発信力を高めることで、多様な人々と柔軟に連携するための素養を養う。本授業は、TOEIC対策を含めた構成とし、インタラクティブなアクションラーニング型の授業として、ディスカッション、プレゼンテーション、グループワークを実施する。当該科目は、思考力・判断力のための一般的知識や知的能力を発展させることを目標にする、リベラルアーツ科目である。当該科目は、一部の授業回で学生の円滑な学修を支援するため、教育助手を配置する。							
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）							
予習は、各授業回に必要なと思われる英単語や資料の下調べを行い、会話のシミュレーションをしておくこと。復習は、授業回で習った単語や表現をノートに記録し、使えるように繰り返し音読する。また、友人同士の会話に積極的に英語表現を取り入れるように心がける。TOEIC対策練習問題は、自分で翻訳し正解を導けるようにする。							
標準学修時間の目安							
次の授業までに予習・復習を含めて2時間の学修が望ましい。							
課題（試験やレポート等）のフィードバック							
TOEIC対策の練習問題は、翌週に解答を配付する。 その他の課題は、その都度、教員と意見交換することで完成度を上げる。							
使用教科書							
	教科書名		著者名		出版社名		ISBN
1	なし		-		-		-
2							
3							
使用教科書備考							
なし							
参考書・参考資料等							
授業回ごとに、資料等を配付する。							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
土井岡：日系アメリカ人で、音楽、スポーツ業界で通訳、翻訳等、英語を使う仕事を経て、現在の市内で飲食店経営経験を生かし、英語の指示による調理実習を担当する。渡辺：市内で外語スクールを経営している経験からTOEIC対策と英語コミュニケーションの内容を担当する。長谷川：中学校教諭（英語）として36年の勤務経験から指導する。澤辺・咲間：実務経験のある教員に該当しない。							
その他							
調理実習は、調理室を使用するため、衛生管理に関するルールを守り、教職員からの指示に従うこと。学修成果を実感するために、自主学習を重ね、TOEIC試験を受験することを強く推奨する。授業日程の都合上、授業計画の順番が入れ替わることがある。							

授業計画						
第 1回	オリエンテーション（授業の進め方説明）（澤辺、咲間、長谷川）					
第 2回	全15回の授業の構成と注意事項、予習復習、授業外学修時間について説明する。また、調理実習についても説明する。					
第 3回	仕事における外国語コミュニケーションの必要性（澤辺、長谷川、渡辺）					
第 3回	教員の経験や種々の国内外情報から、仕事における外国語コミュニケーションの必要性を紹介する。					
第 3回	生活における外国語コミュニケーションの必要性（澤辺、長谷川、渡辺）					
第 4回	教員の経験や種々の国内外情報から、外国人との適切なコミュニケーションのあり方を学ぶ。					
第 4回	シチュエーションで学ぶ英語「自己紹介」：TOEIC対策（渡辺、長谷川）					
第 5回	英語による自己紹介の基本を学び、自己紹介を披露する。					
第 5回	シチュエーションで学ぶ英語「道案内・観光」：TOEIC対策（渡辺、長谷川）					
第 6回	英語による道案内の基本を学び、函館の観光名所の案内方法を知る。					
第 6回	シチュエーションで学ぶ英語「買い物」：TOEIC対策（渡辺、長谷川）					
第 7回	英語による買い物会話の基本を学び、ロールプレイを披露する。					
第 7回	シチュエーションで学ぶ英語「食事」：TOEIC対策（渡辺、長谷川）					
第 8回	英語によるレストラン会話の基本を学び、函館のビアホールを想定したロールプレイを披露する。					
第 8回	シチュエーションで学ぶ英語「子どもとのコミュニケーション（手遊び、リズム遊び等）」（渡辺、長谷川）					
第 9回	英語による手遊びの基本会話を学び、英語での指導方法に挑戦する。					
第 9回	シチュエーションで学ぶ英語「子どもとのコミュニケーション（折り紙等）」（渡辺、長谷川）					
第10回	英語による折り紙の基本会話を学び、英語での指導方法に挑戦する。					
第10回	英語の指示で料理をつくる：調理実習（土井岡、澤辺、咲間、長谷川）					
第11回	英語によるメニューの紹介と調理器具、調理方法等の説明を理解する。					
第11回	料理を英語で説明する（土井岡、澤辺、咲間、長谷川）					
第12回	調理作業を通して、英語でのコミュニケーションに挑戦する。					
第12回	英語以外の言語でのコミュニケーション方法：異文化理解（咲間、澤辺、長谷川）					
第13回	ベトナムを題材に異文化理解に必要な基本的事項について学ぶ。					
第13回	英語以外の言語でのコミュニケーション方法：コミュニケーションの実際（咲間、澤辺、長谷川）					
第14回	ベトナムとのオンライン交流を通して、ベトナムの教育、食文化について理解を深める。					
第14回	プレゼンテーション：準備（澤辺、長谷川、渡辺）					
第15回	1～13回までの授業で学んだことをまとめ、プレゼンテーション資料を作成する。					
第15回	プレゼンテーション：調理実習報告、ロールプレイ披露（澤辺、咲間、長谷川、渡辺）					
第15回	1～13回までの授業で学んだ内容の報告とそれらを生かしたロールプレイを披露する発表会を開催する。					
【授業実施方法】						
原則として、対面（面接）授業を実施する。対面（面接）授業の実施が困難と判断される場合には、遠隔授業（オンライン・オンデマンド・課題）を併用する。						
ICTを活用した双方向型授業を実施する授業回がある。						
【アクティブラーニングの導入】						
「ディスカッション」「プレゼンテーション」「グループワーク」						

年度	2025	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	30074	ICT活用	—
授業科目名	国際交流					実務教員	—
科目	基礎教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等							
配当年次	2 年	期間	後期	必修区分			
授業形態	演習	単位数	1	担当形態	—		
教員	保育学科教員						
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP8					
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会力 (DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
海外研修旅行を通して、国際交流について深く学び、自己の成長につなげる。 □1. 見聞・体験を通して得たことを報告書に表現できる。 □2. 集団での行動を通して、協調性を身に付け、今後の社会生活に役立てる。 □3. 外国での体験に基づく価値観の違いを理解し、豊かな人間性を身に付け、行動で示すことができる。 □4. 自分で作り上げる研修を通して、能動的な学習能力を身に付け、普段の学習に役立てる。							
授業の概要							
本学科で学んだ講義や実習を通して修得した知識を基に、海外の保育・幼児教育施設を視察し、その実情を見聞・体験して、自分の進むべき分野に対する一層の認識を深める。 また、そのときの感動および幅広い視野から判断できる新たな自分の基準を持つことを目標とする。							
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）							
出発前に個人及びグループ毎のテーマを決め、それに沿った準備学習を行う。関連する資料の下調べ、グループワーク、グループディスカッションを行い、理解を深める。							
標準学修時間の目安							
事前の各種手続き、渡航準備および帰国後の報告書作成等を合わせて、合計 3 0 時間の自主学習が必要となる。							
課題（試験やレポート等）のフィードバック							
参加者全員の研修報告書を取りまとめ、冊子として配布する。							
使用教科書							
	教科書名		著者名		出版社名		ISBN
1	なし		—		—		—
2							
3							
使用教科書備考							
なし							
参考書・参考資料等							
訪問国の観光ガイド並びに関連書籍							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
実務経験のある教員に該当しない。							
その他							
渡航費用が別途必要である。学内掲示等で参加者の募集を行う。1 年次に履修することも可能である。現地研修に際しては、特に体調管理に努めること。履修者数によっては、旅行会社が提供するパッケージツアーに研修内容を組み入れる場合がある。研修報告のプレゼンテーションを実施する。国際情勢等、種々の事由により開講を中止することがある。							

授業計画						
第1回 事前研修 (オリエンテーション、パスポートの取得方法) 第2回 事前研修 (渡航先情報の確認、旅行準備指導) 第3回 事前研修 (自主研修計画の作成、旅のしおり作成) 第4回 事前研修 (出発式、事前学習発表会) 第5回 現地研修 (国際線搭乗手続き、時差体験、地球の大きさの実感) 第6回 現地研修 (日本の常識と海外の常識) 第7回 現地研修 (生活文化の違いを知る) 第8回 現地研修 (海外の食文化を体験する) 第9回 現地研修 (日本と海外の教育の違いを知る) 第10回 現地研修 (海外でのコミュニケーション体験) 第11回 現地研修 (集団行動における自分の役割を知る) 第12回 現地研修 (訪問国の歴史、建造物、芸術、エンターテインメントを学ぶ) 第13回 事後研修 (研修報告書の作成) 第14回 事後研修 (研修報告会の資料作成) 第15回 事後研修 (研修報告会での発表)						
この授業は、本学科でこれまで学んできた講義や実習を通して修得した知識や技能を基に、海外の保育・幼児教育施設を視察し、その実情を見聞・体験して、自分の進むべき分野に対する一層の認識を深める。						
【授業実施方法】 原則として、対面（面接）授業を実施する。対面（面接）授業の実施が困難と判断された場合には、遠隔授業（オンライン・オンデマンド・課題）を併用する。						
【アクティブラーニングの導入】 「グループワーク」「ディスカッション」「プレゼンテーション」						
成績評価の方法 (試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合 (%)	0	0	0	50	50	100
成績評価の基準（ルーブリック）						
到達度	秀逸	優秀	良好	最低限		
授業の到達目標に対する到達度の目安	外国での見聞・体験を通して価値観の違い、多様性を深く理解し、豊かな人間性と能動的な学習姿勢を身に付けている。学びの成果は、報告書に十分にまとめ、報告会の発表で他者に適切な説明をすることができる。また、集団での行動を通して、高い協調性を身に付け、今後の社会生活に役立てていく意識が非常に高い。	外国での見聞・体験を通して価値観の違い、多様性を理解し、豊かな人間性と能動的な学習姿勢を身に付けている。学びの成果は、報告書にまとめ、報告会の発表で他者に説明をすることができる。また、集団での行動を通して、協調性を身に付け、今後の社会生活に役立てていく意識が高い。	外国での見聞・体験を通して価値観の違い、多様性のある程度理解し、豊かな人間性と能動的な学習姿勢を身に付けている。学びの成果は、報告書にある程度まとめることができる。また、集団での行動を通して、協調性を身に付け、今後の社会生活に役立てていく意識がある。	外国での見聞・体験を通して価値観の違い、多様性を最低限理解し、豊かな人間性と能動的な学習姿勢を身に付けている。学びの成果は、報告書に最低限まとめることができる。また、集団での行動を通して、協調性を身に付け、今後の社会生活に役立てていく意識が最低限ある。		
該当DPに対する到達度の目安	自分たちで組み立てる研修内容において、事前事後研修へ積極的に参加し、制作物等の完成度が非常に高い。海外研修中の様々な場面で高いコミュニケーション力を身に付け、帰国後もそれらを役立てている。また、他者と協働して課題を解決するために、特に能動的な姿勢で取り組むことができる。	自分たちで組み立てる研修内容において事前事後研修に参加し、制作物等の完成度が高い。海外研修中の様々な場面でコミュニケーション力を身に付け、帰国後もそれらを役立てている。また、他者と協働して課題を解決するために、能動的な姿勢で取り組むことができる。	自分たちで組み立てる研修内容において、事前事後研修に参加し、制作物を作成できる。海外研修中は、必要な場面でコミュニケーション力を身に付け、帰国後もそれらを役立てる努力をしている。また、他者と協働して課題を解決する取り組みに参加することができる。	自分たちで組み立てる研修内容において、事前事後研修に参加し、最低限の制作物を作成できる。海外研修中は、最低限のコミュニケーション力を身に付ける努力をしている。また、他者と協働して課題を解決する取り組みに参加する努力ができる。		

年度	2025	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	30340	ICT活用	—
授業科目名	ボランティア実習Ⅱ					実務教員	○
科目	基礎教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等							
配当年次	2年	期間	その他	必修区分			
授業形態	実験・実習	単位数	1	担当形態	複数		
教員	野呂 祐人／川村 幾代						
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP4, 5, 6, 7, 8, 9					
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会力 (DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
保育所・幼稚園・認定こども園・福祉施設などで地域活動を支援することを実際に体験することにより、将来、社会の担い手となることの自覚を深めるとともに、協働協力、地域連携などが重要であることの意識を高める。 ☐1. ボランティア活動の意義について説明できる。 ☐2. 他者とコミュニケーションを図りながら、共に協力し、ボランティア活動を行うことができる。 ☐3. ボランティア活動を通して、積極的に社会に貢献していく意識を高め、普段の行動に反映させることができる。 ☐4. 活動内容を、報告書にまとめることができる。							
授業の概要							
現代社会においては、協働協力の精神を培うことがますます重要となっている。保育所・幼稚園・認定こども園・福祉施設などのボランティア活動を通して、地域の構成員が互いに協力し、助け合うことの大切さを学ぶ。							
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）							
実習先のパンフレットやホームページで予め必要な情報を収集して、予備知識を増やすこと。							
標準学修時間の目安							
1回のボランティア終了後、報告書の作成に1時間程度必要である。							
課題（試験やレポート等）のフィードバック							
1回ごとのボランティア終了後、報告書を提出すること。 この報告書提出により認定された活動時間の累積30時間以上が単位認定対象となる。							
使用教科書							
	教科書名	著者名	出版社名	ISBN			
1	なし	—	—	—			
2							
3							
使用教科書備考							
なし							
参考書・参考資料等							
なし							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
川村は、地元社会福祉法人での勤務経験や自治体の支援員、相談員の経験を活かし、地域住民に寄り添ったボランティア活動のあり方に関する指導や助言を行う。 野呂は、実務経験のある教員に該当しない。							
その他							
・担当教員から承認されたボランティア活動の累積時間数が30時間となった場合に単位認定をする。 ・評価は、活動終了後に学生が提出する活動内容などを記した報告書により行う。							

授業計画						
第1回 オリエンテーション 第2回 例年のボランティア活動の説明 第3回 報告書のまとめ方を説明 第4回 「学外授業出席証明書」「学外実習報告書」を配布・説明 第5回 ボランティア学外実習 第6回 ボランティア学外実習 第7回 ボランティア学外実習 第8回 ボランティア学外実習 第9回 ボランティア学外実習 第10回 ボランティア学外実習 第11回 ボランティア学外実習 第12回 ボランティア学外実習 第13回 ボランティア学外実習 第14回 ボランティア学外実習 第15回 ボランティア学外実習 第16回 ボランティア学外実習 第17回 ボランティア学外実習 第18回 ボランティア学外実習 第19回 ボランティア学外実習 第20回 ボランティア学外実習 第21回 ボランティア学外実習 第22回 ボランティア学外実習 第23回 ボランティア学外実習 第24回 ボランティア学外実習 第25回 ボランティア学外実習 第26回 ボランティア学外実習 第27回 ボランティア学外実習 第28回 ボランティア学外実習 第29回 ボランティア学外実習 第30回 学外授業出席証明書・学外実習報告書提出 この授業では、学外のボランティア活動に参加し、地域の人々とのコミュニケーションを図りながら、協力や協働、地域連携などの重要性を学ぶ。また、ボランティア活動後、得られた体験や気づきを報告書にまとめる。 【授業実施方法】 原則として、対面（面接）授業を実施する。対面（面接）授業の実施が困難と判断される場合には、遠隔授業（オンライン・オンデマンド・課題）を併用する。 【アクティブラーニングの導入】 「ディスカッション」「プレゼンテーション」						
成績評価の方法 (試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合 (%)	0	0	80	0	20	100
成績評価の基準（ルーブリック）						
到達度	秀逸	優秀	良好	最低限		
授業の到達目標に対する到達度の目安	各園・福祉施設などのボランティア活動を通して、社会人力・コミュニケーション力を養い、社会の担い手となることへの自覚を備えていると同時に、協力協働・地域貢献への精神が身に付いている。	各園・福祉施設などのボランティア活動を通して、社会人力・コミュニケーション力を養い、社会の担い手となることへの自覚を備えていると同時に他者に適切な情報として伝えることができる。	各園・福祉施設などのボランティア活動を通して、社会人力・コミュニケーション力を養い、社会の担い手となることへの自覚を備えている。	各園・福祉施設などのボランティア活動を通して社会人力・コミュニケーション力を養い、社会の担い手となることへの自覚について断片的に理解している。		
該当DPに対する到達度の目安	各園・福祉施設などのボランティア活動を通して、社会人力・コミュニケーション力を養い、社会の担い手となることへの自覚と他者への発信力を身に付けている。	各園・福祉施設などのボランティア活動を通して、社会人力・コミュニケーション力を養い、社会の担い手となることへの自覚と課題解決に向けて努力することができる。	各園・福祉施設などのボランティア活動を通して、社会人力・コミュニケーション力を養い、社会の担い手となることへの自覚と他者への発信ができる。	各園・福祉施設などのボランティア活動を通して、社会人力・コミュニケーション力を養ったが、社会の担い手への理解と自覚がほとんどできない。		

年度	2025	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	30180	ICT活用	—
授業科目名	コンソーシアム基礎教養Ⅲ					実務教員	—
科目	基礎教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等							
配当年次	2年	期間	その他	必修区分			
授業形態	その他	単位数	2	担当形態	—		
教員	保育学科教員						
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP8					
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会力 (DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された到達目標を確認すること。							
授業の概要							
当該科目は、毎年度（前期・後期）、キャンパス・コンソーシアム函館が提供する単位互換科目である。キャンパス・コンソーシアム函館のホームページで単位互換対象科目を確認することができる。受講を希望する場合、各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された授業目標を確認すること。							
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）							
各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された内容を確認すること。							
標準学修時間の目安							
1回の講義あたり予習・復習を含めて4時間の学修が必要である。							
課題（試験やレポート等）のフィードバック							
各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された内容を確認すること。							
使用教科書							
	教科書名		著者名		出版社名		ISBN
1	受講科目シラバスに従う		—		—		—
2							
3							
使用教科書備考							
各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された内容を確認すること。							
参考書・参考資料等							
各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された内容を確認すること。							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う。							
その他							
履修には、本学教務課にて単位互換システムによる履修手続きが必要となる。本学での授業日程が最優先となるため、受講には、単位互換科目を開講している高等教育機関までの往復の時間等を考慮すること。							

授業計画						
第1回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第2回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第3回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第4回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第5回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第6回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第7回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第8回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第9回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第10回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第11回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第12回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第13回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第14回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第15回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
【授業実施方法】 原則として、対面（面接）授業を実施する。対面（面接）授業の実施が困難と判断される場合には、遠隔授業（オンライン・オンデマンド・課題）を併用する。 【アクティブラーニングの導入】 なし						
成績評価の方法 (試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合 (%)	0	0	0	100	0	100
成績評価の基準（ルーブリック）						
到達度	秀逸	優秀	良好	最低限		
授業の到達目標に対する到達度の目安	各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従う科目であるため、そこに記載された到達目標を十分に理解し、その内容を超越するとともに、学びの内容を他者に正確に説明できる。	各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従う科目であるため、そこに記載された到達目標を理解し、その内容に到達するとともに、学びの内容を他者に説明できる。	各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従う科目であるため、そこに記載された到達目標をおおよそ理解し、その内容にある程度(4/5程度)到達するとともに、学びの内容をある程度、他者に説明できる。	各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従う科目であるため、そこに記載された到達目標を最低限理解し、その内容に最低限(3/5程度)到達するとともに、学びの内容を断片的ではあるが、他者に説明できる。		
該当DPに対する到達度の目安	各高等教育機関での授業において、積極的にコミュニケーションを図り、多くの知識と技能を身に付ける。他者と協働して課題を解決し、学んだ知識と技能を生かして適切に情報を発信できる。	各高等教育機関での授業において、コミュニケーションを図り、知識と技能を身に付ける。他者と協働して課題を解決し、学んだ知識と技能を生かして情報を発信できる。	各高等教育機関での授業において、ある程度コミュニケーションを図り、ある程度の知識と技能を身に付ける。他者と協働して課題を解決し、学んだ知識と技能を生かして断片的ではあるが、情報を発信できる。	各高等教育機関での授業において、最低限のコミュニケーションを図り、知識と技能を最低限身に付ける。学んだ知識と技能を生かして他者と協働して課題を解決できる。		

年度	2025	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	30181	ICT活用	—
授業科目名	コンソーシアム基礎教養Ⅳ					実務教員	—
科目	基礎教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等							
配当年次	2年	期間	その他	必修区分			
授業形態	その他	単位数	1	担当形態	—		
教員	保育学科教員						
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP8					
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会力 (DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された到達目標を確認すること。							
授業の概要							
当該科目は、毎年度（前期・後期）、キャンパス・コンソーシアム函館が提供する単位互換科目である。キャンパス・コンソーシアム函館のホームページで単位互換対象科目を確認することができる。受講を希望する場合、各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された授業目標を確認すること。							
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）							
各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された内容を確認すること。							
標準学修時間の目安							
1回の講義あたり予習・復習を含めて2時間の学修が必要である。							
課題（試験やレポート等）のフィードバック							
各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された内容を確認すること。							
使用教科書							
	教科書名		著者名		出版社名		ISBN
1	受講科目シラバスに従う		—		—		—
2							
3							
使用教科書備考							
各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された内容を確認すること。							
参考書・参考資料等							
各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された内容を確認すること。							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う。							
その他							
履修には、本学教務課にて単位互換システムによる履修手続きが必要となる。本学での授業日程が最優先となるため、受講には、単位互換科目を開講している高等教育機関までの往復の時間等を考慮すること。							

授業計画						
第1回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第2回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第3回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第4回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第5回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第6回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第7回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第8回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第9回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第10回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第11回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第12回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第13回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第14回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第15回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
【授業実施方法】 原則として、対面（面接）授業を実施する。対面（面接）授業の実施が困難と判断される場合には、遠隔授業（オンライン・オンデマンド・課題）を併用する。 【アクティブラーニングの導入】 なし						
成績評価の方法 (試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合 (%)	0	0	0	100	0	100
成績評価の基準（ルーブリック）						
到達度	秀逸	優秀	良好	最低限		
授業の到達目標に対する到達度の目安	各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従う科目であるため、そこに記載された到達目標を十分に理解し、その内容を超越するとともに、学びの内容を他者に正確に説明できる。	各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従う科目であるため、そこに記載された到達目標を理解し、その内容に到達するとともに、学びの内容を他者に説明できる。	各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従う科目であるため、そこに記載された到達目標をおおよそ理解し、その内容にある程度(4/5程度)到達するとともに、学びの内容をある程度、他者に説明できる。	各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従う科目であるため、そこに記載された到達目標を最低限理解し、その内容に最低限(3/5程度)到達するとともに、学びの内容を断片的ではあるが、他者に説明できる。		
該当DPに対する到達度の目安	各高等教育機関での授業において、積極的にコミュニケーションを図り、多くの知識と技能を身に付ける。他者と協働して課題を解決し、学んだ知識と技能を生かして適切に情報を発信できる。	各高等教育機関での授業において、コミュニケーションを図り、知識と技能を身に付ける。他者と協働して課題を解決し、学んだ知識と技能を生かして情報を発信できる。	各高等教育機関での授業において、ある程度コミュニケーションを図り、ある程度の知識と技能を身に付ける。他者と協働して課題を解決し、学んだ知識と技能を生かして断片的ではあるが、情報を発信できる。	各高等教育機関での授業において、最低限のコミュニケーションを図り、知識と技能を最低限身に付ける。学んだ知識と技能を生かして他者と協働して課題を解決できる。		

年度	2025	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	30190	ICT活用	－
授業科目名	コンソーシアム函館教養Ⅳ					実務教員	－
科目	基礎教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等							
配当年次	2年	期間	その他	必修区分			
授業形態	その他	単位数	2	担当形態	－		
教員	保育学科教員						
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP8					
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会人力 (DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された到達目標を確認すること。							
授業の概要							
毎年度（前期・後期）、キャンパス・コンソーシアム函館が提供する単位互換科目の中で、函館地域に関連が深い科目を当該科目として設定する。キャンパス・コンソーシアム函館のホームページで単位互換対象科目を確認することができる。受講を希望する場合、各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された授業目標を確認すること。							
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）							
各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された内容を確認すること。							
標準学修時間の目安							
1回の講義あたり予習・復習を含めて4時間の学修が必要である。							
課題（試験やレポート等）のフィードバック							
各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された内容を確認すること。							
使用教科書							
	教科書名		著者名		出版社名		ISBN
1	受講科目シラバスに従う		－		－		－
2							
3							
使用教科書備考							
各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された内容を確認すること。							
参考書・参考資料等							
各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された内容を確認すること。							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う。							
その他							
毎年度（前期・後期）、キャンパス・コンソーシアム函館が提供する単位互換科目の中で、函館地域に関連が深い科目を当該科目として設定する。履修には、本学教務課にて単位互換システムによる履修手続きが必要となる。本学での授業日程が最優先となるため、受講には、単位互換科目を開講している高等教育機関までの往復の時間等を考慮すること。							

授業計画						
第1回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第2回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第3回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第4回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第5回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第6回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第7回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第8回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第9回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第10回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第11回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第12回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第13回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第14回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第15回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
【授業実施方法】 原則として、対面（面接）授業を実施する。対面（面接）授業の実施が困難と判断される場合には、遠隔授業（オンライン・オンデマンド・課題）を併用する。 【アクティブラーニングの導入】 なし						
成績評価の方法 (試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合 (%)	0	0	0	100	0	100
成績評価の基準（ルーブリック）						
到達度	秀逸	優秀	良好	最低限		
授業の到達目標に対する到達度の目安	各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従う科目であるため、そこに記載された到達目標を十分に理解し、その内容を超越するとともに、学びの内容を他者に正確に説明できる。	各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従う科目であるため、そこに記載された到達目標を理解し、その内容に到達するとともに、学びの内容を他者に説明できる。	各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従う科目であるため、そこに記載された到達目標をおおよそ理解し、その内容にある程度(4/5程度)到達するとともに、学びの内容をある程度、他者に説明できる。	各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従う科目であるため、そこに記載された到達目標を最低限理解し、その内容に最低限(3/5程度)到達するとともに、学びの内容を断片的ではあるが、他者に説明できる。		
該当DPに対する到達度の目安	各高等教育機関での授業において、積極的にコミュニケーションを図り、多くの知識と技能を身に付ける。他者と協働して課題を解決し、学んだ知識と技能を生かして適切に情報を発信できる。	各高等教育機関での授業において、コミュニケーションを図り、知識と技能を身に付ける。他者と協働して課題を解決し、学んだ知識と技能を生かして情報を発信できる。	各高等教育機関での授業において、ある程度コミュニケーションを図り、ある程度の知識と技能を身に付ける。他者と協働して課題を解決し、学んだ知識と技能を生かして断片的ではあるが、情報を発信できる。	各高等教育機関での授業において、最低限のコミュニケーションを図り、知識と技能を最低限身に付ける。学んだ知識と技能を生かして他者と協働して課題を解決できる。		

年度	2025	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	30191	ICT活用	—
授業科目名	コンソーシアム函館教養Ⅴ					実務教員	—
科目	基礎教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等							
配当年次	2年	期間	その他	必修区分			
授業形態	その他	単位数	2	担当形態	—		
教員	保育学科教員						
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP8					
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会力 (DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された到達目標を確認すること。							
授業の概要							
毎年度（前期・後期）、キャンパス・コンソーシアム函館が提供する単位互換科目の中で、函館地域に関連が深い科目を当該科目として設定する。キャンパス・コンソーシアム函館のホームページで単位互換対象科目を確認することができる。受講を希望する場合、各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された授業目標を確認すること。							
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）							
各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された内容を確認すること。							
標準学修時間の目安							
1回の講義あたり予習・復習を含めて4時間の学修が必要である。							
課題（試験やレポート等）のフィードバック							
各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された内容を確認すること。							
使用教科書							
	教科書名		著者名		出版社名		ISBN
1	受講科目シラバスに従う		—		—		—
2							
3							
使用教科書備考							
各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された内容を確認すること。							
参考書・参考資料等							
各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された内容を確認すること。							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う。							
その他							
毎年度（前期・後期）、キャンパス・コンソーシアム函館が提供する単位互換科目の中で、函館地域に関連が深い科目を当該科目として設定する。履修には、本学教務課にて単位互換システムによる履修手続きが必要となる。本学での授業日程が最優先となるため、受講には、単位互換科目を開講している高等教育機関までの往復の時間等を考慮すること。							

授業計画						
第1回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第2回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第3回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第4回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第5回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第6回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第7回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第8回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第9回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第10回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第11回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第12回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第13回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第14回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第15回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
【授業実施方法】 原則として、対面（面接）授業を実施する。対面（面接）授業の実施が困難と判断される場合には、遠隔授業（オンライン・オンデマンド・課題）を併用する。 【アクティブラーニングの導入】 なし						
成績評価の方法 (試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合 (%)	0	0	0	100	0	100
成績評価の基準（ルーブリック）						
到達度	秀逸	優秀	良好	最低限		
授業の到達目標に対する到達度の目安	各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従う科目であるため、そこに記載された到達目標を十分に理解し、その内容を超越するとともに、学びの内容を他者に正確に説明できる。	各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従う科目であるため、そこに記載された到達目標を理解し、その内容に到達するとともに、学びの内容を他者に説明できる。	各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従う科目であるため、そこに記載された到達目標をおおよそ理解し、その内容にある程度(4/5程度)到達するとともに、学びの内容をある程度、他者に説明できる。	各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従う科目であるため、そこに記載された到達目標を最低限理解し、その内容に最低限(3/5程度)到達するとともに、学びの内容を断片的ではあるが、他者に説明できる。		
該当DPに対する到達度の目安	各高等教育機関での授業において、積極的にコミュニケーションを図り、多くの知識と技能を身に付ける。他者と協働して課題を解決し、学んだ知識と技能を生かして適切に情報を発信できる。	各高等教育機関での授業において、コミュニケーションを図り、知識と技能を身に付ける。他者と協働して課題を解決し、学んだ知識と技能を生かして情報を発信できる。	各高等教育機関での授業において、ある程度コミュニケーションを図り、ある程度の知識と技能を身に付ける。他者と協働して課題を解決し、学んだ知識と技能を生かして断片的ではあるが、情報を発信できる。	各高等教育機関での授業において、最低限のコミュニケーションを図り、知識と技能を最低限身に付ける。学んだ知識と技能を生かして他者と協働して課題を解決できる。		

年度	2025	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	30192	ICT活用	○
授業科目名	コンソーシアム函館教養VI					実務教員	—
科目	基礎教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等							
配当年次	2年	期間	後期	必修区分			
授業形態	その他	単位数	1	担当形態	オムニバス		
教員	澤辺 桃子／白府 士孝／山下 真由美／伊木 亜子						
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP8					
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会力 (DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
キャンパスコンソーシアム函館が開催する「函館学」の講義をDVDもしくはNCVケーブルテレビ放送等で視聴し、設問に解答することで講義内容の理解を深め、函館地域に関する教養を高める。 □1. 視聴した「函館学」の内容を説明できる。 □2. 視聴した「函館学」の内容に関する設問に対し、適切に解答できる。 □3. 食に関する内容の「函館学」に関連して、調理実習を行い、郷土料理や食材に関する情報を他者に説明できる。							
授業の概要							
「函館学」で実施された講義内容を元に展開する授業である。いくつかの「函館学」の講義を視聴して、その内容を理解するとともにe-ラーニング等を用いて、設問に対する解答を作成して提出する。また、食に関する内容の「函館学」に関連する郷土料理を実際に調理し、試食することで、函館地域の食に関する教養を身に付ける。当該科目は、思考力・判断力のための一般的知識や知的能力を発展させることを目標とする、リベラルアーツ科目である。 当該科目は、一部の授業回で学生の円滑な学修を支援するため、教育助手を配置する。							
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）							
予習は、授業日までに該当する「函館学」のキーワードを下調べしておくこと。復習は、視聴した「函館学」に関する感想を整理してまとめる。準備学習として、図書館等で関連する分野の参考書や資料を用いて情報を把握しておくこと。							
標準学修時間の目安							
1回の講義あたり予習・復習を含めて2時間の学修が必要である。							
課題（試験やレポート等）のフィードバック							
復習テストの結果を模範解答と合わせて返却する。							
使用教科書							
	教科書名		著者名		出版社名		ISBN
1	なし		—		—		—
2							
3							
使用教科書備考							
なし							
参考書・参考資料等							
必要に応じて資料を配付する。							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
実務経験のある教員に該当しない							
その他							
キャンパス・コンソーシアム函館が提供する単位互換科目である。DVDの視聴については、自宅等でNCVケーブルテレビ放映番組による視聴に置き換えることができる。原則として、設問への解答は、e-ラーニングにて実施する。 学外授業や特別講師による授業を実施する場合がある。							

授業計画						
第 1回	オリエンテーション（授業の進め方、e-ラーニング等の使用に関する説明）（澤辺、伊木、白府） 全15回の授業構成と課題提出方法について説明する。また、各自が考える函館の魅力を発表し、ディスカッションする。					
第 2回	「函館学」歴史分野の視聴（前半）（澤辺） 高田屋嘉兵衛の生い立ちについて学ぶ。					
第 3回	「函館学」歴史分野の視聴（後半）（澤辺） 高田屋嘉兵衛が考えたビジネスモデルと精神を学ぶ。					
第 4回	視聴後の感想に関するディスカッションと設問への解答（澤辺） 高田屋嘉兵衛から学んだ内容を函館の未来に生かす方法について意見を発表し、ディスカッションする。					
第 5回	「函館学」社会・環境分野の視聴（前半）（白府） 函館とコンプに関する歴史的、地理的特徴を学び、主要なコンプの種類を学ぶ。					
第 6回	「函館学」社会・環境分野の視聴（後半）（白府） 函館におけるコンプの活用と今後の発展や展望について把握する。					
第 7回	視聴後の感想に関するディスカッションと設問への解答（白府） 函館のコンプを未来に生かす方法について意見を発表し、ディスカッションする。					
第 8回	「函館学」食・食材分野の視聴（前半）（伊木、山下） 函館の豊かな海の幸に関する歴史を学ぶ。					
第 9回	「函館学」食・食材分野の視聴（後半）（伊木、山下） 函館の豊かな海の幸を活用する方法について学ぶ。					
第10回	視聴後の感想に関するディスカッションと設問への解答（伊木、山下） 気候変動による豊かな海の幸の変化を把握し、食の街である函館の未来について意見を発表し、ディスカッションする。					
第11回	調理実習準備①：郷土料理のアレンジメニュー考案（伊木、山下） 函館の郷土料理について学び、アレンジメニューの可能性について検討し、意見を発表する。					
第12回	調理実習準備②：郷土料理の調理手順確認（澤辺、伊木、白府、山下） 函館の郷土料理である「いかめし」、「かぼちゃ団子汁」の調理過程を把握する。					
第13回	調理実習（澤辺、伊木、白府、山下） 函館の郷土料理である「いかめし」、「かぼちゃ団子汁」を調理する。					
第14回	授業内容の振り返り（澤辺、伊木、白府、山下） 3つのトピックスと調理実習の内容から学んだ函館の魅力や発展の方向性について考える。					
第15回	函館教養VIに関する学びについてのプレゼンテーション（澤辺、伊木、白府、山下） 3つのトピックスと調理実習の内容から学んだこと及び生かし方をプレゼンテーションし、ディスカッションする。					
【授業実施方法】 原則として、対面（面接）授業を実施する。対面（面接）授業の実施が困難と判断される場合には、遠隔授業（オンライン・オンデマンド・課題）を併用する。						
ICTを活用した双方向型授業を実施する授業回がある。						
【アクティブラーニングの導入】 「ディスカッション」、「プレゼンテーション」						

【 専門教育科目 】

1 年次配当科目

保育原理	76
教育原理	78
子ども家庭福祉	80
社会福祉	82
子ども家庭支援論	84
社会的養護Ⅰ	86
教職概論	88
教育心理学	90
子どもの保健	92
食育の基礎知識	94
保育内容総論	96
健康	98
人間関係	100
環境	102
言葉	104
表現	106
保育内容（健康）指導法 ...	108
保育内容（人間関係）指導法	110
保育内容（環境）指導法 ...	112
保育内容（言葉）指導法 ...	114
保育内容（表現）指導法 ...	116
乳児保育Ⅰ	118
乳児保育Ⅱ	120
子どもの健康と安全	122
コミュニケーション・スキルⅠ	124
保育実習指導Ⅰ	126
レクリエーション現場実習	128

2 年次配当科目

保育現場の幼児教育	130
子ども家庭支援の心理学 ...	132
幼児理解	134
子どもの食と栄養	136
子どもの医療	138
教育課程総論	140
総合表現指導法	142
特別支援教育	144
社会的養護Ⅱ	146
教育相談	148
コミュニケーション・スキルⅡ	150
子どもの生活や遊び A	152
子どもの生活や遊び B	154
子どもの生活や遊び C	156
保育の記録と伝え合い	158
保育実習Ⅰ	160
保育実習Ⅱ	162
保育実習Ⅲ	164
保育実習指導Ⅱ	166
保育実習指導Ⅲ	168
教育経営論	170
教育の方法と技術	172
幼稚園教育実習事前指導 ...	174
幼稚園教育実習事後指導 ...	176
幼稚園教育実習	178
保育・教職実践演習	180
レクリエーション指導法 ...	182

年度	2025	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	31110	ICT活用	○
授業科目名	保育原理					実務教員	—
科目	専門教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等							
配当年次	1 年	期間	前期	必修区分	保主		
授業形態	講義	単位数	2	担当形態	単独		
教員	咲間 まり子						
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP1, 2, 3, 4, 5, 7					
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会力 (DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
歴史・思想・制度などの視点から保育に関して学び、保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領における保育の基本について理解を深める。 ☐1. 保育の意義について理解し、説明することができる。 ☐2. 保育所保育指針における保育の基本について述べるようになる。 ☐3. 保育の内容と方法の基本について理解し、応用することができる。 ☐4. 保育の思想と歴史の変遷について説明できるようになる。 ☐5. 保育の現状と課題について述べるようになる。							
授業の概要							
歴史・思想・制度などの視点から保育に関して学び、保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領における保育の基本について理解を深める。 基本的には講義形態であるがグループに分かれて課題に取り組みプレゼンテーションを行い、学修者間でディスカッションをする学習方法もとる。							
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）							
教科書にしたがって授業は展開されるので、必ず予習・復習をしてくる。予習:シラバスを一読し、自分なりのイメージや理解をもって参加すること。教科書をよく読んで理解を深めておく。不明な語句については関連する本で調べておくこと。復習: 課題について考えをまとめる。積極的に子どもと関わる機会を持ち、子どもについての理解を深める努力をしてほしい。日頃から保育・幼児教育に関して情報収集し、自らの学習課題を明確にしておくこと。							
標準学修時間の目安							
1 回の講義あたり予習・復習を含めて4時間の学修が望ましい。							
課題（試験やレポート等）のフィードバック							
課題レポートに対するフィードバックは次回の講義に行う。							
使用教科書							
	教科書名	著者名	出版社名	ISBN			
1	保育原理 [第3版]	咲間 まり子 (監修)	株式会社みらい	9784860156534			
2							
3							
使用教科書備考							
保育原理 [第3版] 第3版 はじめて保育の扉をひらくあなたへ 保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領							
参考書・参考資料等							
なし							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
実務経験のある教員に該当しない							
その他							
アクティブラーニングの参加状況も評価する。							

授業計画						
第1回	オリエンテーション 授業の概要、授業の進め方などについて説明する。「保育」という言葉のイメージを自分なりに整理しておくこと					
第2回	保育とは 「保育」とはどういう営みなのかということ、「保育という言葉に込められた意味」の観点から学ぶ					
第3回	子どもの発達と子ども理解 子どもとは何かについて「子ども観」という視点から「子ども」について考えてみる					
第4回	西欧の保育の思想と歴史 子育てや保育実践の発展に貢献した西欧諸国の教育家の思想から、保育の変遷の特色を学ぶ					
第5回	わが国の保育の思想と歴史 わが国の保育が、どのような歴史的・社会的背景のもとに誕生し、発展してきたのかなど、わが国の保育の思想と歴史を学ぶ					
第6回	保育の場 保育の場を家庭・保育所・幼稚園・認定こども園およびその他に分け、それぞれの特徴や役割などについて学ぶ					
第7回	保育の目標と内容 「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」をもとに、日々の営みにある保育の目標と保育の内容について学ぶ					
第8回	保育の方法 子どもが自発的・意欲的に関われるように、保育者が意図して構成した環境のもとでの保育について理解を深める					
第9回	保育の計画 保育において、計画がなぜ必要なのか。そして、指導計画には長期と短期の指導計画があることや、現在の保育の特徴でもある、多様な保育ニーズに応じた計画についても理解を深める					
第10回	保育者の専門性 保育者も大切な環境の一部であることを確認し、保育者の専門性について理解を深める					
第11回	子育て支援と連携 保育者が子育て支援を行うことの意義や根拠など、子育て支援の必要性について学ぶ					
第12回	諸外国の保育 諸外国においてはどのような保育が行われているのか、スウェーデン、アメリカ、韓国の保育を取り上げ、その実践について学ぶ					
第13回	保育の現状と今後の方向性 保育をめぐる近年の状況について学び、子どもや子育て家庭を取り巻く状況として、少子化と待機児童について理解する					
第14回	グループディスカッション 最初に保育についてイメージしたことと現在考える保育について話し合い、その違いについて理解する					
第15回	総復習 第1回～第14回の授業内容について、まとめの小テストを行うので復習して授業に臨むこと					
定期試験						
【授業実施方法】 原則として、対面（面接）授業を実施する。対面（面接）授業の実施が困難と判断される場合には、遠隔授業（オンライン・オンデマンド）を併用する。 ICTを活用した双方向型授業を実施する授業回がある。						
【アクティブラーニングの導入】 「ディスカッション」「グループワーク」						
成績評価の方法 （試験項目）	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合（％）	40	20	20	0	20	100
成績評価の基準（ルーブリック）						
到達度	秀逸	優秀	良好	最低限		
授業の到達目標 に対する 到達度の目安	保育所保育指針の基本原則や歴史的変遷など保育の基本事項を理解し、他者に適切に説明できるとともに、新たな課題への対処を検討できる。	保育所保育指針の基本原則や歴史的変遷など保育の基本事項を理解し、他者に適切に説明できる。	保育所保育指針の基本原則や歴史的変遷など保育の基本事項を理解している。	保育所保育指針の基本原則や歴史的変遷など保育の基本事項について、断片的にしか理解していない。		
該当DPに対する 到達度の目安	保育者の倫理観や社会的役割、保育の基本事項を理解し、身に付けた知識をもって保育への反映が見込めるとともに新たな課題を発見し解決への的確なプロセスを組み立てを検討できる。	保育者の倫理観や社会的役割、保育の基本事項を理解し、身に付けた知識をもって保育への反映が見込めるとともに、新たな課題を発見し解決へのプロセスを組み立てる努力ができる。	保育者の倫理観や社会的役割、保育の基本事項を理解し、身に付けた知識をもって、保育への反映が見込める。	保育者の倫理観や社会的役割、保育の基本事項の理解が断片的であるため、身に付けた知識による保育への反映が十分とは言えない。		

年度	2025	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	31130	ICT活用	○
授業科目名	教育原理					実務教員	○
科目	専門教育科目/教育の基礎的理解に関する科目						
施行規則に定める科目区分または事項等			教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想				
配当年次	1 年	期間	後期	必修区分	卒保幼主		
授業形態	講義	単位数	2	担当形態	単独		
教員	高間 猛						
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP1, 3, 6, 7					
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会力 (DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
本授業のテーマは、教育の基本的概念を学び、歴史的な視点から教育の理念を捉え、教育観、教育制度の変遷を理解することである。到達目標は以下の5つである。 □1. 教育の意義、目的及び教育を成立させる諸要因と諸関係、教育と子ども家庭福祉との関わりについて説明できる。 □2. 教育思想の歴史の変遷について学び、教育に関する基礎的な理論について論述できる。 □3. 教育制度の歴史の変遷について説明することができる。 すなわち、これまでの教育及び学校の営みがどのように捉えられ、変遷してきたのかを理解できる。 □4. さまざまな教育実践について論述できる。 □5. 現代社会における教育の現状と課題を歴史的な視点から論述できる。							
授業の概要							
本授業では、まず、「教育とは何か」「人間にとってなぜ教育は必要なのか」といった教育の基本的概念、教育の本質について検討していく。その上で、教育に関する歴史、教育に関する思想についての理解を深める。							
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）							
授業が始まる前に必ず、学習用のノートを準備しておくこと。 予習は、授業日までに教科書該当ページを読み、質問や感想、自分のなりの考えをノートに整理しておく。復習は、学習した内容をノートに分かりやすく整理しておくこと。							
標準学修時間の目安							
1回の講義あたり、2時間の予習と2時間の復習が必要である。							
課題（試験やレポート等）のフィードバック							
課題提出期間後の授業で、模範的な課題を紹介する。							
使用教科書							
	教科書名	著者名	出版社名	ISBN			
1	教育原理	矢藤誠慈郎・北野幸子編	中央法規出版	978-4-8058-5782-3			
2							
3							
使用教科書備考							
新基本保育シリーズ② 教育原理							
参考書・参考資料等							
幼稚園指導要領、保育所保育指針、幼稚園連携型認定こども園教育・保育要領、その他に授業中に適宜資料を配布する。							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
高間は、学校現場における一般教員経験（24年間）や管理職経験（14年間）の実務経験を生かして、教育の理念と思想、歴史を教授する。							
その他							
教科書の内容理解を深め、論点を整理するために、毎時レジュメを配布する。 ※毎回の授業の流れは、①教科書の論点整理（講義）⇒②論点に関する議論（グループワーク）⇒③議論の共有と「学習のまとめシート」への記入（授業のふり返し）を基本とする。							

授業計画						
第1回 教育の意義について 保育者になるための教育について学ぶ。 第2回 教育の目的について 教育目的の設定や教育理念と教育目的・教育目標について学ぶ。 第3回 乳幼児期の教育の特性について 乳幼児期の発達の特徴や基本について学ぶ。 第4回 教育と子ども家庭福祉の関連性について 児童福祉法と保育士、児童福祉から子ども家庭福祉について学ぶ。 第5回 人間形成と家庭・地域社会について 教育基本法や保育所保育指針と家庭、地域社会について学ぶ。 第6回 諸外国の教育思想について 代表的な教育家の思想を学ぶ。 第7回 諸外国の教育の歴史について 諸外国における公教育の発展について学ぶ。 第8回 日本の教育思想・歴史について 江戸時代の教育、明治期の教育、日本の教育思想について学ぶ。 第9回 子ども観と教育観について 日本及び西洋における近代子ども観の登場と歴史的変遷について学ぶ。 第10回 教育制度の基本について 教育の制度化の起りと日本の近代教育の起こりについて学ぶ。 第11回 教育の法律と行政について 教育を規定する法律と学校運営について学ぶ。 第12回 諸外国の教育制度について 諸外国の教育制度と持続可能な開発のための教育について学ぶ。 第13回 教育実践の基礎について わが国の保育内容と保育方法、保育形態について学ぶ。 第14回 さまざまな教育実践について 諸外国の教育実践（内容・方法・計画と評価）について学ぶ。 第15回 生涯学習社会における教育の現状と課題について 生涯学習概念の展開と生涯学習に関する基礎理論について学ぶ。 定期試験 【授業実施方法】 原則として、対面（面接）授業を実施する。対面（面接）授業の実施が困難と判断される場合には、遠隔授業（オンライン・オンデマンド・課題）を併用する。 ICTを活用した双方向型授業を実施する授業回がある。 【アクティブラーニング】 「ディスカッション」「グループワーク」「プレゼンテーション」						
成績評価の方法 (試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合 (%)	50	0	30	0	20	100
成績評価の基準（ルーブリック）						
到達度	秀逸	優秀	良好	最低限		
授業の到達目標に対する到達度の目安	教育の基本的概念、歴史的な視点からの教育理念、教育観、教育制度の変遷について構造的に理解し、他者にわかりやすく、詳細かつ正確に説明することができる。	教育の基本的概念、歴史的な視点からの教育理念、教育観、教育制度の変遷について理解し、他者に正確に説明することができる。	教育の基本的概念、歴史的な視点からの教育理念、教育観、教育制度の変遷について理解している。	教育の基本的概念、歴史的な視点からの教育理念、教育観、教育制度の変遷について部分的な理解にとどまっている。		
該当DPに対する到達度の目安	保育者の社会的使命を理解し、保育と子育て支援に必要な専門的知識と技術及び倫理観を有し、その知識や技術を他者にわかりやすく伝えることができ、尚且つ自らが学び続けることで、地域社会に貢献しようとする姿勢を身に付けている。	保育者の社会的使命を理解し、保育と子育て支援に必要な専門的知識と技術及び倫理観を有し、その知識や技術を他者に発信することができ、自らが学び続けようとする努力をしている。	保育者の社会的使命を理解し、保育と子育て支援に必要な知識と技術及び倫理観を身に付けている。	必要最低限、保育者の社会的使命を理解し保育と子育て支援に必要な知識と技術及び倫理観を保持しているが、それらは自己成長と地域社会への貢献に関連づけられて理解されていない。		

年度	2025	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	31240	ICT活用	—
授業科目名	子ども家庭福祉					実務教員	○
科目	専門教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等							
配当年次	1 年	期間	後期	必修区分	保ソ主		
授業形態	講義	単位数	2	担当形態	単独		
教員	岡崎 圭子						
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP1, 2, 3, 4, 7					
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会力 (DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
子どもや家庭を取り巻く社会情勢と実態を踏まえ、課題を把握し、子どもの育ちと子育て家庭の支援のあり方を学ぶ。 □1. 現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史の変遷について説明できる。 □2. 子どもの人権擁護について説明できる。 □3. 子ども家庭福祉の制度や実施体系等について説明できる。 □4. 子どもの家庭福祉と現状と課題について説明できる。 □5. 子ども家庭福祉の動向と展望について説明できる。							
授業の概要							
本講義では、現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史の変遷、子どもの人権擁護、子ども家庭福祉の制度や現状と課題について学ぶ。							
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）							
授業は配付プリントで行うので、配付プリントで復習をすること。子どもや子育て家庭に関する新聞やニュースに目を通すこと。また、学生同士でディスカッションを通じて学びの理解を深めること。							
標準学修時間の目安							
1 回の講義あたり予習・復習を含めて4 時間の学修が望ましい。							
課題（試験やレポート等）のフィードバック							
授業のなかで実施する確認テストや課題レポートについては、提出後、チェックし返却する。							
使用教科書							
	教科書名		著者名		出版社名		ISBN
1	なし		—		—		—
2							
3							
使用教科書備考							
必要に応じてプリントを配布する。							
参考書・参考資料等							
児童の福祉を支える子どもと家庭の福祉 吉田真理 萌文書林							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
社会福祉、子どもの育ちと子育て支援分野に関する行政職の経験を生かし授業を行う。							
その他							
なし							

授業計画						
第 1回 子ども家庭福祉の理念と概念 家庭は、社会を映す鏡である。子どもと家庭を取り巻く社会の動きや、子どもと子育てで家庭を孤立させない支援のあり方を学ぶ。 第 2回 子ども家庭福祉の歴史 社会的養護を切り開いた先駆者について学ぶとともに、子ども観の変遷や関係法の歴史について学ぶ。 第 3回 子ども家庭福祉の法律と実施体制 子どもと子育てで家庭を支援する関係法と、その実施機関である行政機関の業務内容等について学ぶ。 第 4回 子どもの人権擁護の歴史の変遷 子どもの権利に対する理解を深めるため、子どもの権利条約に至るまでの歴史や議論経過、条約の理念を学ぶ。 第 5回 障がいのある子どもへの対応 障がいのある子どもへの知識と理解を深めるとともに、合理的配慮のあり方について学ぶ。 第 6回 共生の場としての教育・保育 障がいや貧困など、さまざまな困難を抱えた子どもたちを包含した教育・保育の実践例を学ぶ。 第 7回 子ども・子育て支援新制度Ⅰ 子ども家庭福祉を支える現行制度の仕組みと内容を学ぶ。 第 8回 子ども・子育て支援新制度Ⅱ 子ども家庭福祉を支える現行制度の仕組みと内容を学ぶ。 第 9回 母子保健と子育て支援 子育て世代包括支援センターの活動事例を通して、母子保健を拠点とした早期からの子育て支援のあり方を学ぶ。 第10回 児童虐待とDVⅠ 年々増加を続けている児童虐待の問題について、その現状と支援の実態、連携のシステムなどについて学ぶ。 第11回 児童虐待とDVⅡ 年々増加を続けている児童虐待の問題について、その現状と支援の実態、連携のシステムなどについて学ぶ。 第12回 子どもの貧困 子育て家庭の貧困は、子どもの成長・発達に大きな影響を及ぼす。経済格差を是正し、子どもの将来への希望を実現できる施策のあり方を学ぶ。 第13回 社会的養護 乳児院での子どもの生活の事例を通して、子どもの育ちと養親希望者に関するさまざまな課題を学び理解を深める。 第14回 放課後の子どもの居場所 就学後の子どもの居場所である放課後児童クラブや放課後子供教室、放課後等デイサービスなど子どもの居場所について学ぶ。 第15回 これからの保育と居場所の方向性 「子ども誰でも通園制度」や「第三の居場所」づくりなど、社会のニーズに応じた新たな支援のあり方を学ぶ。 【授業実施方法】 原則として、対面（面接）授業を実施する。対面（面接）授業の実施が困難と判断される場合には、遠隔授業（オンライン・オンデマンド・課題）を併用する。 【アクティブラーニングの導入】 なし」						
成績評価の方法 (試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合（％）	80	0	10	0	10	100
成績評価の基準（ルーブリック）						
到達度	秀逸	優秀	良好	最低限		
授業の到達目標に対する到達度の目安	子どもや子育て家庭を取り巻く課題や支援のあり方などの基本事項を理解し、他者に適切に説明できるとともに、新たな課題への対処を検討できる。	子どもや子育て家庭を取り巻く課題や支援のあり方などの基本事項を理解し、他者に適切に説明できる。	子どもや子育て家庭を取り巻く課題や支援のあり方などの基本事項を理解している。	子どもや子育て家庭を取り巻く課題や支援のあり方などの基本事項を断片的にしか理解していない。		
該当DPに対する到達度の目安	子どもや子育て家庭に対する支援のあり方などの基本事項を理解し、身に付けた知識をもって実際の支援が見込めるとともに、新たな課題を発見し解決への的確なプロセスを組み立てを検討できる。	子どもや子育て家庭に対する支援のあり方などの基本事項を理解し、身に付けた知識をもって実際の支援が見込めるとともに、新たな課題を発見し解決への的確なプロセスを組み立てる努力ができる。	子どもや子育て家庭に対する支援のあり方などの基本事項を理解し、身に付けた知識をもって実際の支援が見込める。	子どもや子育て家庭に対する支援のあり方などの基本事項の理解が断片的であるため、身に付けた知識による実際の支援が十分には見込めない。		

年度	2025	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	31140	ICT活用	○
授業科目名	社会福祉					実務教員	○
科目	専門教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等							
配当年次	1 年	期間	前期	必修区分	保ソ主		
授業形態	講義	単位数	2	担当形態	単独		
教員	長谷山 哲平						
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP1, 2, 3, 4, 7, 9					
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会力 (DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
社会福祉は、現代社会に生活する私たちにとってはなくてはならないものである。しかし、その意義や内容等は、必ずしも正しく理解されていない。社会福祉の歴史的な変遷、制度、動向、課題等を学び、社会福祉の現状について理解を深めることを目的とする。 ☐ 1. 現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷及び社会福祉における子ども家庭支援の視点について論述できる。 ☐ 2. 社会福祉の制度や実施体系等について論述できる。 ☐ 3. 社会福祉における相談援助について論述できる。 ☐ 4. 社会福祉における利用者の保護に関わる仕組みについて論述できる。 ☐ 5. 社会福祉の動向と課題について論述できる。							
授業の概要							
社会福祉の意義と歴史的変遷及び社会福祉における子ども家庭支援の視点、社会福祉の制度や実態体系等、社会福祉における相談援助利用者の保護に係る仕組み、そして、社会福祉の動向と課題について理解を深める。							
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）							
教科書にしたがって授業は展開されるので、予習・復習をしてくること。社会福祉に関する新聞やニュースに目を通すこと。							
標準学修時間の目安							
1 回の講義あたり予習・復習を含めて 4 時間の学修が望ましい。							
課題（試験やレポート等）のフィードバック							
授業の中で実施するテストについては、提出後、回答内容をチェックし返却する。							
使用教科書							
	教科書名		著者名		出版社名		ISBN
1	保育士をめざす人の社会福祉		相澤譲治・杉山博昭 編		株式会社 みらい		978-4-86015-601-5
2							
3							
使用教科書備考							
資料は適宜配布する。							
参考書・参考資料等							
最新保育士養成講座第 4 巻 社会福祉 最新保育士養成講座編纂委員会編 全国社会福祉協議会							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
高齢者へ対する相談員（20年）としての実務経験を活かし、社会福祉制度全般についてを教授する。 社会福祉士、介護福祉士、精神保健福祉士、ケアマネジャー、高等学校1種教諭免許（福祉）							
その他							
・必要な資料等は授業時に配布する。 ・DVDを視聴し、内容についてグループワーク等を実施する。							

授業計画						
第 1回 現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷について① 社会福祉の理念と概念 第 2回 現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷について② 社会福祉の歴史の変遷 第 3回 現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷について③ 子ども家庭支援と社会福祉 第 4回 社会福祉の制度と実施体系について① 社会福祉の制度と法体系 第 5回 社会福祉の制度と実施体系について② 社会福祉行政と実施機関 第 6回 社会福祉の制度と実施体系について③ 社会福祉施設と社会福祉の専門職 第 7回 社会福祉の制度と実施体系について④ 社会保障及び関連制度の概要 第 8回 社会福祉における相談援助について① 相談援助の理論 第 9回 社会福祉における相談援助について② 相談援助の意義と機能 第10回 社会福祉における相談援助について③ 相談援助の対象と過程 第11回 社会福祉における相談援助について④ 相談援助の方法と技術 第12回 社会福祉における利用者の保護に関わる仕組みについて① 情報提供と第三者評価 第13回 社会福祉における利用者の保護に関わる仕組みについて② 利用者の権利擁護と苦情解決 第14回 社会福祉の動向と課題について① 少子高齢化社会における子育て支援、共生社会の実現と障害者施策 第15回 社会福祉の動向と課題について② 在宅福祉・地域福祉の推進、諸外国の動向 定期試験 【授業実施方法】 原則として、対面（面接）授業を実施する。対面（面接）授業の実施が困難と判断された場合には、遠隔授業（オンライン・オンデマンド・課題）を併用する。 I C Tを活用した双方向型授業を実施する授業回がある。 【アクティブラーニングの導入】 「グループワーク」「ディスカッション」						
成績評価の方法 (試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合 (%)	50	10	10	0	30	100
成績評価の基準（ルーブリック）						
到達度	秀逸	優秀	良好	最低限		
授業の到達目標に対する到達度の目安	社会福祉の歴史、法制度、相談援助などの基本事項を理解し、他者に適切に説明できるとともに、新たな課題への対処を検討できる。	社会福祉の歴史、法制度、相談援助などの基本事項を理解し、他者に適切に説明できる。	社会福祉の歴史、法制度、相談援助などの基本事項を理解している。	社会福祉の歴史、法制度、相談援助などの基本事項を断片的にしか理解していない。		
該当DPに対する到達度の目安	社会福祉の基本事項を理解し、身に付けた知識をもって子どもや子育て家庭への支援が見込めるとともに、新たな課題を発見し解決への的確なプロセスを組み立てを検討できる。	社会福祉の基本事項を理解し、身に付けた知識をもって子どもや子育て家庭への支援が見込めるとともに、新たな課題を発見し解決への的確なプロセスを組み立てる努力ができる。	社会福祉の基本事項を理解し、身に付けた知識をもって子どもや子育て家庭への支援が見込めるとともに、新たな課題を発見し解決への的確なプロセスを組み立てる努力ができる。	社会福祉の基本事項の理解が断片的であるため、身に付けた知識による子どもや子育て家庭への支援が十分には見込めない。		

年度	2025	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	31242	ICT活用	○
授業科目名	子ども家庭支援論					実務教員	○
科目	専門教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等							
配当年次	1年	期間	後期	必修区分	保ソ		
授業形態	講義	単位数	2	担当形態	単独		
教員	川村 幾代						
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP1, 2, 3, 4, 6, 7					
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会力 (DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
この授業では、現代の子育ての実態や家庭の現状を踏まえた家庭支援のあり方を学ぶ。子供の健やかな成長・発達を守るためには養育の主な担い手である子育て家庭への支援が鍵となる。また、親が主体性をもって子育てに関われるようにするには、どのような支援が必要か検討することを目的とする。 ☐ 1. 子育て家庭に対する支援の意義・目的を説明できる。 ☐ 2. 保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について説明できる。 ☐ 3. 子育て家庭に対する支援の体制について説明できる。 ☐ 4. 子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状、課題について説明できる。							
授業の概要							
現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史の変遷、子どもの人権擁護、子ども福祉の制度や実施体系、さらには、子ども家庭福祉の現状と課題、子ども福祉の動向と展望について理解を深める。							
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）							
事前に次回講義資料を配布するので、目を通しておくこと。わからない内容は下調べを行っておくことが望ましい。復習は、学習した内容を振り返りシートにまとめる。また、授業後に学生同士のディスカッション等により、学習した内容をさらに掘り下げておくこと。							
標準学修時間の目安							
1回の講義あたり、2時間の予習と2時間の復習が必要である。							
課題（試験やレポート等）のフィードバック							
定期試験（追・再試験対象者発表日）後に模範解答を掲示する。							
使用教科書							
	教科書名		著者名		出版社名		ISBN
1	なし		-		-		-
2							
3							
使用教科書備考							
資料は適宜配布する。							
参考書・参考資料等							
なし							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
子どもへの暴力プログラム（CAP）スペシャリストの資格を生かし、行政にて子育て支援課相談員（6年）の経験をもとに、家庭における子どもの支援の在り方を教授する。							
その他							
授業（学外授業も含む）は、主にPPT資料で進行し、グループワークとディスカッションを行う。質問や要望があるときは振り返りシートに記入すること。							

授業計画						
第1回 子ども家庭支援の意義と役割について① 子ども家庭支援の意義と必要性 第2回 子ども家庭支援の意義と役割について② 子ども家庭支援の目的と機能 第3回 保育士による子ども家庭支援の意義と基本について① 保育の専門性を活かした子ども家庭支援とその意義 第4回 保育士による子ども家庭支援の意義と基本について② 子どもの育ちの喜びの共有 第5回 保育士による子ども家庭支援の意義と基本について③ 保護者及び地域が有する子育てを自ら実践する力の向上に資する支援 第6回 保育士による子ども家庭支援の意義と基本について④ 受容的関わり・自己決定の尊重・秘密保持等 第7回 保育士による子ども家庭支援の意義と基本について⑤ 家庭の状況に応じた支援 第8回 保育士による子ども家庭支援の意義と基本について⑥ 地域の資源の活用と自治体・関係機関等の連携・協力 第9回 子育て家庭に対する支援の体制について① 子育て家庭の福祉を図るための社会資源 第10回 子育て家庭に対する支援の体制について② 子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進 第11回 多様な支援の展開と関係機関との連携について① 子ども家庭支援の内容及対象 第12回 多様な支援の展開と関係機関との連携について② 保育所等を利用する子どもの家庭への支援 第13回 多様な支援の展開と関係機関との連携について③ 地域の子育て家庭への支援 第14回 多様な支援の展開と関係機関との連携について④ 要保護児童等及びその家庭に対する支援 第15回 多様な支援の展開と関係機関との連携について⑤ 子ども家庭支援に対する現状と課題 定期試験 【授業実施方法】 原則として、対面（面接）授業を実施する。対面（面接）授業の実施が困難と判断された場合には、遠隔授業（オンライン・オンデマンド・課題）を併用する。 ICTを活用した双方向型授業を実施する授業回がある。 【アクティブラーニングの導入】 「グループワーク」「ディスカッション」						
成績評価の方法 (試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合 (%)	50	0	30	0	20	100
成績評価の基準（ルーブリック）						
到達度	秀逸	優秀	良好	最低限		
授業の到達目標に対する 到達度の目安	子育て家庭に対する支援の意義と目的、保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義、育て家庭に対する支援の体制、及び子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状・課題について、構造的に理解し、他者にわかりやすく、詳細かつ正確に説明することができる。	子育て家庭に対する支援の意義と目的、保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義、育て家庭に対する支援の体制、及び子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状・課題について、理解し、他者に正確に説明することができる。	子育て家庭に対する支援の意義と目的、保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義、育て家庭に対する支援の体制、及び子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状・課題について、理解している。	子育て家庭に対する支援の意義と目的、保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義、育て家庭に対する支援の体制、及び子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状・課題について、部分的に理解している。		
該当DPに対する 到達度の目安	保育者の社会的使命を理解し、子育て支援に必要な専門的知識と技術及び高い倫理観を保持し、且つ地域の子育て環境を鋭く分析し、その解決に向けた実践について他者とともに構想できる。また、当該授業で得た知識や技術を他者にわかりやすく伝えることができ、自らが学び続けることで、地域社会に貢献しようとする姿勢を身に付けている。	保育者の社会的使命を理解し、子育て支援に必要な専門的知識と技術及び倫理観を保持し、且つ地域の子育て環境を分析し、その解決に向けた実践について検討できる。また、当該授業で得た知識や技術を他者に発信することができ、自らが学び続けることで、地域社会に貢献しようとする姿勢を身に付けようとして努力している。	保育者の社会的使命を理解し、子育て支援に必要な知識と技術及び倫理観を身に付け、地域特性を把握して保育に反映させて考察することができる。	子育て支援に必要な最低限の知識と技術及び倫理観を保持してはいるが、それらを、地域特性との関連で考察することはできない。		

年度	2025	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	31241	ICT活用	○
授業科目名	社会的養護Ⅰ					実務教員	○
科目	専門教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等							
配当年次	1年	期間	後期	必修区分	保ソ		
授業形態	講義	単位数	2	担当形態	単独		
教員	川村 幾代						
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP2, 3, 4, 7					
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会力 (DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
社会的養護は、大別すると、児童福祉施設における養護(施設養護)と社会的養護を必要とする子どもの養育が委託された家庭(里親または養育家庭)における養護(家庭養護)に分類される。社会的養護を必要としている子どもの置かれている環境と取り組みの現状や課題について学ぶことを目的とする。 □1. 現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について説明できる。 □2. 子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について説明できる。 □3. 社会的養護の制度や実施体系等について説明できる。 □4. 社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について説明できる。 □5. 社会的養護の現状と課題について説明できる。							
授業の概要							
現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷、子どもの人権擁護をふまえた社会的養護の基本、社会的養護の制度や実施体系等、社会的養護の対象や形態、関係する専門職、社会的養護の現状と課題について理解を深める。							
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）							
授業前には、あらかじめ資料の当該箇所を読み、関連する事柄について下調べも行うこと。 授業後には、授業の内容について振り返り、当該箇所の資料を読み返し、理解を深めること。							
標準学修時間の目安							
1回の講義あたり、予習・復習を含めて4時間の学修が必要である。							
課題（試験やレポート等）のフィードバック							
再試験対象者には模範的内容を提示し、返却時に指導する。							
使用教科書							
	教科書名		著者名		出版社名		ISBN
1	なし		-		-		-
2							
3							
使用教科書備考							
なし							
参考書・参考資料等							
資料は適宜配布する。							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
子どもへの暴力防止プログラム（CAP）スペシャリストの資格を生かし、行政にて子育て支援課相談員（6年）の経験をもとに我が国の社会的養護に関する制度を教授する。							
その他							
授業（学外授業も含む）は、主にPPT資料で進行し、グループワークとディスカッションを行う。質問や要望があるときは振り返りシートに記入すること。							

授業計画						
第 1回	現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について①					
第 2回	社会的養護を取り巻く状況、理念と概念の理解					
第 3回	現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について②					
第 3回	イギリスや日本における社会的養護の歴史の変遷、その後の経過					
第 3回	社会的養護の基本について①					
第 4回	社会的養護における子どもの権利保障の捉え方、課題の理解					
第 4回	社会的養護の基本について②					
第 4回	社会的養護の基本原則					
第 5回	社会的養護の基本について③					
第 6回	社会的養護における保育士等の倫理と責務、支援における倫理の意味					
第 6回	社会的養護の制度と実施体系について①					
第 7回	社会的養護の制度と法体系、児童福祉法における基本的定義					
第 7回	社会的養護の制度と実施体系について②					
第 7回	社会的養護の仕組みと実施体系					
第 8回	社会的養護の対象・形態・専門職について①					
第 9回	社会的養護を必要とするとき、社会的養護の対象とは					
第 9回	社会的養護の対象・形態・専門職について②					
第 10回	社会的養護の中で家庭養護と施設養護の位置づけ					
第 10回	社会的養護の対象・形態・専門職について③					
第 11回	社会的養護に関わる専門職と求められる専門性					
第 11回	社会的養護の現状と課題について①					
第 12回	社会的養護に関する社会的状況、現代社会における養護問題					
第 12回	社会的養護の現状と課題について②					
第 13回	児童福祉施設の運営主体、施設の運営管理、施設の財源					
第 13回	社会的養護の現状と課題について③					
第 14回	被措置児童等の虐待防止の経緯と定義、被措置児童等虐待の現状と課題					
第 14回	社会的養護の現状と課題について④					
第 15回	社会的養護と社会福祉の関係、地域において今後求められる児童福祉施設の役割					
第 15回	全体のまとめ					
定期試験	社会的養護の課題の明確化と今後の方向性について考える					
なお、本授業には「保育士による児童生徒性暴力等の防止等に関する基本的な指針」（令和6年3月29日改正）の内容が含まれる。						
【授業実施方法】						
原則として、対面（面接）授業を実施する。対面（面接）授業の実施が困難と判断された場合には、遠隔授業（オンライン・オンデマンド・課題）を併用する。						
I C Tを活用した双方向型授業を実施する授業回がある。						
【アクティブラーニングの導入】						
「グループワーク」「ディスカッション」						

年度	2025	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	31120	ICT活用	○
授業科目名	教職概論					実務教員	○
科目	専門教育科目/教育の基礎的理解に関する科目						
施行規則に定める科目区分または事項等			教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）				
配当年次	1年	期間	前期	必修区分	保幼		
授業形態	講義	単位数	2	担当形態	オムニバス		
教員	小林 博子／高間 猛						
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP3, 7					
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会力 (DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
☐ 1. 教職の意義、教員の役割どのような職業か説明できる。 ☐ 2. 教員に求められる専門性・実践的能力、資質・能力、職務内容等について説明できる。 ☐ 3. 自らめざす教師・保育士とその他の自己課題について具体的に説明できる。 ☐ 4. 教員の資質向上＜成長する教師・学び続ける教師＞、協働、キャリア形成について説明できる。 ☐ 5. 教師教員の服務・倫理、および制度的位置づけ等について説明できる。							
授業の概要							
教員の職務は、人間の心身の発達に直接関わり人格形成に大きな影響を及ぼすもので、高い専門性と実践的指導力が要求される。教職概論は、教師・保育者の職務と備えるべき条件を概括的に取り上げ教職の全体像を把握し、専門職としての基礎を確立するものである。この授業では、公教育の目的、教職の意義、教師・保育者の役割・資質・能力、職務内容、服務など教職等に必要な知識及び技能等に関する学習を通して、教職の魅力や教職への意欲、適性、教員等の資質能力の向上を図る研修などの必要性・重要性について理解を深めることを目標としている。							
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）							
授業前に、(1)資料等を読み、重要語・注目語等にマーキングする。(2)重要語・注目語等の語彙・意味を辞書・事典等で調査し、予習ノートに記述する。(3)併せて資料の主張等を整理し概要をまとめるとともに疑問点等をもとに予習ノートに作成し、授業に持参する。授業後に、(4)授業における学びをノートにまとめる。							
標準学修時間の目安							
1回の講義あたり予習・復習を含めて4時間の学修が必要である。							
課題（試験やレポート等）のフィードバック							
課題提出期限後の授業で模範的な課題を紹介する。							
使用教科書							
	教科書名		著者名		出版社名		ISBN
1	なし		—		—		—
2							
3							
使用教科書備考							
授業中に適宜資料を配布する。							
参考書・参考資料等							
なし							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
小林は、41年間幼稚園教諭・園長としての職にあり、これまで多くの保育者を育ててきた実績から、専門的職業人としての基礎を教授する。高間は、学校教育現場における一般教員経験（17年間）や管理職経験（15年間）の実務経験を生かして、教職の意義や役割を教授する。							
その他							
・ノートあるいはレポート等は点検し、評価する。							

授業計画						
第 1回 オリエンテーション（小林、高間） 教職概論の全体像と保育者の実践について学ぶ。 第 2回 公教育の目的と教職・保育者の意義・職業の特徴と教職観の変遷、保育者の役割、職務内容、倫理について（小林、高間） 公教育とは何かを考えると共に、保育者としての役割や実践論について学ぶ。 第 3回 理想の教師・保育士像と教員免許法・児童福祉法における規定、資格・要件について（高間） 理想の保育者像を考えると共に、求められる資質や専門性を学ぶ。 第 4回 今日の教師に求められている役割・専門性・実践的指導力・資質能力と専門職として実践的指導力向上について（高間） 今日の教師に求められる役割や専門性を考え、実践的な指導力を身に付けるために学ぶ。 第 5回 幼児への指導及び指導以外の校務を含めた教員の職務内容の全体像、保育士の資質・能力について（高間） 保育者の職務の全体像を理解すると共に、実践的な内容について学ぶ。 第 6回 教員・保育者の役割・職務内容・職業的特徴と教員の任用と服務上・身分上の倫理・義務等制度上の位置づけについて（高間） 教員・保育者の制度上の位置づけを知ると共に実践的に学ぶ。 第 7回 教職員や多様な専門性を持つ人材と効果的に連携・分担し、チームとして組織的に諸課題への対応について（高間） 組織的な諸課題への対応と多様な人材との連携分担を理解すると共に、実践的に学ぶ。 第 8回 保育の専門職間・専門機関そして家庭・保護者との連携・協働について（高間） 家庭との連携について具体的に学ぶと共に、どのように協働していくことが必要なのか学ぶ。 第 9回 発達気になる子に寄り添う教師・保育者と家庭・保護者との連携・支援について（高間） 保育者支援について具体例を通して理解すると共に、保護者を巻き込んだ実践的に学ぶ。 第10回 地域における自治体や関係機関等・家庭との連携・協働・支援における教師・保育者について（高間） 自治体や関係機関との連携を学ぶと共に、そのことがどう家庭と結びつくかについて学ぶ。 第11回 教師・保育士の資質・能力向上とキャリア形成・研修の制度上の位置づけ・組織的取り組みとリーダーシップ、生涯学び続ける必要性について（高間） 生涯学習の視点から保育者の在り方と保育者の実践について学ぶ。 第12回 養護と教育の一体的展開について（高間） 養護について具体的に学ぶと共に保育者の実践について学ぶ。 第13回 計画に基づく実践と省察・評価と保育の質の向上について（高間） 保育計画に基づく具体的な実践とその評価の仕方について学ぶ。 第14回 これからの保育と教師・保育者と進路選択・採用選考・準備等について（高間） これからの保育を考えると同時に就職に向けて学ぶ。 第15回 まとめ（振り返り等）（高間） 教職概論で学んだことを振り返ると共に、これからの保育実践について学ぶ。						
【授業実施方法】 原則として、対面（面接）授業を実施する。対面（面接）授業の実施が困難と判断される場合には、遠隔授業（オンライン・オンデマンド・課題）を併用する。 ICTを活用した双方向型授業を実施する授業回がある。 【アクティブラーニング】 「ディスカッション」「グループワーク」						
成績評価の方法 (試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合（％）	50	0	30	0	20	100
成績評価の基準（ルーブリック）						
到達度	秀逸	優秀	良好	最低限		
授業の到達目標 に対する 到達度の目安	教職の魅力や教職への意欲・適性、教員等の資質能力の向上を図る研修などの必要性・重要性について理解し学び続ける保育者として自己学習を進める計画を検討できる。	教職の魅力や教職への意欲・適性、教員等の資質能力の向上を図る研修などの必要性・重要性について理解しそれらを他者に伝えることができる。	教職の魅力や教職への意欲・適性、教員等の資質能力の向上を図る研修などの必要性・重要性について理解している。	教職の魅力や教職への意欲・適性、教員等の資質能力の向上を図る研修などの必要性・重要性について断片的であるが理解している。		
該当DPに対する 到達度の目安	保育者の社会的使命を理解し、専門的職業人としての高い倫理観を保持し、子どもの成長を促し社会に貢献しようとする。	保育者の社会的使命を理解し、専門的職業人としての高い倫理観を保持し、子どもの成長を促し社会に貢献しようとするとともに他者への情報発信力を身につけている。	保育者の社会的使命を理解し、専門的職業人としての倫理観を身につけ、子どもの成長を促し社会に貢献しようとするとともに情報発信力にむけ努力することができる。	保育者の社会的使命を理解し、専門的職業人としての倫理観を身につけ、子どもの成長を促し社会に貢献しようとするが難しい。		

年度	2025	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	32110	ICT活用	○
授業科目名	教育心理学					実務教員	—
科目	専門教育科目/教育の基礎的理解に関する科目						
施行規則に定める科目区分または事項等			幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程				
配当年次	1年	期間	後期	必修区分	保幼心		
授業形態	講義	単位数	2	担当形態	単独		
教員	赤坂 和哉						
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP1, 5, 9					
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会力 (DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
人間の発達と学習諸理論の心理学的ベースと幼稚園教育 ☐ 1. 教育心理学の基礎的な理論や概念を理解し、説明できる。 ☐ 2. 乳幼児期の各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解し、説明できる。 ☐ 3. 教育、保育に関する様々な事象を心理学的な観点から理解できる。 ☐ 4. 学習意欲、動機付け等について臨床例をもとに理解できる。							
授業の概要							
発達、学習、人格・適応、測定、評価など教育心理学の基礎的な理論を学び、教育に関する様々な事象を心理学的な観点から理解できるようにすること、特に乳幼児の心身の発達や学習について理解を深め、教育・保育の実践や支援に必要な心理学的な基礎を身につけることをめざす。さらに、幼児の心身の発達を踏まえ、主体的な学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解する。							
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）							
・予習や準備学習：図書館にある「教育心理学」という言葉が入っている図書等で、シラバスに示されている各回の内容を一読して、資料の下調べをしておくこと。 ・復習：毎回様々な心理学用語が出てくるので、それが何を意味するのか理解し、資料の下調べにて理解を深めること。							
標準学修時間の目安							
1回の講義につき、2時間の予習と2時間の復習が望ましい。							
課題（試験やレポート等）のフィードバック							
定期試験後、再試験対象者のみに問題解答用紙を開示する。 尚、解答は研究室前の掲示板に掲示する。							
使用教科書							
	教科書名	著者名	出版社名	ISBN			
1	なし	—	—	—			
2							
3							
使用教科書備考							
授業中に適宜資料を配布する。							
参考書・参考資料等							
服部環・外山美樹『スタンダード教育心理学』（サイエンス社、2015年） 古川聡『教育心理学をきわめる10のチカラ』（福村出版、2018年）							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
実務経験のある教員に該当しない。							
その他							
・中間試験は口述試験に類する形で実施予定。 ・授業の進行状況に応じて、グループディスカッションやグループワークを行う。							

授業計画						
第1回 オリエンテーション：教育心理学について 子どもの発達を理解することの意義、発達概念、教育における発達理解の意義 第2回 発達について① 遺伝と環境、発達の原理と諸理論、外的及び内的要因の相互作用、子どもの発達と環境 第3回 発達について② 乳幼児期から児童期の運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達とその具体的内容、乳幼児期の学びに関わる理論 第4回 発達について③ 思春期から青年期の運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達とその具体的内容 第5回 発達について④ 子どもの発達に関する代表的理論と発達概念の整理、発達理論と子ども観・保育観 第6回 様々な学習の形態・概念とその理論について 学習に関する基礎的理解とその過程を説明する代表的理論 第7回 記憶について 認知革命、貯蔵庫モデル、記憶の分類、忘却 第8回 動機づけについて 主体的学習を支える動機づけと発達の特徴の関連、動機づけの諸理論 第9回 言語・社会情動的発達、認知の発達について 乳幼児期の言葉の発達、コミュニケーションの分類、対人関係と仲間集団の発達 第10回 知能の発達と個人差について 知能に関する様々なモデル、知能検査と発達検査、個人差とその意味 第11回 パーソナリティ、適応について パーソナリティの形成過程、パーソナリティの諸理論、特徴のあるパーソナリティ、社会への適応の意味 第12回 乳幼児期の学びの過程と特性と乳幼児期の学びを支える保育について 生活の中での学び、遊びの中での学び、遊びと子ども集団の発達 第13回 測定・尺度、学習評価について 尺度と評価の種類、主体的学習を支える学習評価の在り方と発達の特徴との関連 第14回 幼稚園、保育園での発達に即した援助の基本と実践的活用について 保育所保育指針等における発達の記述、主体的学習を支える集団づくりとの関連、事例検討 第15回 主体的な学習活動を支える指導のあり方について 保育における主体性、個人差や特性を考えるポイント、幼児の心身の発達を踏まえた指導 【授業実施方法】 原則として、対面（面接）授業を実施する。対面（面接）授業の実施が困難と判断される場合には、遠隔授業（オンライン・オンデマンド・課題）を併用する。 ICTを活用した双方向型授業を実施する授業回がある。 【アクティブラーニングの導入】 「ディスカッション」、「ディベート」、「グループワーク」						
成績評価の方法 (試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合(%)	55	0	0	0	45	100
成績評価の基準（ルーブリック）						
到達度	秀逸	優秀	良好	最低限		
授業の到達目標 に対する 到達度の目安	教育心理学の基礎的な理論や概念を理解すると共に、人間の各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を十分に理解し教育、保育に関する様々な事象を心理学的な観点から説明でき、実践に応用できる。	教育心理学の基礎的な理論や概念を理解すると共に、人間の各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を十分に理解し教育、保育に関する様々な事象を心理学的な観点から説明できる。	教育心理学の基礎的な理論や概念を理解すると共に、人間の各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解し教育、保育に関する様々な事象を心理学的な観点から考えることができる。	教育心理学の基礎的な理論や概念、人間の各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を、言葉の上で理解している。		
該当DPに対する 到達度の目安	保育と子育て支援に必要な知識と技術を有すると共にその知識と技術を生かして物事を適切に評価でき、様々な場面に応用できる。また、他者への思いやりと柔軟な対応力を身につけている。	保育と子育て支援に必要な知識と技術を有すると共にその知識と技術を生かして物事を適切に評価できる。また、他者への思いやりと柔軟な対応力を身につけている。	保育と子育て支援に必要な知識と技術を有し、その知識と技術を生かして物事を適切に評価する努力をすることができる。また他者への思いやりと柔軟な対応力の重要性を理解している。	保育と子育て支援に必要な最低限の知識と技術を有し物事を適切に評価する努力をすることができる。また他者への思いやりと柔軟な対応力の重要性を理解している。		

年度	2025	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	32130	ICT活用	○
授業科目名	子どもの保健					実務教員	○
科目	専門教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等							
配当年次	1 年	期間	前期	必修区分	保		
授業形態	講義	単位数	2	担当形態	単独		
教員	川村 幾代						
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP1, 4, 5					
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会力 (DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
子どもの心身の健康増進を図る保健活動や身体的な発育・発達と保健について理解する。また、子どもの心身の健康状態の把握の方法について理解し、疾病とその予防法や他職種間の連携・協働の下での適切な対応について理解する。 ☐ 1. 子どもの保健活動の意義を説明し、身体発育、生理・運動・精神機能を理解できる。 ☐ 2. 子どもの精神保健とその問題・課題を理解し説明できる。 ☐ 3. 感染症、予防接種、子どもに多い疾病やその適切な対応を理解し、発表できる。							
授業の概要							
健康の概念を把握し、現代の子どもの健康についての現状や課題を認識し、心身の健全な発達及び健康増進について理解する。さらには子どもの疾病やその予防法についても理解を深めるとともに、他職種間の連携の在り方や協働の下での適切な対応について理解を深める。							
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）							
【予習】 授業日までにテキストの該当箇所を読み、わからないところは資料の下調べを行い、理解しておくこと。 【復習】 提示された課題に取り組み、不明点等あれば、テキストの該当部分を読み返し、学生同士でのディスカッションなどで解消しておく。 【準備学習】 乳幼児および健康に関する最新の情報を得るために、日ごろから意識して新聞やニュースを見聞きする。							
標準学修時間の目安							
1回の講義あたり、予習・復習を含めて4時間の学修が望ましい。							
課題（試験やレポート等）のフィードバック							
再試験対象者には模範的内容を提示し、返却時に指導する。							
使用教科書							
	教科書名		著者名		出版社名		ISBN
1	わかりやすい子どもの保健		飯島一誠		総合医学社		978-4-88378-986-3
2							
3							
使用教科書備考							
資料は適宜配布							
参考書・参考資料等							
なし							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
病院、施設、行政の看護師実務経験（15年）から子どもの保健について根拠のある実践的な知識を教授していく。							
その他							
・特に重要な内容については課題を提示するので、グループでのディスカッションおよびグループワークを行い、その結果をプレゼンテーションしてもらう。							

授業計画						
第 1回	生命の維持と情緒の安定に係る保健活動の意義と目的について 子どもの健康と子どもを取り巻く環境について					
第 2回	健康の概念と健康指標について 出生動向、妊産婦死亡、周産期死亡、乳児死亡、子どもの死亡原因について					
第 3回	現代社会における子どもの健康に関する現状の把握について 子どもの健康に影響を与える環境やライフスタイルの現状を理解する					
第 4回	現代社会における子どもの健康に関する諸課題について 肥満・痩身、生活習慣の乱れ、メンタルヘルスの問題、アレルギー疾患の増加、性に関する問題のほか、時代の変化とともに新たに生じる多様な健康問題について					
第 5回	地域における保健活動と子どもの虐待防止について 子どもの虐待の現状と虐待防止対策					
第 6回	身体発育及び運動機能の発達と保健について 子どもの身体発育、運動機能の発達について理解する					
第 7回	生理機能の発達と保健について 臓器の発育、水分代謝、呼吸、循環、体温、消化、口腔について理解する					
第 8回	健康状態の観察について 子どもの健康状態の把握、観察ポイントを理解する					
第 9回	心身の不調等の早期発見について 体調のよくない子どもへの対応方法を理解する					
第10回	発育・発達の把握と健康診断について 身体測定方法：身長、体重、頭囲、胸囲の測定。発育を評価する方法を学ぶ					
第11回	子どもの健康状態の記録について 母子健康手帳、健康診断の記録、子どもの健康状態の記録方法					
第12回	子どもの健康状態の伝達と保護者との情報共有について 連絡帳や保健だより、福祉機関との連携について学ぶ					
第13回	主な子どもの疾病の特徴について 子どもがかかりやすい病気の特徴と対応					
第14回	子どもの疾病の予防について 予防できる疾患の対策方法を理解する					
第15回	子どもの疾病に対する適切な対応について 保育所でよく見かける病気について理解する					
【授業実施方法】 原則として、対面（面接）授業を実施する。対面（面接）授業の実施が困難と判断される場合には、遠隔授業（オンライン・オンデマンド・課題）を併用する。 ICTを活用した双方向型授業を実施する授業回がある。						
【アクティブラーニングの導入】 「グループワーク」「ディスカッション」「プレゼンテーション」						
成績評価の方法 (試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合（％）	50	0	20	0	30	100
成績評価の基準（ルーブリック）						
到達度	秀逸	優秀	良好	最低限		
授業の到達目標 に対する 到達度の目安	子どもの心身の健康に必要な知識（発育・発達、観察のポイント、感染症と予防接種、子どもの疾病、体調不良時の適切な対応等）について理解し、それらを他者に詳細な情報を含めて正確に伝えることができ、予測される問題に適切に対応できる。	子どもの心身の健康に必要な知識（発育・発達、観察のポイント、感染症と予防接種、子どもの疾病、体調不良時の適切な対応等）について理解し、それらを他者に正確に伝えることができる。	子どもの心身の健康に必要な知識（発育・発達、観察のポイント、感染症と予防接種、子どもの疾病、体調不良時の適切な対応等）について、理解している。	子どもの心身の健康に必要な知識（発育・発達、観察のポイント、感染症と予防接種、子どもの疾病、体調不良時の適切な対応等）について、断片的に理解している。		
該当DPに対する 到達度の目安	子育て支援に必要な子どもの健康と保健の知識を身に付け、それを生かして子どもの成長を促すことができる。また、子育て環境における子どもの健康の課題や問題を的確に認識し、解決に向けて計画的に考え、答えを導き出すとともに、評価できる。	子育て支援に必要な子どもの健康と保健の知識を身に付け、それを生かして子どもの成長を促すことができる。また、子育て環境における子どもの健康の課題や問題を見つけ出し、解決に向けて計画的に考え、答えを導き出すことができる。	子育て支援に必要な子どもの健康と保健の知識を身に付け、それを生かして子どもの成長を促すことができる。また、子育て環境における子どもの健康の課題や問題を見つけ出し解決に向けて考えることができる。	子育て支援に必要な子どもの健康と保健の知識を身に付け、それを生かして子どもの成長を促すことができる。また、子育て環境における子どもの健康の課題や問題を見つけ出すことができる。		

年度	2025	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	32140	ICT活用	○
授業科目名	食育の基礎知識					実務教員	—
科目	専門教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等							
配当年次	1 年	期間	前期	必修区分	[保選] 食		
授業形態	講義	単位数	2	担当形態	オムニバス		
教員	清水 陽子／山下 真由美						
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP1, 4, 8					
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会力 (DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
栄養に関する基本的な知識を習得して、健康維持のために正しい選択力や知識を身に付ける。また、現代の子どもの食事情について現状や課題を理解する。 □1 5大栄養素の働きを説明できる。 □2 消化・吸収のしくみについて説明できる。 □3 食習慣と健康の関係を説明できる。 □4 健全な食生活を営むための食に関する正しい選択力や知識を身に付けることができる。 □5 食育の必要性を理解し、その取り組みについての考えを持つことができる。 □6 食育推進活動を目的とした食育教材の開発及び実践に取り組むことができる。							
授業の概要							
本講義では、保育者として子どもの食生活や栄養について学んだ知識を保育の現場で実践し発展させることができる力を養う。食育基本法及び保育所保育指針の「食育の推進」の内容を踏まえて、授業前半では、健全なる心身と豊かな人間形成を目指す「食習慣・栄養・消化吸収のしくみ等」の理論を学ぶ。授業後半では、前半に学修した理論をもとに子どもを対象とした「食育教材の開発（制作）」を行う。また、開発した教材を用いて保育実践を構想する。授業のまとめでは、「食育推進実践発表会」を行い、保育現場において「食育推進活動」を構想し、実践出来る保育者を目指して学修に取り組む。さらに、昨今の課題であるSDGs及びグリーン・トランスフォーメーション（GX）に配慮した食のあり方について、食品ロスや食の選択・消費等の視点から認識を高める。							
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）							
・事前学習：配布した次回の講義に使用するプリントを予め読んでおく。わからないところは資料の下調べを行い理解しておくこと。 ・食育の推進に向けた教材開発は授業のみに限らず、授業外学習時間を有効に活用し、主体的に準備を進めること。							
標準学修時間の目安							
1回の講義あたり予習・復習を含めて4時間の学修が必要である。							
課題（試験やレポート等）のフィードバック							
定期試験後に再試験対象者にのみ、課題（試験やレポート等）を返却する。							
使用教科書							
	教科書名		著者名		出版社名		ISBN
1	なし		—		—		—
2							
3							
使用教科書備考							
なし							
参考書・参考資料等							
心・栄養・食べ方を育む 乳幼児の食行動と食支援 巷野悟郎・向井美恵・今村榮一/監修 医歯薬出版							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
実務経験のある教員に該当しない。							
その他							
・必要な資料等は授業時に配布する。 ・第1回から第9回では、食育に関する基礎知識を学ぶ。第10回から第15回では、食育の基礎知識の理論を基に保育・幼児教育の食育の推進に向け教材開発を行う。「食育推進実践発表会」では、楽しく分かりやすい食育の実践発表表に取り組み授業のまとめを行う。							

授業計画						
第1回目 オリエンテーション（清水・山下） 授業概要の説明、食育実践例の紹介、食育基本法の概要、保育所で求められる食育、おやつ上手なとり入れ方 第2回目 栄養素の基礎知識①（清水） 栄養素の種類と働き、体の構成成分、ホメオスタシス、たんぱく質の特徴（たんぱく質の構造、必須アミノ酸、アミノ酸スコア）、血液の成分と役割 第3回目 栄養素の基礎知識②（清水） 脂質の特徴（脂質の構造、脂肪酸の種類）、高血圧の要因、ファイトケミカル、減塩の工夫 第4回目 栄養素の基礎知識③（清水） 炭水化物の特徴（糖質の種類、糖質の働き）、エネルギーの産生経路、時計遺伝子、朝食の重要性 第5回目 栄養素の基礎知識④（清水） ビタミン・ミネラルの特徴（種類、働き、有効な摂取法）貧血の種類、骨粗鬆症、ロコモティブシンドローム、サルコペニアの概要 第6回目 消化と吸収のしくみ①（清水） 栄養と消化の意味、口腔・胃の構造と機能、体調に合わせた食事の選択方法の紹介 第7回目 消化と吸収のしくみ②（清水） 小腸・大腸の構造と機能、食物繊維の種類と働き、腸内細菌、脳腸相関の概要 第8回目 食習慣と健康①（清水） 健康の概念、ライフステージにおける体の特徴・食行動の傾向・栄養上の課題、メタボリックシンドローム、BMI、料理の単位（主食・主菜・副菜）、上手な献立の組み合わせ 第9回目 子どもの食の問題と気になる行動（清水） 子どもの食生活の現状と課題、食物アレルギーの概要、保育所における基本的な食物アレルギー対応 第10回 現代的課題を踏まえた食育教材構想－食育教材開発1－（山下） 保育・幼児教育における食育の推進についての理解、SDGsやGX（グリーントランスフォーメーション）に配慮した「食のあり方」について 第11回 子どもの発達を踏まえた食育教材構想－食育教材開発2－（山下） 食育基本法・保育所保育指針「食育の推進」の理念と教材開発の視点、多様な表現技法を教材開発に活用する方法 第12回 食育教材開発の制作・完成に向けて－食育教材開発3－（山下） 開発した食育教材を用いた保育実践への展開（企画・構想・実践） 第13回 子どもの興味・関心を引き付ける食育教材のプレゼンテーション－食育教材開発4－（山下） 【食育推進実践発表会】に向けて作成した食育教材を用いた保育実践の練習と準備 第14回 保育・幼児教育における【食育推進実践発表会】①前半（山下・清水） 【食育推進実践発表会】（前半）において、作成した教材を用いた保育実践と振り返り、観察シート記入 第15回 保育・幼児教育における【食育推進実践発表会】②後半（山下・清水） 【食育推進実践発表会】（後半）において、作成した教材を用いた保育実践と振り返り、観察シート記入、授業のまとめ 【授業実施方法】 原則として、対面（面接）授業を実施する。対面（面接）授業の実施が困難と判断される場合には、遠隔授業（オンライン・オンデマンド・課題）を併用する。 ICTを活用した双方向型授業を実施する授業回がある。 【アクティブラーニングの導入】 「プレゼンテーション」「グループワーク」「ディスカッション」「フィールドワーク」						
成績評価の方法 （試験項目）	筆記（定期試験・小テスト）	口述・実技等	論文（レポート・課題等）	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合（％）	50	40	0	0	10	100
成績評価の基準（ルーブリック）						
到達度	秀逸	優秀	良好	最低限		
授業の到達目標 に対する 到達度の目安	栄養に関する基本的な知識（5大栄養素の働き、消化・吸収のしくみ等）を理解し、食に関する正しい選択力や知識を身につけるとともに、現代の食育における課題に対して保育者の立場で提案と適切なプレゼンテーションができる。	栄養に関する基本的な知識（5大栄養素の働き、消化・吸収のしくみ等）を理解し、食に関する正しい選択力や知識を身につけ、保育者として食育の必要性を表現によって十分に伝えることができる。	栄養に関する基本的な知識（5大栄養素の働き、消化・吸収のしくみ等）を理解し、ある程度表現で伝えることができる。	栄養に関する基本的な知識（5大栄養素の働き、消化・吸収のしくみ等）を断片的に理解しているが、表現による伝え方が不十分である。		
該当DPに対する 到達度の目安	現代の食育における課題や問題を自ら見つけ出し、身につけた知識で的確に認識して解決に結びつけるとともに、保育者として他者へ発信することができる。	現代の食育における課題や問題と身につけた知識を関連づけることができ、他者への発信、課題解決に向けて努力することができる。	現代の食育における課題や問題と身につけた知識を関連づけることができ、他者への発信ができる。	現代の食育における課題や問題と身につけた知識をある程度、関連づけることができ、他者の協力を得ながら発信することができる。		

年度	2025	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	33120	ICT活用	○
授業科目名	保育内容総論					実務教員	—
科目	専門教育科目/領域及び保育内容の指導法に関する科目						
施行規則に定める科目区分または事項等			保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）				
配当年次	1 年	期間	前期	必修区分	保幼		
授業形態	演習	単位数	1	担当形態	単独		
教員	白府 士孝						
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP1, 2, 3, 5, 6, 8					
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会力 (DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
幼児教育の環境を構成し実践するために必要な知識を身に付ける。5 領域のねらい及び内容とのつながりを確認し、主体的・対話的で深い学びにより、幼児が遊びを通して育つことを理解する。 □1. 幼児期の教育における見方・考え方について具体的な事例を挙げて説明できる。 □2. 遊びを通しての総合的な指導の意義と教師の役割が説明できる。 □3. 幼稚園教育における幼児理解に基づく評価の考え方について説明できる。 □4. 幼稚園教育と小学校教育との円滑な接続について説明できる。							
授業の概要							
本講義では、園生活全体を通して総合的に指導するという指導の考え方を理解し、具体的に幼児の姿と関連づけながら環境を構成し、実践するために必要な知識並びに技能を身に付ける。							
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）							
予習：授業に関連する項目について、『保育所保育指針』等を熟読しておくこと。 復習：授業で学んだ点、疑問点、自分で調べた事項などをポイントシートに整理しておくこと。							
標準学修時間の目安							
1 回の講義あたり0.5時間の予習と1.5時間の復習が必要となる。							
課題（試験やレポート等）のフィードバック							
レポートの提出後、コメントや評価を付して返却すると共に、模範的なものについては、授業の中で紹介していく。							
使用教科書							
	教科書名		著者名		出版社名		ISBN
1	なし		—		—		—
2							
3							
使用教科書備考							
使用しない。							
参考書・参考資料等							
授業中に適宜資料を配布。 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定子ども園教育・保育要領							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
実務経験のある教員に該当しない。							
その他							
・本科目履修生は、資料を綴るA4ファイルを持参すること。 ・ポイントシートあるいはレポートなどは点検し、評価する。							

授業計画						
第 1回	保育の基本と全体構造 要領・指針に基づく保育の基本及び保育の全体構造と保育内容を理解する。					
第 2回	保育内容の基本的考え方と保育内容の歴史の変遷 子どもの発達や生活に即した保育内容の基本的考え方と指導上の留意点、保育内容の歴史の変遷と社会的背景を理解する。					
第 3回	子どもの主体性と環境 子どもの主体性を尊重した保育、環境を通し行う保育、家庭、地域、小学校の教科等のつながりを踏まえた保育を理解する。					
第 4回	保育内容の展開と5領域のつながり 保育の基本を踏まえた、保育内容の展開と5領域のねらい及び内容のつながりについて。養護及び教育が一体的に展開する保育					
第 5回	生活や遊びを通しての保育 生活や遊びを通しての総合的な指導の意義、個と集団の発達を踏まえた保育、保育者の役割について。					
第 6回	保育における指導計画の考え方 指導計画（年間計画・月案・週案）の考え方について理解する。					
第 7回	保育における指導計画の作成 幼児の具体的な姿から指導計画を作成する手順・配慮点を説明できる。					
第 8回	保育における指導計画と評価 指導計画の評価の考え方を説明できる。					
第 9回	保育園の行事のあり方 幼児にとっての行事の意味を理解し、園行事のあり方を説明できる。					
第10回	情報機器及び視聴覚教材の活用① 情報機器及び視聴覚教材を活用した保育園の運営について理解する。					
第11回	情報機器及び視聴覚教材の活用② 情報機器及び視聴覚教材を活用した保育内容について理解する。					
第12回	指導案の作成① 指導案の構成を理解し、具体的なテーマをもって指導案を作成する。					
第13回	指導案の作成① 指導案の振り返りと保育の改善の視点を学ぶ。					
第14回	幼児理解と保育内容の改善 保育実践の動向を知り、保育を改善する視点を身につける。幼児の見方や受け止め方を知り、幼児理解を深める。					
第15回	現代社会における保育の現状 長時間保育、特別な配慮を要する子どもの保育、多文化共生の保育、授業を振り返り、課題の整理とまとめ。					
【授業実施方法】 原則として、対面（面接）授業を実施する。対面（面接）授業の実施が困難と判断される場合には、遠隔授業（オンライン・オンデマンド・課題）を併用する。						
ICTを活用した双方向型授業を実施する授業回がある。						
【アクティブラーニングの導入】 「ディスカッション」「グループワーク」						
成績評価の方法 (試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合（％）	60	0	30	0	10	100
成績評価の基準（ルーブリック）						
到達度	秀逸	優秀	良好	最低限		
授業の到達目標 に対する 到達度の目安	保育所保育指針の領域の概念を理解し5領域のねらいと内容の繋がりがわかる。また、幼児教育における見方・考え方が具体的に解り遊びを通した総合的指導の意義と教師の役割も説明できる。さらには、幼児理解に基づく評価の考え方、幼・保・小の連携の必要性及び具体的方法を理解し、説明できる。	保育所保育指針の領域を理解し、5領域のねらいと内容とのつながりがわかる。また幼児期の教育における見方・考え方を説明し、遊びを通した総合的な指導や教師の役割を理解できる。さらには、幼児理解に基づく評価の考え方について説明したり幼・保・小の連携の考え方や具体的取組みについて理解し説明できる。	保育所保育指針の領域の概念を理解し、5領域のねらいと内容が理解できる。また、幼児期の教育における見方・考え方を理解する。さらには遊びを通した総合的な指導や教師の役割を理解するとともに評価の考え方を理解し、幼稚園と小学校の接続の必要性や実際的な方法についても理解することができる。	保育所保育指針」の領域の概念や5領域のねらいと内容が理解できる。また、幼児期の教育における見方・考え方が理解できる。さらには、幼稚園における教師の役割を理解するとともに評価の考え方がある程度理解し、幼稚園と小学校の接続の必要性や方法についても概ね理解できる。		
該当DPに対する 到達度の目安	保育者として社会的使命を十分に理解し、保育の専門知識を獲得した上で遊びを通した総合的な保育、子育て支援を実践できる。また地域の特性を的確に把握し人材、自然、施設を十分に活用したり、家庭や小学校と密に連携を図ると共に他の保育者と協働して充実した保育を進める必要性やその方法が理解できる。	保育者として社会的使命を理解し、保育の専門知識を獲得した上で遊びを通した総合的な保育、子育て支援を行うことができる。また、地域の特性を的確に把握したり、家庭や異種学校との連携を図りながら、同じ職場の保育者とも協働して保育を進めていくことの必要性や方法を理解することができる。	保育者として概ね社会的使命を理解し、保育の専門知識を生かして遊びを通した総合的な保育、子育て支援を行うことができる。また地域の特性をある程度把握し、家庭や小学校との連携を図りながら、同じ職場の保育者とも協働して保育を進めることの必要性を理解できる。	保育者として社会的使命をある程度理解し、保育の専門知識を獲得した上で、遊びを通した総合的な保育、子育て支援を行うことができる。また、地域の特性の幾つかを把握し、家庭や小学校と連携を図りながら、同じ職場の保育者とも協働して保育を進めることの必要性を理解しようと努力することができる。		

年度	2025	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	33110	ICT活用	○
授業科目名	健康					実務教員	—
科目	専門教育科目/領域及び保育内容の指導法に関する科目						
施行規則に定める科目区分または事項等			領域に関する専門的事項 健康				
配当年次	1 年	期間	前期	必修区分	保幼		
授業形態	演習	単位数	1	担当形態	単独		
教員	白府 士孝						
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP1, 4					
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会力 (DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
☐ 1. 養護及び教育に関わる保育の内容が、それぞれに関連性を持つことを理解し、総合的に教育・保育を展開していくための知識・技術・判断力を獲得できる。 ☐ 2. 幼稚園教育要領及び保育所保育指針における乳児保育の3つの視点と1歳以上3歳未満児及び3歳以上児の保育における「健康」の領域から、子どもに対する理解を深め、教育・保育の内容について具体的に理解できる。 ☐ 3. 教育・保育の内容の視点および「健康」の領域をふまえて子どもが体験していることを捉え、保育者が留意すべき点を理解できる。 ☐ 4. 子どもの発達過程に即して具体的な教育・保育場面を想定しながら、環境構成、教材や遊具等の活用と工夫、教育・保育の過程（計画・実践・記録・省察・評価・改善）の実際について理解できる。							
授業の概要							
幼稚園教育要領・保育所保育指針に明記されている各要点から、教育・保育における子どもの生活や遊びを総合的に捉え、教育・保育を展開していくための方法や技術、子どもの実際や状況に即した援助や関わりについて具体的に学ぶ。特に領域「健康」においては、子どもの心身の発達、基本的な生活習慣、安全な生活、運動発達などの専門的事項についての知識を身に付ける。							
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）							
毎回の授業で配布するパワーポイント資料を基に、既習事項をポイントシートに整理すること。							
標準学修時間の目安							
1回の講義当たり復習を中心に2時間の学修が望ましい。							
課題（試験やレポート等）のフィードバック							
単元終了毎に課題が出されるので、しっかり取り組むこと。確認後課題については、コメントを付し、担当印を押し学生に返却する。							
使用教科書							
	教科書名		著者名		出版社名		ISBN
1	なし		—		—		—
2							
3							
使用教科書備考							
使用しない							
参考書・参考資料等							
授業中に適宜資料を配布する。 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
実務経験のある教員に該当しない。							
その他							
・A4ファイルを用意すること。 ・ポイントシートを点検し、評価する。 ・必要に応じて、授業内で提示した課題について、「ディスカッション」「グループワーク」を行う。							

授業計画						
第1回	養護について 子どもの生命の保持及び情緒の安定を図るために保育者が行う「養護」についてについてを理解する。					
第2回	教育について 子どもが健やかに成長し、その活動がより豊かに展開されるための発達の援助である「教育」についてを理解する。					
第3回	乳児保育における3つの視点① 「健やかに伸び伸びと育つ」と領域「健康」との関連についてを理解する。					
第4回	乳児保育における3つの視点② 「身近な人と気持ちが通じ合う」と領域「健康」との関連についてを理解する。					
第5回	乳児保育における3つの視点③ 「身近なものに関わり感性が育つ」と領域「健康」との関連についてを理解する。					
第6回	1歳以上3歳未満児の保育Ⅰ 領域「健康」ねらい(自分から体を動かすことを楽しむ、様々な動き)を理解する。					
第7回	1歳以上3歳未満児の保育Ⅱ 領域「健康」内容①(安定感、午睡、休息、全身を使う遊び、様々な食品や調理形態)を理解する。					
第8回	1歳以上3歳未満児の保育Ⅲ 領域「健康」内容②(生活リズム、清潔、衣類の着脱、排泄の自立)を理解する。					
第9回	1歳以上3歳未満児の保育Ⅳ 領域「健康」内容の取扱い(体を動かす機会、アレルギー、自分ですりょうとする気持ち)を理解する。					
第10回	3歳以上児の教育・保育Ⅰ 領域「健康」概要(経験、考えの自己表現、相手の言葉を聞こうとする意欲や態度、表現力)を理解する。					
第11回	3歳以上児の教育・保育Ⅱ 領域「健康」ねらい(充実感、進んで運動、見通し、安定感)を理解する。					
第12回	3歳以上児の教育・保育Ⅲ 領域「健康」内容①(十分に体を動かす、戸外遊び、食べ物への興味関心、生活リズム、清潔)を理解する。					
第13回	3歳以上児の教育・保育Ⅳ 領域「健康」内容②(見通しをもって行動、病気の予防、食習慣)を理解する。					
第14回	3歳以上児の教育・保育Ⅴ 領域「健康」内容③(危険な場所、危険な遊び方、災害時の行動)を理解する。					
第15回	3歳以上児の教育・保育Ⅵ 領域「健康」内容の取扱い(体を動かす楽しさ、意欲、調整、自然・戸外遊び、食育)を理解する。					
【授業実施方法】 原則として、対面(面接)授業を実施する。対面(面接)授業の実施が困難と判断される場合には、遠隔授業(オンライン・オンデマンド・課題)を併用する。 ICTを活用した双方向型授業を実施する授業回がある。 【アクティブラーニングの導入】 「ディスカッション」「グループワーク」						
成績評価の方法 (試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合(%)	0	0	70	20	10	100
成績評価の基準(ルーブリック)						
到達度	秀逸	優秀	良好	最低限		
授業の到達目標 に対する 到達度の目安	養護と教育に関わる保育の内容と保育を展開していく総合的な知識・技術・判断力が獲得でき、領域「健康」の1歳児以上3歳児未満及び3歳児以上の教育・保育を理解し、教育・保育場面を想定した教育・保育の課程を理解できている。	養護と教育に関わる保育の内容と保育を展開していく総合的な知識・技術・判断力が獲得でき、領域「健康」の子どもに対する理解を深め、教育・保育場面を想定した教育・保育の課程を理解できている。	養護と教育に関わる保育の内容と保育を展開していく総合的な知識・技術・判断力が獲得でき領域「健康」の子どもに対する理解ができる。	養護と教育に関わる保育の内容と保育を展開していく総合的な知識・技術・判断力が獲得でき領域「健康」の内容が断片的であるが理解している。		
該当DPに対する 到達度の目安	養護と教育に関わる保育の内容と保育を展開していく総合的な知識・技術・判断力を総合的に発信できる表現力を身に付けている。	養護と教育に関わる保育の内容と保育を展開していく総合的な知識・技術・判断力を総合的に発信しようと努力することができる。	養護と教育に関わる保育の内容と保育を展開していく総合的な知識・技術・判断力を総合的にある程度発信できる。	養護と教育に関わる保育の内容と保育を展開していく総合的な知識・技術・判断力を総合的に発信することがほとんどできない。		

年度	2025	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	33111	ICT活用	○
授業科目名	人間関係					実務教員	○
科目	専門教育科目/領域及び保育内容の指導法に関する科目						
施行規則に定める科目区分または事項等			領域に関する専門的事項 人間関係				
配当年次	1 年	期間	前期	必修区分	保幼		
授業形態	演習	単位数	1	担当形態	単独		
教員	咲間 まり子						
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP1, 4, 8					
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会力 (DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
□1. 養護及び教育に関わる保育の内容が、それぞれに関連性を持つことを理解し、総合的に教育・保育を展開していくための知識・技術・判断力を獲得できる。 □2. 幼稚園教育要領及び保育所保育指針における乳児保育の3つの視点と1歳以上3歳未満児及び3歳以上児の保育における「人間関係」の領域から、子どもに対する理解を深め、教育・保育の内容について具体的に理解できる。 □3. 教育・保育の内容の視点および「人間関係」の領域をふまえて、子どもが体験していることを捉え、保育者が留意すべき点を理解できる。 □4. 子どもの発達過程に即して、具体的な教育・保育場面を想定しながら、環境構成、教材や遊具等の活用と工夫、教育・保育の過程（計画・実践・記録・省察・評価・改善）の実際について理解できる。 □5. 幼児教育の基本を理解し、領域「人間関係」の特質を説明できる。 □6. 幼児の人の関わりに関する現代的課題を説明できる。 □7. 乳幼児期の発達をとらえ、人間関係の広がりとその意義を説明できる。							
授業の概要							
幼稚園教育要領・保育所保育指針に明記されている各要点から、教育・保育における子どもの生活や遊びを総合的に捉え、教育・保育を展開していくための方法や技術、子どもの実際や状況に即した援助や関わりについて具体的に学ぶ。領域「人間関係」の内容を理解した上で、「人間関係」に関する乳幼児の発達や人間関係をめぐる現代的課題について学ぶ。さらにその育ちを支える保育者に求められる子ども理解と、保育の方法について理解を深めることを目標とする。加えて、自己の人間関係を振り返り、自己理解を深め、子どもや保護者と豊かな人間関係を築くことのできる保育者を目指す。							
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）							
予習：教科書にしたがって授業は展開されるので、必ず予習・復習をしてくる。 復習：授業の到達目標を確認し、その回の講義内容をプリントやノートにまとめておく。							
標準学修時間の目安							
1回の講義あたり、予習・復習を含めて2時間の学修が望ましい。							
課題（試験やレポート等）のフィードバック							
定期試験後（追・再試験対象者発表日）に模範的な解答を掲示する。							
使用教科書							
	教科書名	著者名	出版社名	ISBN			
1	保育内容「人間関係」第2版	咲間まり子 編	株式会社みらい	9784860154370			
2							
3							
使用教科書備考							
保育実践を学ぶ 保育内容「人間関係」[第2版]							
参考書・参考資料等							
授業中に適宜資料を配布する。 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
幼稚園及び小学校での18年間の実務経験を活かし教授する。							
その他							
アクティブラーニング参加状況も評価する。							

授業計画						
第1回	現代社会の子どもを取り巻く今日的課題					
第2回	家庭・地域社会の変容と仲間関係の崩壊について学ぶ					
第3回	領域「人間関係」の「ねらい」および「内容」					
第4回	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園、教育・保育要領の改訂（定）と領域「人間関係」の関連について学ぶ					
第5回	領域「人間関係」の「ねらい」および「内容」					
第6回	3歳以上児の保育に関わる「ねらい」および「内容」について学ぶ					
第7回	乳幼児の発達と人間関係					
第8回	0歳児から3歳未満児の発達と関わりについて学ぶ					
第9回	3歳児の発達と関わり					
第10回	4歳児・5歳児の発達と関わりについて学ぶ					
第11回	遊びのなかで育つ人間関係					
第12回	乳幼児期における遊びの意義について学ぶ					
第13回	幼児期の環境構成や人との関わり					
第14回	幼児期の体験に必要な環境とは何かを学ぶ					
第15回	環境との関わりから生まれる幼児期の人間関係					
第16回	物、人、社会、自然との関わりについて学ぶ					
第17回	保育者に求められている人間関係					
第18回	年齢別における保育者との関わりについて学ぶ					
第19回	自己発揮や他者理解、自己抑制を支える保育者の工夫					
第20回	自発性や共同性を育む関わりについて学ぶ					
第21回	特別な支援を必要とする子どもと他の子どもがともに育ち合うための関わり					
第22回	集団生活に困難を伴う子ども、障がいのある子どもへの保育について学ぶ					
第23回	誰もが居場所のある集団づくり					
第24回	個別の支援計画の作成とさまざまな連携について学ぶ					
第25回	就学前の子どもの育ちを支える人間関係					
第26回	情動統制力の育ち、身体能力の育ち、学力問題への取り組みについて学ぶ					
第27回	子育て支援活動や預かり保育における保育者の工夫や取り組み					
第28回	地域子育て支援センターにおける親子支援、預かり保育における保育者の関わりについて学ぶ					
第29回	まとめ					
第30回	第1回から第28回までを復習する					
定期試験						
【授業実施方法】						
原則として、対面（面接）授業を実施する。対面（面接）授業の実施が困難と判断される場合には、遠隔授業（オンライン・オンデマンド・課題）を併用する。						
ICTを活用した双方向型授業を実施する授業回がある。						
【アクティブラーニングの導入】						
「グループワーク」「ディスカッション」						

年度	2025	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	33112	ICT活用	○
授業科目名	環境					実務教員	○
科目	専門教育科目/領域及び保育内容の指導法に関する科目						
施行規則に定める科目区分または事項等			領域に関する専門的事項 環境				
配当年次	1 年	期間	前期	必修区分	保幼		
授業形態	演習	単位数	1	担当形態	オムニバス		
教員	田福 朱美						
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP1, 4					
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会力 (DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
□1. 養護及び教育に関わる保育の内容が、それぞれに関連性を持つことを理解し、総合的に教育・保育を展開していくための知識・技術・判断力を獲得できる。□2. 幼稚園教育要領及び保育所保育指針における乳児保育の3つの視点と1歳以上3歳未満児及び3歳以上児の保育における「環境」の領域から、子どもに対する理解を深め、教育・保育の内容について具体的に理解できる。□3. 教育・保育の内容の視点および「環境」の領域をふまえて、子どもが体験していることを捉え、保育者が留意すべき点を理解できる。□4. 子どもの発達過程に即して具体的な教育・保育場面を想定しながら、環境構成、教材や遊具等の活用と工夫、教育・保育の過程（計画・実践・記録・省察・評価・改善）の実践について理解できる。□5. 領域「環境」について学び、幼児を取り巻く環境や発達における幼児の環境とのかわりを理解する。□6. 保育・教育における「環境」を説明できる。□7. 子どもの発達過程におけるさまざまな環境との関わりを説明できる。□8. 保育環境の具体的なデザイン・方法を考え、説明することができる。□9. 子どもを取り巻く環境の現代的課題について説明できる。							
授業の概要							
幼稚園教育要領・保育所保育指針に明記されている各要点から、教育・保育における子どもの生活や遊びを総合的に捉え、教育・保育を展開していくための方法や技術、子どもの実際や状況に即した援助や関わりについて具体的に学ぶ。特に、本授業は、保育内容の5領域のうちの「環境」のねらいと内容をふまえて、「幼児を取り巻く環境」と「幼児の環境との関わり」について理論と技術を学ぶ。そのため子どもにとっての環境を、数々の事例をもとに正しく理解する。これをもとに、子どもが好奇心や探究心をもって活動できる環境について配慮・援助が行える基礎知識を身につける。							
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）							
保育「環境」を意識しながら新聞、ニュースに関心を持つこと。自分の幼少期のことを思い出しながら保育所、幼稚園の保育環境をイメージできるよう予習、復習して授業内容を整理しておくこと。 教科書の事例を読み込み、場面や保育者の関わりを理解できるようにしていく。							
標準学修時間の目安							
1回の講義あたり予習復習を含め2時間の学習が望ましい。							
課題（試験やレポート等）のフィードバック							
定期試験後に解答例を掲示							
使用教科書							
	教科書名		著者名		出版社名		ISBN
1	事例で学ぶ保育内容 領域環境		無藤隆・福元真由美		萌文書林		978-4-89347-258-8
2							
3							
使用教科書備考							
新訂 事例で学ぶ保育内容 領域環境 無藤 隆・福元真由美 萌文書林							
参考書・参考資料等							
幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 保育所保育指針ハンドブック 2017年告示版 監修 汐見 掄幸 学研 40のサインでわかる乳幼児の発達 くらき永田保育園 監修 鈴木八郎 著 黎明書房							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
田福は、保育士として21年、園長として17年の実務経験を生かし、保育内容における環境について教授する。							
その他							
授業内容に応じて、ICTを活用する。							

授業計画						
第1回	「養護」（子どもの生命の保持及び情緒の安定を図るために保育者が行う「養護」）について 保育・幼児教育の基本 領域「環境」 保育における環境について学ぶ					
第2回	「教育」（子どもが健やかに成長し、その活動がより豊かに展開されるための発達の援助である「教育」）について ねらい及び内容における「環境」～子どもを学ぶ・子どもから学ぶ					
第3回	乳児保育における3つの視点①「健やかに伸び伸びと育つ」と領域「環境」との関連について 乳児保育で育んでいきたいことについて学ぶ（保育者に求められること、これからの学びに求められること）					
第4回	乳児保育における3つの視点②「身近な人と気持ちが通じ合う」と領域「環境」との関連について 子どもの発達と環境を学ぶ（幼児期の環境を通した総合的な学びと環境構成を理解する）					
第5回	乳児保育における3つの視点③「身近なものに関わり感性が育つ」と領域「環境」との関連について 0歳児の発達と「環境」との関わりを学ぶ（乳幼児の3つの視点と環境）					
第6回	1歳以上3歳未満児の保育～領域「環境」ねらい（身近な環境への好奇心、探究心、発見、見る、聞く、触る）について 1．2歳児の発達と「環境」との関わりから学ぶ（発達により変化していく身近な環境）					
第7回	1歳以上3歳未満児の保育～領域「環境」内容①（見る、聞く、触れる、嗅ぐ、味わう、玩具、絵本、遊具）について 1歳児の発達と「環境」との関わりから学ぶ（内容の取扱いについて）					
第8回	1歳以上3歳未満児の保育～領域「環境」内容②（形、色、大きさ、量、区別、場所的感覚、身近な生き物、近隣の生活や季節の行事）について 2歳児の発達と「環境」との関わりから学ぶ（自然に親しみ植物や生き物に触れる）					
第9回	1歳以上3歳未満児の保育～領域「環境」内容の取扱い（命、生命の尊さ、社会とのつながり、文化） 1．2歳児の発達の発達と「環境」との関わりから学ぶ					
第10回	3歳以上児の教育・保育～領域「環境」概要（周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもって関わる）について 保育の過程について学ぶ（子ども理解、保育の計画、保育の実践、保育の評価と省察、保育の改善について）					
第11回	3歳以上児の教育・保育～領域「環境」ねらい（自然、生活への取り入れ、性質、数量、文字）について 3．4．5歳児それぞれの発達の特徴を理解し、環境構成について学ぶ					
第12回	3歳以上児の教育・保育～領域「環境」内容①（自然の不思議さ、性質や仕組み、季節、生命の尊さ）について 3歳以上児の発達と「環境」との関わりについて学ぶ（自然に親しみ植物や生き物に触れる）					
第13回	3歳以上児の教育・保育～領域「環境」内容②（文化や伝統、比較、関連、数量、図形、標識、文字、情報、施設、国旗）に ついて 3歳以上児の発達と「環境」との関わりについて学ぶ（ものや道具に関わって遊ぶ、文字や標識、数量や図形に関心をもつ）					
第14回	3歳以上児の教育・保育～領域「環境」内容の取扱い①（法則性、身近な事象や動植物、行事、国家、唱歌、わらべうた）に ついて 3歳以上児の発達と「環境」との関わりについて学ぶ（遊びや生活の情報に興味をもち、地域に親しむ）					
第15回	3歳以上児の教育・保育～領域「環境」内容の取扱い②（伝統的な遊び、異文化、国際理解、体験に基づく数量や文字への興味関心）について 幼児期の思考力の芽生えについて学ぶ					
定期試験						
【授業実施方法】 原則として、対面（面接）授業を実施する。対面（面接）授業の実施が困難と判断される場合には、遠隔授業（オンライン・オンデマンド・課題）を併用する。						
ICTを活用した双方型授業を実施する授業回がある。						
【アクティブラーニングの導入】 「グループワーク」						
成績評価の方法 （試験項目）	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合（％）	60	0	20	0	20	100
成績評価の基準（ルーブリック）						
到達度	秀逸	優秀	良好	最低限		
授業の到達目標 に対する 到達度の目安	養護及び教育に関わる保育の内容が、それぞれに関連性を持つことを理解し、総合的に教育・保育を展開していくための知識・技術・判断力を獲得して、他者に詳細に伝えることや、子供の発達過程に即して具体的な教育・保育場面を想定しながら環境構成や遊具との関連を理解し活用できる。	養護及び教育に関わる保育の内容が、それぞれに関連性を持つことを理解し、総合的に教育・保育を展開していくための知識・技術・判断力を獲得して、他者に詳細に伝えることや、子供の発達過程に即して環境構成や、遊具との関連を理解できる。	養護及び教育に関わる保育の内容が、それぞれに関連性を持つことを理解し、総合的に教育・保育を展開していくための知識・技術・判断力を獲得できる。	養護及び教育に関わる保育の内容が、それぞれに関連性を持つことを断片的に理解できる。又、領域「環境」について学び幼児を取り巻く環境や発達における幼児の環境とのかかわりを断片的ながらも理解できる。		
該当DPに対する 到達度の目安	保育と子育て支援に必要な専門知識と技術を有し、個々の発達に応じて子どもの成長を促す保育を展開できる。その意図を説明できる。又、子育て環境を深く分析して課題や問題を見つけ出し、その解決に向けて他者と協働的で計画的に考え、答えを導き出す能力を身につけている。	保育と子育て支援に必要な専門知識と技術を有し、個々の発達に応じて子どもの成長を促す保育を展開できる。又、子育て環境を分析して課題や問題を見つけ出し、その解決に向けて計画的に考え、答えを導き出す能力を身につけている。	保育と子育て支援に必要な専門知識と技術を有し、子どもの成長を促す保育を展開できる。又、子育て環境を分析して課題や問題を見つけ出し、その解決に向けて計画的に考え、答えを導き出す努力をすることができる。	保育と子育て支援に必要な専門知識と技術は断片的に有し、子どもの成長を促す保育を展開できる。又、子育て環境を分析して課題や問題を見つけ出し、その解決に向けて計画的に考えようとする。		

年度	2025	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	33113	ICT活用	—
授業科目名	言葉					実務教員	○
科目	専門教育科目/領域及び保育内容の指導法に関する科目						
施行規則に定める科目区分または事項等			領域に関する専門的事項 言葉				
配当年次	1 年	期間	前期	必修区分	保幼		
授業形態	演習	単位数	1	担当形態	単独		
教員	三島 裕一						
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP1, 4, 8					
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会力 (DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
☐ 1. 養護及び教育に関わる保育の内容が、それぞれに関連性を持つことを理解し、総合的に教育・保育を展開していくための知識・技術・判断力を獲得できる。 ☐ 2. 幼稚園教育要領及び保育所保育指針等における乳児保育の3つの視点と1歳以上3歳未満児及び3歳以上児の保育における「言葉」の領域から、子どもに対する理解を深め、教育・保育の内容について具体的に理解できる。 ☐ 3. 教育・保育の内容の視点及び「言葉」の領域をふまえて、子どもが体験していることを捉え、保育者が留意すべき点を理解できる。 ☐ 4. 子どもの発達過程に即して具体的な教育・保育場面を想定しながら、環境構成、教材や遊具等の活用と工夫、教育・保育の過程（計画・実践・記録・省察・評価・改善）の実際について理解できる。							
授業の概要							
幼稚園教育要領・保育所保育指針に明記されている各要点から、教育・保育における子どもの生活や遊びを総合的に捉え、教育・保育を展開していくための方法や技術、子どもの実際や状況に即した援助や関わりについて具体的に学ぶ。特に領域「言葉」においては、子どもが豊かな言葉や表現を身に付け、想像する楽しさを広げるために必要な専門的事項に関する知識を身につける。							
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）							
予習：授業に関連する項目について、『保育所保育指針』『幼稚園教育要領』等の次時の授業に関する事項を熟読しておくこと。 復習：授業で学んだ点や疑問点、自分で調査・研究した事項などを整理しておくこと。							
標準学修時間の目安							
1 回の講義につき、0.5時間の予習と、1.5時間の復習を行うこと。							
課題（試験やレポート等）のフィードバック							
ノートあるいはレポート等の提出後、コメントや評価を付して返却すると共に、模範的なもの、ユニークな発想のものについては、授業の中で随時紹介していく。							
使用教科書							
	教科書名		著者名		出版社名		ISBN
1	なし		—		—		—
2							
3							
使用教科書備考							
なし							
参考書・参考資料等							
幼稚園教育要領解説、保育所保育指針解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
三島裕一は、24年間の中学校国語教師、8年間の幼稚園勤務の経験をもとに、『言葉』『保育内容(言葉)指導法』を通して、保育における言葉の重要性・必要性、また乳幼児にとって大切な言語環境である保育者として必要な、「読む力」「書く力」「話す力」などについて指導する。							
その他							
・本科目履修生は、資料を綴るファイル、記録用のノート等を用意する。 ・ノート、レポート等の提出物については適宜点検し、評価する。							

授業計画						
第1回 「養護」 子どもの生命の保持及び情緒の安定を図るために保育者が行う「養護」について 第2回 「教育」 子どもが健やかに成長し、その活動がより豊かに展開されるための発達の援助である「教育」について 第3回 乳児保育における3つの視点（1） 「健やかに伸び伸びと育つ」と領域「言葉」との関連 第4回 乳児保育における3つの視点（2） 「身近な人と気持ちが通じ合う」と領域「言葉」との関連 第5回 乳児保育における3つの視点（3） 「身近なものに関わり感性が育つ」と領域「言葉」との関連 第6回 1歳以上3歳未満児の保育（1） 領域「言葉」ねらい（言葉遊び、言葉表現の楽しさ、児童文化財（絵本や物語等） 第7回 1歳以上3歳未満児の保育（2） 領域「言葉」内容①（応答的関わり、生活に必要な言葉、挨拶、繰り返し、模倣 第8回 1歳以上3歳未満児の保育（3） 領域「言葉」内容②（ごっこ遊び、言葉のやりとり、保育者や友達の話への興味関心） 第9回 1歳以上3歳未満児の保育（4） 領域「言葉」内容の取扱い（言語化の援助、仲立ち、片言、二語文、ごっこ遊び） 第10回 3歳以上児の教育・保育（1） 領域「言葉」概要（経験、考えの自己表現、相手の言葉を聞こうとする意欲や態度、表現力） 第11回 3歳以上児の教育・保育（2） 領域「言葉」ねらい（言葉表現の楽しさ、伝え合う喜び、言葉に対する感覚） 第12回 3歳以上児の教育・保育（3） 領域「言葉」内容①（自分なりの言葉表現、分からない点を尋ねる、相手に分かるように話す） 第13回 3歳以上児の教育・保育（4） 領域「言葉」内容②（生活の言葉、挨拶、言葉の楽しさや美しさへの気付き） 第14回 3歳以上児の教育・保育（5） 領域「言葉」内容③（豊かなイメージや言葉、想像する楽しさ、文字などで伝える楽しさ） 第15回 3歳以上児の教育・保育（5） 領域「言葉」内容の取扱い（言葉を交わす喜び、伝え合い、言葉の響きやリズム、文字） 【授業実施方法】 原則として、対面（面接）授業を実施する。対面（面接）授業の実施が困難と判断される場合には、遠隔授業（オンライン・オンデマンド・課題）を併用する。 【アクティブラーニングの導入】 「グループワーク」						
成績評価の方法 (試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合(%)	60	0	30	0	10	100
成績評価の基準（ルーブリック）						
到達度	秀逸	優秀	良好	最低限		
授業の到達目標 に対する 到達度の目安	幼稚園教育要領・保育所保育指針等を十分理解し、教育・保育における子どもの生活や遊びを総合的に捉えその展開や技術、援助の方法を的確に説明できる。また、幼児期の言葉の発達過程を理解し、保育者の役割を明解に説明できる。さらには、言葉を豊かにする遊びや児童文化財を活用した指導案を作成し、実践できる。	幼稚園教育要領・保育所保育指針等を理解し、教育・保育における子どもの生活や遊びを捉え、教育・保育を展開する方法や技術、援助の方法を説明できる。また、幼児期のことばの発達過程や保育者の役割について理解し、説明できる。さらには、言葉を豊かにする遊びや児童文化財を活用した指導案を作成することができる。	幼稚園教育要領・保育所保育指針等の内容を概ね理解し、教育・保育を展開する方法や技術、援助の方法を理解することができる。また、幼児期のことばの発達過程や保育者の役割について理解できたり、言葉を豊かにする遊びや児童文化財を活用した指導案を構想することができる。	幼稚園教育要領・保育所保育指針等の内容を概ね理解し、教育・保育を展開する方法や技術、援助の方法をある程度理解することができる。また、幼児期のことばの発達過程や保育者の役割について概ね理解ができたり、言葉を豊かにする遊びや児童文化財を活用した指導案がどのようなものが理解できる。		
該当DPに対する 到達度の目安	保育者としての社会的使命を十分に理解し、保育の専門知識を獲得した上で、生活や遊びを通した総合的な保育の展開や援助の方法を理解し、実践できる。また幼児期の言葉の発達過程を理解し、子どもの言葉の課題を明らかにし言葉を豊かにする遊びを展開する知識技術を身につけたり、その知識、技術を伝え、他と共有できる。	保育者としての社会的使命を理解し、保育の専門知識を獲得した上で、生活や遊びを通した保育の展開や援助の方法が理解できる。また、幼児期の言葉の発達過程を学び、保育者として子どもの言葉の課題がわかり言葉を豊かにする遊びを展開するための知識や方法を身につけることができたりその知識、技術を他へ伝えることもできる。	保育者としての社会的使命を理解し、保育の専門知識を獲得した上で生活や遊びを通した保育の展開や援助の方法を概ね理解できる。また、幼児期の言葉の発達過程を知り、子どもの言葉の課題を理解した上で、言葉を育む遊びを展開するための知識や方法を理解できその知識、技術を他へ伝えようと努力することができる。	保育者としての社会的使命をある程度理解し、保育の知識を獲得した上で、生活や遊びを通した保育の展開や援助の方法の幾つかを理解できる。また、幼児期の言葉の発達過程や子どもの言葉の課題を理解した上で言葉を育む遊びを展開するための知識や方法がある程度理解できる。		

年度	2025	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	33114	ICT活用	○
授業科目名	表現					実務教員	—
科目	専門教育科目/領域及び保育内容の指導法に関する科目						
施行規則に定める科目区分または事項等			領域に関する専門的事項 表現				
配当年次	1 年	期間	前期	必修区分	保幼		
授業形態	演習	単位数	1	担当形態	オムニバス		
教員	山下 真由美／野呂 祐人						
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP1, 4, 8					
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会力 (DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
☐ 1. 養護及び教育に関わる保育の内容が、それぞれに関連性を持つことを理解し、教育・保育を展開していくための知識・技能・判断力を培う。 ☐ 2. 幼稚園教育要領及び保育所保育指針における乳児保育の3つの視点と1歳以上3歳未満児及び3歳以上児の保育における「表現」の領域について理解できる。 ☐ 3. 子どもの発達過程に即して具体的な教育・保育場面を想定し、環境構成、教材や遊具等の活用と工夫、教育・保育の過程（計画・実践・記録・省察・評価・改善）の実際について理解できる。 ☐ 4. 保育者が留意すべき点を理解し、幼児の発達と特性を踏まえた保育の重要性を理解できる。 ☐ 5. 幼稚園教育要領に示される身体・造形・音楽表現等の基礎的な知識・技能・表現力を身に付ける。 ☐ 6. 子どもが豊かな表現を育むことが出来るよう、自らが「感性・表現力・共感性」の涵養をめざす。							
授業の概要							
幼稚園教育要領・保育所保育指針に明記されている各要点から、教育・保育における子どもの生活や遊びを総合的に捉え、教育・保育を展開していくための方法や技術、子どもの実際や状況に即した援助や関わりについて具体的に学ぶ。幼稚園教育要領・保育所保育指針に示された領域「表現」のねらい及び内容を理解し、子どもの発達段階や学びの過程の理解に基づいた表現の基礎技術の獲得とそれらに関連づけて具体的な保育場面を想定した保育を構想する方法を身に付ける。また、子どもが主体的・対話的な深い学びを実現する学習過程を支えることを目指し、学生自身が主体的・対話的な深い学びに他者と協働して取り組むことにより、創造性と共感・受容について学びを深め、より豊かな表現力を身に付けることをめざす。							
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）							
予習は、保育所保育指針、幼稚園教育要領の領域「表現」の内容について、解説書に目を通しておくこと。復習は、学習した内容を振り返り、配布プリントやワークシートをまとめること。準備学習として、日常的に「子どもの素朴な表現とその受容」について、指針をもとに考察を深め、豊かな感性を養うことができるよう、生活の事象に目を向けるよう努めること。							
標準学修時間の目安							
次回の講義までに、予習・復習を含めて2時間の学修が望ましい。							
課題（試験やレポート等）のフィードバック							
レポート等の提出課題には、コメントを付して返却する。 試験後に解答を研究室前に掲示する。各自見直しをすること。							
使用教科書							
	教科書名	著者名	出版社名	ISBN			
1	保育内容「音楽表現」	石井玲子編著	教育情報出版	978-4-909378-16-3			
2							
3							
使用教科書備考							
表現者を育てるための保育内容「音楽表現」－音遊びから音楽表現へ－ 石井玲子編著 その他授業中に適宜配布する。							
参考書・参考資料等							
幼稚園教育要領（平成29年4月 文部科学省）、保育所保育指針（平成29年4月 厚生労働省） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年4月 文部科学省・厚生労働省）							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
実務経験のある教員に該当しない。							
その他							
・本科目は、幼稚園教諭二種免許の「教職に関する科目」である。 ・保育所保育指針及び幼稚園教育要領「表現」のねらい・内容を熟読し、子どもの表現についてイメージをもち授業に取り組むこと。							

授業計画						
第1回 保育・幼児教育における「養護」について（山下） 子どもの生命の保持及び情緒の安定を図るために保育者が行う「養護」の理念について学ぶ。 第2回 保育・幼児教育における「教育」について（山下） 子どもが健やかに成長し、豊かな発達の援助である「教育」について学ぶ。 第3回 乳児保育における3つの視点①（山下） 子どもの心身の健やかな育ちに関わる領域「表現」との関連について学ぶ。 第4回 乳児保育における3つの視点②（野呂） 乳児保育「身近な人と気持ちが通じ合う」と領域「表現」との関連について、座学と演習を通して学ぶ。 第5回 乳児保育における3つの視点③（野呂） 乳児保育「身近なものに関わり感性が育つ」と領域「表現」との関連について、座学と演習を通して学ぶ。 第6回 1歳以上3歳未満児の保育～領域「表現」（野呂） ねらい（感じたことや考えたことを自分なりに表現、イメージ、感性など）について、座学と演習を通して学ぶ。 第7回 1歳以上3歳未満児の保育～領域「表現」（野呂） 内容①（水、砂、土、紙、粘土などの素材、音楽、リズムに合わせた動きなど）について、座学と演習を通して学ぶ。 第8回 1歳以上3歳未満児の保育～領域「表現」（山下） 内容②（音、形、色、手触り、動き、味、香り、手遊び、全身遊び、イメージ）について、座学と演習を通して学ぶ。 第9回 1歳以上3歳未満児の保育～領域「表現」 内容の取扱い（山下） 感性を豊かにする経験、試行錯誤、受容的関わり、達成感について、座学と演習を通して学ぶ。 第10回 3歳以上児の教育・保育～領域「表現」（野呂） 概要（豊かな感性、創造性など）について、座学と演習を通して学ぶ。 第11回 3歳以上児の教育・保育～領域「表現」（野呂） ねらい（美しさに対する豊かな感性、自分なりの表現、イメージを豊かにするなど）について、座学と演習を通して学ぶ。 第12回 3歳以上児の教育・保育～領域「表現」（野呂） 内容①（音、形、色、手触り、動き、感動、音や動き、自由な描写や創作など）について、座学と演習を通して学ぶ。 第13回 3歳以上児の教育・保育～領域「表現」（山下） 内容②（いろいろな素材、音楽、リズム楽器、動きや言葉）について、座学と演習を通して学ぶ。 第14回 3歳以上児の教育・保育～領域「表現」 内容の取扱い①（山下） （風の音、雨の音、草や花の形や色、子どもの素朴な表現の受容）について、座学と演習を通して学ぶ。 第15回 3歳以上児の教育・保育～領域「表現」（山下） 内容の取扱い②（生活経験や発達に応じた表現の楽しみ、表現する過程）について、座学と演習を通して学ぶ。						
【授業実施方法】 原則として、対面（面接）授業を実施する。対面（面接）授業の実施が困難と判断される場合には、遠隔授業（オンライン・オンデマンド・課題）を併用する。 ICTを活用した双方向型授業を実施する授業回がある。 【アクティブラーニングの導入】 「プレゼンテーション」「グループワーク」「ディスカッション」						
成績評価の方法 (試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合 (%)	60	0	30	0	10	100
成績評価の基準（ルーブリック）						
到達度	秀逸	優秀	良好	最低限		
授業の到達目標 に対する 到達度の目安	幼稚園教育要領・保育所保育指針の領域「表現」の内容（自然、音や色や形等）を踏まえ、子どもの発達段階や学びの過程の認識に基づいた表現の基礎技術や方法について理解し、実践できる。またそれらに関連づけて具体的な保育場面を想定するとともに、生じた問題・課題の検討、他者と協働して保育を構想・改善することができる。	幼稚園教育要領・保育所保育指針の領域「表現」の内容（自然、音や色や形等）を踏まえ、子どもの発達段階や学びの過程の認識に基づいた表現の基礎技術や方法について理解している。またそれらに関連づけて具体的な保育場面を想定するとともに、生じた問題・課題の検討、他者と協働して保育を構想することができる。	幼稚園教育要領・保育所保育指針の領域「表現」の内容（自然、音や色や形等）を踏まえ、子どもの発達段階や学びの過程の認識に基づいた表現の基礎技術や方法を概ね理解している。またそれらに関連づけて具体的な保育場面を想定するとともに、生じた問題・課題の検討、他者と協働した保育を構想が概ねできる。	幼稚園教育要領・保育所保育指針の領域「表現」の内容（自然、音や色や形等）を踏まえ、子どもの発達段階や学びの過程の認識に基づいた表現の基礎技術の方法の重要性について断片的に知っている。またそれらに関連づけた保育場面を想定することはできるが、課題の検討や他者と協働した保育構想の理解は、今後の課題である。		
該当DPに対する 到達度の目安	保育・幼児教育に必要な表現に関わる基礎理解と発達段階に基づく表現感受の応答的関わりについて、事例とともに理解し、説明することができる。子どもの成長を促すための課題や問題を見つけ出し、分析を行い保育を改善する方法を計画的に考えることができる。他者と協働して子どもの豊かな感性を育てる表現活動を構想・工夫できる。	保育・幼児教育に必要な表現に関わる基礎理解と発達段階に基づく表現感受の応答的関わりについて、事例とともに理解している。子どもの成長を促すための課題や問題を見つけ出し、保育を改善する方法を計画的に考えることができる。他者と協働して子どもの豊かな感性を育てる表現活動を構想できる。	保育・幼児教育に必要な表現に関わる基礎理解と発達段階に基づく表現感受の応答的関わりについて理解している。子どもの成長を促すための課題や問題を見つけ出し、保育を改善する方法を考えることができる。他者と協働して子どもの豊かな感性を育てる表現活動の概要を構想することができる。	保育・幼児教育に必要な表現に関わる基礎理解と発達段階に基づく表現感受の応答的関わりについて断片的に理解している。子どもの成長を促すための課題や問題の気づきを理解し断片的であるが保育を改善する方法を考えることができる。他者と協働して子どもの豊かな感性を育てる表現活動のイメージをもつことができる。		

年度	2025	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	33210	ICT活用	○
授業科目名	保育内容(健康)指導法					実務教員	—
科目	専門教育科目/領域及び保育内容の指導法に関する科目						
施行規則に定める科目区分または事項等			保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）				
配当年次	1年	期間	後期	必修区分	保幼		
授業形態	演習	単位数	1	担当形態	単独		
教員	白府 士孝						
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP1, 4					
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会力 (DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
領域「健康」のねらいと内容を理解し、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びを通し、健康な心と体を養うために必要な知識・技術を身に付ける。特に乳幼児期の健康に関わる生活習慣や運動発達の理解を深め、適切な指導法を身に付ける。 □1. 幼稚園教育要領に示された、幼稚園教育の基本を踏まえて、領域「健康」のねらい及び内容並びに全体構造を理解している。 □2. 領域「健康」のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解している。 □3. 幼稚園教育における評価の考え方を理解している。 □4. 領域「健康」において幼児が経験し身に付けていく内容の関連性及び小学校の教科等とのつながりを理解している。							
授業の概要							
本講義では、幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「健康」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身に付ける。							
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）							
・ 毎回授業時にパワーポイント資料を配布するので、授業外学習時間に既習事項を整理し、ポイントをまとめておくこと。 ・ 実技では、実技内容を解説するので、パワーポイント資料に記入し、整理すること。 ・ 指導案は決められた日時に提出すること。							
標準学修時間の目安							
1回の講義あたり予習・復習を含めて2時間の学修が望ましい。							
課題（試験やレポート等）のフィードバック							
課題・ノートの提出後は、コメントを付し、担当印を押し学生に返却する。							
使用教科書							
	教科書名		著者名		出版社名		ISBN
1	なし		—		—		—
2							
3							
使用教科書備考							
使用しない							
参考書・参考資料等							
授業中に適宜資料を配布する。 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
実務経験のある教員に該当しない。							
その他							
・ A4ファイルを用意すること。実技については別途知らせる。 ・ 必要に応じて授業内で提示した課題については、グループワークを行い、その結果をプレゼンテーションしてもらう。 ・ 授業内容に応じて、情報機器を活用する。							

授業計画						
第 1回	領域「健康」のねらい及び内容					
第 2回	領域「健康」のねらい及び内容ならびに全体の構造を理解する。					
第 3回	領域「健康」の指導上の留意点					
第 3回	領域「健康」のねらい及び内容と指導上の留意点を理解する。					
第 3回	一人一人の発達の理解と評価					
第 4回	幼児一人一人の発達の理解に基づいた評価の考え方について理解する。					
第 4回	小学校との教科等との接続					
第 5回	領域「健康」において幼児が身に付けた内容と小学校との教科等との接続について理解する。					
第 5回	情報機器及び教材の活用					
第 6回	領域「健康」の特性と幼児の体験等を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育の構想に活用する。					
第 6回	実技①					
第 7回	無理なく全身を使って遊ぼう（幼児の認識・思考、動き等を視野にいれた保育の構想）。					
第 7回	実技②					
第 8回	様々な変化に対応してみよう（幼児の認識・思考、動き等を視野に入れた保育の構想）。					
第 8回	実技③					
第 9回	神経回路を刺激してみよう（幼児の認識・思考、動き等を視野に入れた保育の構想）。					
第 9回	保育指導案の構造					
第 10回	幼児の認識・思考、動き等を視野に入れた保育の構想の重要性を理解する、指導案の構造を理解する。					
第 10回	保育指導案の作成					
第 11回	具体的な保育を想定した指導案作成（子どもの生活と遊びにおいてイメージを豊かにし、感性を養う環境構成を含む）。					
第 11回	模擬保育①					
第 12回	3回実施した実技をモデルに模擬保育を実施（遊びの素材や教材等の特性の理解とその作成の知識・技術も含む）。					
第 12回	模擬保育②					
第 13回	3回実施した実技をモデルに模擬保育を実施（遊びの素材や教材等の特性の理解とその作成の知識・技術も含む）。					
第 13回	模擬保育の振り返り①					
第 14回	模擬保育の振り返りと改善の視点を学ぶ。					
第 14回	模擬保育の振り返り②					
第 15回	模擬保育の振り返りと改善の視点を学ぶ。					
第 15回	課題の整理とまとめ					
第 15回	領域「健康」の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことを理解する。課題の整理とまとめ。					
【授業実施方法】						
原則として、対面（面接）授業を実施する。対面（面接）授業の実施が困難と判断される場合には、遠隔授業（オンライン・オンデマンド・課題）を併用する。						
ICTを活用した双方向型授業を実施する授業回がある。						
【アクティブラーニングの導入】						
「グループワーク」「プレゼンテーション」						

年度	2025	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	33211	ICT活用	○
授業科目名	保育内容(人間関係)指導法					実務教員	○
科目	専門教育科目/領域及び保育内容の指導法に関する科目						
施行規則に定める科目区分または事項等			保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）				
配当年次	1年	期間	後期	必修区分	保幼		
授業形態	演習	単位数	1	担当形態	単独		
教員	咲間 まり子						
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP1, 4, 8					
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会力 (DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
領域「人間関係」のねらい・内容を理解し、幼児期に必要な経験を説明できるとともに、豊かな人間関係を育む保育者の役割を説明できる。さらに幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定して保育を構成できる。 □1. 領域「人間関係」のねらい・内容を理解し、幼児期に必要な経験を説明できる。 □2. 豊かな人間関係を育む保育を理解し、保育者の役割を説明できる。 □3. 人間関係の育ちを把握する視点について説明できる。 □4. 幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定して保育を構成できる。							
授業の概要							
幼稚園教育要領における領域「人間関係」について学び、子どもが人との関わりを広げていく過程や発達に即して主体的・対話的な学びが実現する過程に応じた適切な援助を知り、豊かな人間関係を育む保育者の役割を理解する。また、人間関係の育ちを観察する視点を理解し、指導案の作成や模擬保育の実施を通して豊かな人間関係を育む保育を実践する力を身に付ける。							
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）							
事前学習：次回の講義内容を確認し、テキストの該当する章をよく読んでおくこと。 事後学習：授業の到達目標を確認し、その回の講義内容をプリントやノートにまとめておくこと。							
標準学修時間の目安							
1回の講義にあたり、予習・復習を含めて2時間の学修が望ましい。							
課題（試験やレポート等）のフィードバック							
課題（指導案やレポート等）の提出期限後の授業で、コメントを付した課題を返却する。							
使用教科書							
	教科書名	著者名	出版社名	ISBN			
1	保育内容「人間関係」	咲間まり子 編	株式会社みらい	9784860154370			
2							
3							
使用教科書備考							
保育実践を学ぶ 保育内容「人間関係」[第2版] 教科書は、前期「人間関係」と同じものを使用する。							
参考書・参考資料等							
授業中に適宜資料を配布する。 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
幼稚園及び小学校での18年間の実務経験を活かし、教授する。							
その他							
授業内容に応じて、情報機器を活用する。							

授業計画						
第1回	保育者と保護者の人間関係 子どもにとって就学前施設は、健全な心身の発達を図る場所であると同時に、人間関係を学ぶ仲間との出会いの場として大きな意味を持つことを学ぶ					
第2回	保育者と保護者の人間関係 保育者は、地域の子育て支援の拠点として、保護者が育児を安定した環境のなかで行えるよう支援する役目を担っていることを学ぶ					
第3回	保育者と保護者の人間関係 就学前施設における保護者への支援事例をととして、保育者の保護者への関わり方について学ぶ					
第4回	子育て支援活動や預かり保育においての保育者の工夫や取り組み 地域子育て支援センターにおける支援事例を通して、保護者支援が円滑に行える支援について学ぶ					
第5回	子育て支援活動や預かり保育においての保育者の工夫や取り組み 子育て家庭における親子の様々な人との関わりや預かり保育における保育者の工夫や取り組みについて学ぶ					
第6回	多文化保育と人間関係 自分とは異なる文化をもった人に親しみをもち、お互いの文化や考え方を理解し、人間関係づくりのためのスキルを身につける					
第7回	多文化保育と人間関係 日本語を母語としない子どもとの関わりについて学ぶ					
第8回	多文化保育と人間関係 保護者が日本語をうまく使えなかったり、理解が十分できていなかったりするため、保護者との意思疎通を行うための様々な工夫について学ぶ					
第9回	多文化保育と人間関係 様々な交流により、顔見知りになったり、近くの日本人が外国籍の人々を気にかけて声をかけたりすること等、ともに支え合うための関わりについて学ぶ					
第10回	「人間関係」の指導計画 子どもたちが集団生活のなかで自分の周囲に興味・関心をもって積極的に関わり、取り組むことに関する指導計画について学ぶ					
第11回	①指導計画の作成 「子どもたちが園生活のなかで何を求め、何をしようとしているのか」という観点から、具体的に領域「人間関係」の指導計画について学ぶ					
第12回	②指導計画の作成 年度ごと（4月～翌年3月）の生活を見通して立案される計画が長期の指導計画であることを理解し、作成する					
第13回	③指導計画の作成 週間指導計画（週案）と日の指導計画（日案）とに分かれる短期の指導計画について理解し、作成する					
第14回	④指導計画の作成/発表 お互いが作成した指導案の発表を通して、人間関係を構築することによって、子どもの生活そのものが豊かになり、さらなる発達が促されていくことを理解する					
第15回	模擬授業/発表 自己評価及び友達の評価を含めて発表し合う 模擬授業を通して、遊びのなかには「人間関係」とともに他の領域（「健康」「環境」「言葉」「表現」）が含まれており、相互に関連しながら子どもの発達を促していくことを理解する					
【授業実施方法】 原則として、対面（面接）授業を実施する。対面（面接）授業の実施が困難と判断される場合には、遠隔授業（オンライン・オンデマンド・課題）を併用する。 ICTを活用した双方向型授業を実施する授業回がある。						
【アクティブラーニングの導入】 「ディスカッション」「グループワーク」						
成績評価の方法 （試験項目）	筆記（定期試験・小テスト）	口述・実技等	論文（レポート・課題等）	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合（％）	0	40	40	0	20	100
成績評価の基準（ルーブリック）						
到達度	秀逸	優秀	良好	最低限		
授業の到達目標 に対する 到達度の目安	領域「人間関係」のねらい・内容を理解し、幼児期に必要な経験を説明できるとともに、豊かな人間関係を育む保育者の役割を説明できる。さらに幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定して保育を構成できる。	領域「人間関係」のねらい・内容を理解し、幼児期に必要な経験を説明できるとともに、豊かな人間関係を育む保育者の役割を説明できる。さらに幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定して保育を構成できる。	領域「人間関係」のねらい・内容を理解し、幼児期に必要な経験を説明できるとともに、豊かな人間関係を育む保育者の役割を説明できる。さらに具体的な指導場面を想定して保育を構成することができる。	領域「人間関係」のねらい・内容を理解し、幼児期に必要な経験を説明できる。豊かな人間関係を育む保育者を理解し、保育者の役割を説明できる。		
該当DPに対する 到達度の目安	領域「人間関係」について学んだ知識を生かして子供を取り巻く課題について深く考察し、その解決に向けて何をすべきか理解している。さらには他者と協働しその課題に取り組むことができる。	領域「人間関係」について学んだ知識を生かして子供を取り巻く課題について深く考察し、その解決に向けて何をすべきか理解している。さらには他者と協働しその課題に取り組もうとする。	領域「人間関係」について学んだ知識を生かし、子供を取り巻く課題について考えることができる。	領域「人間関係」について学んだ知識を生かし、より良い保育を考えることができる。		

年度	2025	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	33212	ICT活用	○
授業科目名	保育内容(環境)指導法					実務教員	○
科目	専門教育科目/領域及び保育内容の指導法に関する科目						
施行規則に定める科目区分または事項等			保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）				
配当年次	1年	期間	後期	必修区分	保幼		
授業形態	演習	単位数	1	担当形態	単独		
教員	田福 朱美						
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP1, 4					
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会力 (DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
幼稚園教育要領、保育所保育指針等の領域「環境」のねらい及び内容について専門領域と関連させて理解し、幼児が周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもって主体的にかかわり、それを生活に取り入れていこうとする力を養うための、具体的な保育内容を考え実践する力を身に付けることをねらいとする。 □1. 領域「環境」のねらい・内容を理解し、幼児が主体的・対話的に環境にかかわる保育を考えることができる。 □2. 子どもの遊びの特徴および意義を十分に理解し、経験から育つ内容を説明できる。 □3. 野外保育・自然体験の事前・事後の準備・活動を具体的にイメージし、保育を構成することができる。							
授業の概要							
本授業は、科目「環境」で学んだことを踏まえて、環境を通した保育・教育を実践できる保育者の育成を目指す。そのために「外遊びと環境」をテーマに、屋外・野外保育におけるさまざまな実践例を参考にして、幼児期にどのような実践をすればよい具体的な技能を身につける。							
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）							
保育「環境」を意識しながら新聞、ニュースに関心を持つこと。自分の幼少期のことを思い出しながら保育所、幼稚園の保育環境をイメージできるよう予習、復習して授業内容を整理しておくこと。							
標準学修時間の目安							
1回の講義あたり予習復習を含め2時間の学習が望ましい。							
課題（試験やレポート等）のフィードバック							
定期試験後に解答例を掲示。							
使用教科書							
	教科書名		著者名		出版社名		ISBN
1	事例で学ぶ保育内容 領域環境		無藤 隆・福元真由美		萌文書林		978-4-89347-258-8
2							
3							
使用教科書備考							
新訂 事例で学ぶ保育内容 領域環境 無藤 隆・福元真由美 萌文書林							
参考書・参考資料等							
授業時にプリントを配布する。 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 学びを支える保育環境づくり 高山静子著 小学館							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
保育士として21年、園長として17年の実務経験を生かし、保育内容における環境について教授する。							
その他							
授業内容に応じて、ICTを活用する。							

授業計画						
第1回 保育における環境とは～幼児教育の基本的理解、他者との関係や集団の中での育ちの理解と援助に関わる知識・技術について遊びを豊かにする室内環境づくりを学ぶ（登園から降園までの環境とその構成・保育者の意図を表現する環境） 第2回 領域「環境」のねらい・内容と全体構造の理解、生活や遊びでイメージを豊かにし、感性を養うための知識・技術について遊びを豊かにする屋外環境づくりを学ぶ（人的環境としての保育者の役割について理解する） 第3回 子どもを取り巻く生活環境の変化と課題について 第4回 子どもを取り巻く生活環境の変化と課題について集団の育ちを考え、集団のなかの「ひとり」について環境の影響から学ぶ 第5回 主体的に環境に関わる幼児の姿と評価の考え方について 第6回 子どもの姿から考える指導計画の作成について学ぶ 第7回 外遊び・野外保育・自然体験の意義について 第8回 園外環境を学ぶ（日常的な保育、散歩体験を通して子どもの深い学びを考える） 散歩模擬保育 第9回 野外保育の事前・事後の準備について 第10回 自然との関わりの実践について 実体験を通して学ぶ 散歩模擬保育 第11回 子どもの遊びの現状と伝承遊び～幼児期に体験させたい内容と指導上の留意点について 第12回 自然との関わり・ものとの関わりについて実践から学ぶ 第13回 数遊びと文字遊び～小学校とのつながりについて 第14回 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」から考える 遊びの実践例から学ぶ 第15回 情報機器及び教材の活用～身近な動植物の観察・栽培と記録、遊具や用具、素材や教材等の特性の理解と、その活用や作成に必要な知識・技術について 第16回 保育室の環境を考える 第17回 森のようちえんの事例と解説について（幼児の認識・思考・動き等を視野に入れた保育の構想の重要性の理解） 第18回 いろいろな実践について学ぶ 第19回 年齢に応じた環境構成（指導案の構成の理解）について 第20回 模擬保育の実践①（グループで検討した指導案をもとに保育を実践） 第21回 ねらいに応じた環境構成（指導案作成と検討）について 第22回 模擬保育の実践②（グループで検討した指導案をもとに保育を実践） 第23回 環境を通して行う保育（模擬保育と保育の改善）について 第24回 模擬保育の振り返りから学ぶ（省察と改善） 第25回 子どもの遊び・活動中のヒヤリハット事例について 第26回 環境を考える保育実践の動向 第27回 環境教育活動と保育実践の動向について～保育構想の向上 領域「環境」に関わる現代的課題について学ぶ 定期試験 【授業実施方法】 原則として、対面（面接）授業を実施する。対面（面接）授業の実施が困難と判断される場合には、遠隔授業（オンライン・オンデマンド・課題）を併用する。 ICTを活用した双方向型授業を実施する授業回がある。 【アクティブラーニングの導入】 「グループワーク」						
成績評価の方法 (試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合 (%)	60	10	10	0	20	100
成績評価の基準（ルーブリック）						
到達度	秀逸	優秀	良好	最低限		
授業の到達目標に対する到達度の目安	領域「環境」のねらい・内容を理解し幼児自身の気づきや好奇心、探求心に着目ができて幼児が主体的・対話的に環境に関わる保育を考える学びへと繋げることができる。子どもへ情報発信ができる。子供の遊びの特徴及び直接体験の意義を十分に理解し、経験から育つ内容を具体的に説明できる。	領域「環境」のねらい・内容を理解し幼児自身の気づきや好奇心に着目ができて幼児が主体的・対話的に環境に関わる保育を考えることができる。子供の遊びの特徴及び意義を十分に理解し経験から育つ内容を説明できる。	領域「環境」のねらい・内容を理解し、幼児が主体的・対話的に環境に関わる保育を考えることに努力している。子供の遊びの特徴及び意義を理解している。	領域「環境」のねらい・内容を断片的に理解し幼児が主体的・対話的に環境に関わる保育に対してイメージや子供の遊びの意義について理解がやや不足している。		
該当DPに対する到達度の目安	保育と子育て支援に必要な専門知識と技術を有し、個々の発達に応じて子どもの成長を促す保育を展開できる。その意図を説明できる。又子育て環境を深く分析して課題や問題を見つけ出し、その解決に向けて他者へ発信でき計画的に考え、答えを導き出す能力を身に付けている。	保育と子育て支援に必要な専門知識と技術を有し、個々の発達に応じて子どもの成長を促す保育を展開できる。又、子育て環境を分析して課題や問題を見つけ出し、その解決に向けて計画的に考え、答えを導き出す能力を身に付けている。	領域「環境」のねらい・内容を理解し、幼児が主体的・対話的に環境に関わる保育を考えることに努力している。子供の遊びの特徴及び意義を理解している。	保育と子育て支援に必要な専門知識と技術は断片的に有し、子どもの成長を促す保育を展開できる。又、子育て環境を分析して課題や問題を見つけ出し、その解決に向けて計画的に考えようとする。		

年度	2025	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	33213	ICT活用	○
授業科目名	保育内容(言葉)指導法					実務教員	○
科目	専門教育科目/領域及び保育内容の指導法に関する科目						
施行規則に定める科目区分または事項等			保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）				
配当年次	1 年	期間	後期	必修区分	保幼		
授業形態	演習	単位数	1	担当形態	単独		
教員	三島 裕一						
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP1, 4, 8					
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会力 (DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
□幼稚園教育要領、保育所保育指針等に示された領域「言葉」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深め、領域「言葉」の全体構造を把握するとともに、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえ、具体的な指導場面を想定し、豊かな言葉を育む保育を構想する力を身につける。また、児童文化財や言葉遊びの保育環境をデザインし、実践する力を身につける。							
授業の概要							
乳幼児の言葉の発達過程については、遊びの中での文字の有用性や非言語的なコミュニケーションの重要性も含めて包括的に考える必要がある。そのため、本授業では領域「言葉」の内容を理解するとともに、遊びを通して言葉の面白さや楽しさを共有する。そして児童文化財とのかかわりを中心に指導案を作成し、言葉に遅れがある子への配慮等も含めて保育を構想しながら実践的な学びを深める。さらに幼稚園教育における評価の考え方を理解する。							
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）							
予習：授業に関連する項目について、『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』等を熟読しておくこと。 復習：授業で学んだ要点、課題、疑問点、自分で調べた事項などを整理しておくこと。							
標準学修時間の目安							
1 回の講義あたり0.5時間の予習と1.5時間の復習が必要となる。							
課題（試験やレポート等）のフィードバック							
ノート、レポート等の提出後、コメントや評価を付して返却すると共に、模範的なものについては授業の中で紹介していく。							
使用教科書							
	教科書名		著者名		出版社名		ISBN
1	なし		-		-		-
2							
3							
使用教科書備考							
なし							
参考書・参考資料等							
幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
三島裕一は、24年間の中学校国語教師、8年間の幼稚園勤務の経験をもとに、『言葉』『保育内容(言葉)指導法』を通して、保育における言葉の重要性・必要性、また乳幼児にとって大切な言語環境である保育者として必要な、「読む力」「書く力」「話す力」などについて指導する。							
その他							
・本科目履修生は、資料を綴るファイル、記録用のノート等を用意する。 ・ノート、レポート等については随時点検し、評価する。 ・授業内容に応じて、情報機器を活用する。							

授業計画						
第1回 領域「言葉」と他領域との関連性 幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本を踏まえて 第2回 領域「言葉」のねらい及び内容と全体構造の理解、指導上の留意点 小学校の教科等とのつながりを視野にいれて 第3回 言葉の育ちと保育者の役割 幼稚園教育における評価の考え方の理解との関連で 第4回 児童文化財 児童文化財、特に言葉遊びを通じた保育の構想の重要性、他者との関係や集団の中での育ちの理解と援助に関わる知識・技術 第5回 言葉遊びの実践（1） 幼児の認識・思考の特性を視野に入れて 第6回 言葉遊びの実践（2） 幼児の動きの特性を視野に入れて 第7回 言葉に遅れがある子、障害のある子、外国籍の子に対する保育実践 指導上の留意点を踏まえて 第8回 児童文化財と保育計画 絵本、紙芝居、人形劇等）や言葉遊びとのかかわりを中心とした保育計画、生活や遊びでイメージを豊かにし、感性を養うための知識・技術 第9回 指導案の構成の理解 具体的な指導案の事例を参照しながら 第10回 指導案の作成と教材研究—具体的な保育を想定して 遊具や用具、素材や教材等の特性の理解と活用・作成に必要なとなる知識・技術 第11回 模擬保育の実施（1） 絵本、紙芝居を中心に 第12回 模擬保育の実施（2） 物語や素話を中心に 第13回 自分たちの保育を改善する 模擬保育の振り返りを通じて 第14回 情報機器及び教材の活用法を理解する 幼児の言葉体験との関連で 第15回 保育実践の動向と保育構想の向上 幼児の言葉の発達特性を踏まえて 【授業実施方法】 原則として、対面（面接）授業を実施する。対面（面接）授業の実施が困難と判断される場合には、遠隔授業（オンライン・オンデマンド・課題）を併用する。 ICTを活用した双方向型授業を実施する授業回がある。 【アクティブラーニングの導入】 「グループワーク」						
成績評価の方法 (試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合 (%)	60	0	30	0	10	100
成績評価の基準（ルーブリック）						
到達度	秀逸	優秀	良好	最低限		
授業の到達目標 に対する 到達度の目安	幼稚園教育要領等示された領域「言葉」のねらいと内容を関連させ、確実に理解できる。また、言葉に遅れがある子への配慮も含め発達に即した指導場面を想定し、豊かな言葉を育む保育を構想できる。さらに児童文化財や言葉遊びについて十分理解し、それを生かした指導案を作成し実践することで、実践的な指導力を身につけている。	幼稚園教育要領等示された領域「言葉」のねらいと内容を関連させて理解することができる。また、言葉の発達に即した指導場面を想定し、豊かな言葉を育む保育を構想できる。さらには児童文化財や言葉遊びの特性を理解し、それらを生かした指導案を作成し実践することができる。	幼稚園教育要領等示された領域「言葉」のねらいと内容を関連させ、概ね理解することができる。また、言葉の発達に即し、豊かな言葉を育む保育を構想することができる。さらには児童文化財や言葉遊びについて理解し、それを生かした指導案を作成することができる。	幼稚園教育要領等示された領域「言葉」のねらいと内容をある程度まで理解することができる。また、言葉の発達に即し、豊かな言葉を育む保育を構想しようとして努力することができる。さらには、児童文化財や言葉遊びを用いた指導案を構想し、その概要だけでも作成することができる。		
該当DPに対する 到達度の目安	保育者としての社会的使命を十分に認識し保育の専門知識を獲得できる。また幼児期に育むべき言葉のねらいや内容を確実に理解し、言葉の発達を促す能力を身につけている。さらには、子育ての環境を深く分析し課題や問題点を明らかにする能力を獲得すると共に地域や保護者等と密接に連携し、解決に向けて熱心に取り組むことができる。	保育者としての社会的使命を認識し、専門的知識を獲得することができる。また、幼児期に育むべき言葉のねらいや内容を理解し子どもと関わる能力を身につけることができる。さらには子育ての環境を分析し、課題や問題点を明らかにする能力を獲得すると共に、地域や保護者と連携し、解決に向けて取り組むことができる。	保育者としての社会的使命を概ね認識し、保育の専門知識を獲得できる。また、幼児期に育むべき言葉のねらいや内容をある程度理解し言葉の発達を促す能力を得る努力ができる。さらには子育ての環境を理解し、課題や問題点を明らかにする能力を得ようと努めると共に、地域や保護者と連携し、解決に向けて取り組むことができる。	保育の専門知識をある程度獲得することができる。また幼児期に育むべき言葉のねらいや内容を理解し言葉の発達を促す能力を身につけようと努力している。さらには子育ての環境をある程度理解し、課題を明らかにする能力を得ようと努め、地域や保護者と連携して解決に向けて取り組む努力をすることができる。		

年度	2025	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	33214	ICT活用	○
授業科目名	保育内容(表現)指導法					実務教員	○
科目	専門教育科目/領域及び保育内容の指導法に関する科目						
施行規則に定める科目区分または事項等			保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）				
配当年次	1年	期間	後期	必修区分	保幼		
授業形態	演習	単位数	1	担当形態	オムニバス		
教員	山下 真由美／野呂 祐人／小林 貴美子						
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP1, 4, 5, 8, 9					
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会力 (DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
☐ 1. 幼稚園教育要領・保育所保育指針の領域「表現」のねらいや内容をもとに、幼児の発達を踏まえた表現及び多様な表現方法を理解する。 ☐ 2. 幼児の学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定した保育を構想する力や、保育を振り返り保育を改善する力を身に付ける。 ☐ 3. 子どもが表現の喜びを感じ、他者の表現に共感できる主体的・対話的な深い学びに導く保育構想及び指導法を身に付ける。							
授業の概要							
幼稚園教育要領及び保育所保育指針の領域「表現」のねらいや内容を理解し、幼児の発達を踏まえて多様な表現活動の展開を考える力を身に付ける。また、音楽表現、造形表現、身体表現、言語表現等の多様な表現活動を関連付けて考え、子どもの豊かな育ちを支える保育の構想を自ら考察する。指導案の作成や模擬保育の実施を通して教材の選択・活用の重要性を認識し、創意工夫した保育の構想及び保育を改善する力を身に付ける。							
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）							
復習に重点を置き、各自で授業内容をノートに記録しておくこと。授業前には、あらかじめテキストの該当箇所を読み、関連する事柄について資料の下調べも行うこと。							
標準学修時間の目安							
1回の講義にあたり、予習・復習を含めて2時間の学修が望ましい。							
課題（試験やレポート等）のフィードバック							
課題・レポート等は提出後の授業でコメントを付し返却する。 試験の解答は、試験後に研究室前に掲示する。各自見直しをすること。							
使用教科書							
	教科書名	著者名	出版社名	ISBN			
1	保育内容「音楽表現」	石井玲子 編著	教育情報出版	978-4-909378-16-3			
2							
3							
使用教科書備考							
表現者を育てるための保育内容「音楽表現」－音遊びから音楽表現へ－ 石井玲子 編著							
参考書・参考資料等							
幼稚園教育要領（平成29年4月 文部科学省）、保育所保育指針（平成29年4月 厚生労働省） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年4月 文部科学省・厚生労働省） 小学校学習指導要領（平成29年度 文部科学省）							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
山下・野呂：実務経験のある教員に該当しない。 小林：保育士資格を有し、スポーツクラブ（15年）の勤務経験及び市内近郊の幼稚園等での身体表現指導の実績をもとに教授する。							
その他							
・本授業は1単位45分であり、授業前の準備や授業後の片付けなど迅速かつ主体的に行うことができるよう各自工夫すること。 ・ML教室（第2音楽室）を使用する授業回では、ICTを活用した双方向型授業を実施する。							

授業計画						
第1回 オリエンテーション、幼稚園教育要領の領域「表現」のねらい及び内容の確認（山下） 子どもの生活と遊びにおける他者との関係や集団の中での育ちの理解と援助に関わる知識・技術について、事例を通して学ぶ。 第2回 幼稚園教育の基本及び全体構造・保育実践の動向－モンテッソーリ・造形と表現、シュタイナー・自然環境と表現－（野呂） モンテッソーリ教育 およびシュタイナー教育について、教具や教育法の事例を参照しながら学ぶ。 第3回 幼児の認識、思考、動き等を踏まえた保育の構想の重要性の理解、教材の工夫と活用、素材や教材等の特性の理解とその活用や作成に必要な知識・技術（野呂） 模擬保育に向け、保育の構想をするために必要な導入や振り返り、教材や素材の準備や活用の方法、安全性への配慮などを学ぶ。 第4回 協働的造形表現の取組と保育構想・表現の喜びと共感性－壁面飾りの構想と表現技術－（野呂） 子どもの協働性に関する発達段階を学び、壁面の製作を想定して協働性に関する演習を行う。 第5回 環境構成と遊び・表現の展開－専門領域の関連と表現技術及び教材・情報機器の活用（野呂） 環境構成と遊び・表現の関連性、指導案における環境構成の図の描き方などを学ぶ。 第6回 模擬保育の実施1－造形表現を中心とした指導法・保育構想－（野呂） 造形表現を中心とした活動を想定した模擬保育を行う。 第7回 模擬保育の実施2－造形表現を中心とした指導法・保育構想－（野呂） 造形表現を中心とした活動を想定した模擬保育を行う。 第8回 幼稚園教育の基本及び全体構造・保育実践の動向－コダーイと音楽表現－（山下） イメージを豊かにし、感性を養うための音楽表現の知識・技術について実践を通して学ぶ。 第9回 幼稚園教育の基本及び全体構造・保育実践の動向－フレーベル・遊びと表現－（山下） 子どもの成長と遊びの関連について、実践を通して学ぶ。 第10回 協働的身体表現の取組と保育構想・表現の喜びと共感性－遊びと身体表現－（小林） 協働的身体表現の取組について、実践を通して学ぶ。 第11回 協働的音楽表現の取組と保育構想・表現の喜びと共感性－遊びと音楽表現－（山下） 協働的音楽表現の事例を知り、遊びと音楽の関わりについて、実践を通して学ぶ。 第12回 指導案の作成・指導上の留意点及び評価の考え方（山下） 保育の表現領域と小学校教科との関連について、事例を通して学ぶ。 第13回 模擬保育の実施3－音楽表現を中心とした指導法・保育構想－（山下） 音楽表現を中心とした活動を想定した模擬保育を行う。 第14回 模擬保育の実施4－身体表現を中心とした指導法・保育構想－（小林） 身体表現を中心とした活動を想定した模擬保育を行う。 第15回 模擬保育の省察とまとめ－保育の改善及び保育構想の向上－（山下） 模擬保育を省察し、改善点について検討を行い、授業のまとめに取り組む。						
【授業実施方法】 原則として、対面（面接）授業を実施する。対面（面接）授業の実施が困難と判断される場合には、遠隔授業（オンライン・オンデマンド・課題）を併用する。 ICTを活用した双方向型授業を実施する授業回がある。 【アクティブラーニングの導入】 「プレゼンテーション」「グループワーク」「ディスカッション」						
成績評価の方法 (試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合 (%)	0	40	40	0	20	100
成績評価の基準（ルーブリック）						
到達度	秀逸	優秀	良好	最低限		
授業の到達目標 に対する 到達度の目安	幼稚園教育要領及び保育所保育指針の領域「表現」について、幼児の発達理解を踏まえて音楽表現、造形表現、身体表現、言語表現等を関連付け、子どもの育ちを支える保育を総合的に構想できる。教材の選択・活用の重要性を認識し、創意工夫した保育構想と感性を育てる指導法及び保育の改善案を他者と協働して考察・実践できる。	幼稚園教育要領及び保育所保育指針の領域「表現」について、幼児の発達理解を踏まえて音楽表現、造形表現、身体表現、言語表現等を関連付け子どもの育ちを支える保育を構想できる。教材の選択・活用の重要性を認識し、創意工夫した保育構想と感性を育てる指導法及び保育の改善案を他者と協働して考察できる。	幼稚園教育要領及び保育所保育指針の領域「表現」について、幼児の発達理解を踏まえて音楽表現、造形表現、身体表現、言語表現等の関連に意識をもち、子どもの育ちを支える保育の構想を試みることができる。教材の選択・活用の重要性を知り、創意工夫した保育構想と感性を育てる指導法及び保育の改善案を他者と共有することができる。	幼稚園教育要領及び保育所保育指針の領域「表現」について、幼児の発達理解を踏まえて音楽表現、造形表現、身体表現、言語表現等の関連に意識をもち、子どもの育ちを支える保育を断片的に構想することができる。教材の選択・活用を概ね理解し、感性を育てる指導法や保育の改善案について他者との共有に努めることができる。		
該当DPに対する 到達度の目安	保育・幼児教育に必要とされる表現活動に関わる専門的知識や技能を活用し、具体的指導法について十分に理解し示すことができる。身につけた技能や指導法を踏まえて、子どもの発達を鑑み、子ども理解に基づく保育内容表現の課題を自ら見出し、検討できる。他者と協働して保育を構想し、課題の改善に向けて考察・実践できる。	保育・幼児教育に必要とされる表現活動に関わる専門的知識や技能を活用し、具体的指導法について理解し示すことができる。身につけた技能や指導法を踏まえて、子どもの発達を鑑み、子ども理解に基づく保育内容表現の課題を自ら見出すことができる。他者と協働して保育を構想し、課題の改善に向けて考察できる。	保育・幼児教育に必要とされる表現活動に関わる専門的知識や技能を学び、具体的指導法について理解し、示すことができる。身につけた技能や指導法を踏まえて、子どもの発達を鑑み、子ども理解に基づく保育内容表現の課題について考えることができる。他者と協働して保育を構想し、課題の改善に向けて考察を試みることができる。	保育・幼児教育に必要とされる表現活動に関わる専門的知識や技能を知り、具体的指導法について概ね理解して示すことができる。習得段階である技能や指導法を基に、子どもの発達を鑑み、子ども理解に基づく保育内容表現の課題について考え、他者と協働した保育構想や課題の改善に向けて断片的であるが考察を試みることができる。		

年度	2025	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	33150	ICT活用	○
授業科目名	乳児保育 I					実務教員	—
科目	専門教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等							
配当年次	1 年	期間	前期	必修区分	保		
授業形態	講義	単位数	2	担当形態	単独		
教員	咲間 まり子						
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP1, 4, 5					
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会力 (DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
0・1・2歳児の保育の内容・方法、そしてその質が、人間の一生の育ちや生活に深い影響を与えることが明らかになってきました。乳児や1、2歳児の保育では温かく丁寧な保育、受容的で応答的な保育が大切であることから、本講義では、次の到達目標に沿って行うことを目的とする。 ☐1. 乳児保育の意義・目的と歴史的変遷及び役割等について説明できる。 ☐2. 保育所、乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について説明できる。 ☐3. 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制について説明できる。 ☐4. 乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について説明できる。							
授業の概要							
乳児保育の意義・目的と歴史的変遷及び役割、保育所、乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題、3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容運営体制、乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域機関との連携について理解を深める。							
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）							
ニュースや新聞等で乳幼児・子育てに関する記事等の収集に努める事。							
標準学修時間の目安							
1回の講義あたり予習・復習を含めて4時間の学習が望ましい。							
課題（試験やレポート等）のフィードバック							
課題・レポートについては、担当者からコメントを付し、担当印を押し、学生に返却する。							
使用教科書							
	教科書名		著者名		出版社名		ISBN
1	コンパス 乳児保育		咲間まり子編著		建帛社		9784767950631
2							
3							
使用教科書備考							
なし							
参考書・参考資料等							
幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
実務経験のある教員に該当しない。							
その他							
・担当教員の指示に従う事。 ・必要に応じて、授業内で提示した課題について、グループワークを行い、その結果をプレゼンテーションしてもらう。							

授業計画						
第 1回 乳児保育とは 0・1・2歳児が育つ場所、子どもと家庭を取り巻く環境について学ぶ 第 2回 乳児保育の課題 保育所保育指針からみる乳児保育について学ぶ 第 3回 乳児保育の基本 乳児保育の理念と歴史的変遷、現代における乳児保育の社会的役割について学ぶ 第 4回 乳児保育の制度と課題 認可保育所、認定こども園について学ぶ 第 5回 乳児保育の制度と課題 小規模保育、家庭的保育、乳児院について学ぶ 第 6回 3歳未満児の発達過程からみる保育内容 発達の理解に基づく援助や関わりの基本について学ぶ 第 7回 3歳未満児の発達過程からみる保育内容 1歳以上 2歳未満児、2歳以上 3歳未満児の発達と保育内容について学ぶ 第 8回 基本的生活習慣の獲得 食事・排泄・睡眠について学ぶ 第 9回 基本的生活習慣の獲得 清潔の習慣、衣服の着脱について学ぶ 第10回 乳児保育の計画と記録 保育課程に基づく指導計画の作成と観察・記録及び自己評価について学ぶ 第11回 乳児保育の計画と記録 個々の発達を促す生活と遊びの環境について学ぶ 第12回 乳児保育における連携 子育て支援の背景について学ぶ 第13回 食事の計画、提供及び評価・改善 冷凍・冷蔵母乳の取り扱いについて学ぶ 第14回 食事の計画、提供及び評価・改善 保育室での配慮について学ぶ 第15回 子育てをめぐる家族の権利と責任/まとめ 第1回から第14回までの復習をする 定期試験 【授業実施方法】 原則として、対面（面接）授業を実施する。対面（面接）授業の実施が困難と判断される場合には、遠隔授業（オンライン・オンデマンド・課題）を併用する。 ICTを活用した双方向型授業を実施する授業回がある。 【アクティブラーニングの導入】 「グループワーク」「ディスカッション」						
成績評価の方法 (試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合 (%)	40	20	20	0	20	100
成績評価の基準（ルーブリック）						
到達度	秀逸	優秀	良好	最低限		
授業の到達目標に対する到達度の目安	乳児保育の意義・目的・歴史的変遷及び役割と乳児保育の現状と課題について理解し、3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制並びに乳児保育における関係機関との連携について説明できる。	乳児保育の意義・目的・歴史的変遷及び役割と乳児保育の現状と課題について理解し3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制並びに乳児保育における関係機関について他者に伝えることができる。	乳児保育の意義・目的・歴史的変遷、3歳未満児の発育・発達、乳児保育における関係機関について理解している。	乳児保育の意義・目的・歴史的変遷、3歳未満児の発育・発達、乳児保育における関係機関について断片的であるが理解している。		
該当DPに対する到達度の目安	乳児保育の意義・目的・歴史的変遷及び役割と乳児保育の現状と課題、3歳未満児の発育・発達、関係機関との連携について知識・技能としてしっかり身につけている。	乳児保育の意義・目的・歴史的変遷及び役割と乳児保育の現状と課題、3歳未満児の発育・発達、関係機関との連携について身につけている。	乳児保育の意義・目的・歴史的変遷及び役割と乳児保育の現状と課題、3歳未満児の発育・発達と関係機関への連携についてある程度発信できる。	乳児保育の意義・目的・歴史的変遷及び役割と乳児保育の現状と課題、3歳未満児の発育・発達と関係機関について他者へ発信することが最低限できる。		

年度	2025	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	33250	ICT活用	○
授業科目名	乳児保育Ⅱ					実務教員	○
科目	専門教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等							
配当年次	1 年	期間	後期	必修区分	保		
授業形態	演習	単位数	1	担当形態	オムニバス		
教員	咲間 まり子／田福 朱美						
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP1, 2, 4, 5, 6					
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会力 (DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
乳児期の発達については、視覚、聴覚などの感覚や、座る、はう、歩くなどの運動機能が著しく発達し、特定の大人との応答的な関わりを通じて、情緒的な絆が形成されるという特徴がある。これらの発達を踏まえて、乳児保育は、愛情豊かに、応答的にこなされる必要があることを基本にし、本講義では、次の到達目標を達成することを目的におこなう。 □1. 3歳未満児の発達・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方について説明できる。 □2. 養護及び教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について、具体的に説明できる。 □3. 乳児保育における配慮の実践について、具体的に説明できる。 □4. 上記1～3を踏まえ、乳児保育における計画の作成について、具体的に説明できる。							
授業の概要							
3歳児未満児の発達・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的考え方、養護と教育の一体性を踏まえ、3歳児未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境、乳児保育の配慮の実践、乳児保育における計画の作成についての理解を深める。							
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）							
授業後、ノート・プリントを振り返りをする。翌週復習をする。 ニュース・新聞・Webページ等で乳児保育、子育てに関する記事の収集に努める事。							
標準学修時間の目安							
1回の講義あたり予習・復習を含め2時間の学修が望ましい。							
課題（試験やレポート等）のフィードバック							
課題提出の場合は、担当教員のコメントを付し、担当印を押し学生に返却する。							
使用教科書							
	教科書名		著者名		出版社名		ISBN
1	コンパス 乳児保育		咲間まり子編著		建帛社		9784767950631
2							
3							
使用教科書備考							
なし							
参考書・参考資料等							
・幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領 ・適宜資料を配布する							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
咲間まり子は、実務経験のある教員に該当しない。 田福朱美は、保育士として21年、園長として17年の実務経験から、現場での実態に基づいた授業を行う。							
その他							
オムニバス形式の授業なので、それぞれの講義の担当教員の指示にしたがうこと。 必要に応じて、授業内で提示した課題について、グループワークを行い、その結果をプレゼンテーションしてもらう。							

授業計画						
第 1回 乳児保育の基本（咲間・田福） 子どもと保育士等との関係の重要性について 第 2回 乳児保育の基本（咲間・田福） 個々の子どもに応じた援助や受容的・応答的な関わりについて 第 3回 乳児保育の基本（咲間・田福） 子どもの主体性の尊重と自己の育ちについて 第 4回 乳児保育の基本（咲間・田福） 子どもの体験と学びの芽生えについて 第 5回 「学びの芽生え」（咲間） 0歳児の五領域につながっていくイメージについて 第 6回 0歳児の三視点とは（咲間） 0歳児の三視点について 第 7回 全体的な計画に基づく指導計画（咲間） 乳児保育の指導計画、記録及び評価について 第 8回 保育における評価の取組み（咲間） 観察を通しての記録及び評価について 第 9回 カリキュラム・マネジメントについて（咲間） カリキュラムマネジメントとは何か 第10回 乳児保育における配慮の実践（咲間・田福） 子どもの心身の健康・安全と情緒の安定を図るための配慮について 第11回 乳児保育における配慮の実践（咲間・田福） 集団での生活における配慮について 第12回 乳児保育における配慮の実践（咲間・田福） 環境の変化や移行に対する配慮について 第13回 乳児保育における計画の実践（咲間・田福） 長期的な指導計画と短期的な指導計画について 第14回 実践：沐浴（咲間・田福） おむつ交換及び沐浴について 第15回 実践：調乳及び授乳（咲間・田福） 調乳の方法及び授乳のしかたについて 定期試験 【授業実施方法】 原則として、対面（面接）授業を実施する。対面（面接）授業の実施が困難と判断される場合には、遠隔授業（オンライン・オンデマンド・課題）を併用する。 ICTを活用した双方向型授業を実施する授業回がある。 【アクティブラーニングの導入】 「グループワーク」						
成績評価の方法 （試験項目）	筆記（定期試験・小テスト）	口述・実技等	論文（レポート・課題等）	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合（％）	40	20	20	0	20	100
成績評価の基準（ルーブリック）						
到達度	秀逸	優秀	良好	最低限		
授業の到達目標に対する到達度の目安	3歳未満児の発育・発達の特徴を捉えた援助の仕方や養護と教育の一体性を踏まえた、子どもの生活や遊びと乳児保育における配慮の実践について理解し、他者に詳細かつ適切な説明ができる。	3歳未満児の発育・発達の特徴を捉えた援助の仕方や養護と教育の一体性を踏まえた、子どもの生活や遊びと乳児保育における配慮の実践について、他者に適切に伝えることができる。	3歳未満児の発育・発達の特徴を捉えた援助の仕方や養護と教育の一体性を踏まえた、子どもの生活や遊びと乳児保育における配慮の実践について、理解している。	3歳未満児の発育・発達の特徴を捉えた援助の仕方や養護と教育の一体性を踏まえた、子どもの生活や遊びと乳児保育における配慮の実践について断片的であるが理解している。		
該当DPに対する到達度の目安	3歳未満児の特性を捉えた援助の仕方、養護と教育の一体性を踏まえた、子どもの生活や遊びについて他者への発信力を身に付けている。	3歳未満児の特性を捉えた援助の仕方、養護と教育の一体性を踏まえた、子どもの生活や遊びについて他者への発信に向け努力することができる。	3歳未満児の特性を捉えた援助の仕方、養護と教育の一体性を踏まえた、子どもの生活や遊びについてある程度他者へ発信できる。	3歳未満児の特性を捉えた援助の仕方、養護と教育の一体性を踏まえた、子どもの生活や遊びについて他者への発信を行うことがほとんどできない。		

年度	2025	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	33240	ICT活用	○
授業科目名	子どもの健康と安全					実務教員	○
科目	専門教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等							
配当年次	1 年	期間	後期	必修区分	保		
授業形態	演習	単位数	1	担当形態	単独		
教員	川村 幾代						
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP1, 2, 3					
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会力 (DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
近年の社会の動きや子どもの育ちをめぐる環境の変化を踏まえて、アレルギー疾患への対応を充実させ、より丁寧に対応することが求められる。また、小さな子どもは、まだ免疫力が十分ではないことから、感染症などが発生しやすくなり、園全体での取り組みが必要となります。さらには、子どもが安全で過ごしやすい保育環境が大切であることから、本講義では、国からのガイドラインを踏まえ、次の到達目標を達成することを目的とする。 □1. 保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助について説明できる。 □2. 関連するガイドライン(※)や近年のデータ等を踏まえ、保育における衛生管理・事故防止及び安全対策・危機管理・災害対策について、具体的に説明できる。 □3. 子どもの体調不良等に対する適切な対応について、具体的に説明できる。 □4. 関連するガイドライン(※)や近年のデータ等を踏まえ、保育における感染症対策について、具体的に説明できる。 □5. 保育における保健的対応の基本的な考えを踏まえ、関連するガイドライン(※)や近年のデータ等に基づく、子どもの発達や状態等に即した適切な対応について、具体的に説明できる。							
授業の概要							
子どもの健康と安全では、上記のガイドラインを参照し、保健的観点を踏まえた保育環境や援助、子どもの体調不良等に関する適切な対応、子どもの健康及び安全の管理に係る、組織的取組や保健活動の計画及び評価について具体的に理解を深める。							
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）							
事前に次回講義資料を配布するので、当日の演習がスムーズに行えるように予め読んでおく。また、行った演習が技術として身につくように、可能なものは個別で演習の振り返りを行っておくこと。							
標準学修時間の目安							
1回の講義当たり予習・復習それぞれ、1時間程度の学修が望ましい。							
課題（試験やレポート等）のフィードバック							
再試験対象者には模範的内容を提示し、返却時に指導する。							
使用教科書							
	教科書名	著者名	出版社名	ISBN			
1	なし	-	-	-			
2							
3							
使用教科書備考							
幼稚園指導要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領							
参考書・参考資料等							
必要時プリントを配布する。							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
病院、施設、行政の看護師実務経験（15年）から子どもの健康と安全について根拠のある実践的な知識を指導していく。							
その他							
「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」(平成23年3月、厚生労働省)、「2018年改訂版 保育所における感染症対策ガイドライン」(平成30年3月、厚生労働省)、「教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン」(平成28年3月、内閣府・文部科学省・厚生労働省)等							

授業計画						
第 1回	オリエンテーション、子どもの発育評価 身体計測：身長、体重、頭囲、胸囲測定の実施計画。計測の記録、アセスメントの方法					
第 2回	子どもの病気の特徴について 映像を通して様々な子どもの病気とその特徴を理解する					
第 3回	子どもの健康に影響するものについて 生活習慣、遺伝的な要因、身体疾患、虐待、トラウマ体験等多岐にわたる要因について理解する					
第 4回	子どもの一次救急処置について① 子どもへの救急蘇生法について理解する					
第 5回	子どもの一次救急処置について② 乳児及び小児心肺蘇生法練習用人形を用いて、一次救命処置の演習を行う					
第 6回	保育における保健的対応について① 子どもに多い病気・病状と対応方法					
第 7回	保育における保健的対応について② 感染症対策の基本を理解する					
第 8回	子どもの体調不良に対する適切な対応について① 体調不良や傷害が発生した際の対応 応急手当の演習					
第 9回	子どもの体調不良に対する適切な対応について② バイタルサイン（体温、脈拍、呼吸）測定、全身状態の観察の演習					
第10回	個別な配慮を必要とする子どもへの対応について① 慢性疾患、アレルギー疾患の子どもへの心と身体の健康について					
第11回	個別な配慮を必要とする子どもへの対応について② 食物アレルギーへの対応、エピペン注射の演習					
第12回	保育における健康及び安全管理について① 衛生管理・事故防止及び安全対策・危機管理・災害対策について具体的に理解する					
第13回	保育における健康及び安全管理について② 災害への備え、居住地域周辺の事故・災害状況、対策、課題の分析					
第14回	子どもの歯の健康とケアについて 歯科疾患（歯科治療回避、齲歯対策）、歯磨き指導の実施計画、口腔衛生、歯磨き指導					
第15回	まとめ、健康安全管理について 職員間の連携、保育における保健活動の計画、保健だより作成					
【授業実施方法】 原則として、対面（面接）授業を実施する。対面（面接）授業の実施が困難と判断される場合には、遠隔授業（オンライン・オンデマンド・課題）を併用する。 ICTを活用した双方向型授業を実施する授業回がある。						
【アクティブラーニングの導入】 「ディスカッション」「グループワーク」						
成績評価の方法 (試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合（％）	40	20	10	0	30	100
成績評価の基準（ルーブリック）						
到達度	秀逸	優秀	良好	最低限		
授業の到達目標 に対する 到達度の目安	乳幼児の特性を踏まえた感染症対策の基本、アレルギーへの対応、事故防止、事故発生時の対応方法を理解し、自ら問題意識を持ち、且つ積極的に学ぶ姿勢がみられる。	乳幼児の特性を踏まえた感染症対策の基本、アレルギーへの対応、事故防止、事故発生時の対応方法をしっかりと理解できている。	乳幼児の特性を踏まえた感染症対策の基本、アレルギーへの対応、事故防止、事故発生時の対応方法を、おおむね理解できている。	乳幼児の特性を踏まえた感染症対策の基本、アレルギーへの対応、事故防止、事故発生時の対応方法を断片的に理解できている。授業に意欲がない。		
該当DPに対する 到達度の目安	子どもの健康と安全について、各ガイドラインをもとに、実践に結びつく知識を的確に、身に付けるとともに、自ら問題意識をもって解決する力を身に付けることができている。	子どもの健康と安全について、各ガイドラインをもとに、実践に結びつく知識を的確に、身に付けるよう努力できている。	子どもの健康と安全について、各ガイドラインをもとに、実践に結びつく知識がある程度、身に付けることができている。	子どもの健康と安全について、各ガイドラインをもとに、実践に結びつく知識を断片的あるいは部分的にし、身に付けることができていない。		

年度	2025	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	33220	ICT活用	○
授業科目名	コミュニケーション・スキルⅠ					実務教員	○
科目	専門教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等							
配当年次	1年	期間	後期	必修区分	[保選]		
授業形態	演習	単位数	1	担当形態	複数		
教員	小林 博子／野呂 祐人						
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP2, 3, 5, 6, 8, 9					
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会力 (DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
「コミュニケーション」とは何か。それを支える力や方法について考え、対話を支える「話す」「聞く」などの基礎能力や、「視覚」「動作」などの非言語のコミュニケーションを学び理解する。 ☐ 1. 将来、社会人として基本的な挨拶、感謝、謝罪ができるようになる。 ☐ 2. 相手の話を態度も含めてしっかりと聴くように努める。 ☐ 3. 適切な人間関係を築くために必要な思考・スキルを身につけるよう努力する。 ☐ 4. 相手の良いところを探し、記録し、相手に言葉で伝えることができるようになる。 ☐ 5. 場面に応じて適切な言葉を選び、敬語を使うように心がける。							
授業の概要							
価値観が多様化するなかで、保育者を取り巻く環境も大きく変化している。そのような環境において、対応力を備えるために必要なコミュニケーション方法の基礎を学ぶ。特に1年後期2月には、保育所での観察実習がある。長い一日を園で過ごす子どもたちの姿、保育所で働く保育士の職務内容を、自身の目で観察することを通して、授業では得られない新たな気づきがある。良き気づきを得るためにも、そこで働く保育士とのコミュニケーションを円滑にするためのスキル（聴くこと、話すこと）を習得する。それだけでなく、保育士・社会人としての一歩を踏み出すための基礎的なスキルを習得することを目標とする。							
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）							
予習、復習、準備学習については、その都度伝えます。							
標準学修時間の目安							
次回の講義までに予習・復習を含めて2時間の学修が望ましい。							
課題（試験やレポート等）のフィードバック							
採点后課題返却、ミニテストや自己チェックリストの確認で得手不得手を知り、次回の講座まで正しい知識・より良いスキルを身に付けられるようにする。							
使用教科書							
	教科書名		著者名		出版社名		ISBN
1	なし		-		-		-
2							
3							
使用教科書備考							
資料は適宜配布する。							
参考書・参考資料等							
なし							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
小林は、41年間幼稚園教諭・園長としての職にあり、これまで有能な保育者を育ててきた実績から、専門的職業人としての基礎部分について講義する。 野呂は、実務経験のある教員に該当しない。							
その他							
なし							

授業計画						
第1回 オリエンテーション、挨拶・感謝・謝罪を場面に応じて適切に行えるようになる 保育現場でよくある場面を想定し、挨拶・感謝・謝罪を実際に行う。 第2回 自己紹介の仕方 自己紹介シートを作成し、実際に自己紹介をする演習を行う。 第3回 上手な聴き方 上手な聴き方のポイントを押さえながら、日常生活の場面を想定し、他者の話を聴く練習を行う。 第4回 上手な質問の仕方 上手な質問の仕方のポイントを押さえながら、日常生活の場面を想定し、他者に質問をする練習を行う。 第5回 敬語の使い方 幼児教育の施設で勤務する際によく使用する敬語（尊敬語・謙譲語・丁寧語）を学ぶ。 第6回 あたたかい言葉かけ、気持ちをわかって働きかける 子どもと関わる際の言葉かけのポイントを押さえながら、場面ごとに応じた言葉かけの練習を行う。 第7回 子どもや保護者を観察する視点 園での保護者対応を想定し、保護者役や保育者役に分かれ、ロールプレイを行う。 第8回 観察と記録の方法 保育現場での観察と記録を想定し、他者の様子を観察し、記録をする練習を行う。 第9回 非言語のコミュニケーション（視線や動作） 非言語コミュニケーションについて学び、視線や動作を使った演習やゲームを行う。 第10回 非言語のコミュニケーション（色と形） 色や形によるコミュニケーションについて学び、実際に色と形を使った演習やゲームを行う。 第11回 幼児への働きかけ（0・1・2歳児とのコミュニケーション） 0・1・2歳児とのコミュニケーションについて学び、関連するわらべうたや遊びなどを体験する。 第12回 幼児への働きかけ（3・4・5歳児とのコミュニケーション） 3・4・5歳児とのコミュニケーションについて学び、関連するわらべうたや遊びなどを体験する。 第13回 保育者とのコミュニケーション、保護者とのコミュニケーション（保護者との話し方、電話対応） 保育者および保護者とのコミュニケーションについて学び、保護者との会話や電話対応の練習を行う。 第14回 相手から見た姿 ボランティアや実習での自己紹介を想定し、映像などを使い、自分が自己紹介をしている姿を分析をする。 第15回 まとめ（保育者になる上でのコミュニケーションの重要性） 全15回の授業を振り返り、保育の仕事をする上でのコミュニケーションの重要性を学ぶ。 【授業実施方法】 原則として、対面（面接）授業を実施する。対面（面接）授業の実施が困難と判断される場合には、遠隔授業（オンライン・オンデマンド・課題）を併用する。 ICTを活用した双方向型授業を実施する授業回がある。 【アクティブラーニングの導入】 「グループワーク」						
成績評価の方法 (試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合 (%)	0	0	50	0	50	100
成績評価の基準（ルーブリック）						
到達度	秀逸	優秀	良好	最低限		
授業の到達目標 に対する 到達度の目安	1年次後期に保育所での観察実習がある。保育所で働く保育士の職務内容、自身の目で観察することを通して、授業では得られない新たな気づきがある。そこで働く保育士とのコミュニケーションを円滑にするためのスキルを習得し、他者に詳細な情報を伝えることができる。	1年次後期に保育所での観察実習がある。保育所で働く保育士の職務内容、自身の目で観察することを通して、授業では得られない新たな気づきがある。そこで働く保育士とのコミュニケーションを円滑にするためのスキルを理解し、それらを他者に適切に伝えることができる。	1年次後期に保育所での観察実習がある。保育所で働く保育士の職務内容、自身の目で観察することを通して、授業では得られない新たな気づきがある。それらについて、理解している。	1年次後期に保育所での観察実習がある。保育所で働く保育士の職務内容、自身の目で観察することを通して、授業では得られない新たな気づきがある。それらを断片的であるが理解している。		
該当DPに対する 到達度の目安	1年次後期に保育所での観察実習がある。そこでは座学では得られない保育士の職務内容等を学び、専門的職業人としての大切なコミュニケーション力と社会人力について理解をし、関連する情報の継続的な収集と他者への発信力を身に付けている。	1年次後期に保育所での観察実習がある。そこでは座学では得られない保育士の職務内容等を学び、専門的職業人としての大切なコミュニケーション力と社会人力について理解し、他者への発信、課題解決に向けて努力することができる。	1年次後期に保育所での観察実習がある。そこでは座学では得られない保育士の職務内容等を学び、専門的職業人としての大切なコミュニケーション力と社会人力について理解し、ある程度の情報の収集と他者への発信ができる。	1年次後期に保育所での観察実習がある。そこでは座学では得られない保育士の職務内容等を学び、専門的職業人としての大切なコミュニケーション力と社会人力についてある程度理解しているが、関連する情報の収集や他者への発信をおこなうことがほとんどできない。		

年度	2025	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	34110	ICT活用	○
授業科目名	保育実習指導 I					実務教員	○
科目	専門教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等							
配当年次	1 年	期間	通年	必修区分	保		
授業形態	演習	単位数	2	担当形態	複数		
教員	白府 士孝／川村 幾代						
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP1, 2, 3, 4, 5, 7, 9					
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会力 (DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
保育実習の意義・目的・内容等を理解し、保育実習がより効果的に実施できることを目的とする。 □1. 保育実習の意義・目的を理解する。 □2. 実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にする。 □3. 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。 □4. 実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解する。 □5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、今後の学習に向けた課題や目標を明確にする。							
授業の概要							
・本講義では、保育実習の意義・目的・内容を理解し、今後の学習に向けた課題や目標を明確にすることである。 ・当該科目は、学生の円滑な学修を支援するため、教育助手を配置する。							
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）							
・保育実習指導ファイルを整理して、毎回持参すること。 ・やむなく欠席した場合は、授業担当者を訪ね個別に授業内容を確認すること。							
標準学修時間の目安							
1回の講義当たり、予習・復習を含め2時間の学習が望ましい。							
課題（試験やレポート等）のフィードバック							
指導案や見学时レポート等は、担当者が確認後返却する。							
使用教科書							
	教科書名		著者名		出版社名		ISBN
1	保育所保育指針解説書		厚生労働省編		フレーベル館		9784577814482
2	幼稚園教育要領解説		文部科学省		フレーベル館		9784577814475
3	教育・保育要領解説		使用教科書備考欄参照		フレーベル館		9784577814499
使用教科書備考							
3. 幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説 著者名：内閣府・文部科学省・厚生労働省							
参考書・参考資料等							
必要に応じてその都度プリントを配布する。							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
白府：実務経験のある教員に該当しない。 川村：障がい者施設の相談員（10年）としての実務経験を生かし、施設実習について指導する。							
その他							
児童福祉施設の見学・参観に関連しては、必要に応じてプリントを配布する。							

授業計画						
第 1回 保育実習の意義、実習の目的、実習の概要について 第 2回 保育実習の内容と課題の明確化について(実習の内容、実習の課題) 第 3回 保育実習Ⅰ(保育所の実習について) 第 4回 保育実習Ⅰ(施設の実習について) 第 5回 保育計画の実際①(保育課程や指導計画) 第 6回 保育計画の実際②(日案、部分指導案の立案と実践) 第 7回 保育内容の研究①(手遊び) 第 8回 保育内容の研究②(絵本・紙芝居) 第 9回 保育計画の実際③(部分指導案の検討) 第10回 保育内容の研究③(ジャンケン遊び) 第11回 保育内容の研究④(素話) 第12回 保育計画の実際④(部分指導案の修正) 第13回 実習に際しての留意事項(子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務、実習生としての心構え) 第14回 保育実習の学び:先輩に学ぶ 第15回 実習園調査と実習希望調査書の記入について 第16回 実習希望調査書の提出、保育所の子育て機能を学ぶ 第17回 保育実習Ⅰ(施設)に関連し、施設見学オリエンテーション 第18回 児童福祉施設の見学・参観①(児童養護施設の概要説明) 第19回 児童福祉施設の見学・参観②(児童養護施設内の見学) 第20回 児童福祉施設の見学・参観③(障害者入所施設の概要説明) 第21回 児童福祉施設の見学・参観④(障害者入所施設の見学) 第22回 保育実習Ⅰ施設、保育実習Ⅲについて 第23回 実習関連書類の作成 第24回 実習中の子どもとのかかわり 第25回 実習記録の意義と内容、方法 第26回 実習の計画と記録(実習における計画と実践、実習における観察、記録及び評価) 第27回 実習生としての心構え2 第28回 自己課題の設定と発表 第29回 実習ガイダンス、実習事前訪問オリエンテーション 第30回 事後指導における実習の総括と課題の明確化、実習報告会・実習の総括と自己評価・実習事後指導・課題の明確化						
この授業は、保育実習Ⅰ(保育所・施設)の意義と目的を理解し、実習の内容を学びながら自らの実習の課題を明確にしていく。また、実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について学び、保育実習Ⅰに向けての実践的な知識・技能を身に着ける。なお、本授業には「保育士による児童生徒性暴力等の防止等に関する基本的な指針」(令和6年3月29日改正)の内容が含まれる。						
【授業実施方法】 原則として、対面(面接)授業を実施する。対面(面接)授業の実施が困難と判断される場合には、遠隔授業(オンライン・オンデマンド・課題)を併用する。						
ICTを活用した双方向型授業を実施する授業回がある。						
【アクティブラーニングの導入】 「グループワーク」「ディスカッション」「プレゼンテーション」						
成績評価の方法 (試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合(%)	0	40	40	0	20	100
成績評価の基準(ルーブリック)						
到達度	秀逸	優秀	良好	最低限		
授業の到達目標に対する到達度の目安	保育実習の意義・目的と自分の課題を明確に出来、実習の計画・観察・実践・記録・評価の方法等が具体的に理解でき、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や目標を明確にできる。	保育実習の意義・目的と自分の課題を明確に出来、実習の計画・観察・実践・記録・評価の方法等が具体的に理解でき、他者に伝えることができる。	保育実習の意義・目的と自分の課題を明確に出来、実習の計画・観察・実践・記録・評価の方法等が具体的に理解している。	保育実習の意義・目的と自分の課題を明確に出来、実習の計画・観察・実践・記録・評価の方法等が断片的であるが理解している。		
該当DPに対する到達度の目安	保育実習の意義・目的と自分の課題を明確に出来、実習の計画・観察・実践・記録・評価の方法等が他者へ発信できる力を身に付けている。	保育実習の意義・目的と自分の課題を明確に出来、実習の計画・観察・実践・記録・評価の方法等が他者への発信と問題解決に向けての努力することができる。	保育実習の意義・目的と自分の課題を明確に出来、実習の計画・観察・実践・記録・評価の方法等がある程度他者への発信ができる。	保育実習の意義・目的と自分の課題を明確に出来、実習の計画・観察・実践・記録・評価について他者へ発信を行うことがほとんどできない。		

年度	2025	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	36340	ICT活用	—
授業科目名	レクリエーション現場実習					実務教員	—
科目	専門教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等							
配当年次	1 年	期間	その他	必修区分	レ		
授業形態	実験・実習	単位数	1	担当形態	複数		
教員	白府 士孝／山下 真由美						
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP5, 8					
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会力 (DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
参加した事業の評価・分析を行い、そこから新たなアイデアを生み出し、より良い事業運営ができるよう知識を深めていく。 ☐ 1. 健康づくり、介護予防に関わる事業を説明できる。 ☐ 2. 社会参加を促進する事業を説明できる。 ☐ 3. 青少年の健全育成、子育て支援に関わる事業を説明できる。 ☐ 4. 地域づくり、コミュニティづくりに関わる事業を説明できる。 ☐ 5. 生涯学習、生涯スポーツ、地域文化の振興に関わる事業を説明できる。							
授業の概要							
レクリエーションインストラクター資格取得の為の必修科目である。レクリエーション活動が実際に行われている現場において、実際に指導する上で必要となる様々な技術や配慮事項、運営方法等を総合的に学習する。具体的には、地域等で開催されているレクリエーションの事業について理解し、参加した事業について参加者、スタッフ、運営責任者それぞれの立場から分析し、より良い事業にするためのアイデアを生み出すことができるようになることを目指す。							
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）							
予習：レクリエーションインストラクター取得関連科目で学んだ内容について資料の下調べをし、実習に備えること。 復習：実際に現場に出て実習を行ってきた後、振り返りの時間として自己の行動等の改善点・反省点を再度資料の下調べとともに随時まとめておくこと。							
標準学修時間の目安							
1 回の報告書（レポート）作成に 1 ～ 2 時間程度の学修が必要になる。							
課題（試験やレポート等）のフィードバック							
模範的なレポートを研究室にて開示する。							
使用教科書							
	教科書名	著者名	出版社名	ISBN			
1	なし	—	—	—			
2							
3							
使用教科書備考							
なし							
参考書・参考資料等							
なし							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
実務経験のある教員に該当しない。							
その他							
フィールドワークで学んだ内容をグループワークの時間でディスカッションを行う。							

授業計画						
第1回 ガイダンス、現場実習の注意点 第2回 レクリエーション現場実習について 第3回 事業参加の目的と実施形態 第4回 現場実習参加への用意・準備 第5回 行事運営の流れを確認・理解する 第6回 コミュニケーション・ワーク 第7回 ホスピタリティー・トレーニングの実践 第8回 レクリエーション支援のプログラムの立案 第9回 レクリエーション支援のプログラムの評価 第10回 レクリエーション支援のプログラムの改善法 第11回 行事企画のプロセスとポイント 第12回 対象者の把握（アセスメント） 第13回 事業評価について レクリエーション支援の実施 第14回 事業の実施について 第15回 生涯学習、生涯スポーツ、地域文化の振興に関わる事業に参加 このレクリエーション現場実習は、地域で実施されるレクリエーション活動や地域の自然を活用したレクリエーション活動に参加し、レクリエーション事業について参加者、スタッフ、運営責任者それぞれの立場から分析し、より良い事業にするためのアイデアを生み出すことができるようになることを目指す。 【授業実施方法】 原則として、対面(面接) 授業を実施する。対面(面接) 授業の実施が困難と判断される場合には、遠隔授業(オンライン・オンデマンド・課題)を併用する。 【アクティブラーニングの導入】 「グループワーク」「ディスカッション」「フィールドワーク」						
成績評価の方法 (試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合 (%)	0	0	100	0	0	100
成績評価の基準（ルーブリック）						
到達度	秀逸	優秀	良好	最低限		
授業の到達目標に対する 到達度の目安	健康づくり、介護予防、子育て支援に関わる事業等について説明できる。また、それらの活動のプロセスおよびポイントを説明することができる。参加する対象者を把握してレクリエーション支援のプログラムの立案・実施することができ、さらにそのプログラムの評価・改善まで行うことができる。	健康づくり、介護予防、子育て支援に関わる事業等について説明できる。また、それらの活動のプロセスおよびポイントを説明することができる。参加する対象者を把握して、レクリエーション支援のプログラムの立案・実施することができる。	健康づくり、介護予防、子育て支援に関わる事業等について説明できる。また、それらの活動のプロセスおよびポイントを説明することができる。	健康づくり、介護予防、子育て支援に関わる事業等について説明できる。		
該当DPに対する 到達度の目安	レクリエーション活動が行われる現場で指導者として必要となる知識や技術力を身に付け発信することができる。また、地域等で開催されているレクリエーションの事業について理解し参加者に対して適切なアドバイスを行うことができる。さらに参加した事業を分析し、新たなアイデアを生み出すことができる。	レクリエーション活動が行われる現場で指導者として必要となる知識や技術力を身に付け発信することができる。また、地域等で開催されているレクリエーションの事業について理解し参加者に対して適切なアドバイスを行うことができる。	レクリエーション活動が行われる現場で指導者として必要となる知識や技術力を身に付け発信することができる。また、地域等で開催されているレクリエーションの事業について理解している。	レクリエーション活動が行われる現場で指導者として必要となる知識や技術力を身に付け発信することができる。		

年度	2025	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	31420	ICT活用	○
授業科目名	保育現場の幼児教育					実務教員	○
科目	専門教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等							
配当年次	2年	期間	後期	必修区分	[保選]		
授業形態	演習	単位数	2	担当形態	単独		
教員	柏倉 義						
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP4, 7, 8					
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会力 (DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
保育所が幼児教育を担う機関として位置づけられたことにより、乳児と1歳以上3歳未満児の保育に関わるねらい及び内容、特に3つの視点の理解、生きる力の基礎となる育みたい資質・能力等を総合的に理解した上で、保育・教育現場での乳幼児の姿を可視化した、実践例について学ぶ。 □1. 保育所が幼児教育を担う機関であることを説明できる。 □2. 乳児保育の3つの視点「健やかに伸び伸びと育つ」「身近な人との気持ちが通じ合う」「身近なもののかかわり感性が育つ」で保育を評価することが示された。説明できる。また、現場での実践例を説明できる。 □3. 育みたい資質・能力を説明できる。 □4. 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を説明できる。 □5. 小学校への接続が、乳児期の保育に端を発していることを説明できる。							
授業の概要							
保育所保育指針改定のポイントは、保育所も幼児教育をおこなう施設としての位置づけ、乳児と1歳以上3歳未満児の保育、特に「健やかに伸び伸びと育つ」「身近な人と気持ちが通じ合う」「身近なもののかかわり感性が育つ」で保育を評価することが示された。さらには、小学校への接続をスムーズにするため「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を共有していくことになった。これらを総合的に理解し、保育現場での子どもの姿を可視化した、幼児教育の実践例について映像を交えながら具体的に学ぶ。							
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）							
毎週前回の復習と次週への課題が出されるので、それらをしっかり確認し学修すること。							
標準学修時間の目安							
次の講義までに事前学習(2時間)と事後学習(2時間)程度の学修が望ましい。							
課題（試験やレポート等）のフィードバック							
課題については、担当教員確認後、担当印を押し、コメントを付し、学生に返却します。							
使用教科書							
	教科書名		著者名		出版社名		ISBN
1	なし		なし		なし		-
2	なし		なし		なし		-
3	なし		なし		なし		-
使用教科書備考							
なし							
参考書・参考資料等							
なし							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
・平成18年4月より保育園に勤め、平成27年4月より認定こども園の園長に就任（在職中）。これらの実務経験を活かし、保育現場の幼児教育における現状や実践例を具体的に教授する。							
その他							
・A4のノートを用意すること。 ・必要に応じてプリントを配布する。							

授業計画						
第 1回 オリエンテーション この授業で学んでほしいこと 第 2回 養護と教育の一体性 乳児保育の重要な3つの視点について 第 3回 養護と教育の一体性② 養護と教育の一体性を伴った乳児保育の計画と注意点について 第 4回 乳児保育の現場での養護と教育の一体性について 実際の映像を見る 第 5回 養護と教育の一体性③ 養護と教育の一体性を伴った1～2歳児保育の計画と注意点について 第 6回 1～2歳児保育の現場での養護と教育の一体性について 実際の映像を見る 第 7回 養護と教育の一体性④ 養護と教育の一体性を伴った3歳以上児保育の計画と注意点について 第 8回 3歳以上児保育の現場での養護と教育の一体性について 実際の映像を見る 第 9回 幼児期の終わりまで育ってほしい姿 (10の姿) ① 10の姿の解説と実際の保育との関係について 第10回 幼児期の終わりまで育ってほしい姿 (10の姿) ② 非認知能力と主体的保育と10の姿 第11回 幼児期の終わりまで育ってほしい姿 (10の姿) ③ 10の姿を基にした幼保小の接続と実際 第12回 配慮を要する子への保育について 実際の環境整備と保育について 第13回 事故防止など安全管理について 保育現場における安全管理とその実施について、実際の事故例から学ぶ 第14回 乳幼児施設で働く職員に求められること 一般企業との違い、考え方 第15回 まとめ 【授業実施方法】 原則として、対面（面接）授業を実施する。対面（面接）授業の実施が困難と判断される場合には、遠隔授業（オンライン・オンデマンド・課題）を併用する。 I C Tを活用した双方向型授業を実施する授業回がある。 【アクティブラーニングの導入】 「ディスカッション」						
成績評価の方法 (試験項目)	筆記 (定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文 (レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合 (%)	80	5	5	5	5	100
成績評価の基準（ルーブリック）						
到達度	秀逸	優秀	良好	最低限		
授業の到達目標 に対する 到達度の目安	保育所保育指針が改定され保育所も幼児教育をおこなう施設として位置づけられ乳児と1歳児以上3歳児未満の保育について3つの視点に留意し保育を評価することができる。育みたい資質・能力並びに幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を理解し、他者に詳細かつ適切な情報として伝えることができる。	保育所も幼児教育をおこなう施設であること、乳児と1歳児以上3歳児未満の保育についての評価、育みたい資質・能力並びに幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を理解し、それらを他者に適切な情報として伝えることができる。	保育所も幼児教育をおこなう施設であること、育みたい資質・能力、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿について理解している。	保育所も幼児教育をおこなう施設であること、育みたい資質・能力、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿について断片的であるが理解している。		
該当DPに対する 到達度の目安	保育所も幼児教育をおこなう施設として位置づけられ乳児と1歳児以上3歳児未満の保育について3つの視点に留意し保育を評価することができる。育みたい資質・能力並びに幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を理解し、他者に必要社会人力・コミュニケーション力が身につくについている。	保育所も幼児教育をおこなう施設として位置づけられ育みたい資質・能力並びに幼児期の終わりまで育ってほしい姿を理解し、専門的職業人としての社会人力・コミュニケーション力が身につく、課題解決に向けて努力することができる。	保育所も幼児教育をおこなう施設として位置づけられ育みたい資質・能力並びに幼児期の終わりまで育ってほしい姿を理解し、ある程度の情報の収集と他者への発信ができる。	保育所も幼児教育をおこなう施設として位置づけられ育みたい資質・能力並びに幼児期の終わりまで育ってほしい姿を理解できず、他者への発信がほとんどできない。		

年度	2025	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	32210	ICT活用	○
授業科目名	子ども家庭支援の心理学					実務教員	—
科目	専門教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等							
配当年次	2年	期間	前期	必修区分	保心		
授業形態	講義	単位数	2	担当形態	単独		
教員	赤坂 和哉						
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP1, 5, 7, 9					
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会力 (DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
早期の発達を中心にした生涯発達に関する基礎的な知識および家庭の意義、家族関係等の発達の及ぼす影響、家庭をめぐる現代の諸問題等に関する知見の習得を目指す。 □1. 生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、発達課題等について理解する。 □2. 家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達の観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。 □3. 子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について理解する。 □4. 子どもの精神保健とその課題について理解する。							
授業の概要							
生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、家族・家庭の意義や機能、親子関係や家族関係等が関与する発達における初期経験の重要性及び発達課題等を学び、また、子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題についても理解を深める。							
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）							
・予習や準備学習：時間的に余裕のある学生には、図書館にある「子育て」や「発達心理学」という言葉が入っている図書等で、シラバスに示されている各回の内容を一読して、資料の下調べをしておくこと。 ・復習：毎回様々な心理学用語が出てくるので、それが何を意味するのか理解し、資料の下調べにて理解を深めること。							
標準学修時間の目安							
1回の講義につき、2時間の予習と2時間の復習が望ましい。							
課題（試験やレポート等）のフィードバック							
試験等後、再試対象者のみにフィードバックを行う。							
使用教科書							
	教科書名	著者名	出版社名	ISBN			
1	子ども家庭支援の心理学	本郷一夫・神谷哲司編著	建帛社	978-4-7679-5092-1			
2							
3							
使用教科書備考							
講義内で適宜資料も配付する。							
参考書・参考資料等							
伊藤篤『保育の心理学』（ミネルヴァ書房、2017年）							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
実務経験のある教員に該当しない。							
その他							
テキストにもとづくプレゼンテーションをしてもらう。また、授業の進行状況に応じて、グループディスカッションやグループワークを行う。							

授業計画						
第1回 オリエンテーション 子どもと家庭に関わる心理学の授業概要と目標、評価方法、発達の問題 第2回 乳幼児期から学童期前期にかけての発達について 乳児期の発達と特徴、幼児期の発達と特徴、学童期前期の発達と特徴 第3回 学童期後期から青年期にかけての発達について 学童期後期の発達と特徴、思春期の発達と特徴、青年期の発達と特徴 第4回 成人期における発達について 成人期の発達と特徴、パーソナリティの成立と問題、キャリアのマネジメント 第5回 老人期における発達について 老年期の発達と特徴、認知症、死にまつわる問題 第6回 家族・家庭の意義と機能について 保育環境と家庭環境、家族の構想と機能、家族システム、家族の発達 第7回 親子関係・家族関係の理解について 日本の子育て環境、養育スタイルの形成過程、愛着の世代間伝達、愛着障害 第8回 子育ての経験と親としての育ちについて 子育て支援の歴史、子育ての社会化、親育ちの重要性と支援、事例検討 第9回 子育てを取り巻く社会的状況について ワーク・ライフ・バランス、家庭と仕事に関連するストレス、ストレスの理解と対処 第10回 多様な家庭とその理解について 育児不安をもつ家族、育児サポート環境のない夫婦共働き家族、孤立しがちな家族 第11回 特別な配慮を要する家族について 貧困家族、精神障害や疾病を抱える家族、外国にルーツをもつ家族 第12回 子どもの生活・生育環境とその影響について 基本的生活習慣、事故防止と完全確保、プール活動における危険性 第13回 子どもの心の健康に関わる問題について 選択性緘黙、遺尿症、チック症、吃音、不安障害、強迫性死障害、うつ病 第14回 災害と危機介入について 災害と精神的健康、東日本大震災直後の子ども、危機介入、心理的応急処置 【授業実施方法】 原則として、対面（面接）授業を実施する。対面（面接）授業の実施が困難と判断される場合には、遠隔授業（オンライン・オンデマンド・課題）を併用する。 ICTを活用した双方向型授業を実施する授業回がある。 【アクティブラーニングの導入】 「プレゼンテーション」						
成績評価の方法 (試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合 (%)	0	10	0	50	40	100
成績評価の基準（ルーブリック）						
到達度	秀逸	優秀	良好	最低限		
授業の到達目標に対する到達度の目安	早期の発達を中心にした生涯発達に関する基礎的な知識および家庭の意義、家族関係等の発達に及ぼす影響、家庭をめぐる現代の諸問題等に関する知識を、十分に理解し、説明することができる。実践に応用できる。	早期の発達を中心にした生涯発達に関する基礎的な知識および家庭の意義、家族関係等の発達に及ぼす影響、家庭をめぐる現代の諸問題等に関する知識を、十分に理解し、説明することができる。	早期の発達を中心にした生涯発達に関する基礎的な知識および家庭の意義、家族関係等の発達に及ぼす影響、家庭をめぐる現代の諸問題等に関する知識を、十分に理解している。	早期の発達を中心にした生涯発達に関する基礎的な知識および家庭の意義、家族関係等の発達に及ぼす影響、家庭をめぐる現代の諸問題等に関する知識を、言葉の上で理解している。		
該当DPに対する到達度の目安	保育と子育て支援に必要な知識と技術を有すると共にその知識と技術を生かして物事を適切に評価でき、様々な場面に応用できる。また、他者への思いやり、柔軟な対応力、専門職業人としての高い倫理観を身につけている。	保育と子育て支援に必要な知識と技術を有すると共にその知識と技術を生かして物事を適切に評価できる。また、他者への思いやり、柔軟な対応力、専門職業人としての高い倫理観を身につけている。	保育と子育て支援に必要な知識と技術を有し、その知識と技術を生かして物事を適切に評価する努力をすることができる。また、他者への思いやり、柔軟な対応力、専門職業人としての高い倫理観の重要性を理解している。	保育と子育て支援に必要な最低限の知識と技術を有し物事を適切に評価する努力をすることができる。また、他者への思いやり、柔軟な対応力、専門職業人としての高い倫理観の重要性を理解している。		

年度	2025	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	32220	ICT活用	—
授業科目名	幼児理解					実務教員	○
科目	専門教育科目/道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目						
施行規則に定める科目区分または事項等			幼児理解の理論及び方法				
配当年次	2年	期間	前期	必修区分	保幼		
授業形態	演習	単位数	1	担当形態	単独		
教員	小林 博子						
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP1, 4, 5					
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会力 (DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
幼児理解は、幼稚園教育のあらゆる営みの基本となるものである。本授業では、保育の基本となる幼児理解についての知識を幼児の生活や遊びの実態に即して学び、保育者としての基本となる態度や考え方を理解する。さらには、観察や資料などから、幼児理解の具体的な方法を理解することをねらいとする。 ☐ 1. 保育における幼児理解の重要性を説明できる。 ☐ 2. 幼児理解を深めるための方法と保育者の態度を説明できる。 ☐ 3. 幼児の姿から学びやつまずきを理解し、適切に記録して分析することができる。 ☐ 4. 幼児理解に基づいた適切な援助の在り方を考えることができる。							
授業の概要							
幼児期にふさわしい教育を行うために、保育者は一人一人の幼児に対する理解を深めることが求められる。本授業では、保育における幼児理解の重要性と幼児理解の方法を具体的に学び、観察及び資料等の具体的な事例を通して適切な援助の在り方についてグループワークにより分析・考察し、実践力を養う。							
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）							
・実習で出会った子どもたちの様々なエピソードを記録しておくこと。 ・授業の到達目標を確認し、その日の授業内容をプリントやノートにまとめておくこと。							
標準学修時間の目安							
1回の講義あたり、1時間の予習と1時間の復習が必要となる。							
課題（試験やレポート等）のフィードバック							
課題提出期限後の授業で模範的な課題を紹介する。							
使用教科書							
	教科書名		著者名		出版社名		ISBN
1	子ども理解		請川 滋大		萌文書林		978-4-89347-363-9
2							
3							
使用教科書備考							
なし							
参考書・参考資料等							
授業中に適宜資料を配布する。							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
41年間幼稚園教諭・園長としての職にあり、保育対象である幼児の特徴・理解、支援の方法等の幼児理解の基礎について講義する。							
その他							
学外での観察学習のため、講義内容の順番が変更することがある。							

授業計画						
第1回 オリエンテーション 保育における幼児理解の意義について学ぶ。 第2回 幼児理解の基本 発達や学びを捉える原理、子どもの理解に基づく養護と教育の一体的展開について学ぶ。 第3回 幼児理解と評価の考え方 共感的理解と子どもとの関りについて、事例を通して学ぶ。 第4回 適切な幼児理解 幼児理解を深める教師の基礎的な態度、共感的理解と子どもとの関わりについて学ぶ。 第5回 幼児理解のための観察法の理解 観察と記録の意義、目的に応じた観察法、子どもの生活や遊びについて学ぶ。 第6回 保育における観察の視点① 幼児の言動から観察をする方法を学び、その対応を考える。 第7回 保育における観察の視点② 個と集団の関係を捉える意義や方法、相互の関わりと関係づくり、集団における経験と育ちについて学ぶ。 第8回 保育における観察の視点③ 環境との関わり、幼児の葛藤やつまずきと周りの幼児との関係、環境の理解と構成、環境の変化や移行について学ぶ。 第9回 保育における観察の視点④ 幼児の心理、様々な背景からの幼児理解について学ぶ。 第10回 幼児理解のための視点の整理① 幼児理解のための事例検討を行い、観察・記録・省察・評価・職員間の対話・保護者との情報の共有について学ぶ。 第11回 幼児理解のための視点の整理② 子どもの遊びの事例から、幼児理解をする演習を行う。 第12回 幼児理解と援助①（3歳児の事例） 発達の課題に応じた援助と関わり、保育の人的環境としての保育者と子どもの発達について学ぶ。 第13回 幼児理解と援助②（4、5歳児の事例） 発達の課題に応じた援助と関わり、保育の人的環境としての保育者と子どもの発達について学ぶ。 第14回 幼児理解と援助③ 保護者の心情の理解と基礎的な対応の方法、特別な配慮を要する子どもの理解と援助、発達の連続性と就学への支援について学ぶ。 第15回 まとめ 幼児理解の再確認をし、保護者への対応、地域における専門家との連携について学ぶ。 【授業実施方法】 原則として、対面（面接）授業を実施する。対面（面接）授業の実施が困難と判断される場合には、遠隔授業（オンライン・オンデマンド・課題）を併用する。 【アクティブラーニングの導入】 「グループワーク」						
成績評価の方法 (試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合 (%)	0	0	80	0	20	100
成績評価の基準（ルーブリック）						
到達度	秀逸	優秀	良好	最低限		
授業の到達目標 に対する 到達度の目安	幼稚園教育のあらゆる営みの基本となる幼児理解について、その重要性を理解し幼児理解を深めるための方法と保育者の態度を詳細に説明することができる。さらに記録を分析し、幼児理解に基づいた適切な援助の在り方を考えることができる。	幼稚園教育のあらゆる営みの基本となる幼児理解について、その重要性を理解し幼児理解を深めるための方法と保育者の態度を説明できる。さらに幼児の姿から学びやつまずきを理解し、適切に記録して分析することができる。	幼稚園教育のあらゆる営みの基本となる幼児理解について、その重要性を理解している。さらに幼児の姿から学びやつまずきを理解し適切に記録して分析することができる。	幼稚園教育のあらゆる営みの基本となる幼児理解について、その重要性を理解している。さらに幼児の姿から学びやつまずきを理解し記録することができる。		
該当DPに対する 到達度の目安	幼児理解について身に付けた知識と技能を生かし、的確な観察や記録から適切な援助の在り方を考え、自己の幼児理解を振り返り保育を正しく評価することができる。	幼児理解について身に付けた知識と技能を生かし、適切な観察や記録ができる。その記録を分析し子供の成長を促す適切な援助の在り方を考えることができる。	幼児理解について身に付けた知識と技能を生かし、幼児の学びやつまずきを理解し、子供の成長を促す適切な援助の在り方を考えることができる。	保育に必要な幼児理解の重要性を理解し、記録することができる。さらに課題を見つけ適切な援助を考えることができる。		

年度	2025	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	32240	ICT活用	○
授業科目名	子どもの食と栄養					実務教員	○
科目	専門教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等							
配当年次	2年	期間	前期	必修区分	卒保		
授業形態	演習	単位数	2	担当形態	単独		
教員	佐賀 暁美						
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP1, 6					
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会力 (DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識を習得し、子どもの発育・発達と食生活の関連について理解を深める。また、養護及び教育の一体性を踏まえた保育における食育の意義・目的・基本的な考え方、その内容等について理解した上で、家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題を理解する。さらには関連するガイドライン(※)や近年のデータ等を踏まえ、特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解を深めていく。 ※「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」(2019年3月、厚生労働省)、「保育所における食事の提供ガイドライン」(2012年3月、厚生労働省)等 ☐1. 子どもの食生活に関する基礎的な栄養の知識と課題を理解する。 ☐2. 子どもの発達段階における食育の基本と具体的な支援方法、内容及び環境について理解する。 ☐3. 特別な配慮の必要な子どもの食と栄養について理解し、説明できる。 ☐4. 保育実践に活用できるようになる。							
授業の概要							
適切な栄養の摂取は人間形成にとって重要であり、それによって健全な生活を営むことができる。また、小児期は、発育・発達の特性も加わり、栄養の摂取は特に重要である。この科目によって、子どもにとっての望ましい食生活を考え、実践しなければならないことを理解し、実践する力を養っていく。							
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）							
①予習・・・教科書にて、毎回の授業の内容を読み取り、おおまかに把握しておく ②復習・・・演習の課題について、他者のプレゼンテーションから見直しをし理解を深める。 ③子どもと食に関する情報記事(新聞・TVニュース・インターネットなど)について自分なりの考えを持つ。							
標準学修時間の目安							
①予習・・・教科書の読み取りに、1～2時間程度の学修が望ましい ②復習・・・演習問題の整理・作成のために1～2時間程度の学修が望ましい							
課題（試験やレポート等）のフィードバック							
定期試験後、再試験対象者のみに解答や課題を提示し、確実に理解できるようにする。							
使用教科書							
	教科書名		著者名		出版社名		ISBN
1	子どもの食と栄養		堤ちはる・土井正子編		萌文書林		978-4-89347-154-3
2							
3							
使用教科書備考							
資料は適宜、配布する。							
参考書・参考資料等							
なし							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
幼稚園教諭5年・管理栄養士25年を生かし、子供の成長に欠かせない栄養「食べる」ことの重要性を教授する。							
その他							
課題に対してグループによる演習を実施。 随時子どもと栄養に関する情報を取りあげ、意見交換を実施。 授業におけるスライドを、スマートフォンにて記録することは可とする。							

授業計画						
第 1回	子どもの心身の健康と食生活の現状と課題 食と栄養を学ぶ目的・基本的食生活・肥満とやせ・貧困問題など					
第 2回	栄養基本概念と栄養素の種類・機能 栄養学総論・消化吸収・5大栄養素の役割と食品・6つの基礎食品など					
第 3回	食事摂取基準2020・献立作成・調理の基本 日本人の食事摂取基準2020年・PDCAサイクル・献立の基本的な考え方・調理の衛生管理など					
第 4回	乳児期の授乳・離乳の意義と食生活 授乳と離乳の進め方の目安など					
第 5回	幼児期の心身の発達と食生活① 基本的な食習慣と食支援・間食の重要性など					
第 6回	幼児期の心身の発達と食生活② 5歳児のお弁当作りの献立作成・調理の注意点など					
第 7回	学童期・思春期の心身の発達と食生活 食生活の問題点と学校給食の現状など					
第 8回	保育における食育の意義・目的 食育のねらい(各年齢ステージ別) など					
第 9回	食育の内容と計画および評価① 食育のための環境と関係機関、職員間の連携など					
第10回	食育の内容と計画および評価② 症例による育ちについてのグループディスカッション					
第11回	食育の内容と計画および評価③ 一年の行事食からの育ちについてのグループディスカッション					
第12回	食生活指導および保護者支援① 学修からの食生活支援のおたよりを作成(PC室)					
第13回	食生活指導および保護者支援② 食生活支援のおたよりプレゼンテーション(PC室)					
第14回	特別な配慮を要する子どもの食と栄養 家庭・児童福祉施設・疾病・アレルギー・発達障害など					
第15回	生涯発達と食生活 現代社会の生活習慣病と高齢化社会の問題点など					
【授業実施方法】 原則として、対面（面接）授業を実施する。対面（面接）授業の実施が困難と判断される場合には、遠隔授業（オンライン・オンデマンド・課題）を併用する。 ICTを活用した双方向型授業を実施する授業がある。						
【アクティブラーニングの導入】 「グループワーク」「ディスカッション」「プレゼンテーション」						

年度	2025	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	32330	ICT活用	—
授業科目名	子どもの医療					実務教員	○
科目	専門教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等							
配当年次	2年	期間	前期	必修区分	[保選] ソ		
授業形態	演習	単位数	1	担当形態	オムニバス		
教員	川村 幾代／熊川 雅樹						
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP1, 4, 5, 6					
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会力 (DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
保育所保育指針改定により、子どもの健康及び安全について、近年社会の動きや子どもの育ちをめぐる環境の変化を踏まえて修正が加えられた。本講義では、これらについて、特に医師・薬剤師の立場から子どもの体の構造等の理解を含め、留意点を学ぶことをねらいとする。 ☐1. 子どものからだの構造、骨格系、筋系、循環器系、内分泌系、神経系、感覚器系を説明できる。 ☐2. 子どもが罹患しやすい病気の留意点を説明できる。 ☐3. 感染症の予防について臨床の視点から説明できる。 ☐4. 保育所における薬を与える場合の留意点を説明できる。							
授業の概要							
保育所保育指針改定で修正が加えられた点は、感染症の集団発生予防、与薬に関する留意点、アレルギー疾患への対応、個別的な配慮を必要とする子どもへの対応等である。本講義では、医師・薬剤師の立場から、子どもの体の構造等の理解を含め、子どもが罹患しやすい病気への留意点、保育所において子どもに薬を与える場合の留意点を学ぶ。							
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）							
「医学一般」の教科書を事前に読んでおくこと。							
標準学修時間の目安							
1回の講義当たり、1時間の予習と1時間の復習が必要となる。							
課題（試験やレポート等）のフィードバック							
再試験対象者には模範的内容を提示し、返却時に指導する。							
使用教科書							
	教科書名	著者名	出版社名	ISBN			
1	医学一般	—	医療教育協会	—			
2							
3							
使用教科書備考							
医学一般（一般社団法人医療教育協会）							
参考書・参考資料等							
必要に応じてプリントを配布する。							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
川村：病院、施設、行政の看護師実務経験（15年）から医学における一般的知識や感染予防、応急処置等について教授する。 熊川：薬剤師である。実務経験に基づき、医薬品や投薬、与薬においての留意点等を教授する。							
その他							
なし							

授業計画						
第 1回	解剖・生理について①（川村） 子どもの体の構造・骨格系の理解					
第 2回	解剖・生理について②（川村） 子どもの筋系、循環器系、呼吸器系の理解					
第 3回	解剖・生理について③（川村） 子どもの消化器系、泌尿器系、生殖系の理解					
第 4回	解剖・生理について④（川村） 子どもの内分泌系、神経系、感覚器系の理解					
第 5回	子どもが罹患しやすい病気の留意点（川村） アレルギー疾患への対応について解説					
第 6回	子どもの体調不良等に対する適切な対応について①（川村） 子どもの高熱、脱水症、痙攣の処置（川村）					
第 7回	子どもの体調不良等に対する適切な対応について②（川村） 子どもの応急処置における留意点を解説					
第 8回	子どもが特に罹患しやすい感染症（川村） 「保育所における感染症対策ガイドライン」「保育の場において血液を介して感染する病気を防止するためのガイドライン」について解説する。					
第 9回	感染症の予防(臨床の視点から)（川村） 手洗いや消毒等感染拡大を防ぐための処理方法等を演習で習得する					
第10回	病院受診時の対応について（川村） 病院にかかる時、救急病院を紹介してもらう時の留意点					
第11回	薬の基礎知識について①（熊川） 医薬品・投薬に関する理解、薬の種類の解説					
第12回	薬の基礎知識について②（熊川） 保育所において子どもに薬を与える場合の留意点(保護者に医師名、薬の種類、服用方法の確認)					
第13回	薬の基礎知識について③（熊川） 保育所における薬の管理					
第14回	薬の基礎知識について④（熊川） 与薬に当たっての保育士等の連携					
第15回	まとめ、医療用語について（川村） 症状を表す用語、処置手術用語、麻酔用語についての理解					
【授業実施方法】 原則として、対面（面接）授業を実施する。対面（面接）授業の実施が困難と判断される場合には、遠隔授業（オンライン・オンデマンド・課題）を併用する。						
【アクティブラーニングの導入】 「グループワーク」「ディスカッション」						

年度	2025	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	33230	ICT活用	○
授業科目名	教育課程総論					実務教員	○
科目	専門教育科目/教育の基礎的理解に関する科目						
施行規則に定める科目区分または事項等			教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）				
配当年次	2年	期間	前期	必修区分	保幼		
授業形態	講義	単位数	2	担当形態	単独		
教員	花田 譲						
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP4					
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会力 (DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
☐ 1. 教育課程・保育課程（全体的な計画）の編成と指導計画の作成について具体的に理解する。 ☐ 2. 教育内容・保育内容の充実と質の向上に資する教育・保育の計画と評価について理解する。 ☐ 3. 計画、実践、評価、改善のP D C Aの過程について全体構造を理解する。							
授業の概要							
改正された幼稚園教育要領や保育所保育指針にもとづき、幼稚園教育のための教育課程や保育所保育のための保育課程（全体的な計画）について、それぞれの編成方法や指導計画の作成についての基本的知識を身につけるとともに、保育における計画・実践・評価・改善の過程について考える。							
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）							
毎回、予習に相当する課題を示し、考えてもらう。復習は、講義中に筆記したノートを読み返して、重要な点をチェックできるような課題を提示する。							
標準学修時間の目安							
1回の講義あたり予習・復習を含めて4時間の学修が望ましい。							
課題（試験やレポート等）のフィードバック							
定期試験後に再試験対象者にのみ、課題（試験やレポート等）を返却する。							
使用教科書							
	教科書名		著者名		出版社名		ISBN
1	乳幼児カリキュラム論		北野幸子 編		建帛社		978-4-76795-096-9
2							
3							
使用教科書備考							
幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領							
参考書・参考資料等							
幼稚園教育要領解説、保育所保育指針解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
花田は、小学校教諭・管理職及び教育行政職の実務経験から、教育課程や指導計画等について授業を展開する。							
その他							
なし							

授業計画						
第1回 教育課程とは何か カリキュラムの基礎理論、保育における計画と評価の意義について学ぶ。 第2回 教育課程編成の目的 教育課程・全体的な計画を編成する意味や基本的な考え方について学ぶ。 第3回 幼稚園教育要領・保育所保育指針等の性格とその位置付け 教育要領・保育指針等の法的位置づけや内容について学ぶ。 第4回 幼稚園教育要領・保育所保育指針等の改正の変遷 主な改正内容とその社会的背景、目標と計画の基本的考え方について学ぶ。 第5回 教育課程が社会において果たしている役割と機能 社会に開かれた教育課程の意義とその具体について学ぶ。 第6回 教育課程編成の基本原則 教育課程編成上の基本的事項や留意事項について学ぶ。 第7回 教育課程編成の方法 5つの領域を横断し、教育内容を選択・配列する方法について学ぶ。 第8回 幼児や地域の実態を踏まえた教育課程や指導計画の検討 領域・学期・学年をまたいだ長期的視点に立った実践計画について学ぶ。 第9回 3歳未満児の指導計画（長期的・短期的）の考え方とその実際 計画作成の手順や方法、留意事項、保育の柔軟な展開等について学ぶ。 第10回 3歳以上児の指導計画（長期的・短期的）の考え方とその実際 計画作成の方法や手順、留意事項、保育の柔軟な展開等について学ぶ。 第11回 接続期の指導計画の考え方とその実際 就学前教育と小学校教育のスムーズな移行について学ぶ。 第12回 特色ある世界の保育とカリキュラム 諸外国の保育制度やカリキュラムの特色について学ぶ。 第13回 カリキュラム・マネジメントの意義とその重要性 保育の過程（計画・実践・記録・省察・評価・改善）の循環による保育の質の向上について学ぶ。 第14回 カリキュラム評価の基礎的な考え方 保育の記録及び省察、保育者や組織としての自己評価、保育の質の向上に向けた改善の取り組みについて学ぶ。 第15回 領域・学年をまたいだカリキュラム把握の意義 教育課程全体のマネジメント、保育・指導要録について学ぶ。 定期試験 【授業実施方法】 原則として、対面（面接）授業を実施する。対面（面接）授業の実施が困難と判断される場合には、遠隔授業（オンライン・オンデマンド・課題）を併用する。 ICTを活用した双方向型授業を実施する授業回がある。 【アクティブラーニングの導入】 「グループワーク」						
成績評価の方法 (試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合 (%)	60	0	30	0	10	100
成績評価の基準（ルーブリック）						
到達度	秀逸	優秀	良好	最低限		
授業の到達目標 に対する 到達度の目安	教育課程・保育課程の編成と指導計画について具体的に作成することができ、これが教育内容や保育内容の充実と質の向上に資することを理解し、全体構造として、計画・実践・評価・改善の一連の流れになっていることが分かる。	教育課程・保育課程の編成と指導計画について具体的に作成することができ、これが教育内容や保育内容の充実と質の向上に資することを理解している。	教育課程・保育課程の編成と指導計画について具体的に作成することができる。	教育課程・保育課程の編成と指導計画について、かろうじて作成することができる。		
該当DPに対する 到達度の目安	子育て環境を深く分析して課題や問題を見つけ出し、その解決に向けて教育課程や保育課程を考え、それにもとづいて保育計画を策定し、子どもの成長を促す能力を身に付けている。その計画を的確に認識して評価する能力があり、他者と協働しながら計画の改善を行い、計画・実践・評価・改善が一連の流れとなっていることを理解できる。	子育て環境を深く分析して課題や問題を見つけ出し、その解決に向けて教育課程や保育課程を考え、それにもとづいて保育計画を策定し、子どもの成長を促す能力を身に付けている。その計画を的確に認識して評価する能力があり、他者と協働しながら計画の改善を行うことができる。	子育て環境を深く分析して課題や問題を見つけ出し、その解決に向けてある程度、教育課程や保育課程を考え、それにもとづいて保育計画を策定し子どもの成長を促す能力を身に付けている。	子育て環境を深く分析して課題や問題を見つけ出し、その解決に向けてある程度、教育課程や保育課程を考え、それにもとづいて保育計画を策定しようと努力することができる。		

年度	2025	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	33314	ICT活用	○
授業科目名	総合表現指導法					実務教員	—
科目	専門教育科目/領域及び保育内容の指導法に関する科目						
施行規則に定める科目区分または事項等			保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）				
配当年次	2年	期間	後期	必修区分	保幼		
授業形態	演習	単位数	1	担当形態	オムニバス		
教員	山下 真由美／野呂 祐人						
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP1, 4, 5, 6, 8, 9					
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会力 (DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
□1. 幼稚園教育要領、保育所保育指針等に示された当該領域のねらい及び内容を踏まえて身体表現、音楽表現、造形表現等を相互に関連付けた総合的な表現活動の知識や表現技術について理解できる。 □2. 幼児の発達を理解した総合的な表現活動を構想するとともに、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえた具体的な指導場面を想定した保育構想の方法を身に付ける。 □3. 幼児の認識・思考・動き等を視野に入れた模擬保育の活動場面の振り返りを通して、保育を改善するとともに保育構想の向上に取り組む視点を身に付ける。							
授業の概要							
幼稚園教育要領・保育所保育指針等に示された当該領域のねらい及び内容を踏まえて、幼児の発達と幼児理解に基づき、身体表現、音楽表現、造形表現等の総合的な表現活動を構想する力を身に付ける。授業では、幼児が協働して主体的・対話的な深い学びに取り組むことの重要性を認識し、具体的指導過程を踏まえた総合的な表現活動を展開できるようグループワークによる協働発表の取組みを通して総合的な表現の指導技術を身に付ける。子どもの生活と遊びを豊かに展開する具体例を学ぶ。							
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）							
予習・復習については、授業において該当箇所や下調べの資料について明示する。グループによる発表の準備学習やグループワークを行う場合には、授業外でグループメンバーと時間調整を行い、協働して取り組むことができるよう協力し合う。							
標準学修時間の目安							
次の授業までに、予習・復習を合わせて2時間の学修が望ましい。							
課題（試験やレポート等）のフィードバック							
提出課題には、コメントを付して返却する。試験は、総合的な表現活動を評価対象とすることから、毎回の授業において主体的に取り組むとともに、グループワークの際は協働して行うこと。							
使用教科書							
	教科書名		著者名		出版社名		ISBN
1	なし		—		—		—
2							
3							
使用教科書備考							
授業中に適宜資料を配布する。							
参考書・参考資料等							
幼稚園教育要領（平成29年4月 文部科学省） 保育所保育指針（平成29年4月 厚生労働省） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年4月 文部科学省・厚生労働省）							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
実務経験のある教員に該当しない。							
その他							
グループワークの取り組みでは、授業外学習を活用し、協働して自主的・主体的に取り組む。 ML教室（第2音楽室）の活動では、ICTを活用した双方向型授業を実施する。							

授業計画						
第 1回 オリエンテーション、第2回～第15回の総合的表現活動の全体構造（山下） 発達段階、幼児の認識・思考・動き等を視野に入れた保育の構想の重要性について授業の概要と関連付けて学ぶ。 第 2回 幼児理解に基づく身体表現（幼稚園教育要領等における領域のねらい・内容・全体構造の理解）（山下） 幼児理解に基づいた身体表現の事例を知り、身体表現と関連した総合表現の演習を行う。 第 3回 身体表現の工夫と応用（幼稚園教育要領等の当該領域のねらいを踏まえた指導上の留意点）（山下） 幼児教育の事例を踏まえつつ、様々な身体表現の事例を参照し、応用的な身体表現に関する演習を行う。 第 4回 幼児理解に基づく造形表現（幼稚園教育要領等における領域のねらい・内容・全体構造の理解）（野呂） 幼児理解に基づいた素材や教材等の特性と作成・活用するための知識を学び、造形表現の活動に関する演習を行う。 第 5回 造形表現の工夫と応用（幼稚園教育要領等の当該領域のねらいを踏まえた指導上の留意点）（野呂） 幼児教育の事例を踏まえつつ、様々な造形表現の事例を参照し、応用的な造形表現に関する演習を行う。 第 6回 幼児理解に基づく音楽表現（幼稚園教育要領等における領域のねらい・内容・全体構造の理解）（山下） 幼児理解に基づいた音楽表現の総合的な知識を学び、音楽表現の活動に関する演習を行う。 第 7回 音楽表現の工夫と応用（幼稚園教育要領等の当該領域のねらいを踏まえた指導上の留意点）（山下） 幼児教育の事例を踏まえつつ、様々な音楽表現を検討・考察し、応用的な音楽表現に関する演習を行う。 第 8回 保育における総合的表現活動の事例分析（保育実践の動向と小学校教科等のつながり）（山下） 保育における総合的表現活動の事例を学び、保育実践の動向と小学校教科等のつながりについて知る。 第 9回 発達段階に応じた総合的な表現活動の取り組み（指導案の作成と評価及び評価の考え方、評価の検討）（山下） 子どもの発達と総合的な表現活動の取り組みと評価について、実践を踏まえて考察を行う。 第10回 具体的な指導場面を想定した総合的な表現活動の取り組み（山下、野呂） グループワークの編成を行い、具体的な指導場面を想定した総合的な表現活動の構想・企画を開始する。 第11回 総合的な表現活動の取り組み①協働練習（山下、野呂） 幼児の認識・思考・動き等に基づく全体構想の理解をし、総合的な表現活動の構想・企画を進める。 第12回 総合的な表現活動の取り組み②協働練習（山下、野呂） 模擬保育と活動の振り返りによる保育の改善を行い、総合的な表現活動の構想・企画を進める。 第13回 総合的な表現活動の取り組み③協働練習（山下、野呂） 保育構想の向上に向けた取り組みを行い、総合的な表現活動の構想を進める。 第14回 総合的な表現活動の発表準備（ICT等の情報機器教材の活用と保育構想企画・実施）（山下、野呂） 構想・企画した総合的な表現活動を実施し、その省察を行い発表の準備を行う。 第15回 総合的な表現活動の発表（評価と改善、他者の表現の受容と共感）（山下、野呂） 構想・企画した総合的な表現活動の発表を行い、評価と改善を行う。 【授業実施方法】 原則として、対面（面接）授業を実施する。対面（面接）授業の実施が困難と判断される場合には、遠隔授業（オンライン・オンデマンド・課題）を併用する。 ICTを活用した双方向型授業を実施する授業回がある。 【アクティブラーニングの導入】 「プレゼンテーション」「グループワーク」「ディスカッション」						
成績評価の方法 (試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合（％）	0	40	50	0	10	100
成績評価の基準（ルーブリック）						
到達度	秀逸	優秀	良好	最低限		
授業の到達目標 に対する 到達度の目安	身体表現、音楽表現、造形表現等を相互に関連付けた総合的な表現活動の知識や表現技術を充分習得し、自ら表現の指導法を示すことができる。幼児の発達を理解し、幼児が協働して主体的・対話的で深い学びを目指す総合表現の保育改善を提示できる。他者と協働して心豊かな総合表現の活動を構想・展開できる。	身体表現、音楽表現、造形表現等を相互に関連付けた総合的な表現活動の知識や表現技術を習得し、自ら表現の指導法を示すことができる。幼児の発達を理解して、幼児が協働して主体的対話的で深い学びを目指す総合表現の保育改善を考察できる。他者と協働して心豊かな総合表現の活動を構想できる。	身体表現、音楽表現、造形表現等を相互に関連付けた総合的な表現活動の知識や表現技術を習得し、自ら表現の指導法を示す試みができる。幼児の発達を理解して、幼児が協働して主体的対話的で深い学びを目指す総合総合表現の保育改善について知っている。他者と協働した総合表現の活動を構想しようと努める。	身体表現、音楽表現、造形表現等を相互に関連付けた総合的な表現活動の知識や表現技術を概ね習得し、自ら表現の指導法を示す試みようと努力できる。幼児の発達を理解して、幼児が協働して主体的・対話的で深い学びを目指す総合総合表現の保育改善について知っている。他者と協働した総合表現の活動のイメージをもつことができる。		
該当DPに対する 到達度の目安	保育・幼児教育に必要とされる表現活動に関わる専門的知識・技能を活用した指導法について理解・工夫することができる。身につけた指導法を分かりやすく伝えることができる。子どもの発達を踏まえ総合的表現活動を構成し、子ども理解に基づく総合表現の課題を自ら見出すことができる。他者と協働して保育を構想し、改善案を考察できる。	保育・幼児教育に必要とされる表現活動に関わる専門的知識・技能を用いた指導法について理解することができる。身につけた指導法を他者に伝えることができる。子どもの発達を踏まえ総合的表現活動を構成し、子ども理解に基づく総合表現の課題を自ら見出す視点を有している。他者と協働して保育を構想し、課題を考察できる。	保育・幼児教育に必要とされる表現活動に関わる専門的知識・技能を用いた指導法について概ね理解することができる。身につけた指導法を他者に伝えようと試みることができる。子どもの発達を踏まえ総合的表現活動を構成し、子ども理解に基づく総合表現の課題を知り、他者と協働して保育を構想し、課題考察を試みることができる。	保育・幼児教育に必要とされる表現活動に関わる専門的知識・技能を用いた指導法について断片的に理解することができる。指導法の一部を他者に伝えようと試みることができる。子どもの発達や子ども理解に基づく総合表現の課題を知り、他者と協働して保育を構想し、課題を考察を試みようと努力することができる。		

年度	2025	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	33270	ICT活用	○
授業科目名	特別支援教育					実務教員	○
科目	専門教育科目/教育の基礎的理解に関する科目						
施行規則に定める科目区分または事項等			特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解				
配当年次	2年	期間	前期	必修区分	保幼心		
授業形態	演習	単位数	2	担当形態	オムニバス		
教員	白府 士孝／川村 幾代						
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP1, 2, 4, 6					
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会力 (DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
授業のテーマは、子ども理解と特別支援教育である。 到達目標は、以下の4点とする。 ☐ 1. 特別な支援を必要とする幼児・児童・生徒について、障害の特性等を理解できる。 ☐ 2. 特別な支援を必要とする幼児・児童・生徒に対する教育課程や支援体制について理解できる。 ☐ 3. 特別な支援を必要とする幼児・児童・生徒への支援や関係機関との連携について理解できる。 ☐ 4. 特別な支援を必要とする幼児・児童・生徒のアセスメントとそれに基づく支援について説明できる。							
授業の概要							
現在、学校には自閉スペクトラム症、ADHD、LDに加え、虐待等により生じたと思われる発達遅滞、PTSD等、多くの特別な支援を必要とする児童・生徒が在籍している。本授業ではこれらの幼児・児童・生徒の特性等の理解と対応策を学びながら、現在、校内組織全体で取り組んでいる校内支援体制の実際や子ども理解の在り方について実践的に学んでいく。							
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）							
授業では、パワーポイント資料に重要ポイントを書き込めるようにしている。また、その資料を基に自分なりの工夫を加えながら既習事項をポイントシートにまとめる。そのため、自ら調べたい内容については、図書館等の積極的な利用を心がける。準備学習として、日常において様々な配慮を必要とする幼児・児童・生徒の共生社会についてのニュース・新聞等から自らの課題を見出し、広い視野から考察できるように学修に取り組む。							
標準学修時間の目安							
1回の講義にあたり、復習を中心として4時間の学修が望ましい。							
課題（試験やレポート等）のフィードバック							
レポート等の課題提出後に、コメントを付して返却する。							
使用教科書							
	教科書名		著者名		出版社名		ISBN
1	なし		-		-		-
2							
3							
使用教科書備考							
授業中に適宜資料を配布する。							
参考書・参考資料等							
小学校学習指導要領・特別支援学校学習指導要領							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
白府：特別支援学級6年間、特別支援学校10年間の教員経験を生かし、特別支援教育の制度・障がい者の特性理解、具体的な支援方法等、共生社会の実現を目指した特別支援教育の理解・推進に向けて、様々な配慮を必要とする人の理解に関する授業を行う。 川村：障がい者施設の相談員（10年）としての実務経験を生かし、障害の特性の理解と対応策を教授する。							
その他							
授業内容によってグループワークに取り組むなど、主体的な意見交換・意見の共有を目指す。手話や点字、視覚支援等のコミュニケーション法の紹介により、障害の特性を理解すると共に、様々な人の生き方について考えを深めていく。							

授業計画						
第 1回	特別支援教育とは何か（白府・川村） 特別支援教育の制度や理念、インクルーシブ教育の概要について理解する。					
第 2回	特別な支援を必要とする幼児・児童・生徒の基礎理解①（白府） 心身の発達等、いろいろな特性の理解と学習過程について理解する。					
第 3回	特別な支援を必要とする幼児・児童・生徒の基礎理解②（白府） 発達障害等の理解と心身の発達について理解する。					
第 4回	特別な支援を必要とする幼児・児童・生徒の基礎理解③（白府） 特別支援教育システム、特別支援コーディネーター、スクールカウンセラー、関係機関との連携のあり方について理解する。					
第 5回	授業のユニバーサルデザイン化の実践（白府） ユニバーサルデザインの理念やそれに基づいた授業づくりについて理解する。					
第 6回	ADHDの理解と指導の実践（白府） ADHDの理解と効果的な支援の実践やADHDと愛着障害の違いについて理解する。					
第 7回	自閉症スペクトラムの理解と指導の実践（白府） 自閉症スペクトラムの理解と効果的な支援の実践について理解する。					
第 8回	障害別の教材づくり①（白府） 自閉スペクトラム児のための自立課題づくりを経験する。					
第 9回	障害別の教材づくり②（白府） 自閉スペクトラム児のための自立課題づくりについて理解する。					
第10回	知的障害、視覚障害、聴覚障害、肢体不自由、病弱等様々な障害の理解（白府・川村） 様々な障害とその実践についてについて理解する。					
第11回	特別支援学級の実践（白府） 通級指導学級、帰国子女等、特別な支援を必要とする児童・生徒の存在と言葉の学級等の取り組みについて理解する。					
第12回	根拠のある支援計画づくりと自立活動（白府） 個別的教育支援計画と個別の指導計画の実践についてと自立活動の実践について理解する。					
第13回	障害と各種アセスメント①（白府） KABC-IIの下位検査について知り、知能検査の概要について理解する。					
第14回	障害と各種アセスメント②（白府） WISC-Vの下位検査について知り、知能検査の概要について理解する。					
第15回	障害別の教材について③（白府・川村） KABC-IIとWISC-Vを用いたアセスメントに基づいた授業づくりについて理解する。					
定期試験						
【授業実施方法】 原則として、対面（面接）授業を実施する。対面（面接）授業の実施が困難と判断される場合には、遠隔授業（オンライン・オンデマンド・課題）を併用する。						
ICTを活用した双方向型授業を実施する授業回がある。						
【アクティブラーニングの導入】 「ディスカッション」「グループワーク」						
成績評価の方法 (試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合（％）	60	0	30	0	10	100
成績評価の基準（ルーブリック）						
到達度	秀逸	優秀	良好	最低限		
授業の到達目標 に対する 到達度の目安	特別支援教育の理念や制度、教育課程について充分理解している。特別な支援を必要とする児童・生徒の障害の特性、支援及びアセスメント方法、家庭や関係機関の連携について分かりやすく説明できる。特別な支援を必要とする幼児・児童・生徒の支援について自ら課題を見出し、他者と考えを共有し深めることができる。	特別支援教育の理念や制度、教育課程について理解している。特別な支援を必要とする児童・生徒の障害の特性、支援及びアセスメント方法、家庭や関係機関の連携について説明できる。特別な支援を必要とする幼児・児童・生徒の支援について、自ら課題を見出し、他者と考えを共有できる。	特別支援教育の理念や制度、教育課程について概ね理解している。特別な支援を必要とする児童・生徒の障害の特性、支援及びアセスメント方法、家庭や関係機関の連携について断片的に説明できる。特別な支援を必要とする幼児・児童・生徒の支援について、自ら課題を見出し、他者と考えが共有できるよう努めている。	特別支援教育の理念や制度、教育課程について断片的に理解している。特別な支援を必要とする児童・生徒の障害の特性、支援及びアセスメント方法、家庭や関係機関の連携の理解は、今後の課題である。特別な支援を必要とする幼児・児童・生徒の支援について他者と考えが共有できるよう努めている。		
該当DPに対する 到達度の目安	特別支援教育の理念について充分理解している。学校には様々な困難を抱える児童・生徒が在籍する状況から、障害の特性や支援方法、教育課程及び関係機関との連携について理解し、課題を考察できる。食を通して人の健康や生命の尊厳を充分理解し、共生社会の実現に向けて他者と考えを共有できる。	特別支援教育の理念について理解している。学校には様々な困難を抱える児童・生徒が在籍する状況から、障害の特性や支援方法、教育課程及び関係機関との連携について知り、課題を推察できる。食を通して人の健康や生命の尊厳を理解し、共生社会の実現に向けて他者と考えを共有できる。	特別支援教育の理念について概ね理解している。学校には様々な困難を抱える児童・生徒が在籍する状況から、障害の特性や支援方法、教育課程及び関係機関との連携について知ると共に、食を通して人の健康や生命の尊厳を理解し、共生社会の実現に向けて他者と考えの共有に努めている。	特別支援教育の理念について断片的に理解している。学校には様々な困難を抱える児童・生徒が在籍するが、障害の特性や支援方法、教育課程及び関係機関の連携の知識については、部分的に知っている。食を通して人の健康や生命の尊厳を理解し、共生社会に向けて他者と考えの共有に努めている。		

年度	2025	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	33360	ICT活用	○
授業科目名	社会的養護Ⅱ					実務教員	○
科目	専門教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等							
配当年次	2年	期間	前期	必修区分	保		
授業形態	演習	単位数	1	担当形態	単独		
教員	川村 幾代						
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP2, 3, 4, 7					
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会力 (DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
1年時の社会的養護で習得した基礎知識を踏まえ、社会的養護を構成する施設養護と家庭養護の実践を学び、保育の専門性について理解を深めることを目的とする。 □1. 子ども理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について具体的に説明できる。 □2. 施設養護及び家庭養護の実践について説明できる。 □3. 社会的養護における計画・記録・自己評価の実践について説明できる。 □4. 社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について説明できる。 □5. 社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について説明できる。							
授業の概要							
子どもの理解をふまえた社会的養護の基礎的な内容、施設養護及び家庭養護の実践、社会的養護における計画・記録・自己評価の実践、社会的養護に関わる相談援助の方法・技術、子ども虐待防止と家庭支援について理解を深める。							
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）							
授業前には、あらかじめテーマに関する事項とキーワードの下調べを行うこと。 授業後には、配布された資料をもとに授業の振り返りを行い、理解を深めること。							
標準学修時間の目安							
次の授業までに予習・復習を含めて2時間の学修が望ましい。							
課題（試験やレポート等）のフィードバック							
成績確定後、コメントを付した課題レポートを返却する。							
使用教科書							
	教科書名		著者名		出版社名		ISBN
1	なし		-		-		-
2							
3							
使用教科書備考							
なし							
参考書・参考資料等							
毎時間資料を配布する。							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
子どもへの暴力防止プログラム（CAP）スペシャリストの資格を生かし、行政にて子育て支援課相談員（6年）の経験をもとに、社会的養護に関する具体的な相談援助の方法・技術について教授する。							
その他							
授業は、主に配布資料（事例）で進行し、グループワークとディスカッションを行います。質問や要望があるときは振り返りシートに記入すること。							

授業計画						
第 1回	オリエンテーション 本授業の目的及び到達目標の確認					
第 2回	社会的養護の内容について①					
第 3回	社会的養護における子ども理解と支援の基本					
第 4回	社会的養護の内容について② 施設生活の形態とグルーピング、施設での1日の生活の流れ					
第 5回	社会的養護の内容について③ 施設の心理的ケアと専門機関連携によるケア					
第 6回	社会的養護の内容について④ リービングケアの実際とリービングケア計画の進め方					
第 7回	社会的養護の実際について① 施設養護の生活特性及び実例を事例をもとに理解する					
第 8回	社会的養護の実際について② 家庭養護の生活特性及び実例を事例をもとに理解する					
第 9回	社会的養護における支援の計画と記録及び自己評価について① 子どものニーズを把握し、アセスメントと個別支援計画の作成					
第10回	社会的養護における支援の計画と記録及び自己評価について② 計画に基づく支援と記録の意義を理解する					
第11回	社会的養護に関わる専門的技術について① 保育の専門性に関わる知識・技術とその実践					
第12回	社会的養護に関わる専門的技術について② 社会的養護に関わる相談援助の知識・技術とその実践					
第13回	今後の課題と展望について① 社会的養護における家庭支援、親子再統合への取り組み					
第14回	今後の課題と展望について② 社会的養護における子ども虐待の防止、虐待を受けた子どもへの支援					
第15回	今後の課題と展望について③ 社会的養護の課題と展望 全体のまとめ					
なお、本授業には「保育士による児童生徒性暴力等の防止等に関する基本的な指針」（令和6年3月29日改正）の内容が含まれる。						
【授業実施方法】 原則として、対面（面接）授業を実施する。対面（面接）授業の実施が困難と判断される場合には、遠隔授業（オンライン・オンデマンド・課題）を併用する。 ICTを活用した双方向型授業を実施する授業回がある。						
【アクティブラーニングの導入】 「グループワーク」「ディスカッション」						

年度	2025	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	33380	ICT活用	○
授業科目名	教育相談					実務教員	—
科目	専門教育科目/道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目						
施行規則に定める科目区分または事項等			教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法				
配当年次	2年	期間	後期	必修区分	保幼心		
授業形態	演習	単位数	1	担当形態	単独		
教員	赤坂 和哉						
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP3, 4, 9					
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会力 (DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
教育相談とカウンセリング ☐ 1. 教育相談の基本的な考え方を理解できる。 ☐ 2. 教育相談の基本的な方法を身につけることができる。 ☐ 3. カウンセリング、心理療法の技法を理解し、教育相談に活用できる。 ☐ 4. 児童・生徒に生じる諸問題についての理解とその対応策を考えることができる。 ☐ 5. 医療機関等専門機関との連携の方法、必要性について理解できる。							
授業の概要							
教育相談とは何かを学ぶ。教育相談の理論や方法の理解、習得は子ども理解、保護者支援等に不可欠である。本授業では相談活動の中で行われる種々のカウンセリングや心理療法などの理論や技術の基礎を学び、幼稚園教諭として子どもを理解すること、子どもとの良い関わり合いのための教育相談的姿勢、支援方法を理解する。さらに保護者からの相談を受ける際のカウンセリングマインド等、基本的な姿勢、方法を、ロールプレイング等を通して学ぶ。							
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）							
・予習や準備学習：時間的に余裕のある学生には、図書館にある「教育相談」や「臨床心理学」という言葉が入っている図書等で、シラバスに示されている各回の内容を一読して、資料の下調べをしておくこと。 ・復習：毎回様々な心理学や教育学の専門用語が出てくるので、それが何を意味するのか理解し、資料の下調べにて理解を深めること							
標準学修時間の目安							
1回の講義につき、1時間の予習と1時間の復習が望ましい。							
課題（試験やレポート等）のフィードバック							
レポート内容が不十分で再提出の者にはレポートを返却する。							
使用教科書							
	教科書名	著者名	出版社名	ISBN			
1	なし	—	—	—			
2							
3							
使用教科書備考							
授業中に適宜資料を配布する。							
参考書・参考資料等							
小田豊・秋田喜代美編『子どもの理解と保育・教育相談』（みらい、2017年） 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
実務経験のある教員に該当しない。							
その他							
・数回のレポートを課す。 ・授業の進行状況に応じて、グループディスカッションやグループワークを行う。							

授業計画						
第1回 ガイダンス 教育相談の理解、学校における教育相談の意義と課題の理解、保育所等における支援、子どもの保育とともに行う保護者の支援 第2回 教育相談の基本的理解 相談目的ごとの様々な形態、方法、不適応や問題行動の意味、幼児の発するシグナルに気づき把握する方法の理解 第3回 学校における教育相談の意義、役割と園内体制の整備 職種や校務分掌に応じた幼児・保護者に対する教育相談、援助者としての自己理解 第4回 幼児への接し方、保護者への対応の基本 学校教育におけるカウンセリングマインドの必要性、保護者との相互理解と信頼関係の形成、保護者や家庭が抱える支援のニーズへの気づきと多面的理解 第5回 来談者中心療法の理解と方法、子ども・保護者が多様な他者に関わる機会や場の提供 受容・傾聴・共感的理解等のカウンセリングの基礎的な姿勢や技法の理解、家庭のリスクと連携、連携機関との関わり 第6回 フロイト、ユング、アドラー理論の教育相談への活用 教育相談に関わる心理学の基礎的理論・概念の理解、フロイト・ユング・アドラーの理論 第7回 教育相談の実際的方法 教育相談の計画の作成、子ども・保護者の状況・状態の把握、支援計画と環境の構成、支援の実践・記録・評価・カンファレンス 第8回 教育相談の考え方をクラス経営に生かす方法 集団の中で適応的に生活する力と個性の伸長を支援する方法、応答の仕方、エンカウンターグループ 第9回 教師が行う教育相談の実際 チーム幼稚園としての組織的取組み、必要な校内体制の整備など組織的取組み、保育所等における支援、職員間の連携・協働 第10回 子ども理解と心理アセスメント 職種や校務分掌に応じた幼児・保護者に対する教育相談の目標の立て方と進め方、アセスメントの観点 第11回 いじめの発生メカニズムの理解と教育相談 発達段階や発達課題に応じた教育相談の進め方、いじめに関する諸理論、いじめの事例検討 第12回 不登園、不登校、虐待、非行等への理解と教育相談的対応 不適応や問題行動の意味と幼児の発するシグナルに気づき把握する方法、子どもの虐待の予防と対応、要保護児童等の家庭に対する支援 第13回 薬物乱用、ネット被害、ネット依存、性の多様性等の理解と教育相談 アルコールと様々な薬物の問題、精神依存と身体依存、性の多様性と様々なハラスメント 第14回 子ども・保護者への寄り添いと教育相談 自己理解の深まりと人間関係の構築にむけた人格の成長への支援、地域の子育て家庭支援、障害のある子ども・特別な配慮を要する子どもとその家庭の支援、多様な支援ニーズを抱える子育て家庭の理解 第15回 専門機関との連携のあり方 地域の医療・福祉・心理等の専門機関との連携の意義と必要性、自治体・関係機関・専門職との連携・協働 【授業実施方法】 原則として、対面（面接）授業を実施する。対面（面接）授業の実施が困難と判断される場合には、遠隔授業（オンライン・オンデマンド・課題）を併用する。 ICTを活用した双方向型授業を実施する授業回がある。 【アクティブラーニングの導入】 「ディスカッション」、「ディベート」、「グループワーク」						
成績評価の方法 (試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合(%)	30	0	50	0	20	100
成績評価の基準(ルーブリック)						
到達度	秀逸	優秀	良好	最低限		
授業の到達目標に対する到達度の目安	教育相談の基本的な考え方と方法および必要な連携を十分に理解し、説明することができ、児童・生徒の諸問題について理解してその対応策を考えることができそれらを適切に教育相談に活用・応用できる。	教育相談の基本的な考え方と方法および必要な連携を十分に理解し、説明することができ、児童・生徒の諸問題について理解してその対応策を考えることができそれらを教育相談に活用できる。	教育相談の基本的な考え方と方法および必要な連携を十分に理解しており、児童・生徒の諸問題について理解してその対応策を考えることができる。	教育相談の基本的な考え方と方法および必要な連携を言葉の上で理解しており、児童・生徒の諸問題について理解することができる。		
該当DPに対する到達度の目安	保育者の社会的使命を十分に理解すると共に、子育て環境を深く分析して適切な対応を取ることができる。また、他者への思いやりと柔軟な対応力を身につけている。	保育者の社会的使命を十分に理解すると共に、子育て環境を分析して対応を取ることができる。また、他者への思いやりと柔軟な対応力を身につけている。	保育者の社会的使命を理解すると共に、子育て環境を分析して適切な対応を取ることができる。また、他者への思いやりと柔軟な対応力の重要性を理解している。	保育者の社会的使命を理解すると共に、子育て環境を分析することができる。また、他者への思いやりと柔軟な対応力の重要性を理解している。		

年度	2025	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	33320	ICT活用	○
授業科目名	コミュニケーション・スキルⅡ					実務教員	○
科目	専門教育科						
施行規則に定める科目区分または事項等							
配当年次	2年	期間	前期	必修区分	[保選]		
授業形態	演習	単位数	1	担当形態	複数		
教員	小林 博子／野呂 祐人						
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP2, 3, 5, 6, 8, 9					
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会力 (DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
保育者は子どもや保護者など多くの人と関わる仕事でありコミュニケーション能力の向上が不可欠である。人との関わり方が多様化する社会に必要な対応力を身につけるため、保育現場での具体的な事例の紹介や、実践的な演習を通して、社会人として必要なコミュニケーションの方法を学び理解する。 □1. 場面に応じて適切な言葉を選び、適切な人間関係を築くために必要な思考・スキルを身につける。 □2. 人の話をしっかりと聴くとともに自分の考えや気持ちをていねいに人に伝えられるようにする。 □3. 他人の良いところを見つけ、記録できるようになる。 □4. 幼児、保護者、保育者への働きかけ・コミュニケーションにおける留意点を知り、スキルなどを身につける。 □5. 保育の場における文字による表現・表記の方法を知るとともに、スキルなどを身につける。							
授業の概要							
価値観が多様化するなかで、保育者を取り巻く環境も大きく変化している。保護者・子どもへの対応と共に、保育者同士の関係の構築も課題となってきた。本授業では、保育を取り巻く環境において、高い対応力を備えるために必要なコミュニケーション方法を学ぶ。特に、6月中旬から行われる保育実習は、これまで短大授業で学んだ保育の理論・技術を実践の場で試すことになる。一日の保育のすべてを一人の保育者として行う責任実習であり、現場の保育者とのコミュニケーション力が問われる。即戦力として活躍できる保育者を目指し、実践的な授業を通して聴くこと・話すことだけでなく、さらに書くことの基礎をトータルで学び、適切なコミュニケーションの仕方を習得することを目標とする。							
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）							
予習、復習、準備学習については、その都度伝える。							
標準学修時間の目安							
次回の講義までに予習・復習を含めて2時間の学修が望ましい。							
課題（試験やレポート等）のフィードバック							
採点後の課題返却、ミニテストや自己チェックリストの確認で得手不得手を知り、次回の講座まで正しい知識・より良いスキルを身に付けられるようにする。							
使用教科書							
	教科書名		著者名		出版社名		ISBN
1	なし		-		-		-
2							
3							
使用教科書備考							
資料は適宜配布する。							
参考書・参考資料等							
なし							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
小林は、41年間幼稚園教諭・園長としての経験と立場から、幼児教育者として必要な事項を講義する。 野呂は、実務経験のある教員に該当しない。							
その他							
なし							

授業計画						
第1回 オリエンテーション、やさしい頼み方 他者へ物事を頼む際のポイントを押さえ、日常生活の場面を想定した演習を行う。 第2回 上手な断り方 日常生活における断り方のポイントを押さえ、他者からの頼み事を断る場面を想定した演習を行う。 第3回 実習日誌の書き方 実習日誌の目的や書き方を振り返り、保育現場で使用する用語や表記について学ぶ。 第4回 指導計画の書き方 指導計画の種類や、計画する際の留意点について学ぶ。 第5回 子どもへの働きかけ 特別なニーズをもつ子どもへの関わり方について学び、絵カードや言葉がけに関する演習を行う。 第6回 保護者への働きかけ 特別なニーズをもつ子どもの保護者への関わり方について学ぶ。 第7回 連絡帳の書き方 連絡帳の役割と書き方を学び、保育現場での出来事を保護者に文章で伝える練習を行う。 第8回 園だよりの書き方 実際の園だよりの事例を見ながら、園だよりの種類や作成の手順について学ぶ。 第9回 指導要録の書き方 指導要録の役割と書き方を学び、10の姿や小学校への引き継ぎとの関連性について考える。 第10回 子ども同士のトラブル対策 子ども同士のトラブルの事例について学び、トラブルの例に対する対処法を考える。 第11回 保護者とのトラブル対策 保護者とのトラブルの事例について学び、トラブルの例に対する対処法を考える。 第12回 保護者同士のトラブル対策 保護者同士のトラブルの事例について学び、トラブルの例に対する対処法を考える。 第13回 共同制作によるコミュニケーション 共同制作をする際にどのようなコミュニケーションが発生するかを学び、共同制作に関する演習を行う。 第14回 インターネットのコミュニケーション 近年の子どものインターネット利用について学び、インターネットのコミュニケーションに関する演習を行う。 第15回 自分を大切にする 全15回の授業を振り返り、他者との関わりの中で自分を大切にするについて考える。 【授業実施方法】 原則として、対面（面接）授業を実施する。対面（面接）授業の実施が困難と判断される場合には、遠隔授業（オンライン・オンデマンド・課題）を併用する。 ICTを活用した双方向型授業を実施する授業回がある。 【アクティブラーニングの導入】 「グループワーク」						
成績評価の方法 (試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合 (%)	0	0	50	0	50	100
成績評価の基準（ルーブリック）						
到達度	秀逸	優秀	良好	最低限		
授業の到達目標 に対する 到達度の目安	適切な人間関係を築くために必要な思考・スキル、自分の考えを丁寧に人に伝える、記録できる力、保育の場における表現・表記の方法について理解し、他者に詳細な情報を伝えることができるとともに、新たに発生した問題に対して適切な対処法を検討できる。	適切な人間関係を築くために必要な思考・スキル、自分の考えを丁寧に人に伝える、記録できる力、保育の場における表現・表記の方法について理解し、それらを他者に適切な情報として伝えることができる。	適切な人間関係を築くために必要な思考・スキル、自分の考えを丁寧に人に伝える、記録できる力、保育の場における表現・表記の方法について理解している。	適切な人間関係を築くために必要な思考・スキル、自分の考えを丁寧に人に伝える、記録できる力、保育の場における表現・表記の方法について断片的であるが理解している。		
該当DPに対する 到達度の目安	適切な人間関係を築くために必要な思考・スキル、自分の考えを丁寧に人に伝える、記録できる力、保育の場における表現・表記の方法について理解し、関連する情報の計測的な収集と他者への発信力を身に付けている。	適切な人間関係を築くために必要な思考・スキル、自分の考えを丁寧に人に伝える、記録できる力、保育の場における表現・表記の方法について理解し、より詳細な情報の収集と他者への発信、課題解決に向けて努力することができる。	適切な人間関係を築くために必要な思考・スキル、自分の考えを丁寧に人に伝える、記録できる力、保育の場における表現・表記の方法について理解し、ある程度の情報の収集と他者への発信ができる。	適切な人間関係を築くために必要な思考・スキル、自分の考えを丁寧に人に伝える、記録できる力、保育の場における表現・表記の方法についてある程度理解しているが、他者への発信を行うことがほとんどできない。		

年度	2025	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	33414	ICT活用	○
授業科目名	子どもの生活や遊びA					実務教員	○
科目	専門教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等							
配当年次	2年	期間	後期	必修区分	[保選]		
授業形態	演習	単位数	2	担当形態	オムニバス		
教員	山下 真由美／梅津 奈保子						
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9					
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会力 (DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
幼児の発達段階を理解した上で、生活の中における遊びの意義を五領域との関連づけて考察する。さらに、音楽や表現活動を媒体として子どもの豊かな育ちを促す保育を構想する。昨今の多様な表現技術を参考に、仲間と協働して子どもが楽しめる創作劇の創造に取り組む。保育・幼児教育における劇づくりの意義を学び保育実践力を培う。 □1. 子どもの生活や遊びを通して、子どもの豊かな育ちを促す創造的保育活動について考察する。（創造・構想） □2. 5領域を関連付けて、子どもの心の育ちを促す創造的保育活動に仲間と協働して取り組むことができる。（協働・実践） □3. 保育・幼児教育における音楽や総合的な表現活動を構想し、発表練習や実践の体現を通して保育実践力の向上に努める。（練習・発表）							
授業の概要							
1. 保育所保育指針・幼稚園教育要領に基づき、生活の中における遊びの意義を五領域との関連付けて音楽領域の視点から劇づくりを考察する。 2. 音楽やその他の多様な表現を模索し、子どもが生活や遊びの中から豊かな育ちを促す劇づくりの企画・構想・表現技術を実践的に習得する。 3. それらの保育構想を仲間と協働して主体的に展開できる保育実践力を養う。 4. 劇づくりの活動を通して、保育・幼児教育における劇づくりのねらいを学び、保育の専門性を高める。							
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）							
予習や次の授業まで行う準備については、授業時に提示する。グループで取り組む場合は、授業外学習においてメンバー協力してに取り組むこと。							
標準学修時間の目安							
1回の講義にあたり、予習・復習を含めて4時間の学修が望ましい。							
課題（試験やレポート等）のフィードバック							
提出した課題には、コメントを付して返却をする。							
使用教科書							
	教科書名	著者名	出版社名	ISBN			
1	なし	—	—	—			
2							
3							
使用教科書備考							
保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領							
参考書・参考資料等							
授業において、適宜資料を配布する。							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
梅津は、30年以上ヤマハ音楽教室でシステム講師として、幼児から高校生までを中心に指導。この音楽指導経験を生かし、子どもたちが音楽を表現する楽しさや喜びを発見し、音楽を学ぶ過程で子どもたちの成長を促す実践的な指導を行う。 山下は、実務経験のある教員に該当しない。							
その他							
・音楽を活用した表現では、毎回授業において練習に取り組み向上を図ること。・グループで取り組む活動は、授業外学習においてもメンバー同士が協働的に取り組むことが出来るように主体的に協力し合うこと。・創作劇の練習や発表の取り組みを通して、子どもの遊びを踏まえた表現活動（創作劇）の保育におけるねらいを常に意識して学修をすすめること。							

授業計画						
第1回 合同オリエンテーション、創作劇のテーマや概要について（山下） 第2回 子どもの生活や遊びと創作劇①（園での劇遊びについて、遊びの歴史について）（山下） 第3回 子どもの生活や遊びと創作劇②（子どもの良さを生かすための表現、演劇教育について）（山下） 第4回 グループ編成、創作劇のアイディア出し（山下） 第5回 アイディアのまとめ、企画案の作成（山下） 第6回 ヤマハ（幼児教育と音楽①）心を育てる音楽（1, 2才児）（梅津） 第7回 ヤマハ（幼児教育と音楽②）心を育てる音楽（3才児）（梅津） 第8回 ヤマハ（幼児教育と音楽③）心を育てる音楽（4, 5才児）（梅津） 第9回 音楽表現と創作劇の関わり（山下） 第10回 創作劇と音楽表現 構想（山下） 第11回 創作劇と音楽表現 練習計画（山下） 第12回 発表の練習・グループワーク①（山下） 第13回 発表の練習・グループワーク②（山下） 第14回 合同中間報告、合同実技発表の役割決め（山下） 第15回 発表準備・制作活動（山下） 第16回 発表準備・制作活動（山下） 第17回 発表準備・制作活動（山下） 第18回 発表準備・制作活動（山下） 第19回 発表準備・制作活動（山下） 第20回 発表準備・制作活動（山下） 第21回 発表準備・制作活動（山下） 第22回 発表準備・制作活動（山下） 第23回 発表準備・制作活動（山下） 第24回 発表準備・制作活動（山下） 第25回 発表準備・制作活動（山下） 第26回 発表準備・制作活動（山下） 第27回 リハーサル・準備（山下） 第28回 合同実技発表会（山下） 第29回 発表会の省察、プレゼンテーションの準備（山下） 第30回 合同反省会（山下）						
この授業では、これまでの保育・幼児教育の5領域の学びと関連づけながら、子どもの生活や遊びの中から生まれる表現活動を想定した創作劇の制作と発表、およびその創作劇の省察を行う。グループごとに創作劇の企画・構想、制作活動、発表準備を進め、子どもの生活や遊びA・B・Cそれぞれの制作劇を統合した合同実技発表を行う。						
【授業実施方法】 原則として、対面（面接）授業を実施する。対面（面接）授業の実施が困難と判断される場合には、遠隔授業（オンライン・オンデマンド・課題）を併用する。 ICTを活用した双方向型授業を実施する授業回がある。 「子どもの生活や遊びA・B・C」を合同で行う講義回がある。 該当科目は学生の円滑な学修を支援するため、教育助手を配置する。						
【アクティブラーニングの導入】 「プレゼンテーション」「グループワーク」「ディスカッション」						
成績評価の方法 (試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合 (%)	0	60	20	0	20	100
成績評価の基準（ルーブリック）						
到達度	秀逸	優秀	良好	最低限		
授業の到達目標に対する到達度の目安	幼児期の特性や発達を踏まえ、五領域が総合的に関連した子どもの生活とあそびの意義や重要性を理解し、保育構想ができる。身につけた知識・技能（音楽、絵本、手遊び歌、造形等）を工夫活用して、子ども理解に基づく保育を創造し、わかりやすく実践を示すことができる。他者と協働して子どもの心身の成長を促す保育を構想できる。	幼児期の特性や発達を踏まえ、五領域が総合的に関連した子どもの生活とあそびの意義を理解し、保育構想ができる。身につけた知識・技能（音楽、絵本、手遊び歌、造形等）を活用して、子ども理解に基づく保育を創造し、実践を示すことができる。他者と協働して、子どもの心身の成長を促す保育を構想できる。	幼児期の特性や発達を踏まえ、五領域が総合的に関連した子どもの生活とあそびの意義について知り保育構想を試みることができる。身につけた知識・技能（音楽、絵本、手遊び歌、造形等）の一部を生かし、子ども理解に基づく保育の実践を試みることができる。他者と協働して子どもの心身の成長を促す保育のイメージをもつことができる。	幼児期の特性や発達を踏まえ、五領域が総合的に関連した子どもの生活とあそびの意義について概ね知る。身につけた知識・技能（音楽、絵本、手遊び歌、造形等）の一部を生かし、子ども理解に基づく保育の実践を断片的に試みることができる。他者と協働して、子どもの心身の成長を促す保育のイメージがもてるよう努力することができる。		
該当DPに対する到達度の目安	既習の保育・幼児教育に必要な知識・技能を活用して子ども理解に基づく子どもの生活やあそびの中で育つ保育実践を構想できる。身につけた知識や技能を分かりやすく子どもに伝えるよう工夫・改善ができる。子どもの発達を理解し、五領域が関連するあそびや子どもの表現を豊かに育てる活動を、他者と協働して構想・実践できる。	既習の保育・幼児教育に必要な知識・技能を活用して子ども理解に基づく子どもの生活やあそびの中で育つ保育実践について理解できる。身につけた知識や技能を子どもに伝えるよう工夫ができる。子どもの発達を理解し、五領域が関連したあそびや子どもの表現を豊かに育てる活動を他者と協働して構想できる。	既習の保育・幼児教育に必要な知識・技能を活用して子ども理解に基づく子どもの生活やあそびの中で育つ保育実践について知る。身につけた知識や技能の基礎を子どもに示すことができる。子どもの発達を理解し、五領域が関連したあそびや子どもの表現を豊かに育てる活動を他者と協働して試みることができる。	既習の保育・幼児教育に必要な知識・技能の一部を活用して、子ども理解に基づく子どもの生活やあそびの中で育つ保育実践について知る。身につけた知識や基礎的技能の一部を子どもに示すことができる。子どもの発達を理解し、五領域が関連したあそびや子どもの表現を豊かに育てる活動を他者と協働して試みるよう努力できる。		

年度	2025	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	33414	ICT活用	○
授業科目名	子どもの生活や遊びB					実務教員	—
科目	専門教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等							
配当年次	2年	期間	後期	必修区分	[保選]		
授業形態	演習	単位数	2	担当形態	単独		
教員	野呂 祐人						
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9					
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会力 (DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
これまで学んできた幼児の育ちを支える五領域の学びや身体表現、音楽表現、造形表現、言語表現等の表現活動に関する知識・技能を総合的に発展させ、幼児の関わり合いや幼児の心身の豊かな成長を促す表現活動(創作劇など)を協働して創造する。 □1. 子どもの生活やあそびにおける表現・創作活動について説明できる。 □2. 小学校での学びにつながる保育の具体的展開の技術・環境構成を説明できる。 □3. 保育・幼児教育における劇発表やお遊戯会等の企画について説明できる。							
授業の概要							
子どもの生活やあそびにおける表現・創作活動を通して、思考力の芽生え、言葉による伝え合いなど、小学校での学びにつながる力を育てる保育の具体的展開のための技術習得や環境構成など、保育・幼児教育における劇発表やお遊戯会等を企画・実施できる総合的実践力を養う。							
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）							
予習：脚本の基となる絵本や物語について広く調べたり、実際に読んでみる。また、オペラや演劇を広く鑑賞し、記録をとっておく。 復習：自分の造形表現や身体表現、音楽表現を振り返り、課題を見いだして次の授業への改善点を見いだす。							
標準学修時間の目安							
予習、復習を合わせて4時間程度の学修が望ましい。							
課題（試験やレポート等）のフィードバック							
・作成した造形物や脚本について添削し、返却する。 ・身体表現、音楽表現についてはその場で評価し、改善点を伝えていく。							
使用教科書							
	教科書名		著者名		出版社名		ISBN
1	なし		—		—		—
2							
3							
使用教科書備考							
なし							
参考書・参考資料等							
保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
実務経験のある教員に該当しない。							
その他							
オリジナルの脚本を作成したり、創作ダンス、舞台美術なども構想するため、読書や演劇鑑賞など幅広い知識や経験を積み重ねることが求められる。また、授業内容に応じてICTを活用する。 子どもの生活や遊びA, B, Cを統合した発表・制作についても検討する。							

授業計画						
第1回 合同オリエンテーション、創作劇のテーマや概要について 第2回 子どもの生活や遊びと創作劇①（園での劇遊びについて、遊びの歴史について） 第3回 子どもの生活や遊びと創作劇②（子どもの良さを生かすための表現、演劇教育について） 第4回 グループ編成、創作劇のアイディア出し 第5回 アイディアのまとめ、企画書の作成 第6回 創作劇の企画書の作成（ストーリーの構想、大道具・小道具の構想） 第7回 創作劇の企画書のプレゼンテーション 第8回 言語表現に関する制作について①（子どもの生活やあそびのイメージの醸成） 第9回 言語表現に関する制作について②（絵本、人形劇、ストーリーテリング等に親しむ体験を踏まえて） 第10回 造形表現に関する制作について①（身近な自然やものの色、形、感触やイメージ等に親しむ体験を踏まえて） 第11回 造形表現に関する制作について②（素材や教材の特性の理解と活用と作成） 第12回 音楽表現に関する制作について（身近な自然やものの音、声、音楽等に親しむ体験を踏まえて） 第13回 身体表現に関する制作について（ごっこ遊び、運動あそび等の体験を踏まえて） 第14回 合同中間報告、合同実技発表の役割決め 第15回 発表準備・制作活動 第16回 発表準備・制作活動 第17回 発表準備・制作活動 第18回 発表準備・制作活動 第19回 発表準備・制作活動 第20回 発表準備・制作活動 第21回 発表準備・制作活動 第22回 発表準備・制作活動 第23回 発表準備・制作活動 第24回 発表準備・制作活動 第25回 発表準備・制作活動 第26回 発表準備・制作活動 第27回 リハーサル・準備 第28回 合同実技発表会 第29回 発表会の省察、プレゼンテーションの準備 第30回 合同反省会 この授業では、これまでの保育・幼児教育の5領域の学びと関連づけながら、子どもの生活や遊びの中から生まれる表現活動を想定した創作劇の制作と発表、およびその創作劇の省察を行う。グループごとに創作劇の企画・構想、制作活動、発表準備を進め、子どもの生活や遊びA・B・Cそれぞれの創作劇を統合した合同実技発表を行う。 【授業実施方法】 原則として、対面（面接）授業を実施する。対面（面接）授業の実施が困難と判断される場合には、遠隔授業（オンライン・オンデマンド・課題）を併用する。 ICTを活用した双方向型授業を実施する授業回がある。 「子どもの生活や遊びA・B・C」を合同で行う講義回がある。 諸事情により、授業計画の実施順、時間帯等が変更になることがある。 当該科目は、学生の円滑な学修を支援するため、実務家教員および教育助手を配置する回がある。 【アクティブラーニングの導入】 「ディスカッション」「グループワーク」「プレゼンテーション」						
成績評価の方法 (試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合 (%)	0	60	20	0	20	100
成績評価の基準（ルーブリック）						
到達度	秀逸	優秀	良好	最低限		
授業の到達目標 に対する 到達度の目安	・5領域の学びや身体・音楽・造形・言語表現等の活動に関する知識・技能を十分に理解し、それらを総合的に発展させ、心身の成長を促す表現活動を意欲的に創造することができる。 ・小学校での学びにつながる保育の具体的展開の技術・環境構成についてや、劇発表、お遊戯会などの企画について考え、簡潔にわかりやすく説明できる。	・5領域の学びや身体・音楽・造形・言語表現等の活動に関する知識・技能を理解し、それらを発展させて心身の成長を促す表現活動を創造することができる。 ・小学校での学びにつながる保育の具体的展開の技術・環境構成についてや、劇発表、お遊戯会などの企画について考え説明できる。	・5領域の学びや身体・音楽・造形・言語表現等の活動に関する知識・技能を概ね理解し、発展させて心身の成長を促す表現活動を創造することができる。 ・小学校での学びにつながる保育の具体的展開の技術・環境構成についてや、劇発表、お遊戯会などの企画について考えることができる。	・5領域の学びや身体・音楽・造形・言語表現等の活動に関する知識・技能をある程度理解し、それを基に心身の成長を促す表現活動を創造しようと努めることができる。 ・小学校での学びにつながる保育の具体的展開の技術・環境構成について、あるいは劇発表、お遊戯会などの企画についてある程度理解することができる。		
該当DPに対する 到達度の目安	保育者の社会的使命を十分理解し、子育ての環境の課題を見据え、解決法を導き出す力を獲得している。また専門知識を基に音楽、造形、言語表現の技術を高めることで子どもの成長を促すことができる。さらに地域の特性を理解して保育に反映させ、外部の人と綿密なコミュニケーションをとり、子どもの成長を促す企画を考え実践できる。	保育者の社会的使命を十分理解し、子育ての環境の課題に着目して解決法を導き出すとする。また、専門知識を獲得し、音楽、造形、言語表現の技術を子どもの成長のために活用することができる。さらに地域の特長を保育に反映させると共に外部の人とコミュニケーションをとり、子どもの成長のための企画を考え、実践できる。	保育者の社会的使命を理解し、子育ての環境の課題を理解し解決法を導き出すと努力する。また専門知識を獲得し、音楽、造形、言語表現の技術を子どもの成長のために活用しようと努めることができる。さらに地域の特色を保育に反映させようと努め、外部の人とコミュニケーションをとり子どもの成長を図る企画を考えることができる。	保育者の社会的使命を概ね理解し、子育ての環境の課題についてある程度理解できる。また専門知識を獲得しようと努め、音楽、造形、言語表現の技術を身につける努力ができる。さらに地域の特色を保育に反映させる必要性を理解し、外部の人とのコミュニケーションを図ろうと努力することができる。		

年度	2025	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	33414	ICT活用	—
授業科目名	子どもの生活や遊びC					実務教員	—
科目	専門教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等							
配当年次	2年	期間	後期	必修区分	[保選]		
授業形態	演習	単位数	2	担当形態	オムニバス		
教員	白府 士孝						
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9					
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会力 (DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
乳児から多様な動きを経験させることと、運動遊びと幼児期の終わりまで育ってほしい姿の関連性について実技を通して体得する。 ☐1. 乳幼児期にふさわしい運動指導のあり方を説明できる。 ☐2. 運動あそびと幼児期の終わりまで育ってほしい10の姿の関連性を説明できる。 ☐3. 0歳児から3歳児以上児の運動あそびを説明できる。 ☐4. 5領域の総仕上げとして創作幼児体育を説明できる。							
授業の概要							
保育所保育指針及び幼保連携型認定こども園教育・保育要領の乳児保育の身体発達に関する視点「健やかに伸び伸びと育つ」、1歳以上3歳未満児の領域「健康」でも「ねらい及び内容」には、「はう、立つ、歩くなど」「走る、跳ぶ、登る、押す、ひっぱるなど」の基本的な動きをしようとする、十分に体を動かすこと、さらには自らの体を動かそうとする意欲が育つようにすることが記された。本講義では、5領域の総仕上げとして、実際に行った実技を数種類組み合わせた身体表現である「創作幼児体育」の発表をする。							
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）							
・実技では、子どもの生活や遊びの中で行われる運動でどのような能力が養われるかを子どもの10の姿から解説をするので、毎回配布する資料にメモを取り整理すること。 ・子どもの生活や遊びの中で行われる運動を保育現場で実践するためのアイデアやポイントを自分なりにまとめておくこと。							
標準学修時間の目安							
次の講義までに予習・復習を含めて2時間の学修が望ましい。							
課題（試験やレポート等）のフィードバック							
ノート、課題等については、担当教員が確認後コメントを付し、確認印を押し、学生に返却する。							
使用教科書							
	教科書名		著者名		出版社名		ISBN
1	なし		—		—		—
2							
3							
使用教科書備考							
保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、文部科学省「幼児期運動指針」							
参考書・参考資料等							
必要に応じてプリントを配布する。							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
実務経験のある教員に該当しない。							
その他							
・A4ファイルを用意すること。 ・実技については、別途プリントにて知らせる。 ・子どもの生活や遊びA, B, Cを統合した発表・制作について検討する。							

授業計画						
第1回 合同オリエンテーション、創作劇のテーマや概要について 第2回 子どもの生活や遊びと創作劇①（園での劇遊びについて、遊びの歴史について） 第3回 子どもの生活や遊びと創作劇②（子どもの良さを生かすための表現、演劇教育について） 第4回 グループ編成、創作劇のアイデア出し 第5回 アイデアのまとめ、企画案の作成 第6回 実技：0歳児向けの運動あそびを体験 第7回 実技：1歳児向けの運動あそびを体験 第8回 実技：2歳児向けの運動あそびを体験 第9回 実技：3歳児向けの運動あそびを体験 第10回 実技：3歳児以上向けの運動あそびを体験 第11回 実技：3歳児以上向けの運動あそびを体験 第12回 「創作幼児体育」の内容の検討① 第13回 「創作幼児体育」の内容の検討② 第14回 合同中間報告、合同実技発表の役割決め 第15回 発表準備・制作活動 第16回 発表準備・制作活動 第17回 発表準備・制作活動 第18回 発表準備・制作活動 第19回 発表準備・制作活動 第20回 発表準備・制作活動 第21回 発表準備・制作活動 第22回 発表準備・制作活動 第23回 発表準備・制作活動 第24回 発表準備・制作活動 第25回 発表準備・制作活動 第26回 発表準備・制作活動 第27回 リハーサル・準備 第28回 合同実技発表会 第29回 発表会の省察、プレゼンテーションの準備 第30回 合同反省会						
この授業では、これまでの保育・幼児教育の5領域の学びと関連づけながら、子どもの生活や遊びの中から生まれる表現活動を想定した創作劇の制作と発表、およびその創作劇の省察を行う。グループごとに創作劇の企画・構想、制作活動、発表準備を進め、子どもの生活や遊びA・B・Cそれぞれの創作劇を統合した合同実技発表を行う。						
【授業実施方法】 原則として、対面（面接）授業を実施する。対面（面接）授業の実施が困難と判断される場合には、遠隔授業（オンライン・オンデマンド・課題）を併用する。 ICTを活用した双方向型授業を実施する授業回がある。 「子どもの生活や遊びA・B・C」を合同で行う講義回がある。 諸事情により、授業計画の実施順、時間帯等が変更になることがある。 当該科目は、学生の円滑な学修を支援するため、実務家教員および教育助手を配置する回がある。						
【アクティブラーニングの導入】 「ディスカッション」「グループワーク」「プレゼンテーション」						
成績評価の方法 （試験項目）	筆記（定期試験・小テスト）	口述・実技等	論文（レポート・課題等）	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合（％）	0	40	40	0	20	100
成績評価の基準（ルーブリック）						
到達度	秀逸	優秀	良好	最低限		
授業の到達目標に対する 到達度の目安	乳幼児期にふさわしい運動指導の在り方について、幼児期の終わりまで育ってほしい10の姿との関連性を理解し、5領域の総仕上げとして、実際に取り組んできた実技を数種類組み合わせた身体表現である「創作幼児体育」を行うことで、幼児期になぜ運動が必要かを他者に詳細かつ適切に伝えることができる。	乳幼児期にふさわしい運動指導の在り方について、幼児期の終わりまで育ってほしい10の姿との関連性を理解し、実際に取り組んできた実技を数種類組み合わせた身体表現である「創作幼児体育」を行うことで、幼児期になぜ運動が必要かを他者に適切に伝えることができる。	乳幼児期にふさわしい運動指導の在り方について、幼児期の終わりまで育ってほしい10の姿との関連性を理解し、実際に取り組んできた実技を組み合わせた身体表現である「創作幼児体育」を行うことで、幼児期になぜ運動が必要か理解している。	乳幼児期にふさわしい運動指導の在り方について、幼児期の終わりまで育ってほしい10の姿との関連性を理解し、実際に取り組んできた実技を組み合わせた身体表現である「創作幼児体育」を行うことで、幼児期になぜ運動が必要かについて、断片的であるが理解している。		
該当DPに対する 到達度の目安	乳幼児期にふさわしい運動指導の在り方について、幼児期の終わりまで育ってほしい10の姿との関連性を理解し、5領域の総仕上げとして取り組む「創作幼児体育」を行うことで、専門的職業人として、大切なコミュニケーション力・社会人力の育成と同時に関連する情報の継続的な収集と他者への発信力を身に付けている。	乳幼児期にふさわしい運動指導の在り方について、幼児期の終わりまで育ってほしい10の姿との関連性を理解し、5領域の総仕上げとして取り組む「創作幼児体育」を行うことで、専門的職業人として、大切なコミュニケーション力・社会人力の育成について理解し、他者への発言、課題解決に向けて努力することができる。	乳幼児期にふさわしい運動指導の在り方について、幼児期の終わりまで育ってほしい10の姿との関連性を理解し、5領域の総仕上げとして取り組む「創作幼児体育」を行うことで、専門的職業人として大切なコミュニケーション力・社会人力について理解し、ある程度の情報の収集と他者への発信ができる。	乳幼児期にふさわしい運動指導の在り方について、幼児期の終わりまで育ってほしい10の姿との関連性について理解できず、関連する情報の収集や他者への発信を行うことがほとんどできない。		

年度	2025	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	33420	ICT活用	○
授業科目名	保育の記録と伝え合い					実務教員	○
科目	専門教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等							
配当年次	2年	期間	後期	必修区分	[保選]		
授業形態	演習	単位数	2	担当形態	単独		
教員	小林 博子						
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9					
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会力 (DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
言葉が未発達な3歳未満児については、保育者がきちんと保育の中での子どもの多様な姿を伝える必要がある。登園降園時の保護者との会話や記録の中で、保育を伝えるといった能力が必要とされる。 ☐ 1. 子どものしぐさ・行動から子どもの発達や状況を知り、子どもを見るべきポイント・視点を獲得する。 ☐ 2. 保育者と子どもの関わりの実際から、なぜ保育者がそのように関わったのか、関わりの意図を理解する。 ☐ 3. 保護者との関わりの中で、子どもの育ちに関わる情報を獲得し、保護者と共に子どもを育てる視点を養う。 ☐ 4. 子育て・保育における「見る視点」「記録するポイント」「伝え合うポイント」を明確化する。							
授業の概要							
新しい保育所保育指針では、子どもの発達を 1) 乳児期(誕生から12カ月まで) 2) 1歳以上3歳未満期 3) 3歳以上期と大きく3つに区分しさらに、幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿を提示している。本授業では誕生から幼児期の終わりまでの子どもの発達やその状況を的確に把握し(見る力)、それを記録し(記録する力)、保護者に保育の内容を伝え、保護者から家庭の状況を伝えてもらう力(伝え合う力)の獲得に焦点化した学習を進める。							
授業外に行うべき学習(予習・復習、準備学習)							
予習: 授業に関連する項目について、『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』等を熟読しておくこと。 復習: 授業で学んだ点、疑問点、自分で調べた事項などをノートに整理しておくこと。							
標準学修時間の目安							
1回の講義あたり2時間の予習と2時間の復習が必要となる。							
課題(試験やレポート等)のフィードバック							
ノートやレポート等の提出後、コメントや評価を付して返却すると共に、模範的なものについては、授業の中で適宜紹介していく。							
使用教科書							
	教科書名	著者名	出版社名	ISBN			
1	保育士のための書き方講座	今井 和子	社会福祉協議会	978-4-7935-1210-0			
2							
3							
使用教科書備考							
『保育士のための書き方講座』(出版社: 全国社会福祉協議会 著: 今井 和子)							
参考書・参考資料等							
保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携認定こども園教育・保育要領							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
小林: 幼稚園教諭・園長の経験(41年間・内5年間認定こども園の実務経験を有する)から、10の姿を見据えた保育記録について教授する。							
その他							
本科履修生は、担当教員の指示により、資料を綴るファイル、ノート等を持参する。レポート、提出物、ノート等については点検し、評価する。							

授業計画						
第 1回 子どもを捉える視点の重要性 子ども理解の3層構造（その子理解・状況理解・普遍的子ども理解）を学ぶ。 第 2回 子どものしぐさ・表情・言葉等からの理解 さまざまな場面での、その子理解と状況理解について学ぶ。 第 3回 乳児期（誕生から12ヶ月まで）の保育における子どもを見る際のポイント 子どもを見る際のポイントを理解し、見る目の獲得・判断する力を獲得する。 第 4回 乳児期（誕生から12ヶ月まで）の保育における子どもの状況を記録するポイント 子どもの状況を記録するポイントを理解し、記録する力を獲得する。 第 5回 乳児期（誕生から12ヶ月まで）の保育における子どもの状況を保護者と伝え合う 日々の子どもの状況・様子を保護者に伝え合う力を獲得する。 第 6回 1歳以上3歳未満児の保育における子どもを見る際のポイント 子どもを見る際のポイントを理解し、見る目の獲得・判断する力を獲得する。 第 7回 1歳以上3歳未満児の保育における子どもの状況を記録するポイント 子どもの状況を記録するポイント理解し、記録する力を獲得する。 第 8回 1歳以上3歳未満児の保育における子どもの状況を保護者と伝え合う 日々の子どもの状況・様子を保護者に伝え合う力を獲得する。 第 9回 3歳以上児の保育における子どもを見る際のポイント 子どもを見る際のポイントを理解し、見る目・判断する力を獲得する。 第10回 3歳以上児の保育における子どもの状況を記録するポイント 子どもの状況を記録するポイントを理解し、記録する力を獲得する。 第11回 3歳以上児の保育における子どもの状況を保護者と伝え合う 日々の子どもの状況・様子を保護者に伝え合う力を獲得する。 第12回 幼児期の終わりにおける子どもを見る際のポイント 幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿を理解し、見る目を獲得する。 第13回 幼児期の終わりにおける子どもの状況を記録するポイント 幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿を理解し、記録する力を獲得する。 第14回 幼児期の終わりにおける子どもの状況の保護者との伝え合い 幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿の伝え合う力を獲得する。 第15回 育ちゆく子どもの姿とそれを捉える保育者の確かな視点の獲得 授業で学んできた育ちゆく子どもの姿を捉え、グループワークで自信の考えをまとめ発表する。 【授業実施方法】 原則として、対面（面接）授業を実施する。対面（面接）授業の実施が困難と判断される場合には、遠隔授業（オンライン・オンデマンド・課題）を併用する。 ICTを活用した双方向型授業を実施する授業回がある。 【アクティブラーニングの導入】 「グループワーク」「ディスカッション」						
成績評価の方法 (試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合（％）	0	0	70	0	30	100
成績評価の基準（ルーブリック）						
到達度	秀逸	優秀	良好	最低限		
授業の到達目標 に対する 到達度の目安	子どもの言動から発達の状況、現在の様子等を十分理解し、的確な視点を獲得できる。また、保育者と子どもの関わりから子どもの意図を的確に理解できる。さらに保護者との連携の中で有用な情報を選択し共有することのできる力を獲得し、子育て・保育における、見る視点、記録、伝え合うポイントを他者に説明できる。	子どもの言動から心情などを十分理解し、子どもを見る視点を獲得できる。また保育者と子どもの関わりから、関わり方の意図を的確に理解することができる。さらに保護者との連携を通して情報を共有するための方法を理解し、子育て・保育における、見る視点、記録、伝え合うポイントを明確にすることができる。	子どもの言動から心情などを理解し、子どもを見る視点の幾つかを獲得できる。また保育者と子どもの関わりから、その意図を理解することができる。さらに保護者との連携を通して情報を共有するための方法を概ね理解し、子育て・保育における、見る視点、記録、伝え合うポイントなどを理解できる。	子どもの言動から心情などを理解しようとし、子どもを見る視点の幾つかを獲得できる。また保育者と子どもの関わりから、その意図をある程度理解できる。さらに保護者との連携を通して情報を共有するための方法を理解しようと努め、子育て・保育におけるポイントなどがある程度理解できる。		
該当DPに対する 到達度の目安	保育者として社会的使命を十分に理解し、専門知識を獲得した上で子どもの心の動きに合わせた保育を目指すとともに保護者と連携しながら子どもの成長を促すことができる。また獲得した知識を活用して的確に物事を認識したり評価する能力を身につけている。さらに他者と綿密なコミュニケーションを図り課題を解決する事ができる。	保育者として社会的使命を理解し、専門知識を獲得した上で子どもの心の動きに合わせた保育を目指すとともに、保護者と連携をとりながら子どもの成長を促すことができる。また、獲得した知識を活用して物事を認識したり評価する能力を身につけている。さらには他者とコミュニケーションをとり、課題を解決することができる。	保育者として社会的使命を概ね理解し、専門知識を獲得した上で子どもの心の動きに合わせた保育を目指すとともに、保護者と連携をとりながら子どもの成長を促すことができる。また、物事を認識する能力を身につけようとして努力している。さらには、他者とコミュニケーションをとり、課題を解決しようと試みることができる。	保育者として社会的使命をある程度理解し、専門知識を獲得した上で子どもの心の動きに合わせた保育を目指すとともに、保護者と連携をとりながら子どもの成長を促そうと努めることができる。また、他者とコミュニケーションをとり、課題を解決しようと努力することができる。		

年度	2025	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	34210	ICT活用	—
授業科目名	保育実習 I					実務教員	○
科目	専門教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等							
配当年次	2 年	期間	その他	必修区分	保		
授業形態	実験・実習	単位数	4	担当形態	複数		
教員	白府 士孝／川村 幾代						
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP1, 2, 3, 4, 5, 7, 8					
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会力 (DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
保育実習はその習得した教科全体の知識・技能を基礎とし、これらを総合的に実践する応用能力を養うために行うことを目的とする。 □1. 保育所、児童福祉施設等の役割や機能を具体的に説明できる。 □2. 観察や子どもとの関わりを通して、子どもへの理解について説明できる。 □3. 既習の教科目の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に説明できる。 □4. 保育の計画・観察・記録及び自己評価等について具体的に説明できる。 □5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に説明できる。							
授業の概要							
保育実習は、習得した教科全体の知識・技能を基礎とし、これらを総合的に実践する応用能力を養うため、児童に対する理解を通じて保育の理念と実践の関係について習熟させる。							
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）							
実習前には、配布されたプリント、資料を熟読し、保育実習指導 I の学修を振り返ること。							
標準学修時間の目安							
1日の実習日誌記入に1-3時間程度の学修が必要である。							
課題（試験やレポート等）のフィードバック							
・実習報告書並びに実習日誌を提出し検印を受ける。 ・実習園からの評価を開示し、自己評価と合わせた個別の指導を実施する。							
使用教科書							
	教科書名	著者名	出版社名	ISBN			
1	なし	—	—	—			
2							
3							
使用教科書備考							
保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領							
参考書・参考資料等							
保育実習ガイドライン (第3版) 施設実習編 全国保育士養成協議会 北海道ブロック協議会 編							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
白府：実務経験のある教員に該当しない。 川村：障がい者施設の相談員（10年）としての実務経験を生かし、施設実習について指導する。							
その他							
【受講条件】原則として、1 年次に開講される卒業必修科目、保育士必修科目の単位を修得済みであること。							

授業計画						
第1回 保育所における子どもの生活と保育士の援助や関わり 第2回 保育所保育指針に基づく保育の展開 第3回 保育所における子どもの観察とその記録による理解 第4回 保育所における子どもの発達過程の理解 第5回 保育所における子どもへの援助や関わり 第6回 保育の計画に基づく保育内容 第7回 保育所における子どもの発達過程に応じた保育内容 第8回 保育所における子どもの健康と安全 第9回 保育所における子どもの生活や遊びと保育環境 第10回 保育所における特別な支援を必要とする子どもへの理解と支援 第11回 保育所における全体的な計画と指導計画及び評価の理解 第12回 保育実習における記録に基づく省察・自己評価 第13回 保育所における専門職としての保育士の役割と職業倫理①(保育士の業務内容) 第14回 保育所における専門職としての保育士の役割と職業倫理②(職員間の役割分担や連携・協働) 第15回 保育所における専門職としての保育士の役割と職業倫理③(保育士の役割と職業倫理) 第16回 施設における子どもの生活と保育士の援助や関わり 第17回 施設の役割と機能 第18回 施設における子ども理解①(子どもの観察とその記録) 第19回 施設における子ども理解②(個々の状態に応じた援助や関わり) 第20回 施設における子どもの生活と環境①(計画に基づく活動や援助) 第21回 施設における子どもの生活と環境②(子どもの心身の状態に応じた生活と対応) 第22回 施設における子どもの生活と環境③(子どもの活動と生活の環境) 第23回 施設における子どもの生活と環境④(健康管理) 第24回 施設における子どもの生活と環境⑤(安全対策の理解) 第25回 施設における計画と記録 第26回 施設における支援計画の理解と活用 第27回 施設実習における記録に基づく省察・自己評価 第28回 施設における専門職としての保育士の役割と職業倫理①(保育士の業務内容) 第29回 施設における専門職としての保育士の役割と職業倫理②(職員間の役割分担や連携) 第30回 施設における専門職としての保育士の役割と職業倫理③(保育士の役割と職業倫理)						
保育実習Ⅰでは、これまで習得してきた知識・技能を基礎とし、それらを総合的に実践する応用能力を養うことを目的とする。また、保育所、児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解するとともに、観察や直接的な関わりを通して、乳幼児や障がい者への理解を深める。 【授業実施方法】 ・原則として、対面（面接）授業を実施する。対面（面接）授業の実施が困難と判断される場合には、遠隔授業（オンライン・オンデマンド・課題）を併用する。 ・授業外学修時間を活用して、保育実習指導Ⅰの内容に基づいた学外実習の事前及び事後の指導を実施する。 【アクティブラーニングの導入】 「フィールドワーク」						
成績評価の方法 (試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合(%)	0	60	40	0	0	100
成績評価の基準（ルーブリック）						
到達度	秀逸	優秀	良好	最低限		
授業の到達目標 に対する 到達度の目安	保育実習は、その習得した教科全体の知識・技能を基礎とし、これらを総合的に実践する応用能力を養うために行う。保育所の機能と保育士の職務について学ぶと同時に施設の機能と施設保育士の職務について他者に詳細かつ適切に伝えることができる。	保育実習は、その習得した教科全体の知識・技能を基礎とし、これらを総合的に実践する応用能力を養うために行う。保育所の機能と保育士の職務について学ぶと同時に施設の機能と施設保育士の職務について理解し他者に適切に伝えることができる。	保育実習は、その習得した教科全体の知識・技能を基礎とし、これらを総合的に実践する応用能力を養うために行う。保育所の機能と保育士の職務について学ぶと同時に施設の機能と施設保育士の職務について理解している。	保育実習は、その習得した教科全体の知識・技能を基礎とし、これらを総合的に実践する応用能力を養うために行う。保育所の機能と保育士の職務について学ぶと同時に施設の機能と施設保育士の職務について断片的に理解している。		
該当DPに対する 到達度の目安	保育実習は、その習得した教科全体の知識・技能を基礎とし、これらを総合的に実践する応用能力を養うために行う。その結果として社会力・コミュニケーション力が身についている。	保育実習は、その習得した教科全体の知識・技能を基礎とし、これらを総合的に実践する応用能力を養うために行う。また、課題解決に向けた努力をすることができる。	保育実習は、その習得した教科全体の知識・技能を基礎とし、これらを総合的に実践する応用能力を養うために行う。それらのことをある程度他者へ発信ができる。	保育実習は、その習得した教科全体の知識・技能を基礎とし、これらを総合的に実践する応用能力を養うために行う。しかし、これらの情報を他者へ発信がほとんどできない。		

年度	2025	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	34320	ICT活用	—
授業科目名	保育実習Ⅱ					実務教員	—
科目	専門教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等							
配当年次	2年	期間	その他	必修区分	[保実習選]		
授業形態	実験・実習	単位数	2	担当形態	複数		
教員	赤坂 和哉						
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP1, 2, 3, 4, 5, 7, 8					
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会力 (DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
保育実習Ⅱでは、養護と教育が一体的に行われるという、保育の基本原理や社会的役割を具体的実践から学ぶことを目的としておこなう。 □1. 保育所の役割や機能について、具体的な実践を通して理解できる。 □2. 子どもの観察や関わりの視点を明確にすることを通して、保育の理解できる。 □3. 既習の教科や保育実習Ⅰの経験を踏まえ、子どもの保育及び子育て支援について総合的に理解できる。 □4. 保育の計画・実践・観察・記録及び自己評価について、実際に取り組み、理解できる。 □5. 保育士の業務内容や職業倫理について、具体的な実践に結びつけて説明できる。 □6. 実習における自己の課題を明確にすることができる。							
授業の概要							
これまでの既習科目と保育実習Ⅰでの実習経験を踏まえて、保育を総合的にとらえる視点を培う。保育の基本となる考え方、多様な保育の展開、保護者支援、子育て支援、地域連携等、保育所及び保育士の役割全般に対する理解を深める。							
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）							
・実習前に配布する資料を事前に読み返し、内容の詳細を理解し、実習に臨むこと。 ・実習生としての立場をわきまえ、実習生として相応しい礼節を身に付けておくこと。							
標準学修時間の目安							
1回の報告書（レポート）作成に2～4時間程度の学修が必要となる。							
課題（試験やレポート等）のフィードバック							
・実習日誌は、実習終了後に担当教員に提出し、確認後学生に返却する。 ・実習報告書は、指定された日までに提出すること（詳細については別途伝える）。							
使用教科書							
	教科書名	著者名	出版社名	ISBN			
1	なし	—	—	—			
2							
3							
使用教科書備考							
保育所保育指針、幼稚園連携型認定こども園教育・保育要領							
参考書・参考資料等							
必要に応じて適宜配布する。							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
実務経験のある教員に該当しない。							
その他							
・【受講条件】原則として、1年次に開講される卒業必修科目、保育士必修科目の単位を修得済みであること。 ・成績評価については、実習園での評価と本学における評価を総合する。							

授業計画						
第1回 保育所の役割や機能の具体的展開の理解① 養護と教育が一体となって行われている保育 第2回 保育所の役割や機能の具体的展開の理解② 保育所の社会的役割と責任 第3回 観察に基づく保育理解① 子どもの心身の状態や活動の観察 第4回 観察に基づく保育理解② 保育士等の援助や関わり 第5回 観察に基づく保育理解③ 保育所の生活の流れや展開の把握 第6回 子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会との連携① 環境を通して行う保育、生活や遊びを通して総合的に行う保育 第7回 子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会との連携② 入所している子どもの保護者支援及び地域の子育て家庭への支援 第8回 子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会との連携③ 関係機関や地域社会との連携・協働 第9回 指導計画の作成・実践・観察・記録・評価① 全体的な計画に基づく指導計画の作成・実践・省察・評価と保育の過程の理解 第10回 指導計画の作成・実践・観察・記録・評価② 作成した指導計画に基づく保育の実践と評価 第11回 保育士の業務と職業倫理① 多様な保育の展開と保育士の業務 第12回 保育士の業務と職業倫理② 多様な保育の展開と保育士の職業倫理 第13回 保育士間の連携とカンファレンスの意義の理解 第14回 実習日誌への記録を通じた保育実践の質的向上の理解 第15回 自己の課題の明確化 この授業では、保育実習Iでの体験および保育実習指導II等の事前指導も踏まえて、これまでに学習した知識と技術を基礎として、これらを総合的に実践する応用能力を養うため、乳幼児に対する理解を通じて保育の理論と実践の関係について習熟する。						
【授業実施方法】 原則として、対面（面接）授業を実施する。対面（面接）授業の実施が困難と判断される場合には、遠隔授業（オンライン・オンデマンド・課題）を併用する。						
【アクティブラーニングの導入】 「ディスカッション」、「プレゼンテーション」						
成績評価の方法 (試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合(%)	0	60	20	0	20	100
成績評価の基準（ルーブリック）						
到達度	秀逸	優秀	良好	最低限		
授業の到達目標に対する到達度の目安	保育所の役割や機能、子どもと保育者の関わりを含む保育理解、子育て支援の必要性、PDCAサイクルの必要性、保育士の職業倫理、実習における自己の課題を把握・理解し、実習での具体的かつ実践的な学習と既習の教科や保育実習Iにおける学習を有機的に結び付け構造的に意味づけ、他者にわかりやすく詳細かつ正確に説明できる。	保育所の役割や機能、子どもと保育者の関わりを含めた保育の理解、子育て支援の必要性、PDCAサイクルの必要性、保育士の職業倫理、実習における自己の課題を把握・理解し、実習での具体的かつ実践的な学習と既習の教科や保育実習Iにおける学習を結び付けて意味づけ、他者に説明できる。	保育所の役割や機能、子どもと保育者の関わりを含めた保育の理解、子育て支援の必要性、実習におけるPDCAサイクルの意義、保育士の職業倫理、実習における自己の課題を把握・理解することができる。	保育所の役割や機能、子どもと保育者の関わりを含めた保育の理解、子育て支援の必要性、実習におけるPDCAサイクルの意義、保育士の職業倫理、実習における自己の課題を、部分的に把握・理解することができる。		
該当DPに対する到達度の目安	保育者としての高い倫理観を保持し、保育と子育て支援に必要な専門的知識と技術を、実習園の特性を把握しながら実習に生かし、保育・子育て支援上の課題や問題を担当者や実習生同士で協働し、主体的に解決しようとする姿勢が培われている。また、実習先での経験を構造的に理解し、他者にわかりやすく、詳細かつ正確に説明できる。	保育者としての倫理観を保持し、保育と子育て支援に必要な専門的知識と技術を実習園の特性を把握しながら実習に生かし、保育・子育て支援上の課題や問題を実習担当者に質問・相談しながら、解決しようとする姿勢が培われている。また、実習先での経験を他者に正確に説明できる。	保育者としての倫理観を保持し、保育と子育て支援に必要な専門的知識と技術を実習に生かし、保育・子育て支援上の課題や問題を把握・理解しようとする姿勢が培われている。また、実習先での経験を他者に説明できる。	保育者としての倫理観を保持し、保育と子育て支援に必要な知識と技術を実習に生かそうとする姿勢が培われている。しかしながら、他者への実習先での経験の説明は断片的なものにとどまっている。		

年度	2025	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	34330	ICT活用	—
授業科目名	保育実習Ⅲ					実務教員	○
科目	専門教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等							
配当年次	2年	期間	その他	必修区分	[保実習選]		
授業形態	実験・実習	単位数	2	担当形態	単独		
教員	川村 幾代						
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP1, 2, 3, 4, 5, 7, 8					
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会力 (DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
保育実習Ⅰ（施設）での体験に基づき、その他の社会福祉施設の養護を実践し、保育・養護の理論と技術を福祉施設場で総合的に応用する力を養う。 □1. 既習の教科目や保育実習の経験を踏まえ、児童福祉施設等（保育所以外）の役割や機能について実践を通して、理解する。 □2. 家庭と地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉、社会的養護、障害児支援に対する理解をもとに、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を習得する。 □3. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結び付けて理解する。 □4. 実習における自己の課題を理解する。							
授業の概要							
保育実習Ⅰ（施設）で明らかになった実習生の特徴を伸ばすとともに、課題になっている点について取り組めるようにする。							
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）							
『保育実習ガイドライン（施設実習編）』を事前に読み、内容の詳細を理解し実習に臨むこと。 - 実習生としての立場をわきまえ、実習生として相応しい礼節を身に付けておくこと。							
標準学修時間の目安							
実習時間として原則として90時間が必要。							
課題（試験やレポート等）のフィードバック							
- 実習日誌は、実習終了後提出し、確認後学生に返却する。 - 実習報告書は、指定された日まで提出の事（別途伝える）。							
使用教科書							
	教科書名		著者名		出版社名		ISBN
1	なし		—		—		—
2							
3							
使用教科書備考							
保育実習ガイドライン（第3版）（施設実習編）全国保育士養成協議会北海道ブロック協議会 編							
参考書・参考資料等							
必要に応じて適宜配布することがある。							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
障がい者施設の看護師、相談員（10年）としての実務経験を生かし、施設実習について指導する。							
その他							
【受講条件】原則として、1年次が開講される卒業必修科目、保育士必修科目の単位を修得済みであること。							

授業計画						
第1回 オリエンテーション（実習施設と子どもや利用者の特性について） 第2回 児童福祉施設等（保育所以外）の役割と機能について（一日の流れの理解） 第3回 安定した日常生活を送るための援助とその意義についての理解（一日の流れの理解） 第4回 施設における子どもや利用者への接し方（受容し、共感する態度）について 第5回 個人差や生活習慣に伴う子ども（利用者）のニーズの把握と子ども理解について 第6回 個別支援計画の作成と実践について 第7回 保育士や支援者の業務と職業倫理について 第8回 生活援助の一部を担当し、援助技術や方法を習得①（子どもや利用者の特性別） 第9回 実習中の自己評価及び指導者のフィードバック（中間評価） 第10回 各施設における多様な専門職との連携・協働について 第11回 実習施設の地域社会との連携・協働について 第12回 子ども（利用者）の家族への支援と対応 第13回 生活援助の一部を担当し、援助技術や方法を習得②（施設別） 第14回 保育士としての施設における必要な危機管理について 第15回 実習の振り返りと自己課題の明確化について この授業では、保育実習Ⅰでの体験及び保育実習指導Ⅲの事前指導を踏まえて、実際の施設に実習に行き、その役割機能、保育士の業務内容や倫理について体験的に理解し、また子ども（利用者）の状況に応じたかかわり方を学びます。						
【授業実施方法】 原則として、対面（面接）授業を実施する。対面（面接）授業の実施が困難と判断された場合には、遠隔授業（オンライン・オンデマンド・課題）を併用する。						
【アクティブラーニングの導入】 「フィールドワーク」						
成績評価の方法 （試験項目）	筆記（定期試験・小テスト）	口述・実技等	論文（レポート・課題等）	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合（％）	0	60	20	0	20	100
成績評価の基準（ルーブリック）						
到達度	秀逸	優秀	良好	最低限		
授業の到達目標に対する到達度の目安	保育実習Ⅰ（施設）での実習体験に基づき、保育・養護の理論と技術を福祉施設の現場で総合的に応用する力を養う。また、新たに発生した課題に対して適切な対処法を検討できる。	保育実習Ⅰ（施設）での実習体験に基づき、保育・養護の理論と技術を福祉施設の現場で総合的に応用する力を養う。それらを他者へ適切な情報として伝えることができる。	保育実習Ⅰ（施設）での実習体験に基づき、保育・養護の理論と技術を福祉施設の現場で総合的に応用する力を養うことについて理解している。	保育実習Ⅰ（施設）での実習体験に基づき、保育・養護の理論と技術を福祉施設の現場で総合的に応用する力を養うことがほとんどできない。		
該当DPに対する到達度の目安	保育実習Ⅰ（施設）での実習体験に基づき、保育・養護の理論と技術を福祉施設の現場で総合的に応用する力を養い、社会人とコミュニケーション力が身についている。	保育実習Ⅰ（施設）での実習体験に基づき、保育・養護の理論と技術を福祉施設の現場で総合的に応用する力を養い、課題解決に向けた努力することができる。	保育実習Ⅰ（施設）での実習体験に基づき、保育・養護の理論と技術を福祉施設の現場で総合的に応用する力を養い他者へ発信できる。			

年度	2025	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	34220	ICT活用	○
授業科目名	保育実習指導Ⅱ					実務教員	—
科目	専門教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等							
配当年次	2年	期間	その他	必修区分	[保実習選]		
授業形態	演習	単位数	1	担当形態	単独		
教員	赤坂 和哉						
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP1, 2, 3, 4, 5, 7, 9					
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会力 (DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
児童福祉施設における実習に臨むにあたって必要な事前の学習を深める。 ☐1. 保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に理解する ☐2. 実習や既習の教科目の内容やその関連性を踏まえ、保育の実践力を習得する。 ☐3. 保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について、実践や事例を通して理解する。 ☐4. 保育士の専門性と職業倫理について理解する。 ☐5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。							
授業の概要							
本講義では、実習を円滑に進めるとともに、実習後において評価と自己の振り返りとともに自己課題を明確にする。 当該科目は、学生の円滑な学修を支援するため、教育助手を配置する。							
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）							
初回の授業前にシラバスをよく読んでおくこと。また、担当教員が事前に配布する資料の下調べをしっかりと行うこと。毎授業時に提示する課題を次の授業の前までに完了させること。授業後は、学生同士のディスカッション等を通じて、授業内容をさらに深めることが望ましい。							
標準学修時間の目安							
1回の講義あたり予習・復習を含めて2時間の学修が必要である。							
課題（試験やレポート等）のフィードバック							
課題提出期限後の授業で模範的な課題を紹介する。							
使用教科書							
	教科書名	著者名	出版社名	ISBN			
1	なし	—	—	—			
2							
3							
使用教科書備考							
適宜プリントを配布する。							
参考書・参考資料等							
なし							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
実務経験のある教員に該当しない。							
その他							
この授業は、保育実習Ⅱを選択する学生が同時に履修するものである。毎時、実習ファイルを持参すること。							

授業計画						
第1回 保育実習の総合的な学び 第2回 子どもの最善の利益を考慮した保育の具体的理解 第3回 子どもの保育と保護者支援 第4回 保育の実践力の育成 第5回 子ども(利用者)の状態に応じた適切なかかわり 第6回 保育の知識・技術を活かした保育実践 第7回 計画と観察・記録、自己評価 第8回 保育の全体計画に基づく具体的な計画と実践 第9回 保育の観察・記録、自己評価に基づく保育の改善 第10回 保育士の専門性と職業倫理 第11回 保育実習Ⅱの報告会 第12回 保育実習Ⅱの報告会から見えてきたもの 第13回 事後指導における実習の総括と評価 第14回 実習の総括と自己評価 第15回 課題の明確化 この授業では、上記項目について、保育所保育指針、子どもの権利条約、全国保育士会倫理綱領等にもとづき、年齢・特性等の個別ニーズへの対応を念頭において、模擬保育を中心としながら実習に臨む準備をし、実習後に保育者となるための自己課題を把握する。 なお、本授業には「保育士による児童生徒性暴力等の防止等に関する基本的な指針」（令和6年3月29日改正）の内容が含まれる。						
【授業実施方法】 原則として、対面（面接）授業を実施する。対面（面接）授業の実施が困難と判断される場合には、遠隔授業（オンライン・オンデマンド・課題）を併用する。 ICTを活用した双方向型授業を実施する授業回がある。						
【アクティブラーニングの導入】 「ディスカッション」、「ディベート」、「グループワーク」、「プレゼンテーション」						
成績評価の方法 (試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合(%)	0	60	20	0	20	100
成績評価の基準（ルーブリック）						
到達度	秀逸	優秀	良好	最低限		
授業の到達目標に対する到達度の目安	実習の意義と目的、保育士の専門性と職業倫理を理解している。実習や既習科目の内容やその関連性を踏まえ、保育の実践力が身についている。また指導案作成を通して、保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善の意義を理解し実践できる。実習後は実習における自己課題を明らかにし、他者にその内容を構造的に説明できる。	保育実習の意義と目的、保育士の専門性と職業倫理を理解し、保育を理解している。実習や既習科目の内容を踏まえ、保育の実践力が身についている。また指導案作成を通して、保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善の意義を理解している。実習後は実習における自己課題を明らかにし、他者にその内容を説明することができる。	保育実習の意義と目的、保育士の専門性と職業倫理を理解し、保育を理解している。実習や既習科目の内容を踏まえ、保育の実践力が身についている。また指導案作成を通して、保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善の意義を理解している。実習後は実習における自己課題を明らかにすることができる。	保育実習の意義と目的、保育士の専門性と職業倫理を理解し、最低限の保育の実践力は身につけている。保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善は部分的であり、実習における自己課題の明確化も一部にとどまっている。		
該当DPに対する到達度の目安	保育者の社会的使命と倫理観を十分に理解し、保育と子育て支援に必要な専門的知識と技術を用いて、実習準備を主体的に進めている。またこれまでの学習を構造的に把握し、実習においても他者への思いやりを持ち、柔軟に対応する力を十分に身に付けている。	保育者の社会的使命と倫理観を理解し、これまで学習を踏まえて、保育と子育て支援に必要な専門的知識と技術を用いて、実習準備を進めている。実習においても他者への思いやりを持ち、柔軟に対応しようと努力している。	保育者の社会的使命と倫理観を理解し、保育と子育て支援に必要な専門的知識と技術を用いて、指導担当者の助言により、実習準備を進めている。実習では柔軟に対応しようとしている。	最低限度の保育者の社会的使命と倫理観は理解している。また、実習準備における必要な専門的知識と技術の修得も必要最低限にとどまっている。		

年度	2025	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	34230	ICT活用	—
授業科目名	保育実習指導Ⅲ					実務教員	○
科目	専門教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等							
配当年次	2年	期間	その他	必修区分	[保実習選]		
授業形態	演習	単位数	1	担当形態	単独		
教員	川村 幾代						
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP1, 2, 3, 4, 5, 7, 9					
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会力 (DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
児童福祉施設 (保育所以外) における実習に臨むにあたって必要な事前の学習を深める。 □1. 保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に理解する。 □2. 実習や既習の教科目の内容やその関連性を踏まえ、保育の実践力を習得する。 □3. 保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について、実践や事例を通して理解する。 □4. 保育士の専門性と職業倫理について理解する。 □5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。							
授業の概要							
本講義では、実習を円滑に進めるとともに、実習後において評価と自己の振り返りとともに自己課題を明確にする。 当該科目は、学生の円滑な学修を支援するため、教育助手を配置する。							
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）							
・ 児童家庭福祉、社会的養護等の関連科目のテキスト、講義内容を再度確認して、理解を深めること。 ・ 社会福祉施設の概要を文献、インターネット等で調べておくこと。 ・ 実習施設、関連施設等からの行事等のボランティアの依頼があった場合は、可能な限り参加して施設理解に努めること。							
標準学修時間の目安							
次の講義までに予習・復習を含めて2時間の学修が望ましい。							
課題（試験やレポート等）のフィードバック							
実習報告書、その他課題については、担当教員確認後返却する。							
使用教科書							
	教科書名	著者名	出版社名	ISBN			
1	なし	—	—	—			
2							
3							
使用教科書備考							
保育実習ガイドライン（第4版）（施設実習編）全国保育士養成協議会北海道ブロック協議会 編							
参考書・参考資料等							
必要に応じて施設理解のためのプリントを配布する。							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
障がい者施設の看護師、相談員（10年）としての実務経験を生かし、施設実習について指導する。							
その他							
この授業は、保育実習Ⅲを選択する学生が同時に履修するものである。毎時、実習ファイルを持参すること。							

授業計画						
第1回 保育実習の総合的な学び 第2回 子どもの最善の利益を考慮した保育の具体的理解 第3回 子どもの保育と保護者支援 第4回 保育の実践力の育成 第5回 子ども(利用者)の状態に応じた適切なかわり 第6回 保育の知識・技術を活かした保育実践 第7回 計画と観察、記録、自己評価 第8回 保育の全体計画に基づく具体的な計画と実践 第9回 保育の観察、記録、自己評価に基づく保育の改善 第10回 保育士の専門性と職業倫理 第11回 保育実習Ⅲの報告会 第12回 保育実習Ⅲの報告会から見えてきたもの(自己課題の明確化) 第13回 保育実習Ⅲの報告会から見えてきたもの(自己課題の解決法) 第14回 実習の総括と自己評価 第15回 課題の明確化 この授業では、既習の授業である社会的養護、子ども家庭福祉、子ども家庭支援論を踏まえ、子ども(利用者)とその家庭を支援するための知識、技術、判断力を身につけます。また、保育実習Ⅲの体験から、保育士としての自己課題を深めます。 なお、本授業には「保育士による児童生徒性暴力等の防止等に関する基本的な指針」(令和6年3月29日改正)の内容が含まれる。 【授業実施方法】 原則として、対面(面接)授業を実施する。対面(面接)授業の実施が困難と判断された場合には、遠隔授業(オンライン・オンデマンド・課題)を併用する。 【アクティブラーニングの導入】 「グループワーク」「ディスカッション」「プレゼンテーション」						
成績評価の方法 (試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合(%)	0	50	30	0	20	100
成績評価の基準(ルーブリック)						
到達度	秀逸	優秀	良好	最低限		
授業の到達目標に対する到達度の目安	児童福祉施設(保育所以外)における実習に臨むにあたって必要な事前の学修を深め、実習の意義と目的を理解し、実習への課題を明確にでき、詳細かつ適切な情報を他者に伝えることができる。	児童福祉施設(保育所以外)における実習に臨むにあたって必要な事前の学修を深め、実習の意義と目的を理解し、実習への課題を明確に出来、それらを他者に適切な情報として伝えることができる。	児童福祉施設(保育所以外)における実習に臨むに当たって必要な事前の学修を深め、実習の意義と目的を理解している。	児童福祉施設(保育所以外)における実習に臨むに当たって必要な事前の学修を深め、実習の意義と目的を断片的であるが理解している。		
該当DPに対する到達度の目安	児童福祉施設(保育所以外)における実習に臨むにあたって必要な事前の学修を深め、関連する情報を継続的に他者への発信力が身についている。	児童福祉施設(保育所以外)における実習に臨むにあたって必要な事前の学修を深め、詳細な情報の収集と、課題解決に向けて努力することができる。	児童福祉施設(保育所以外)における実習に臨むに当たって必要な事前の学修を深め、ある程度他者の発信ができる。	児童福祉施設(保育所以外)における実習に臨むに当たって必要な事前の学修を深めることが出来ず、他者へ発信することがほとんどできない。		

年度	2025	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	36110	ICT活用	○
授業科目名	教育経営論					実務教員	○
科目	専門教育科目/教育の基礎的理解に関する科目						
施行規則に定める科目区分または事項等			教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）				
配当年次	2年	期間	後期	必修区分	幼		
授業形態	講義	単位数	1	担当形態	単独		
教員	長谷川 秀雄						
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP1, 4					
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会力 (DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
☐ 1. 幼稚園や保育所などの組織や経営、方法などの基本を理解し、説明できる。 ☐ 2. 幼稚園や保育所などを取り巻く現代の諸問題について理解し、説明できる。 ☐ 3. 幼稚園や保育所などを取り巻く現代の諸問題に対処する方法や改善方法について、自分の考えを持ったり説明したりすることができる。							
授業の概要							
少子化や待機児童、家庭や地域の教育力の低下などさまざまな問題があるなかで、幼稚園や保育所、認定こども園等は、一層、その役割を果たすことが期待されている。本授業では、幼稚園を取り巻く諸問題を理解するとともに、園長や主任教諭、主任保育士などが、それに対処するための組織や経営の方法などについて学習する。							
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）							
予習：授業に関連する項目について、『幼稚園教育要領解説』、『保育所保育指針解説』を熟読しておくこと。 復習：授業で学んだ点、疑問点、自分で調べた事項などをノートに整理しておくこと。							
標準学修時間の目安							
1回の講義あたり0.5時間の予習と1.5時間の復習が必要となる。							
課題（試験やレポート等）のフィードバック							
ノートあるいはレポート等の提出後、コメントや評価を付して返却すると共に、模範的なものについては、授業の中で紹介していく。							
使用教科書							
	教科書名		著者名		出版社名		ISBN
1	なし		—		—		—
2							
3							
使用教科書備考							
使用しない。							
参考書・参考資料等							
幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
長谷川は、学校現場における一般教員経験（23年間）や管理職経験（14年間）の実務経験を生かし、教育の関する組織や経営、方法を教授する。							
その他							
・ノートあるいはレポート等は点検し、評価する。							

授業計画						
第1回 学校を巡る近年の様々な状況の変化について 経営論の基本について確認するとともに、組織や経営について学ぶ。 第2回 社会生活の変化を踏まえた上での指導上の課題について 経営要項をもとにし、様々な指導上の課題について学ぶ。 第3回 近年の教育政策の動向について 経営要項をもとにし、近年の教育政策の動向について学ぶ。 第4回 諸外国の教育事情と教育改革の動向について 各国の教育事情と教育改革の動向について学ぶ。 第5回 学校や教育行政機関の目的、公教育の原理及び理念の理解、教育関係法規の理解、教育行政の理念と仕組みについて 経営要項をもとに教育行政機関、公教育、教育関係法規等具体的な内容について学ぶ。 第6回 学校経営の望むべき姿について 経営論から考える保育者として「話すこと」「伝えること」等の臨むべき姿を具体的実践から学ぶ。 第7回 教育活動の年間の流れと学校評価の基礎理論—PDCAの重要性について PDCAの重要性を確認するとともに教育活動の年間の流れとの関係性について具体的に学ぶ。 第8回 学級経営の仕組みとその効果的な方法について 学級経営の基本的な仕組みとともに研修等を通して保育者の資質向上の実践について学ぶ。 第9回 教職員、学校外の関係者・関係機関との連携・協働の在り方の重要性について 様々な関係機関との連携について考え、実践的な協働について学ぶ。 第10回 地域との連携・協働による学校教育活動の意義と方法について 教育活動と地域との連携について考え、実践的な協働について学ぶ。 第11回 地域との連携を基本とする開かれた学校づくりについて 開かれた学校づくりのために、地域とどう関わりを持つかについて具体的事例から学ぶ。 第12回 危機管理・事故対応を含む学校安全の必要性、事件・事故・災害への対応について 経営要項の危機管理・事故対応について「危機管理のさしすせそ」から実践的な事例を学ぶ。 第13回 学校保健安全法に基づく学校安全の目的と具体的な取り組みについて 学校内外の安全管理について具体的な内容から実践的な事例を学ぶ。 第14回 生活安全・交通安全・災害安全からみた学校経営における安全上の課題について 学校経営と生活安全、交通安全、災害安全の関わりについて具体的事例から学ぶ。 第15回 まとめ 教育経営論を通して学んだことを社会人としてどのように生かしていくかについて学ぶ。 【授業実施方法】 原則として、対面（面接）授業を実施する。対面（面接）授業の実施が困難と判断される場合には、遠隔授業（オンライン・オンデマンド・課題）を併用する。 ICTを活用した双方向型授業を実施する授業回がある。 【アクティブラーニングの導入】 「ディスカッション」「グループワーク」						
成績評価の方法 (試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合 (%)	0	0	60	0	40	100
成績評価の基準（ルーブリック）						
到達度	秀逸	優秀	良好	最低限		
授業の到達目標 に対する 到達度の目安	幼稚園や保育所などの組織や経営、地域・保護者等との連携などの詳細を的確に理解した上で、明確に説明することができる。また幼稚園や保育所などを取り巻く現代の諸問題について十分に理解し説明できるとともに、それらへの対処法や改善の方法について調べたり、自分の考えを持って、簡潔明瞭に説明することができる。	幼稚園や保育所などの組織の在り方や経営、地域・保護者等との連携の方法などを理解し、説明できる。また幼稚園や保育所などを取り巻く現代の諸問題について理解し、説明するとともに、それらの対処法について、理解したり自分の考えを持つことができる。	幼稚園や保育所などの組織や経営、地域・保護者等との連携を概ね理解しある程度説明することができる。また幼稚園や保育所などを取り巻く現代の諸問題についての内容を概ね理解したり、それらの対処法について理解したり、考えを持つことができる。	幼稚園や保育所などの組織や経営、地域・保護者等との連携などの基本を理解することができる。また幼稚園や保育所などを取り巻く現代の諸問題について理解することができる。		
該当DPに対する 到達度の目安	幼稚園や保育所等の組織や経営への理解を十分に深め保育と子育て支援の専門的知識を有し、子どもの成長に必要な技術を獲得することができる。また子育ての環境について深く分析し、幼稚園や保育所などを取り巻く現代の諸問題について十分に理解を深め、その解決に向けて自分で深く考え答え導き出す能力を身につけることができる。	幼稚園や保育所などの組織経営について理解を深め、保育と子育て支援のための専門的知識を有し、子どもの成長に必要な技術を獲得することができる。また子育ての環境について分析し幼稚園や保育所などを取り巻く現代の諸問題について理解し、その解決に向けて答え導き出す能力を身につけることができる。	幼稚園や保育所などの組織経営について理解し、保育と子育て支援のための専門的知識を有し、子どもの成長に必要な技術を概ね獲得することができる。また子育ての環境について理解し幼稚園や保育所などを取り巻く現代の諸問題を知り、その解決に向けて答え導き出す能力を身につけようと努めることができる。	幼稚園や保育所などの組織経営についてある程度理解し、子どもの成長に必要な知識、技術の幾つかを獲得することができる。また子育ての環境についてある程度理解することができ、幼稚園や保育所などを取り巻く現代の諸問題についても理解しようと努力することができる。		

年度	2025	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	36220	ICT活用	○
授業科目名	教育の方法と技術					実務教員	-
科目	専門教育科目/道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目						
施行規則に定める科目区分または事項等			教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）				
配当年次	2年	期間	前期	必修区分	幼		
授業形態	講義	単位数	2	担当形態	単独		
教員	咲間 まり子						
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP4, 5, 6					
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会力 (DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
☐ 1. これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法を理解する。 ☐ 2. 主体的・対話的で深い学び・保育を構成する基礎的要件（環境・教材・教具・活動等）と教材研究について説明できる。 ☐ 3. 深い学びのための目標・教材研究・学習形態・評価等の研究を踏まえた学習指導案作成について説明できる。 ☐ 4. 主体的・対話的で深い学びにおける教材・教具の機能について系譜の考察から説明できる。 ☐ 5. 幼児教育における教育機器・教材等の活用（情報活用能力・モラル）について説明できる。 ☐ 6. これからの社会を担う子供育成の教育方法（幼小教育連携と主体的・対話的で深い学び）の理論と実践について説明できる。							
授業の概要							
幼児教育では、「人間形成の基礎となる豊かな心情、物事に関わる意欲、よりよい生活を営む態度等」を育むために、保育者が子どもの発達特性等を考慮し、「環境を通して主体的・対話的で深い学び」の計画（内容・環境・方法等）を作成する。この授業では、幼児期の「環境を通して行う教育」の重要性や多様な保育形態、教材研究の方法、幼小の連携等について学び、豊かな保育を展開するための教育の方法と技術を学ぶことを目標とする。							
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）							
提示された課題に取り組み、不明点等があればテキストやノートの該当部分の読み返しや資料の下調べ、学生同士のディスカッションなどにより解消しておく。							
標準学修時間の目安							
1回の講義あたり予習・復習を含めて4時間の学修が必要である。							
課題（試験やレポート等）のフィードバック							
課題提出期限後の授業で模範的な課題を紹介する。							
使用教科書							
	教科書名	著者名	出版社名	ISBN			
1	なし	-	-	-			
2							
3							
使用教科書備考							
授業中に資料を配布する							
参考書・参考資料等							
- コンパス 保育内容総論 咲間まり子編著 - 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型こども園教育・保育要領							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
実務経験のある教員に該当しない。							
その他							
ICTを活用する。							

授業計画						
第 1回	オリエンテーション、グループ分け 授業の進め方等の共通理解を図る。					
第 2回	育みたい資質・能力と幼児理解に基づいた教育方法の基礎理論と実践					
第 3回	①教育方法の基礎理論と具体的な実践(効果的な援助方法)について学ぶ。 先達の教育方法の在り方（育みたい資質・能力と主体的・対話的で深い学び等）					
第 4回	②保育方法の基礎理論と具体的な実践(効果的な援助方法)について学ぶ。 保育を構成する基礎的要件、主体的・対話的な学習過程					
第 5回	保育を構成する基礎的要件の実践について学ぶ。 保育を構成する基礎的要件（遊びの中における主体的・対話的で深い学び・保育）					
第 6回	保育を構成する基礎的要件について、特に遊びを通じた実践について学ぶ。 保育を構成する基礎的要件（主体的・対話的で深い学びのための教材・ 教具と教材研究）					
第 7回	保育を構成する基礎的要件について、特に教材・教具、教材研究の実践について学ぶ。 主体的・対話的で深い学びを促すための実践の研究と話法など指導の基礎的な技術					
第 8回	具体的な実践の研究と基礎的な技術について学ぶ。 主体的・対話的で深い学びを促すための学習理論（目標・教材研究・学習形態・学習評価の基礎的な考え方の理解等）の研究					
第 9回	実践を生かすための学習理論について学ぶ。 主体的・対話的で深い学びを促すための目標・教材研究・保育展開・学習形態・評価規準等の研究を踏まえた学習指導案作成					
第10回	実習に向けて、教材研究や保育展開、学習形態等の具体的な対応を学ぶ。 保育の観察・記録（育みたい資質・能力と幼児理解に基づいた保育の観察・記録の視点）					
第11回	実習を通して学んだ保育の観察や記録について交流し学ぶ。 育みたい資質・能力と幼児理解に基づいた評価の基礎的な考え方					
第12回	模擬研究保育を通して実践的な評価の仕方について学ぶ。 主体的・対話的で深い学びにおける教材・教具の機能と系譜					
第13回	ICT機器と教材の協働的な学びや指導の工夫につながる利用を考える。 幼児教育における教育機器を活用して効果的に教材等を作成・提示・活用する（情報活用能力・情報モラル）					
第14回	ICT機器と教材の効果的な使い方について具体的な実践を通して学ぶ。 これからの社会を担う子ども育成の教育方法（幼小教育連携と主体的・対話的で深い学び）の理論と実践					
第15回	具体的な教育方法について、具体的な理論と実践を通して学ぶ。 フィードバック・まとめ これまでの授業を振り返り、教育の方法と技術についての具体的な内容を確認する。					
【授業実施方法】 原則として、対面（面接）授業を実施する。対面（面接）授業の実施が困難と判断される場合には、遠隔授業（オンライン・オンデマンド・課題）を併用する。 ICTを活用した双方向型授業を実施する授業回がある。						
【アクティブラーニング】 「ディスカッション」「グループワーク」						
成績評価の方法 (試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合（％）	60	30	0	0	10	100
成績評価の基準（ルーブリック）						
到達度	秀逸	優秀	良好	最低限		
授業の到達目標 に対する 到達度の目安	幼児期の「環境を通して行う教育」の重要性や多様な保育形態、教材研究の方法、幼小の連携等について学び豊かな保育を展開するための教育の方法と技術について理解し、それらを他者に詳細な情報として伝えることができることとともに、保育現場・実践に即した方法と技術を検討できる。	幼児期の「環境を通して行う教育」の重要性や多様な保育形態、教材研究の方法、幼小の連携等について学び豊かな保育を展開するための教育の方法と技術について理解し、それらを他者に適切な情報として伝えることができる。	幼児期の「環境を通して行う教育」の重要性や多様な保育形態、教材研究の方法、幼小の連携等について学び豊かな保育を展開するための教育の方法と技術について理解している。	幼児期の「環境を通して行う教育」の重要性や多様な保育形態、教材研究の方法、幼小の連携等について学び豊かな保育を展開するための教育の方法と技術について断片的であるが理解している。		
該当DPに対する 到達度の目安	子育て環境を深く分析して課題や問題を見つけ出し、自らの知識・技能を生かしその解決に向け、計画的に考え、答えを導き出す能力を身につけているとともに生涯にわたって学び続け、身につけた知識や技能並びに経験をわかりやすく他者に継続的に情報発信力を身につけている。	子育て環境を深く分析して課題や問題を見つけ出し、自らの知識・技能を生かしその解決に向け、計画的に考え、答えを導き出す能力を身につけているとともに生涯にわたって学び続け、身につけた知識や技能並びに経験をわかりやすく他者に伝えることができる。	子育て環境を深く分析して課題や問題を見つけ出し、自らの知識・技能を生かしその解決に向け、計画的に考え、答えを導き出す能力を身につけているとともに生涯にわたって学び続け、身につけた知識や技能並びに経験をわかりやすく他者に伝えることが難しい。	子育て環境を深く分析して課題や問題を見つけ出し、自らの知識・技能を生かしその解決に向け、計画的に考え、答えを導き出す能力を身につけているとともに生涯にわたって学び続け、身につけた知識や技能並びに経験をわかりやすく他者に伝えることが難しい。		

年度	2025	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	36230	ICT活用	○
授業科目名	幼稚園教育実習事前指導					実務教員	○
科目	専門教育科目/教育実践に関する科目						
施行規則に定める科目区分または事項等			教育実習				
配当年次	2年	期間	その他	必修区分	幼		
授業形態	演習	単位数	1	担当形態	複数		
教員	小林 博子／野呂 祐人						
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP1, 2, 3, 4, 5, 7, 8					
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会力 (DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
☐ 1. 教育実習の意義、目的を理解し、自己課題を明確にできる。 ☐ 2. ねらいを明確にした指導案を作成することができる。 ☐ 3. 幼児の姿、保育者の意図を理解した実習日誌の記録方法を説明できる。 ☐ 4. 教育実習に向け、意欲を持って準備に取り組むことができる。							
授業の概要							
教育実習をより充実した学びの多いものにするためには、事前指導が必要である。教育実習の意義と目的を理解し、幼稚園教育について総合的に学ぶ。また、実習に臨む心構えや円滑に実習を進めるために必要な知識、事前の準備について学び、自己課題を明確に設定できることをねらいとする。 当該科目は、学生の円滑な学修を支援するため、教育助手を配置する。							
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）							
・ 幼児の発達段階を理解し、年齢や時期に合った保育内容を学習しておくこと。 ・ 幼稚園で広く歌われている曲の伴奏ができるようピアノを練習しておくこと。 ・ 「資料の下調べ」							
標準学修時間の目安							
1回の講義あたり、1時間の予習と1時間の復習が必要となる。							
課題（試験やレポート等）のフィードバック							
課題提出期限後の授業で個別指導を行い、コメントを付した課題を返却する。							
使用教科書							
	教科書名		著者名		出版社名		ISBN
1	なし		—		—		—
2							
3							
使用教科書備考							
なし							
参考書・参考資料等							
幼稚園教育要領							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
小林は、41年間幼稚園教諭・園長としての職にあり、専門的職業人としての基礎について講義する。野呂は、実務経験のある教員に該当しない。							
その他							
・ 本科を履修する学生は、「幼稚園教育実習」「幼稚園教育実習事後指導」を同時に履修すること。 ・ 毎回実習ファイルを持参すること。やむを得ず欠席した場合は必ず資料を担当教員に取りに行くこと。 ・ 授業では課題についてのディスカッションを行う。＊本科目は幼稚園教諭二種免許「教職に関する科目」である。							

授業計画						
第1回 オリエンテーション 第2回 教育実習の意義と目的、幼稚園教育の理解 第3回 実習の心構え 第4回 実習関係書類の作成 第5回 実習記録の書き方①（観察する視点の理解） 第6回 幼稚園観察学習①（幼児の活動） 第7回 幼稚園観察学習②（環境構成・保育者の活動） 第8回 研究保育について①（保育のねらいの理解） 第9回 研究保育について②（保育内容の理解） 第10回 実習記録の書き方②（個別指導） 第11回 指導案の書き方①（記載方法の理解） 第12回 指導案の書き方②（個別指導） 第13回 個別指導（実習目標の確認等） 第14回 自己課題の明確化 第15回 実習直前ガイダンス、指導担当教員との打ち合わせ 教育実習事前指導の授業では、教育実習に向けて「幼稚園教育要領」を中心に、「幼稚園教育の基本」「幼稚園教育の目標と内容」「幼稚園の役割」「幼児の発達とその時期の特徴」について学ぶ。また、実習日誌の記入の仕方や責任実習における指導案の作成などの具体的な取り組みについて学ぶ。						
【授業実施方法】 原則として、対面（面接）授業を実施する。対面（面接）授業の実施が困難と判断される場合には、遠隔授業（オンライン・オンデマンド・課題）を併用する。 ICTを活用した双方向型授業を実施する授業回がある。 【アクティブラーニングの導入】 「ディスカッション」「グループワーク」						
成績評価の方法 （試験項目）	筆記（定期試験・小テスト）	口述・実技等	論文（レポート・課題等）	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合（％）	0	0	80	0	20	100
成績評価の基準（ルーブリック）						
到達度	秀逸	優秀	良好	最低限		
授業の到達目標に対する到達度の目安	教育実習の意義と目的を理解し、幼稚園教育について総合的に学ぶとともに、実習に臨む心構えや円滑に実習を進めるために必要な知識、事前の準備について学び、自己課題を明確に設定し、それらを他者に詳細な情報として伝えるとともに教育実習の自己課題実現の具体的方法を検討できる。	教育実習の意義と目的を理解し、幼稚園教育について総合的に学ぶとともに、実習に臨む心構えや円滑に実習を進めるために必要な知識、事前の準備について学び、自己課題を明確に設定し、それらを他者に適切な情報として伝えることができる。	教育実習の意義と目的を理解し、幼稚園教育について総合的に学ぶとともに、実習に臨む心構えや円滑に実習を進めるために必要な知識、事前の準備について学び、自己課題を明確に設定できる。	教育実習の意義と目的を理解し、幼稚園教育について総合的に学ぶとともに、実習に臨む心構えや円滑に実習を進めるために必要な知識、事前の準備について学び自己課題を設定できる。		
該当DPに対する到達度の目安	保育者の社会的使命を理解し、地域の特性を的確に把握し子育て環境を分析し、保育・子育て支援に必要な専門的知識・技術を身につけることができ、子どもの成長を促す的確・詳細な情報の収集と他者への発信と課題解決に向け継続的に努力することができる。	保育者の社会的使命を理解し、地域の特性を的確に把握し子育て環境を分析し、保育・子育て支援に必要な専門的知識・技術を身につけることができ、子どもの成長を促す的確な情報の収集と他者への発信と課題解決に向け努力をすることができる。	保育者の社会的使命を理解し、地域の特性を的確に把握し子育て環境を分析し、保育・子育て支援に必要な専門的知識・技術を身につけることができ、子どもの成長を促す情報の収集と他者への発信ができる。	保育者の社会的使命を理解し、地域の特性を的確に把握し子育て環境を分析し、保育・子育て支援に必要な専門的知識・技術を身につけることができ、子どもの成長を促す情報の収集や他者への発信を行うことが難しい。		

年度	2025	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	36331	ICT活用	○
授業科目名	幼稚園教育実習事後指導					実務教員	○
科目	専門教育科目/教育実践に関する科目						
施行規則に定める科目区分または事項等			教育実習				
配当年次	2年	期間	その他	必修区分	幼		
授業形態	演習	単位数	1	担当形態	複数		
教員	小林 博子／野呂 祐人						
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP1, 2, 3, 4, 5, 7, 8					
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会力 (DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
☐ 1. 教育実習を振り返り、学んだ成果と課題を確認できる。 ☐ 2. 実習報告会を通して学びを共有し、幼稚園教諭としての課題を理解する。 ☐ 3. 自らの教育実践を省察し、指導案を修正することができる。							
授業の概要							
3週間にわたる幼稚園教育実習終了後に、実習で体験し学んだことを総括し、今後の学習課題を明確にすることをねらいとする。当該科目は、学生の円滑な学修を支援するため、教育助手を配置する。							
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）							
・教育実習報告会の資料作成、研究保育指導案の修正 ・学生同士のディスカッションにより、自らの課題について理解を深める。							
標準学修時間の目安							
1回の講義あたり、1時間の予習と1時間の復習が必要となる。							
課題（試験やレポート等）のフィードバック							
課題（指導案等）提出期限後の授業で、コメントを付した課題を返却する。							
使用教科書							
	教科書名	著者名	出版社名	ISBN			
1	なし	—	—	—			
2							
3							
使用教科書備考							
なし							
参考書・参考資料等							
幼稚園教育要領							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
小林は、41年間幼稚園教諭・園長としての職にあり、専門的職業人としての基礎について講義する。野呂は、実務経験のある教員に該当しない。							
その他							
・実習ファイルを毎回持参すること。 ・本科目を履修する学生は、「幼稚園教育実習」「幼稚園教育実習事前指導」を同時に履修すること。 *本科目は幼稚園教諭二種免許「教職に関する科目」である。							

授業計画						
第1回 オリエンテーション 第2回 教職履修カルテの記入 第3回 実習報告会1（発表：Aグループ、記録・質問：Bグループ） 第4回 実習報告会2（発表：Aグループ、記録・質問：Bグループ） 第5回 実習報告会3（発表：Bグループ、記録・質問：Aグループ） 第6回 実習報告会4（発表：Bグループ、記録・質問：Aグループ） 第7回 教育実習の成果と課題 第8回 教育実習の自己評価 第9回 研究保育を振り返って 第10回 指導案の再作成 第11回 グループワーク1（研究保育の改善点） 第12回 グループワーク2（研究保育の改善点） 第13回 教育実習評価の理解・個別指導 第14回 教育実習評価の理解・個別指導 第15回 まとめ 自己課題の明確化 教育実習事後指導の授業では、実習で学んだ幼稚園生活の実際から、幼児の姿と保育者の援助のあり方や環境構成などを学んだ。実習で学んだことを自分のものにすると共に、実習報告会を通して他の実習園の様子を学ぶ。						
【授業実施方法】 原則として、対面（面接）授業を実施する。対面（面接）授業の実施が困難と判断される場合には、遠隔授業（オンライン・オンデマンド・課題）を併用する。 ICTを活用した双方向型授業を実施する授業回がある。 【アクティブラーニング】 「ディスカッション」「グループワーク」						
成績評価の方法 （試験項目）	筆記（定期試験・小テスト）	口述・実技等	論文（レポート・課題等）	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合（％）	0	0	80	0	20	100
成績評価の基準（ルーブリック）						
到達度	秀逸	優秀	良好	最低限		
授業の到達目標に対する到達度の目安	3週間にわたる幼稚園教育実習終了後に、実習報告会・研究保育等の振り返りを通し自らの教育実践を省察し、学びの成果を共有するとともに幼稚園教諭としての課題を理解し、それらを他者に詳細な情報として伝えることができ、学び続ける保育者として学びの具体策を検討できる。	3週間にわたる幼稚園教育実習終了後に、実習報告会・研究保育等の振り返りを通し自らの教育実践を省察し、学びの成果を共有するとともに幼稚園教諭としての課題を理解し、それらを他者に適切な情報として伝えることができる。	3週間にわたる幼稚園教育実習終了後に、実習報告会・研究保育等の振り返りを通し自らの教育実践を省察し、学びの成果を共有するとともに幼稚園教諭としての課題を理解している。	3週間にわたる幼稚園教育実習終了後に、実習報告会・研究保育等の振り返りを通し自らの教育実践を省察し、学びの成果を共有するとともに幼稚園教諭としての課題を断片的であるが理解している。		
該当DPに対する到達度の目安	保育者の社会的使命を理解し、地域の特性を的確に把握し子育て環境を分析し、保育・子育て支援に必要な専門的知識・技術を身につけることができ、子どもの成長を促す的確・詳細な情報の収集と他者への発信と課題解決に向け継続的に努力することができる。	保育者の社会的使命を理解し、地域の特性を的確に把握し子育て環境を分析し、保育・子育て支援に必要な専門的知識・技術を身につけることができ、子どもの成長を促す的確な情報の収集と他者への発信と課題解決に向け継続的な努力をすることができる。	保育者の社会的使命を理解し、地域の特性を的確に把握し子育て環境を分析し、保育・子育て支援に必要な専門的知識・技術を身につけることができ、子どもの成長を促す情報の収集と他者への発信ができる。	保育者の社会的使命を理解し、地域の特性を的確に把握し子育て環境を分析し、保育・子育て支援に必要な専門的知識・技術を身につけることができ、子どもの成長を促す情報の収集や他者への発信を行うことが難しい。		

年度	2025	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	36330	ICT活用	○
授業科目名	幼稚園教育実習					実務教員	○
科目	専門教育科目/教育実践に関する科目						
施行規則に定める科目区分または事項等			教育実習				
配当年次	2年	期間	その他	必修区分	幼		
授業形態	実験・実習	単位数	4	担当形態	複数		
教員	小林 博子／野呂 祐人						
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP1, 2, 3, 4, 5, 7, 8					
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会力 (DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
☐ 1. 幼稚園の社会的意義と幼稚園教諭の職務を理解し説明できる。 ☐ 2. 幼児、保育者とコミュニケーションを図りながら、主体的に実習に取り組むことができる。 ☐ 3. 課題を明確にして実習内容を記録し、次の保育に生かすことができる。 ☐ 4. 幼児の実態を理解し、適切な保育計画を立案・実施することができる。							
授業の概要							
教育実習は本学で学んできた幼稚園教育に関する様々な理論や知識、技能等を基盤として、幼稚園において実際に幼児と遊びや活動、生活を一緒に過ごしながら、幼児期にふさわしい教育についての理解を深め教員としての資質能力を身に付けることをねらいとする。本学では実習期間を3週間と設定し、見学・観察実習、参加実習、責任実習（研究保育等）を行う。							
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）							
・実習日誌の記録、指導案作成等は、目的意識を持ち、資料を参考にしながら取り組むこと。 ・幼児の発達段階を復習し、年齢や時期に合った保育内容を学習しておくこと。 ・関連する事柄についての資料の下調べをあらかじめ行うこと。							
標準学修時間の目安							
1日の実習日誌の記録に2～4時間程度の学修が必要である。							
課題（試験やレポート等）のフィードバック							
実習幼稚園からの評価を開示する。							
使用教科書							
	教科書名		著者名		出版社名		ISBN
1	なし		—		—		—
2							
3							
使用教科書備考							
なし							
参考書・参考資料等							
幼稚園教育要領							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
小林は、41年間幼稚園教諭・園長としての職にあり、専門的職業人としての基礎について講義する。野呂は、実務経験のある教員に該当しない。							
その他							
【受講条件】原則として、2年次前期までに開講される卒業必修科目、教職必修科目の単位を修得済みであること。 *本科目は、幼稚園教諭二種免許の「教職に関する科目」である。							

授業計画						
第1回 幼稚園教育実習では、以下の内容を学ぶ、観察実習における視点の理解 第2回 一日の保育の流れの理解 第3回 保育内容の理解 第4回 幼稚園教諭の職務の理解 第5回 実習日誌の適切な記録 第6回 参加実習の基本的な理解 第7回 幼児理解 第8回 幼稚園の社会的意義の理解 第9回 園の教育目標の理解 第10回 指導技術の習得 第11回 責任実習に向けての準備とまとめ 第12回 幼稚園教諭に求められる資質の理解 第13回 指導案の作成・教材研究 第14回 指導案に基づいた保育の実践（研究保育） 第15回 教育観の確立 幼稚園教育実習では座学で学んだことを基に、実習園での保育の内容を観察し日々の生活の様子や保育者の関わり方を学ぶ。実習では自己の明確な課題をたて、幼児が自ら周囲の環境と関わり主体的に活動する様子を観察し、日々の実習日誌の記入や責任実習における指導案の作成などに取り組む。 【授業実施方法】 原則として、対面（面接）授業を実施する。対面（面接）授業の実施が困難と判断される場合には、遠隔授業（オンライン・オンデマンド・課題）を併用する。 ICTを活用した双方向型授業を実施する授業回がある。 【アクティブラーニングの導入】 「プレゼンテーション」「ディスカッション」						
成績評価の方法 (試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合 (%)	0	30	40	0	30	100
成績評価の基準（ルーブリック）						
到達度	秀逸	優秀	良好	最低限		
授業の到達目標に対する到達度の目安	本学で学んできた幼稚園教育に関する様々な理論や知識、技能等を基盤として、幼稚園において実際に幼児と遊びや活動、生活を一緒に過ごししながら、幼児期にふさわしい教育についての理解を深め、教員としての資質能力を身に付けるとともに、それらを他者に詳細に適切な情報として伝え、学び続ける保育者として学びの具体策を検討できる。	本学で学んできた幼稚園教育に関する様々な理論や知識、技能等を基盤として、幼稚園において実際に幼児と遊びや活動、生活を一緒に過ごししながら、幼児期にふさわしい教育についての理解を深め、教員としての資質能力を身に付けるとともに、それらを他者に適切な情報として伝えることができる。	本学で学んできた幼稚園教育に関する様々な理論や知識、技能等を基盤として、幼稚園において実際に幼児と遊びや活動、生活を一緒に過ごししながら、幼児期にふさわしい教育についての理解を深め、教員としての資質能力を身に付ける。	本学で学んできた幼稚園教育に関する様々な理論や知識、技能等を基盤として、幼稚園において実際に幼児と遊びや活動、生活を一緒に過ごししながら、幼児期にふさわしい教育についての理解を深め、教員としての資質能力を断片的であるが身に付いている。		
該当DPに対する到達度の目安	保育者の社会的使命を理解し、地域の特性を的確に把握し子育て環境を分析し、保育・子育て支援に必要な専門的知識・技術を身につけることができ、子どもの成長を促す的確・詳細な情報の収集と他者への発信と課題解決に向け継続的に努力することができる。	保育者の社会的使命を理解し、地域の特性を的確に把握し子育て環境を分析し、保育・子育て支援に必要な専門的知識・技術を身につけることができ、子どもの成長を促す的確な情報の収集と他者への発信と課題解決に向け継続的な努力をすることができる。	保育者の社会的使命を理解し、地域の特性を的確に把握し子育て環境を分析し、保育・子育て支援に必要な専門的知識・技術を身につけることができ、子どもの成長を促す情報の収集と他者への発信ができる。	保育者の社会的使命を理解し、地域の特性を的確に把握し子育て環境を分析し、保育・子育て支援に必要な専門的知識・技術を身につけることができ、子どもの成長を促す情報の収集や他者への発信を行うことが難しい。		

年度	2025	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	35410	ICT活用	○
授業科目名	保育・教職実践演習					実務教員	○
科目	専門教育科目/教育実践に関する科目						
施行規則に定める科目区分または事項等			教職実践演習				
配当年次	2年	期間	後期	必修区分	保幼D		
授業形態	演習	単位数	2	担当形態	複数オムニバス		
教員	小林 博子／赤坂 和哉／白府 士孝／山下 真由美／川村 幾代／野呂 祐人						
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9					
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会力 (DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
□1. 本学における教育課程の全体を通して、保育士及び幼稚園教諭として必要な保育に関する専門的知識及び技術、幅広く深い教養及び総合的な判断力、専門職としての倫理観等が習得、形成されたか、自らの学びを振り返り把握する。 □2. 保育実習・教育実習を通じた自らの体験や収集した情報に基づき、保育・教育に関する今日の社会的状況等の課題について現状を分析し、その課題への対応として保育士及び幼稚園教諭の職務内容、子どもに対する責任、倫理、子どもやその家庭の理解、職員間の連携、関係機関との連携等、保育・教育の現場、地域、社会に求められることは何か、多様な視点から考察する力を習得する。 □3. 1及び2を踏まえ、自己の課題を明確化し、保育・教育の実践に際して必要となる基礎的な資質・能力の定着をはかる。 ①保育・教職に関する科目横断的な学習能力を習得することができる。 ②保育に関する現代的課題について、現状分析、考察、検討を行うことができる。 ③保育の現代的課題に対する問題解決のための対応、判断方法等について学びを深めることができる。 ④これまでの自らの学びを振り返り、保育者としての必要な知識・技能を修得したことを確認した上で、保育者としての自己課題を明確にすることができる。							
授業の概要							
この授業では、これまでの学修の集大成として既習科目を複合させ保育者として必要な資質能力について確実に身に付けるとともに、その資質能力の全体像を確認することを目的としている。すなわち、これまでの学修を踏まえて、保育士・幼稚園教諭として必要な知識技能を修得したことを確認する。具体的内容として、①保育者としての責任感、使命感の再確認、②保育者に必要な社会性、対人関係能力の向上、③子ども理解、学級経営に関する理解、④保育内容の指導力のさらなる向上をめざす。							
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）							
事前学習:これまで学んできた保育・教職に関する各々の科目がどのようにつながるか、授業と保育実習、教育実習を振り返り、この授業で習得すべき資質能力、知識・技術は何かを把握しておくこと。 事後学習:指導案立案、レポート作成等は授業では時間的に不足するため、授業外学習時間、放課後を利用してグループで協議し早めに取り組むこと。							
標準学修時間の目安							
次の講義までに予習・復習を含めて4時間の学修が望ましい。							
課題（試験やレポート等）のフィードバック							
課題(指導案やレポート等)提出期限後の授業でコメントを付した課題を返却する。							
使用教科書							
	教科書名	著者名	出版社名	ISBN			
1	なし	-	-	-			
2							
3							
使用教科書備考							
幼稚園指導要領、保育所保育指針、幼稚園連携型認定こども園教育・保育要領、その他に授業中に適宜資料を配布する。							
参考書・参考資料等							
なし							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
小林は、41年間幼稚園教諭・園長としての実務経験、川村は、障がい者施設の相談員（10年）としての実務経験を生かし、専門的職業人として保育・教職実践について指導する。 赤坂・白府・山下・野呂は、実務経験のある教員に該当しない。							
その他							
本科目は、幼稚園教諭二種免許の「教育実践に関する科目」、「保育士資格必修科目」である。							

授業計画						
第1回 保育・教育に関する科目横断的な学習能力の習得をについて（小林、赤坂、白府、山下、川村、野呂） これまでの学修を振り返ることの意義について学ぶ。 第2回 保育士・幼稚園教諭の意義と役割について（小林、白府、川村） 使命感、責任感、倫理、教育的愛情を中心に学ぶ。 第3回 保育士・幼稚園教諭に求められる社会性と対人関係能力について（小林、赤坂、山下） 社会人として必要とされる社会性と対人関係能力を理解した後に、各実習を通してその手続きを学ぶ。 第4回 幼児理解に基づく学級経営の実践について（小林、白府、野呂） 学級運営を行う上で重要となる幼児の実態把握について理解し、演習を通してその手続きを学ぶ。 第5回 保育や子育て家庭の理解、職員間の連携、関係機関との連携について（小林、赤坂、川村） 総合的な少子化対策への視点を持てるよう保育や子育て家庭の理解を深める。長時間保育において求められる保育士の役割、職員間の連携の必要性について理解する。 第6回 保育の現代的課題①虐待問題について（小林、赤坂、山下） 保育現場での喫緊の課題である虐待問題について児童相談所等の外部機関との関係性を含めて学ぶ。 第7回 場面別グループ学習①：指導案づくりについて（小林、赤坂、白府、山下、川村、野呂） 実習指導を振り返り、場面別グループ学習の内容を理解し、指導案づくりについて学ぶ。 第8回 保育の現代的課題② 幼児教育におけるICTの活用について（小林、川村、野呂） 幼児教育におけるICTの活用事例を学び、ICTを活用した子どもの遊びの演習を通して学ぶ。 第9回 保育・子育ての現代的課題の分析、考察、検討について①（小林、山下、野呂） 虐待問題と世代間連鎖について理解を深め、それらの問題解決に向けた学ぶ。 第10回 場面別グループ学習②指導案の再検討について（小林、赤坂、白府、山下、川村、野呂） 実習指導を振り返り、場面別グループ学習の内容を理解し、グループとしての指導案づくりについて学ぶ。 第11回 保育・子育ての現代的課題の分析、考察、検討について②（小林、白府） 小一プロブレムがおこる背景と問題の解決に向ける方策について学ぶ。 第12回 模擬保育ロールプレイング①親子遠足場面について（小林、赤坂、白府、山下、川村、野呂） 保育内容の指導力の更なる向上にむけたロールプレイングの発表から学ぶ。 第13回 模擬保育ロールプレイング②避難訓練場面について（小林、赤坂、白府、山下、川村、野呂） 保育内容の指導力の更なる向上にむけたロールプレイングの発表から学ぶ。 第14回 模擬保育ロールプレイング③運動会練習場面について（小林、赤坂、白府、山下、川村、野呂） 保育内容の指導力の更なる向上にむけたロールプレイングの発表から学ぶ。 第15回 資質能力の確認と自己課題の明確化について（小林、赤坂、白府、山下、川村、野呂） 保育・教職実践演習を振り返り、必要な知識技能習得について学ぶ。						
【授業実施方法】 原則として、対面（面接）授業を実施する。対面（面接）授業の実施が困難と判断される場合には、遠隔授業（オンライン・オンデマンド・課題）を併用する。 ICTを活用した双方向型授業を実施する授業回がある。 【アクティブラーニングの導入】 「ディスカッション」「グループワーク」						
成績評価の方法 (試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合 (%)	0	0	60	0	40	100
成績評価の基準（ルーブリック）						
到達度	秀逸	優秀	良好	最低限		
授業の到達目標 に対する 到達度の目安	学修の集大成として既習科目と複合させ、保育者として必要な資質能力を確実に身に付ける。特に、保育者としての責任感・使命感、保育者に必要な社会性・対人関係能力、子ども理解・学級経営等を他者に詳細かつ適切な情報として伝えることができる。	学修の集大成として既習科目と複合させ、保育者として必要な資質能力を確実に身に付ける。特に、保育者としての責任感・使命感、社会性・対人関係、子ども理解・学級経営について理解し、他者に適切な情報として伝えることができる。	保育者として必要な資質能力を確実に身に付ける。また、保育者としての責任感・使命感、社会性・対人関係、子ども理解・学級経営について理解している。	保育者として必要な資質能力を確実に身に付ける。また、保育者としての責任感・使命感、社会性・対人関係、子ども理解・学級経営について断片的であるが理解している。		
該当DPに対する 到達度の目安	学修の集大成として既習科目と複合させ、保育者として必要な資質能力、さらには、保育者としての責任感・使命感、社会性・コミュニケーション力を身に付けると同時に関連する情報の継続的な収集と他者への発信力を身に付けている。	学修の集大成として既習科目と複合させ、保育者として必要な資質能力、さらには、保育者としての責任感・使命感、社会性・コミュニケーション力を身に付け、より詳細な情報の収集と他者への発信に向けて努力することができる。	学修の集大成として既習科目と複合させ、保育者として必要な資質能力、さらには、保育者としての責任感・使命感、社会性・コミュニケーション力を身に付け、ある程度の情報の収集と他者への発信ができる。	学修の集大成として既習科目と複合させ、保育者として必要な資質能力、さらには、保育者としての責任感・使命感、社会性・コミュニケーション力が身につかず、他者へ発信を行うことがほとんどできない。		

年度	2025	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	36140	ICT活用	—
授業科目名	レクリエーション指導法					実務教員	—
科目	専門教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等							
配当年次	2年	期間	後期	必修区分	レ		
授業形態	講義	単位数	2	担当形態	単独		
教員	松本 伸吾						
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP5, 8					
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会力 (DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
☐ 1. レクリエーションにおける、基本的な支援の基礎を理解する。 ☐ 2. コミュニケーション技術や集団を対象としたレクリエーション・ワークの技術を身に付ける。 ☐ 3. 日本レクリエーション協会公認指導者のレクリエーション・インストラクター資格取得に必要な基礎理論を身に付ける。							
授業の概要							
レクリエーションにおける基本的な支援の基礎を理解し、コミュニケーション技術や集団を対象としたレクリエーション・ワークの技術を身に付け、楽しさをとおした心の元気づくりのプログラムを立案し、実践力を身に付ける。							
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）							
・授業にて配布される資料を熟読すると共に、予習復習をして基礎となる理論をしっかりと身に付けること。 ・授業の他にも地域社会における様々なレクリエーション活動に目を向け、レクリエーション活動への理解を深めることやレクリエーション活動を体験することが望ましい。							
標準学修時間の目安							
1回の講義あたり予習・復習を含めて4時間程度の学修が必要である。							
課題（試験やレポート等）のフィードバック							
課題ごとにレポートを提出し、講義内容の理解に努める。							
使用教科書							
	教科書名		著者名		出版社名		ISBN
1	日本レク協会教本		日本レクリエーション協会		日本レク協会		978-4-931180-95-6
2							
3							
使用教科書備考							
楽しさをとおした心の元気づくり レクリエーション支援の理論と方法							
参考書・参考資料等							
なし							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
実務経験のある教員に該当しない。							
その他							
なし							

授業計画						
第 1回	レクリエーション支援について					
第 2回	レクリエーション・インストラクターの2つの役割について学ぶ					
第 3回	楽しさと心の元気づくりの理論①について					
第 3回	心の元気づくりと対象者の心の元気づくりについて学ぶ					
第 4回	楽しさと心の元気づくりの理論②について					
第 4回	心の元気と地域のきずなづくりについて学ぶ					
第 4回	レクリエーション支援の理論①について					
第 5回	コミュニケーションと信頼関係づくりについて学ぶ					
第 5回	レクリエーション支援の理論②について					
第 6回	良好な集団づくりについて学ぶ					
第 6回	レクリエーション支援の理論③について					
第 7回	自主的・主体的に楽しむ力を育む方法について学ぶ					
第 7回	リスク・マネージメント①について					
第 8回	リスク・マネージメントと危機管理について学ぶ					
第 8回	リスク・マネージメント②について					
第 9回	レクリエーション活動の安全行動と留意点について学ぶ					
第 9回	アセスメントについて					
第 10回	個々人のアセスメントに基づいたプログラムについて学ぶ					
第10回	市民を対象としたレクリエーション活動について					
第11回	市民を対象とした事業の作り方とイベントの応用について学ぶ					
第11回	レクリエーション支援のプログラム①について					
第12回	レクリエーション支援プログラムの内容を体験する					
第12回	レクリエーション支援のプログラム②について					
第13回	レクリエーション支援プログラムの立案方法について学ぶ					
第13回	レクリエーション支援のプログラム③について					
第14回	レクリエーション支援プログラムの立案をする					
第14回	対象に合わせたレク・ワーク①について					
第15回	立案したレクリエーション支援プログラムを発表する					
第15回	対象に合わせたレク・ワーク②について					
第15回	対象に合わせたレクリエーション支援プログラムのアレンジを体験する					
【授業実施方法】						
原則として、対面（面接）授業を実施する。対面（面接）授業の実施が困難と判断される場合には、遠隔授業（オンライン・オンデマンド・課題）を併用する。						
【アクティブラーニングの導入】						
「グループワーク」						

保育学科
シラバス 2025（授業計画等）

発行：学校法人 野又学園 函館短期大学
発行日：令和 7 年 4 月 1 日

〔表紙〕
原作者：保育学科 河口 心優
編集：野呂 祐人



《お散歩》

学校法人 野又学園
函館短期大学

〒042-0955 北海道函館市高丘町 52 番 1 号
TEL:0138-57-1800 FAX:0138-59-5549
<http://www.hakodate-jc.ac.jp/>